

**環境に関する県民等意識調査
報告書**

**令和2年8月
岡山県**

目次

第1章 調査概要

1 調査目的	1
2 調査内容	1
(1) 県民調査	1
(2) 事業所調査	1
3 調査設計	2
(1) 県民調査	2
(2) 事業所調査	2
4 回収結果	2
(1) 県民調査	2
(2) 事業所調査	2
5 報告書の見方	3

第2章 県民調査結果

1 回答者の属性	5
(1) 性別	5
(2) 年齢	5
(3) 同居人数	5
(4) 居住年数	5
(5) 住居形態	5
(6) 居住地域	6
(7) 職業	6
2 環境学習や環境保全活動について	7
(1) 活動等の参加経験	7
3 環境情報について	28
(1) 環境に関する情報入手媒体について	28
4 岡山県の取組状況について	33
(1) 重要度について	33
(2) 県の取組状況への満足度について	35
5 行政に期待することについて	50
(1) 自主的な環境配慮の取組を推進するために、 行政に期待することについて	50
6 環境に関する言葉の認知度について	54
(1) 環境に関する言葉の認知度	54

7 その他環境に関する調査について-----	65
(1) 野焼きがPM2.5の濃度上昇の一因となっていることを 知っているか-----	65
(2) 自宅周辺で野焼きが行われた際の対処-----	67
(3) 対処をしない理由-----	71
8 自由意見-----	74
(1) 自由意見-----	74

第3章 事業所調査結果

1 回答者の属性-----	83
(1) 本社／支社（支店・営業所）区分-----	83
(2) 業種-----	83
(3) 事業所の主な形態-----	84
(4) 従業員数（パートの人数を含む）-----	84
2 環境保全への取組について-----	85
(1) 経営方針における環境保全に関する項目の設定の有無-----	85
(2) 環境保全に関する具体的な行動方針の設定と対策の実施-----	87
(3) 環境保全対策の目的や動機-----	89
(4) 積極的に環境保全対策を進めるための条件-----	92
(5) 環境保全に配慮するための部署等の有無-----	95
(6) 従業員に対する環境教育の形態-----	97
(7) 環境保全への取組と事業収益との関係-----	99
(8) 年間の環境保全対策費-----	101
(9) 製品やサービスの価格に、環境保全対策上の経費等を含めた 販売の可否-----	102
(10) 環境マネジメントシステムの取組状況-----	104
(11) 環境マネジメントシステムの形態-----	106
(12) 環境マネジメントシステムの認証取得による効果-----	107
(13) 環境マネジメントシステムを取得していない理由-----	108
(14) 環境に配慮した取組の実施状況と実施しない理由-----	110
(15) 環境に関する社会貢献活動の実施の有無-----	116
(16) 環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場への参加意向-----	118
(17) 環境ビジネスの重要性-----	120
(18) 環境ビジネスの進展のために行政に望むこと-----	122
(19) 環境保全への取組を推進していくために行政に期待すること-----	124

3 環境に関する言葉の認知度について-----	128
(1) 環境に関する言葉の認知度-----	128
4 自由意見-----	141
(1) 自由意見-----	141

<参考資料>

1 調査票（県民版）-----	145
2 調査票（事業所）-----	156

第 1 章 調査概要

第1章 調査概要

1 調査目的

次期岡山県環境基本計画の策定にあたり、県民等の環境保全に対する意識やニーズを同計画に反映させるために行った。

2 調査内容

(1) 県民調査

- ① 環境学習や環境保全活動について
- ② 環境情報について
- ③ 岡山県の取組状況について
- ④ 行政に期待することについて
- ⑤ 環境に関する言葉の認知度について
- ⑥ その他環境に関する調査について

(2) 事業所調査

- ① 貴事業所の環境保全への取組について
- ② 環境に関する言葉の認知度について

3 調査設計

(1) 県民調査

- ① 調査地域 岡山県全域
- ② 調査対象 18歳以上の県内居住者
- ③ 標本数 2,500
- ④ 抽出法

・市区町村毎の18歳以上の人口比率により、市区町村毎の対象人数及び対象地区数を決める。

※市区町村毎のサンプル数を確保するため、各市区町村で少なくとも5人を抽出するよう抽出人数を調整した。

・市区町村の大字を無作為抽出（国勢調査に係る調査地区一覧表を活用）。

・住民基本台帳を閲覧し、大字毎に対象者を無作為抽出。

- ⑤ 調査方法 郵送配布－郵送回収（礼状兼督促はがき1回送付）
- ⑥ 調査期間 令和2年5月13日～6月8日

(2) 事業所調査

- ① 調査地域 岡山県全域
- ② 調査対象 従業員数30人以上の県内の事業所
- ③ 標本数 500
- ④ 抽出の手順

・経済センサス基礎調査において、常時雇用者数30名以上の事業場を抽出。

・産業分類毎に抽出事業者数を比重配分により決定。

・産業分類毎に、乱数を用い無作為に抽出。

- ⑤ 調査方法 郵送配布－郵送回収（礼状兼督促はがき1回送付）
- ⑥ 調査期間 令和2年5月18日～6月8日

4 回収結果

(1) 県民調査

- ① 標本数 2,500
- ② 有効回答数（率） 1,515（60.6%）

(2) 事業所調査

- ① 標本数 500
- ② 有効回答数（率） 245（49.0%）

県民のアンケート項目にある「お住まいの市町村」の結果は、回答者の居住する自治体をもとに、県民局ごとに集計した。

○地域別回収結果

地域区分	18歳以上の人口	回収数
備前県民局	751,687	698
備中県民局	639,181	601
美作県民局	188,901	172
無回答	-	44
計	1,579,769	1,515

○地域区分と該当する自治体名

地域区分	当該自治体
備前県民局	岡山市、玉野市、吉備中央町、瀬戸内市、備前市、赤磐市、和気町
備中県民局	倉敷市、総社市、早島町、井原市、笠岡市、浅口市、里庄町、矢掛町、高梁市、新見市
美作県民局	津山市、鏡野町、美咲町、久米南町、真庭市、新庄村、美作市、奈義町、勝央町、西粟倉村

5 報告書の見方

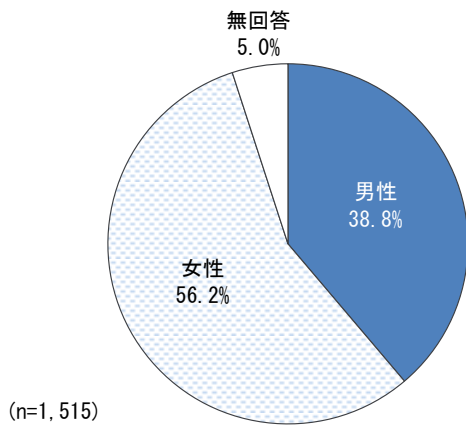
- (1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- (4) 文字数が多い選択肢については、意味を損なわない程度に選択肢を省略しているものがある。
- (5) 結果を記載する際において、回答数が少ない項目については、結果から省いてある。

第2章 県民調査結果

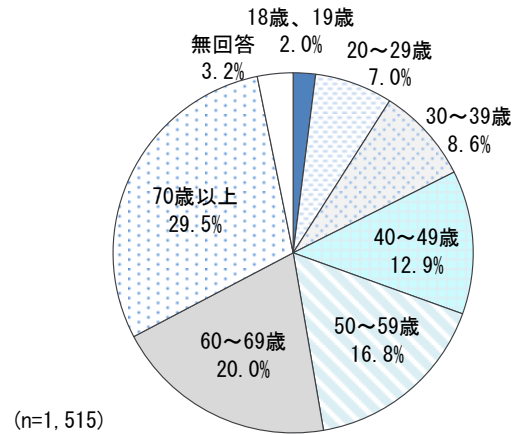
第2章 県民調査結果

1 回答者の属性

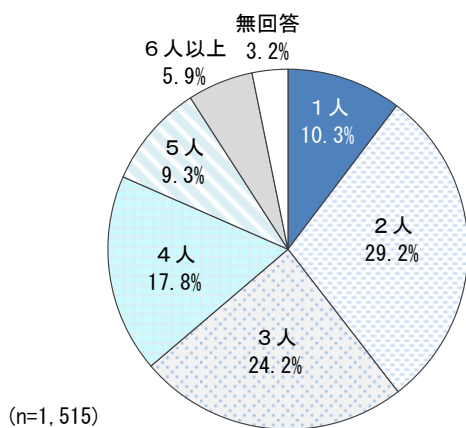
(1) 性別



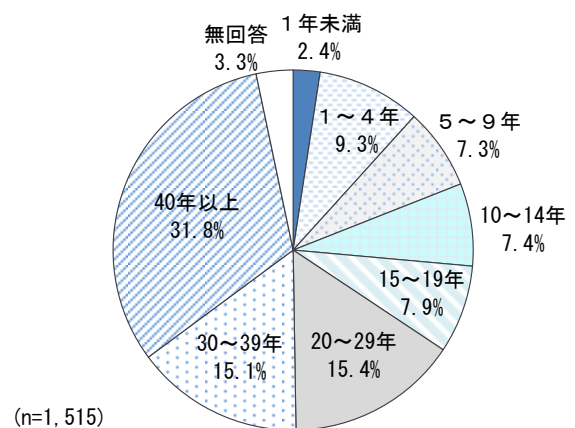
(2) 年齢



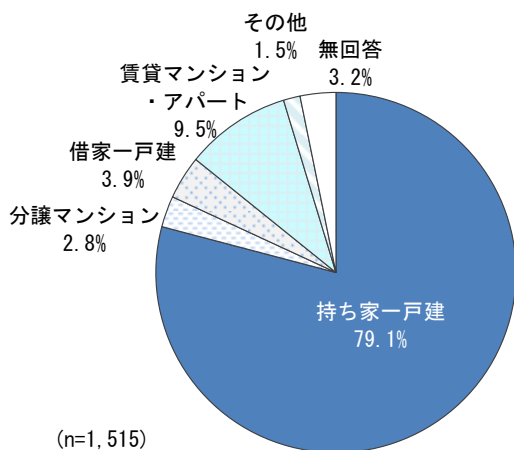
(3) 同居人数



(4) 居住年数



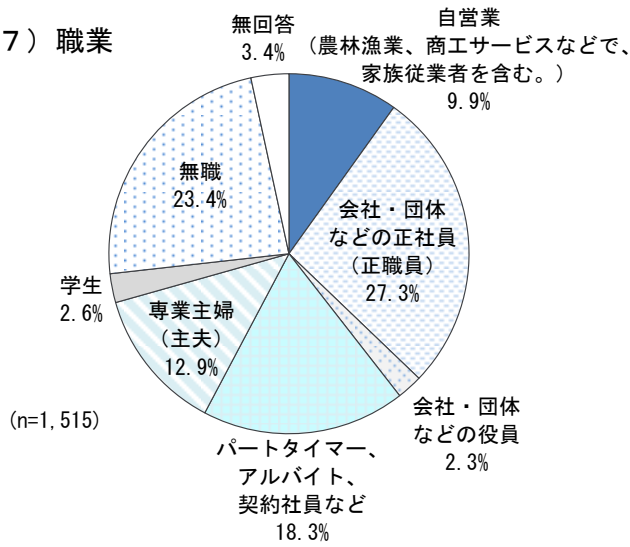
(5) 住居形態



(6) 居住地域

市町村			回答数	構成割合 (%)	市町村			回答数	構成割合 (%)	市町村			回答数	構成割合 (%)
備前県民局管内	岡山市北区		239	15.8	備中県民局管内	倉敷市		382	25.2	美作県民局管内	津山市		65	4.3
	岡山市中区		104	6.9		笠岡市		39	2.6		真庭市		39	2.6
	岡山市東区		69	4.6		井原市		31	2.0		美作市		21	1.4
	岡山市南区		124	8.2		総社市		45	3.0		新庄村		2	0.1
	岡山市		536	35.4		高梁市		24	1.6		鏡野町		9	0.6
	玉野市		42	2.8		新見市		20	1.3		勝央町		8	0.5
	備前市		27	1.8		浅口市		24	1.6		奈義町		5	0.3
	瀬戸内市		36	2.4		早島町		12	0.8		西粟倉村		5	0.3
	赤磐市		36	2.4		里庄町		12	0.8		久米南町		7	0.5
	和気町		11	0.7		矢掛町		12	0.8		美咲町		11	0.7
	吉備中央町		10	0.7		計		601	39.7		計		172	11.4
	計		698	46.1							無回答		44	2.9
											合計		1,515	100.0

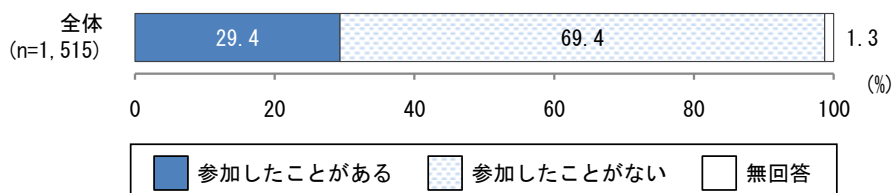
(7) 職業



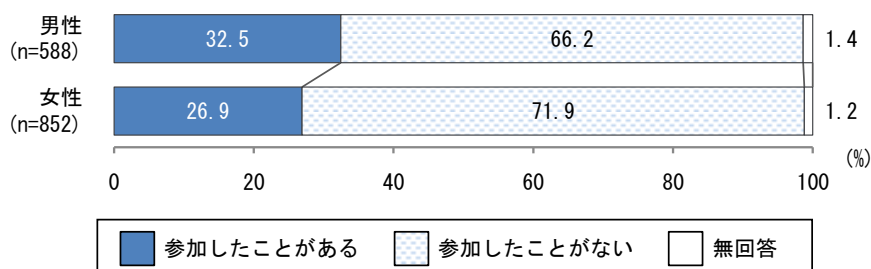
2 環境学習や環境保全活動について

(1) 活動等の参加経験

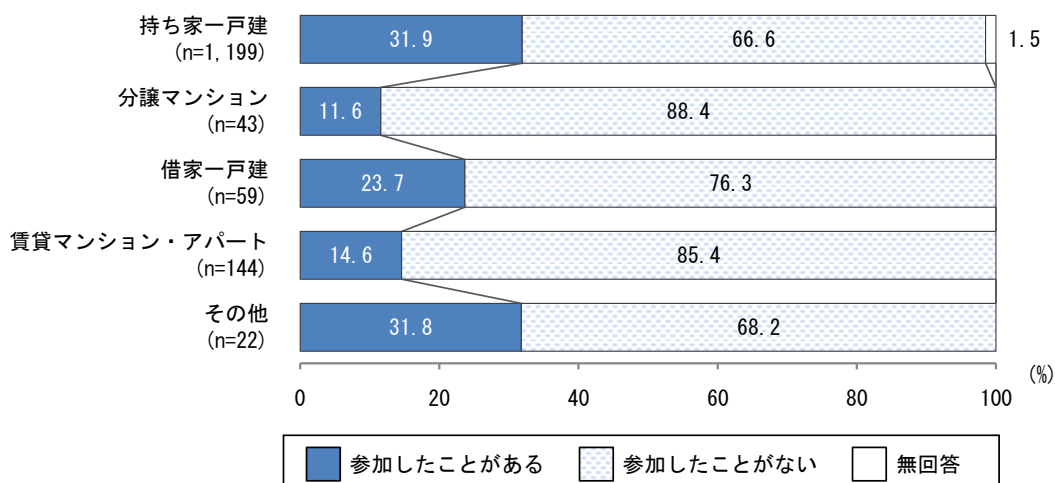
問1 あなたは、過去3年間に環境保全活動に関する学習の場や活動（以下「活動等」）に参加したことがありますか。【〇は1つ】



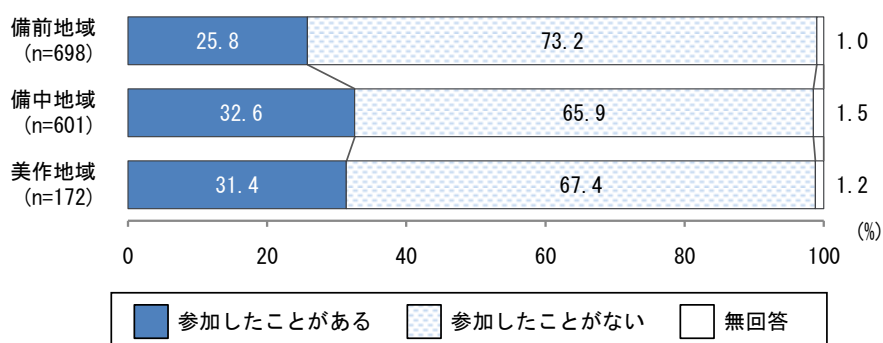
【活動等の参加経験（性別）】



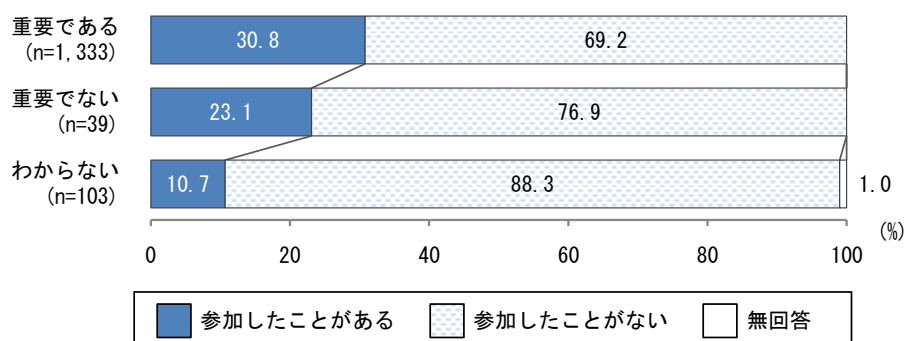
【活動等の参加経験（住居形態別）】



【活動等の参加経験（エリア別）】



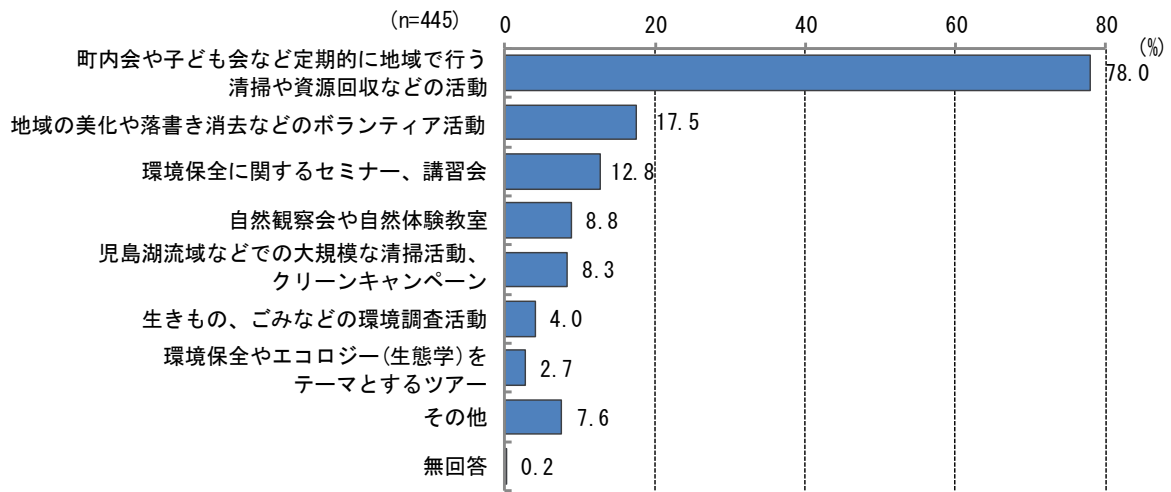
【活動等の参加経験（環境に配慮した行動の重要性別）】



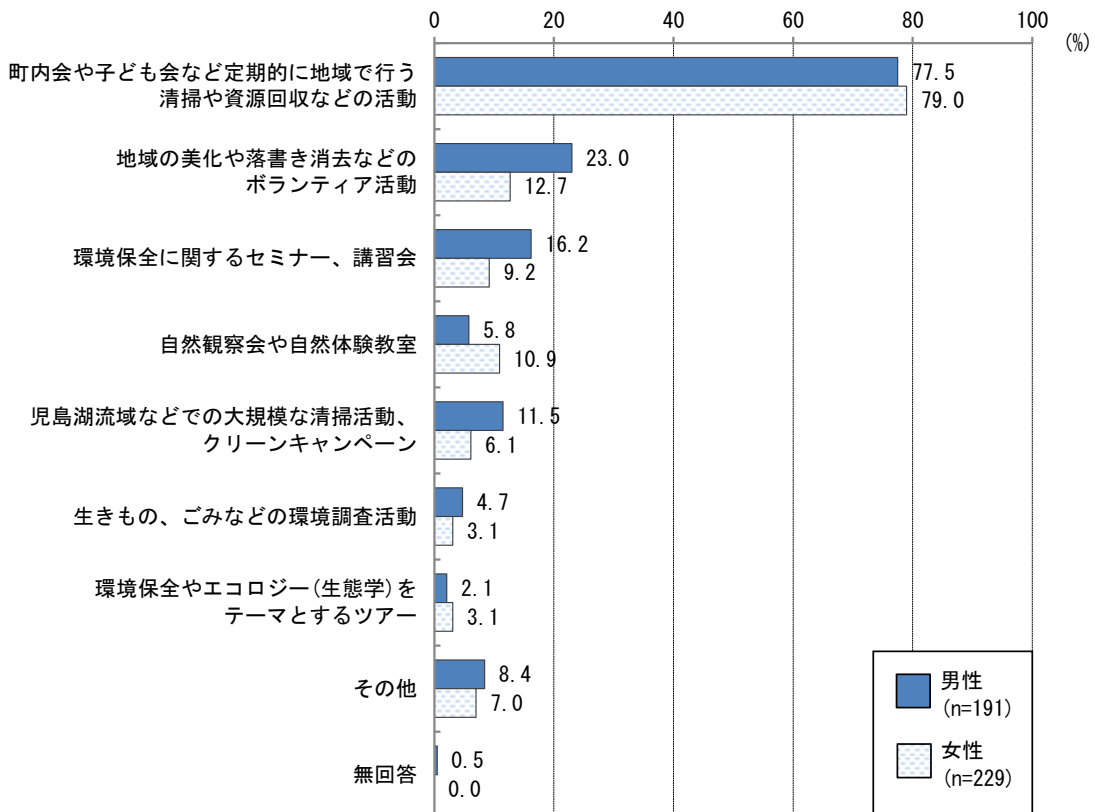
	結果の要点
全体	「参加したことがある」が 29.4%、「参加したことがない」が 69.4%となっている。
性別	「参加したことがある」で男性 (32.5%) が女性 (26.9%) を 5.6 ポイント上回っている。
住居形態別	「参加したことがある」で「持ち家一戸建」が 31.9%と高くなっている。
エリア別	「参加したことがある」で「備中地域」(32.6%)、「美作地域」(31.4%) が高くなっている。
環境に配慮した行動の重要性別	「参加したことがある」で環境に配慮した行動をとることが「重要である」と考える人が 30.8%と高くなっている。

問1で「1. 参加したことがある」と回答した方におたずねします

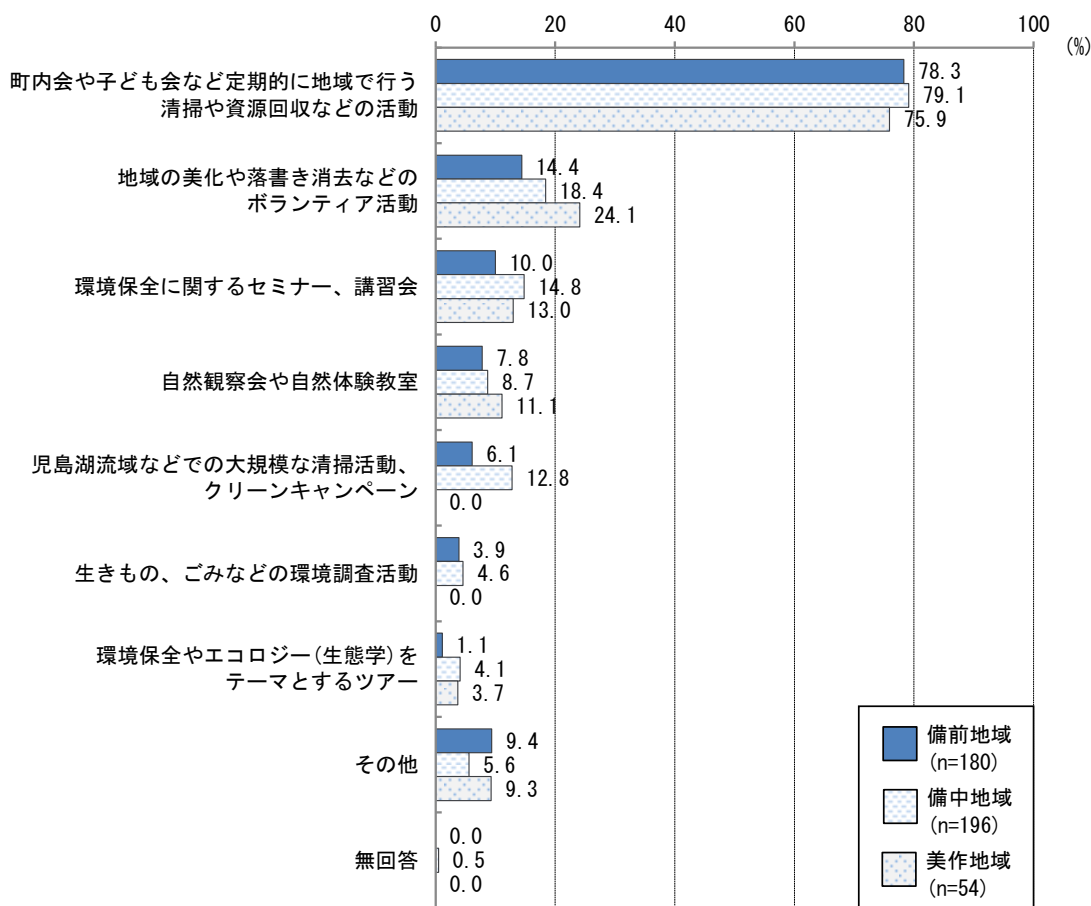
問1-1 どのような活動等に参加しましたか。【〇はあてはまるものすべて】



【参加した活動等（性別）】



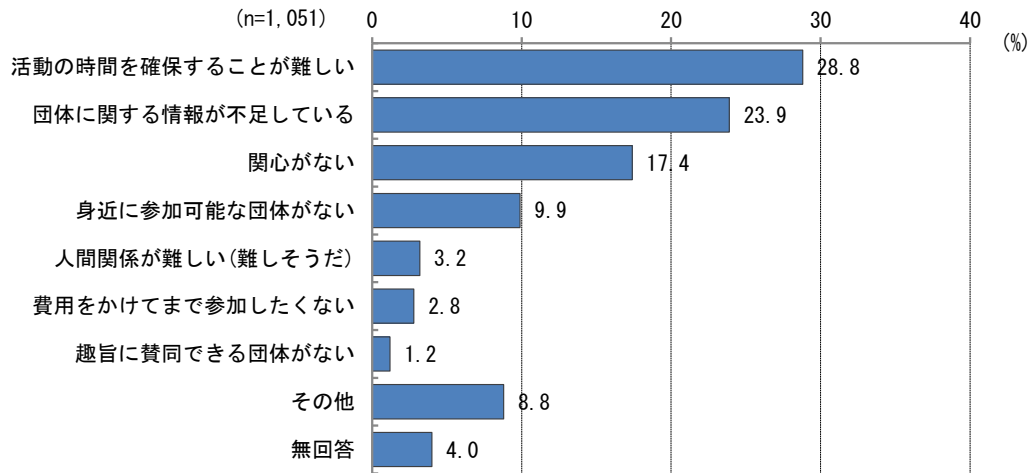
【参加した活動等（エリア別）】



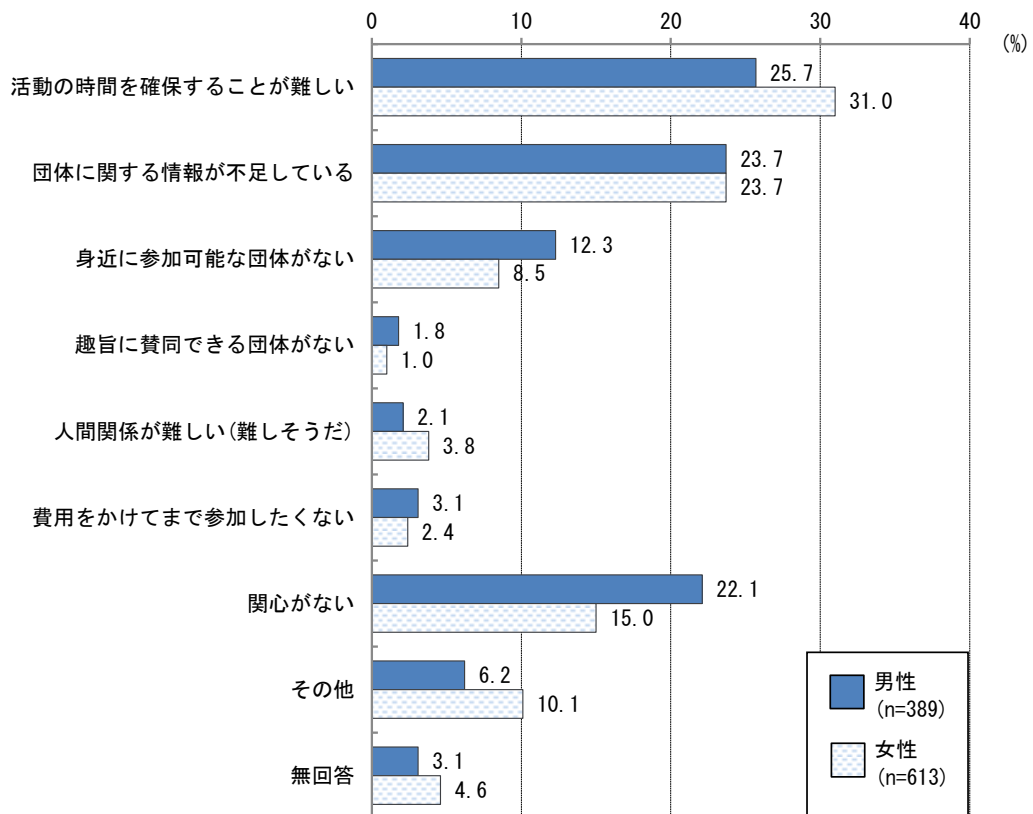
結果の要点	
全体	「町内会や子ども会など定期的に地域で行う清掃や資源回収などの活動」との回答が 78.0%と最も高く、次いで「地域の美化や落書き消去などのボランティア活動 (17.5%)」、「環境保全に関するセミナー、講習会」(12.8%)などの順となっている。
性別	「地域の美化や落書き消去などのボランティア活動」で男性 (23.0%) が女性 (12.7%) を 10.3 ポイント、「環境保全に関するセミナー、講習会」で男性 (16.2%) が女性 (9.2%) を 7.0 ポイント上回っている。
エリア別	「地域の美化や落書き消去などのボランティア活動」で「美作地域」(24.1%)、「児島湖流域などでの大規模な清掃活動、クリーンキャンペーン」で「備中地域」(12.8%) が高くなっている。

問1で「2. 参加したことがない」と回答した方におたずねします

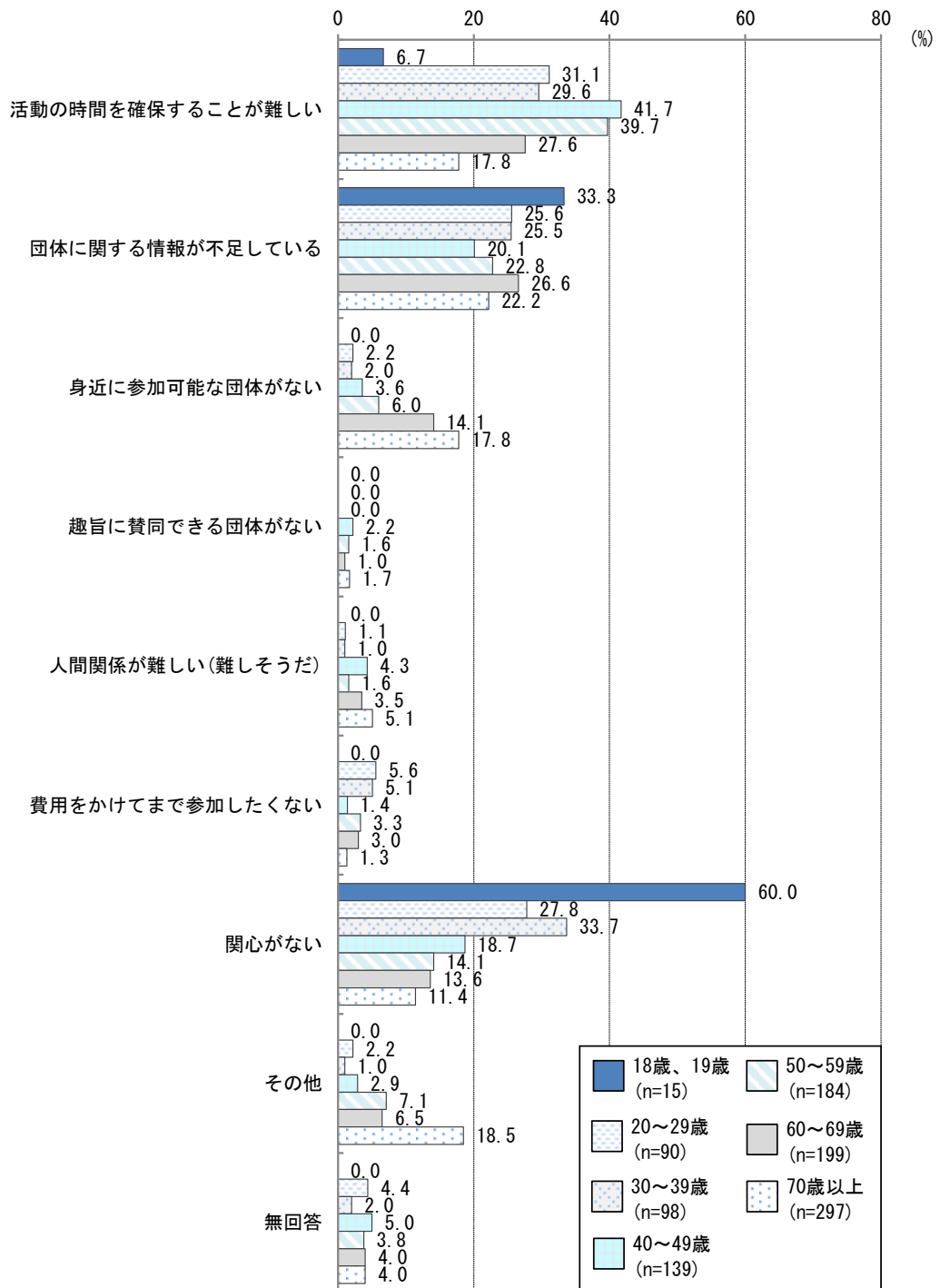
問1-2 活動等に参加したことがない主な理由は何ですか。【〇は1つ】



【活動等に参加したことがない理由 (性別)】



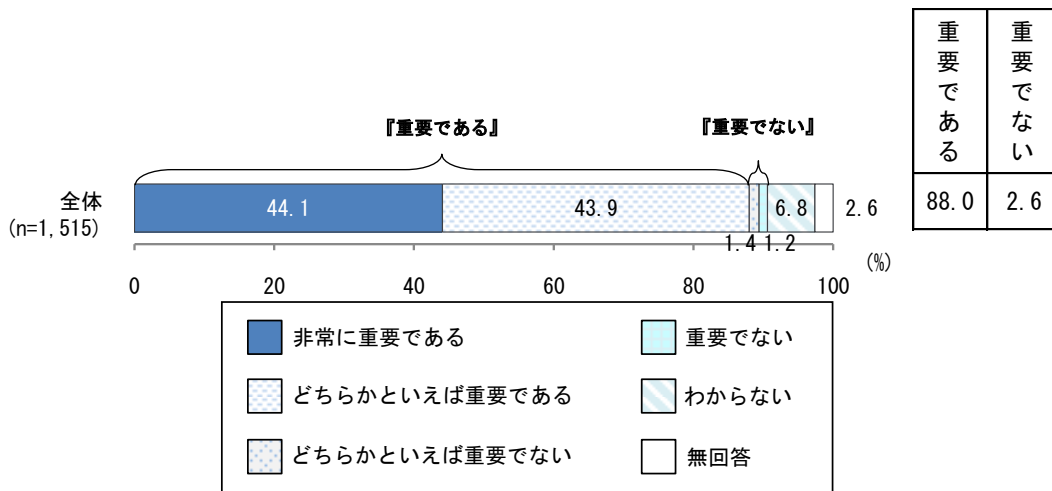
【活動等に参加したことがない理由（年齢別）】



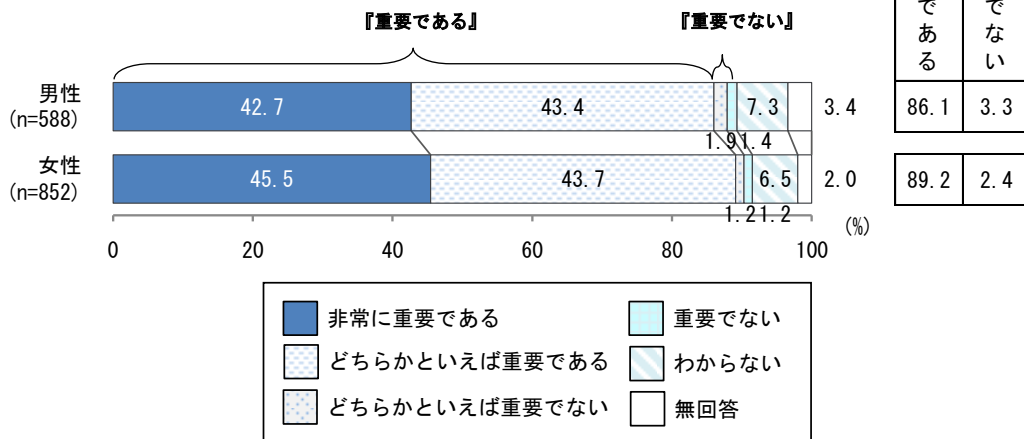
	結果の要点
全体	「活動の時間を確保することが難しい」との回答が 28.8%と最も高く、次いで「団体に関する情報が不足している」(23.9%)、「関心がない」(17.4%)などの順となっている。
性別	「活動の時間を確保することが難しい」で女性(31.0%)が男性(25.7%)を5.3ポイント、「関心がない」で男性(22.1%)が女性(15.0%)を7.1ポイント上回っている。
年齢別	「活動の時間を確保することが難しい」で「40～49歳」(41.7%)、「50～59歳」(39.7%)が高くなっている。また、「身近に参加可能な団体がない」では年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

問2 環境に配慮した行動をとることについてあなたの考えに近いものはどれですか。

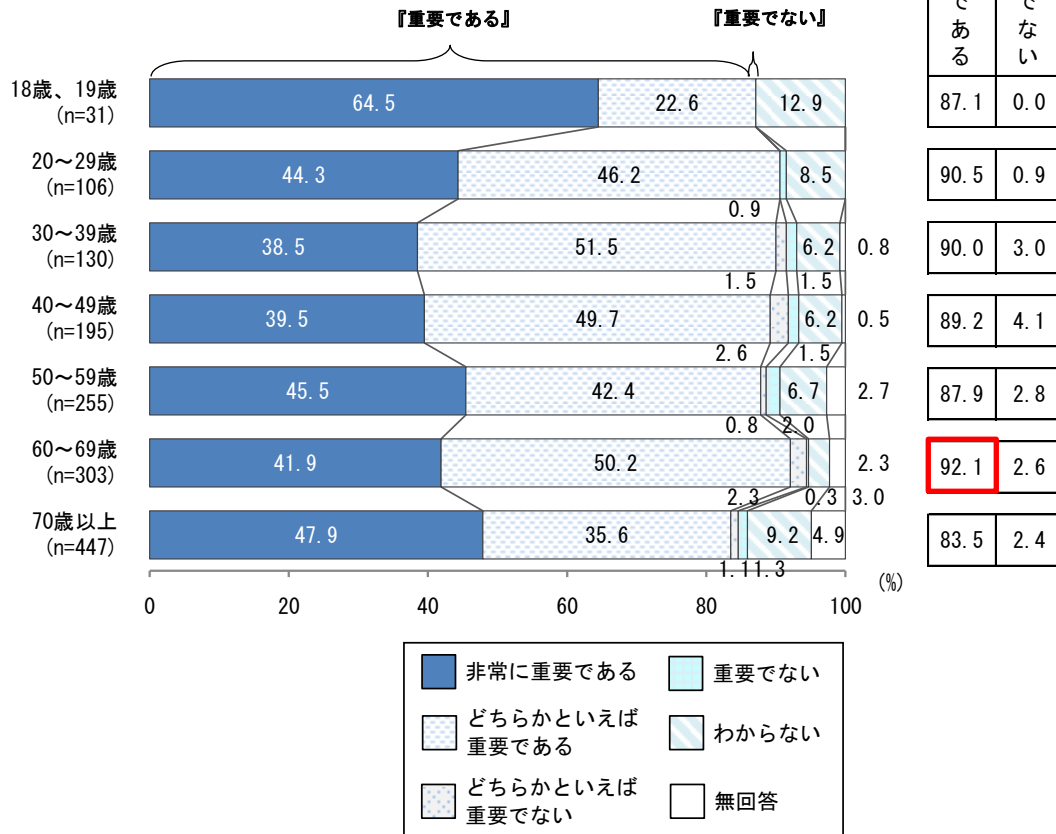
【〇は1つ】



【環境に配慮した行動に関する自身の考え（性別）】



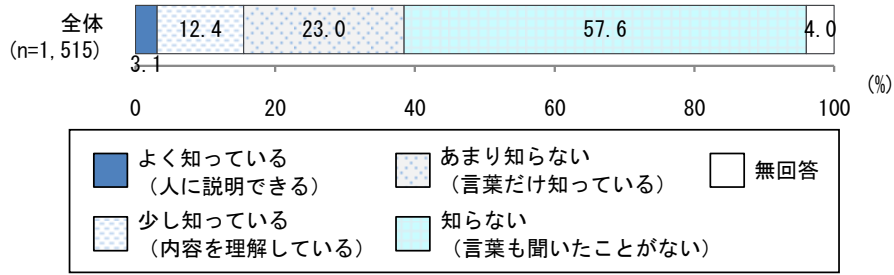
【環境に配慮した行動に関する自身の考え（年齢別）】



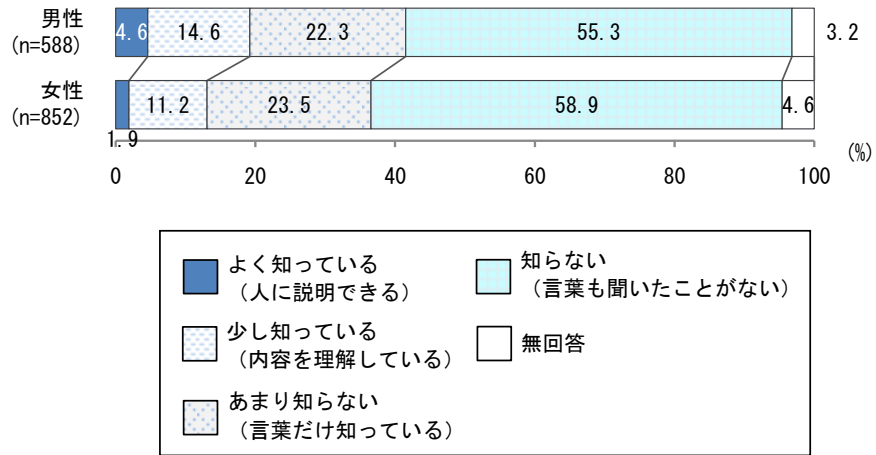
結果の要点	
全体	『重要である』が88.0%、『重要でない』が2.6%、「わからない」が6.8%となっている。
性別	大きな差はみられない。
年齢別	『重要である』との回答は「60～69歳」で92.1%と高くなっている。

※ 『重要である』（「非常に重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた割合）
 ※ 『重要でない』（「重要でない」と「どちらかといえば重要でない」を合わせた割合）

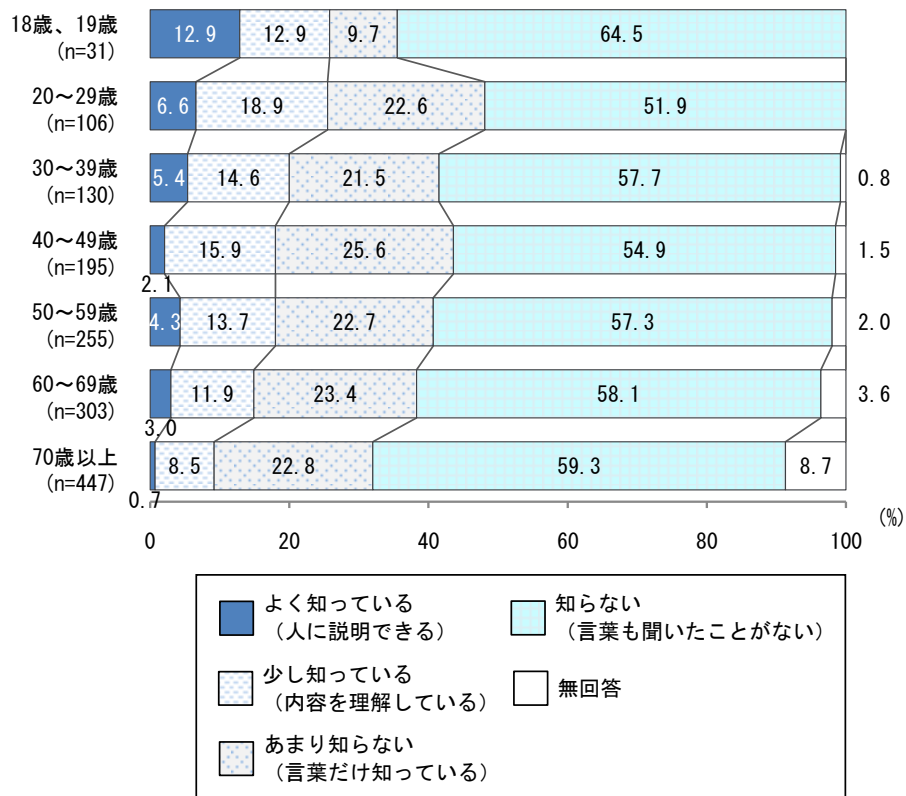
問3 あなたはSDGsを知っていますか。【〇は1つ】



【SDGsの認知度 (性別)】



【SDGsの認知度（年齢別）】



結果の要点	
全体	「知らない (言葉も聞いたことがない)」との回答が 57.6% と最も高く、次いで「あまり知らない (言葉だけ知っている)」(23.0%)、「少し知っている (内容を理解している)」(12.4%)、「よく知っている (人に説明できる)」(3.1%) の順となっている。
性別	大きな差はみられない。
年齢別	「よく知っている (人に説明できる)」で「18 歳、19 歳」が 12.9% と高くなっている。

問4 あなたは持続可能な社会（地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会）の発展のために、どんなことが必要だと思いますか。①あなたご自身ができそうなこと、②岡山県や企業に期待することをそれぞれお答えください。

《自分自身ができそうなこと》

I ごみの削減・分別に関する意見（571件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	30～39歳	備前地域	家から出る燃えるごみの量を減らすよう心がけること。無駄なものを買わないようにすること。しかし、物を買わないということは経済が回らないということにつながると思うので、少し悩ましく思うことがある。
男性	40～49歳	備前地域	「限られた資源を大切に」している。ペットボトルやアルミ缶はリサイクル、新聞紙やダンボールはエコ便に持って行っています。食べ物も残さないように買っています。シャワーをひかえ、身近な生活で出来る事を考えています。
女性	60～69歳	備中地域	ごみを捨てる時、県や市の方々が言われるようにきちんと分別をして、地域にやさしい暮らしが永くつづくようにいつも考えながら、孫やひ孫の代まで安全にくらせるようにしたいです。
女性	50～59歳	美作地域	リサイクル出来る物は資源ごみで出して、再利用していただく。
女性	50～59歳	備前地域	ごみの分別を確実にし、プラスチック等の再利用できる物はする。買物には、エコバックで必ず行く。
男性	40～49歳	備前地域	地球温暖化を進めないようにエコバックやプラのごみを考える。

II 食品ロスの削減や生ごみの処理に関する意見（60件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	60～69歳	備前地域	家庭の生ごみを減量・資源化（堆肥化）し、野菜など育て家庭菜園を楽しんでいます。
女性	30～39歳	美作地域	食品ロスが出ないように計画的に買いものをしている。地元でとれた物などの購入。ごみの分別の徹底。
女性	50～59歳	備中地域	生ごみを堆肥にする。紙類・プラスチックのリサイクル。買い物にマイバッグを持参する。
女性	40～49歳	備中地域	食品ロスを出さない為に食材を最後まで使いきるように気をつけたり、ごみもリサイクル出来る物はリサイクルに出したりして何でもかんでも捨てない様に気をつけていきたいです。

Ⅲ エコ活動やリサイクルに関する意見（360件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	30～39歳	備前地域	アイドリングストップをする。買い物時はエコバッグの持参。不要な時は電気を消す。エアコンの温度調整をする。
女性	40～49歳	美作地域	3R。長く使える物を買って大切に使い続けること。エコバッグの使用。水や電気、物や食品をなるべく節約すること。
女性	60～69歳	美作地域	リサイクルなどに協力し、現状より悪くしない。少しでも自然環境が保たれるよう努力する。買い物袋の持参。ごみの処理など。
女性	50～59歳	備中地域	割りばし、レジ袋を使わない。リサイクルに協力する。ペットボトルより紙製の物を買う。ガソリン車ではなく電気自動車にする。
女性	50～59歳	備前地域	パッケージ等の材質を選び家庭ごみが増えないような買い物をする。ごみの分別を正確にし、リサイクル出来るようにする。地域の活動等に参加し、状況を知る。何が出来るか幅を広げる。

Ⅳ ごみに関する意見（147件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	年齢不詳	備前地域	ポイ捨てがあちこちにあると不潔だし、はずかしいと思います。なので、今まで通り地域で行うクリーン作戦や資源回収を引き続き活動したい。少しでも少なくなることを望んでいます。
男性	40～49歳	備前地域	自身でセミナー参加、活動参加し、より清掃活動・環境保全に対する認識や意識を高めること。
女性	50～59歳	備前地域	子供の頃からやっていて当たり前の事だが、ごみを道ばたや用水路や川に捨てない。できる限り資源ごみに出してリサイクルする。
女性	70歳以上	備前地域	家、屋敷の内外を清潔にし、道路・公園など公衆の物を汚さない。自分のごみは持ち帰り決められた日時・場所にだすこと。

Ⅴ 適切な農地・森林管理、自給自足などに関する意見（36件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
性別不詳	70歳以上	備前地域	放棄地を借りて無農薬野菜を作り、健康に注意して病院にほとんどかからないよう努力している。
男性	40～49歳	美作地域	自分の仕事である農業において肥料や農薬を使用しないで作物をつくる。
女性	70歳以上	備中地域	森林の整備。自然と汚染環境整備充実。

VI 自然環境保護の意識に関する意見（82件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	60～69歳	美作地域	環境保護のルールを守る生活をし、自然環境が適切に保全される様な生活にする。
男性	50～59歳	備中地域	温暖化にならない様にムダなガス系を使わない。リサイクルできるものは極力利用する。
男性	50～59歳	備前地域	地球温暖化防止に伴いエアコン等の使用を極力ひかえる。
女性	70歳以上	美作地域	畑作、田んぼなどで出た草、材料など焼かないようエコ生活をしていく。地域環境が守れるよう学習し実行していく。
女性	60～69歳	備中地域	家庭で出来る小さなエコ活動をする。例えば、油污れはふき取ってから洗う、買物はマイバッグ使用、生ごみはコンポスト利用、ビン・カン・新聞などは資源回収に足す、夏はゴーヤのグリーンカーテン、すだれなど使用する。
女性	50～59歳	備前地域	環境に優しい洗剤を使う。使い捨て容器を使用しないようにしたいが、この2点については、コロナウイルスの影響で今後どうなるのか新しい解決法を期待したい。安易に買い使い捨てでなく手入れをして長く使う、ごみの分別など。

VII 再生可能に関する意見（87件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	20～29歳	備前地域	低エネルギーな暮らしをする。電気・ガス、車をできるだけ使わない。
女性	70歳以上	備中地域	水・電力等無駄使いしない。資源ごみはリサイクルに出す。
男性	30～39歳	備前地域	使用しないときは電源を切る、電力消費の少ない電化製品に変えるなど、こまめに節電をする。IT技術を利用し紙の使用量をへらす等、物理的な資源の使用をへらす。電化製品の部品、プラスチック等のリサイクルをする。その他家庭でリサイクルできそうな物はリサイクルする。
女性	50～59歳	美作地域	生活の中でできる省エネを心がける。ごみを減らし、分別して、資源を有効に利用する。
男性	60～69歳	備中地域	省エネ及びグリーンキャンペーン等の身近な活動に参加する。

Ⅷ その他に関する意見（183件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	50～59歳	備中地域	むやみに車を利用せず、公共交通機関を利用する。
男性	70歳以上	備前地域	コミュニティ活動、町内会で行なう一斉掃除などに積極的に参加すること。ごみ出し時にきちんと分別し、ペットボトル、プラスチックはスーパーなどの回収場所へ持って行く。
男性	30～39歳	美作地域	まずSDGsについて知ること。
男性	60～69歳	備中地域	まずは実態を調べて知ることです。とくに環境問題に限りらず拡大しつつある貧困や格差、そして労働問題を中心とした人権問題は極めて深刻です。それらについてしっかり認識することから始まると思います。その中から、自分でできること、やれそうなことを見つけ実践することだと思います。
男性	20～29歳	備前地域	特に仕事の中で、常にSDGsに関する考察をし、枝葉ではなく、幹の部分にSDGsが根付く事業を行う努力をする。
男性	40～49歳	備中地域	SDGsに関する講座に参加し、SDGsネットワークおかやまの会員になり環境づくりを行うこと。
女性	70歳以上	備前地域	今回コロナウイルスの件で岡山県のHPを開きました。色んな活動をしていらっしゃるのですね。先ず自分が出来る事から取り組んでまいります。

《岡山県や企業に期待すること》

I 意識改革（22件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	50～59歳	美作地域	経済最優先で決定せず、住人や自然を最優先して決断を下してほしい。そんな決断だと岡山県が経済的に全国で最下位になることもあるが、それで住民や自然が救われるならば、自分や自分の家族ではない50年、100年先の多くの子どもたちが救われることを期待したい。
女性	50～59歳	備前地域	SDGsについて必要な行動と現状を図などで示し、取組課題ごとに、どう取組めば、どのような未来が予測できるかの指標がほしい。また、定例で見直しや現状を伝えてほしい。
女性	70歳以上	備中地域	住民一人ひとりの意識改革と強いリーダーシップが必要だと思う。
女性	30～39歳	美作地域	環境への負荷に関しては、新しいことが次々言われたりするので、一回行ってOKではなく見直しやすぐに新しい取組を取り入れるなど常にアップデートしてほしい。
男性	50～59歳	備前地域	企業や団体が取組むことが重要だが、個々人の意識改善がもっとも重要なので、小さな取組みに対する正しい評価を期待する。
女性	30～39歳	備中地域	SDGsについての活動を行っている団体に支援してあげてほしい。フェスなどがあれば行ってみたい。

II 美化、清掃に関すること（50件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	70歳以上	備中地域	漁港に使用済み網等がたくさん放置されている。農業用ビニール等いらなくなった時の処分の仕方を販売時に指導してほしい。
女性	60～69歳	備中地域	ごみ、あき缶、あきビンなどが道路横に投げられているのをよく見ます。山に投げ込まれています。何か対策はありませんか。
女性	70歳以上	備中地域	園芸も美しい景色だが、水はけ、視界をよくするなど、道路沿いの実のある清掃を基本に重きを置いてほしい。
男性	50～59歳	備中地域	マイクロプラスチックの清掃、海の清掃。
男性	50～59歳	備前地域	特に国道2号沿いのごみが気になるが、車の往来が多いため、個人的には拾えないので定期的に清掃を実施してほしい。
女性	70歳以上	備前地域	先進国とは思えないほど道路周辺や川にごみが散乱しています。一年に一度でも全県でごみ拾いの日を開催してほしいです。
女性	60～69歳	備中地域	プラスチックなど環境汚染につながる物の削減。
男性	50～59歳	美作地域	河川の樹木の除去、砂などの堆積物の除去。森林、山の手入れ。
女性	18、19歳	備前地域	岡山県に限らず様々な企業でプラスチックごみが出ない製品を作っていたら、海にマイクロプラスチックが浮いている問題などが少しでも良くなるし、海の生物の未来も助かるのではないかと考えます。

Ⅲ ごみの分別、回収、処理に関すること（37件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	50～59歳	備前地域	各々スーパーでは、ペットボトルや発泡トレイ、透明トレイ等の回収がありますが、シールを取るとか、卵のパックなど回収条件が違うことがあります。ぜひ、統一をしてほしいです。
男性	60～69歳	備前地域	いまだに、ごみステーションにきちんとごみ出しをせず、スーパーの入口に家庭ごみを出したり、川にごみが生かっていたり、道路にあき缶が転がっていたりする。一人ひとりが責任を持った行動をするように啓発運動の強化をしてほしい。
男性	60～69歳	備前地域	不法投棄の厳重な取り締まり。ごみ等の再資源化。省エネ機器の開発。
女性	70歳以上	美作地域	ごみの分別などができていない町を、きちんと指導する。
男性	20～29歳	備前地域	県は、少し面倒でも、ごみの分別を指導すること。また、県内、都市部に自然の大きな公園を作してほしい。企業は、リサイクルしやすい商品を作る、分別しやすい商品を作る、屋上などの緑化を進めるなどしてほしい。
男性	40～49歳	備前地域	面倒と感じると不法投棄につながるため、排出者が過度に分別しなくてもリサイクルできるものは、行政・企業が引き取るようにしてほしい。

Ⅳ 環境教育、情報の周知・PR（166件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	30～39歳	備前地域	子どもの頃は、学校で環境問題について習うので関心はあったが、大人になると考えることが少なくなってくるため、関心がもてるような何かがあると良い。
女性	60～69歳	美作地域	環境保護に関する活動を周知徹底する活動をもっと増やしたら良いと思う。
男性	60～69歳	備中地域	業者による不法投棄が後をたたない。一般に対する広報がされていない。
女性	60～69歳	備前地域	情報に触れる機会が少ない人に伝わるように発信して欲しい。資源ごみとして出す時に容器のラベルを剥がしやすくして欲しい。
女性	年齢不詳	備前地域	小さい時からの環境学習が大切だと思います。一時期、学校で話し合われ、ポイ捨てが目に見えて少なくなりましたが、今現在は、また元に戻っているようです。
女性	60～69歳	備前地域	CM等を使ってわかりやすく働きかけてほしい。
女性	50～59歳	備前地域	年をとると、紙面を読むことが面倒、または困難になることもあると思うので、マスメディアの利用を多くして頂けるといいと思う。
男性	50～59歳	備前地域	リサイクルなどキャンペーンを活用し広く普及して欲しい。
女性	50～59歳	備中地域	環境保全活動した企業を表彰し皆に知らせる。報奨金や減税などを行い、企業が率先して活動しやすくする。

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	30～39 歳	備前地域	他のヒト・モノ・コトのことをもっと考える機会・教育があってもよいのでは。今の社会は自分の事しか考えられてない状況にある。みんな余裕がない。
男性	40～49 歳	備前地域	環境問題について理解を深めるための広報活動がより必要。
女性	70 歳以上	備中地域	リサイクル工場や焼却場などの見学研修会をもっと増やし、気軽に参加できるように。ビン・ペットボトルのラベルをもっと小さくはがしやすくしてほしい。過剰包装や過剰装飾もやめてほしい。中身・品質重視。

V 住みやすい環境づくり (161 件 うち、主なものは以下のとおり)

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	50～59 歳	備中地域	より環境にやさしい商品の開発と、県、自治体が率先して使用。
男性	20～29 歳	備前地域	環境に優しい住宅作り。高気密高断熱の住宅。BELS 取得を義務づける。岡山でこのような住宅メーカーが少ない。
男性	60～69 歳	備前地域	地球温暖化対策、環境保全活動と言っても、どこまでも「人間のため」という原点を忘れず、草の根の精神で活動、推進の持続を期待します。
女性	60～69 歳	備前地域	緑を増やす。排気ガスを出さない車を多くする。田んぼをなくさない。
女性	50～59 歳	備前地域	川の土手をコンクリートで覆って土や草花や、生き物の命や居場所を奪わないでほしい。護岸工事と称して自然が奪われ、人より車の走りやすさを最優先しているように思われてならない。
女性	50～59 歳	備前地域	過疎地域の交通の便が悪いので、公共交通機関を充実させる。
男性	50～59 歳	備中地域	人口減少を受け、都市に居住者を集約させる政策がとられているが、空き家など含めて、現在ある地域の資産を有効に活用し、ゆとりのある、できれば兼業農家が可能となるような施策を展開すべきである。
男性	70 歳以上	備中地域	プラスチック製品を環境に優しい製品に切り替えてほしい。
男性	50～59 歳	美作地域	植物繊維から作られたプラスチック代替資材の開発。
女性	40～49 歳	美作地域	需要を正確に把握したうえでの供給、マーケティングリサーチ、働き方改革、中山間地域への移住に対する助成、受注生産。
男性	40～49 歳	備前地域	車を減らす為の活動（電車の本数を増やすなど）。
性別不詳	70 歳以上	備中地域	今日、明日ではなく、30 年、50 年、100 年先を見て環境保全に取り組んでほしい。
女性	30～39 歳	美作地域	森林保全。工場などが二酸化炭素を出さないようにする。

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	40～49 歳	美作地域	人間らしい生き方のために、働き方の改革。長く住み続けられる街にするための努力。
男性	70 歳以上	備中地域	まずは岡山県を住みやすい町にしてから世界に目を向けて下さい。
女性	50～59 歳	備前地域	物を作るとき、その材質の処分の方法の前に、ごみになりにくい材質を選んだり、開発をすることを望みます。一人一人の意識の向上のために、地域の活動等で短時間の活動・参加日を増やして、参加したい日に協力出来るなど、無理なく出来る取り組みだと、良いと思います。

VI 環境汚染について (67 件 うち、主なものは以下のとおり)

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	70 歳以上	備前地域	県下で、広く公共下水道の整備。児島湖の水質浄化。企業活動で使った水を浄化して川に流す。
女性	70 歳以上	備中地域	私の住んでいる水島地区は、環境が大変悪いです。南面の家の窓を開けられないぐらい毎日粉塵が舞っていますが、水島の企業は本当に対策を取っているとは思えません。
男性	70 歳以上	備前地域	大気環境の保全、水環境の保全、有害化学物質対策。
女性	60～69 歳	備前地域	水辺、川などをきれいにしてほしい。ただし、ブロックなどで川岸を修理しないで、透き通るようにきれいな、自然に近い川にしてほしい。
男性	60～69 歳	美作地域	事業所などで排出される汚水等が出ないように炉過装置を設置する。CO2 の排出制限の徹底。
女性	18、19 歳	備中地域	企業などの CO2 排出の削減。ムダな道路増設禁止。
女性	70 歳以上	備中地域	一酸化炭素放出の削減。電気自動車の増産。自然エネルギーの更なる活用。
女性	30～39 歳	備前地域	正しい汚水処理。エアコンの使い過ぎなどではなく、地球温暖化で気温も高くなってきているので、過ごしやすくなるよう。

Ⅶ エコ、リサイクル活動の推進（93件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	40～49歳	備前地域	リサイクルしやすい施設を作る。渋滞しない道の整備。エコ活動しやすい設備を作る。
女性	30～39歳	備前地域	レジ袋をマイバッグへ、プラスチックストローを紙ストローへなど、環境を守るための事は、どんどん進んでやって欲しいと思います。
女性	30～39歳	備前地域	ペーパーレスの導入。
女性	70歳以上	備中地域	食品の過剰包装を考えてもらいたいと思います。場所も取るし、とても無駄なことで何とかならないものかと思っています。
女性	30～39歳	備前地域	エコした人に得する制度。お金をかけずエコできる制度。車や家でのエコはお金持ちしかできない。リサイクルした人へのポイント還元を増やすなど。
女性	50～59歳	備中地域	家庭から出る生ごみを機械に入れると堆肥になるようなモノを支所などに置いてほしい。持って行っただけ、堆肥をもらえるようにしてほしい。
男性	50～59歳	備前地域	レジ袋有料化は遅すぎる。環境に対しての活動は政府方針ではなく、先走るぐらいでいいので、岡山第一番として注目されるようになってほしい。人の多い場所で分別ごみBOXを目立たせて、意識を高めるようにしては。

Ⅷ 地球温暖化、気候変動、災害に関すること（22件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	70歳以上	備中地域	地球温暖化防止のための排気ガス低減。
男性	70歳以上	備中地域	地球温暖化対策や、地球環境、自然環境を破壊している原発・火力発電などの廃止、また原発の廃棄物の処理などを早急に解決するよう、国に働きかけを行う。
男性	50～59歳	備前地域	温暖化対策、及び緑を増やす取り組み。
男性	60～69歳	備中地域	気温を下げる。

Ⅸ 再生可能エネルギーに関すること（29件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	70歳以上	備前地域	再生可能エネルギー事業を育てる施策。太陽光発電の買取り額の長期保障。
男性	60～69歳	美作地域	再生及び自然エネルギーの活用と、廃棄物などを減少すること。
女性	60～69歳	備中地域	情報が多すぎて正しいことがわからない。県や企業といっても企業は儲けを有先しているのみでは、太陽光発電はエコか、ペットボトルは再生されているか、再生するコストの方が高いのでは等。

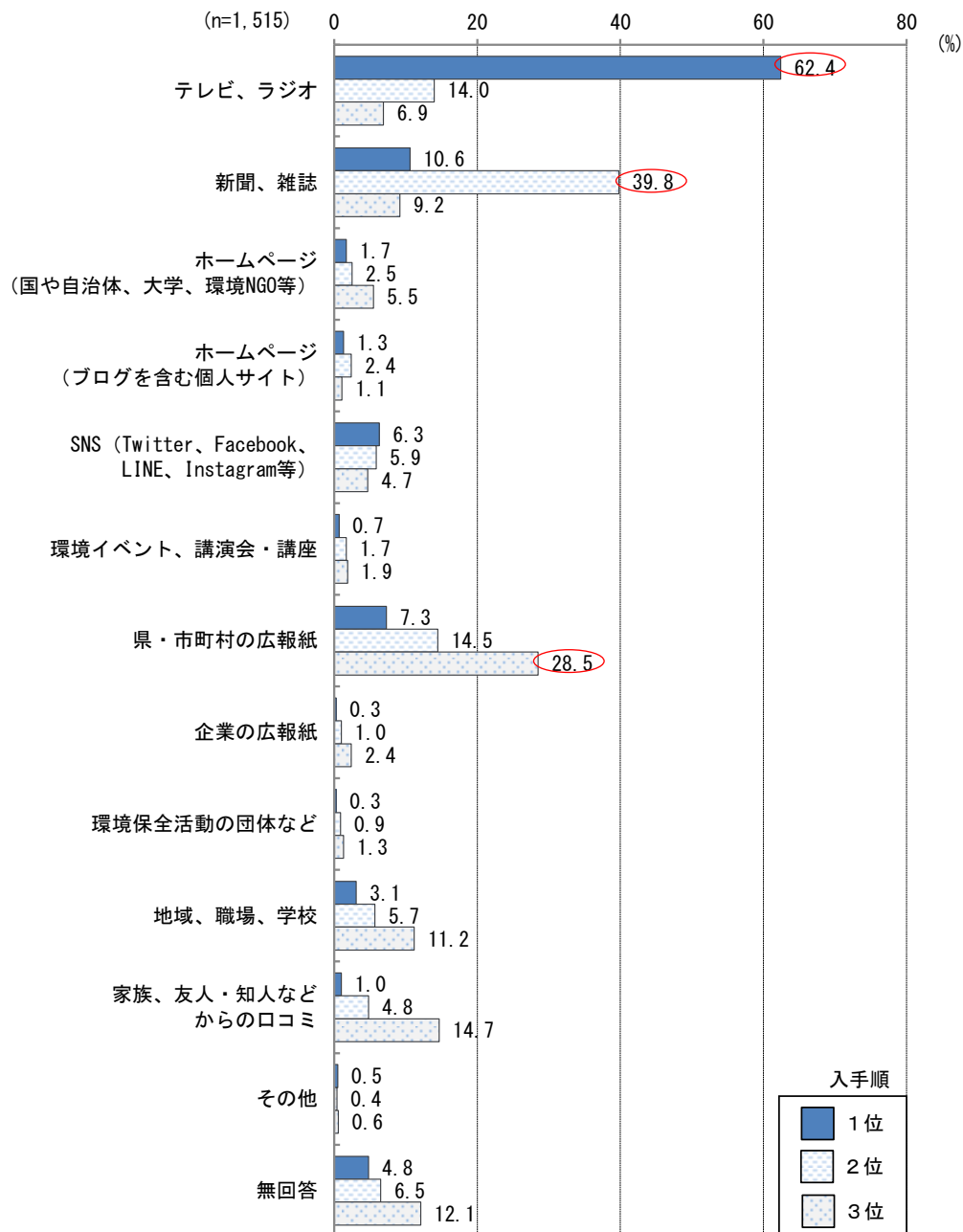
性別	年齢	エリア	自由意見
女性	20～29 歳	備前地域	太陽光発電など、環境に負荷をかけないエネルギーの利用。
女性	60～69 歳	備中地域	クリーンエネルギー・太陽光発電・風力発電の普及。ただし原子力は不必要。
女性	40～49 歳	美作地域	再生可能エネルギーの活用。全市での最先端のごみ処理場の導入。植樹活動。洪水防止の為に堤防の強化。西日本豪雨で被害のあった道路・山の斜面・堤防の復旧工事。耕作放棄地の活用の整備。河川と海のごみの撤去。河川と海の水質改善。絶滅危惧種などの生物の保護、里山管理・整備・活用。
男性	70 歳以上	備前地域	自然環境保全に配慮した再生可能エネルギーの導入。廃棄物（産業・家庭）の削減・再生・再活用の促進等。

3 環境情報について

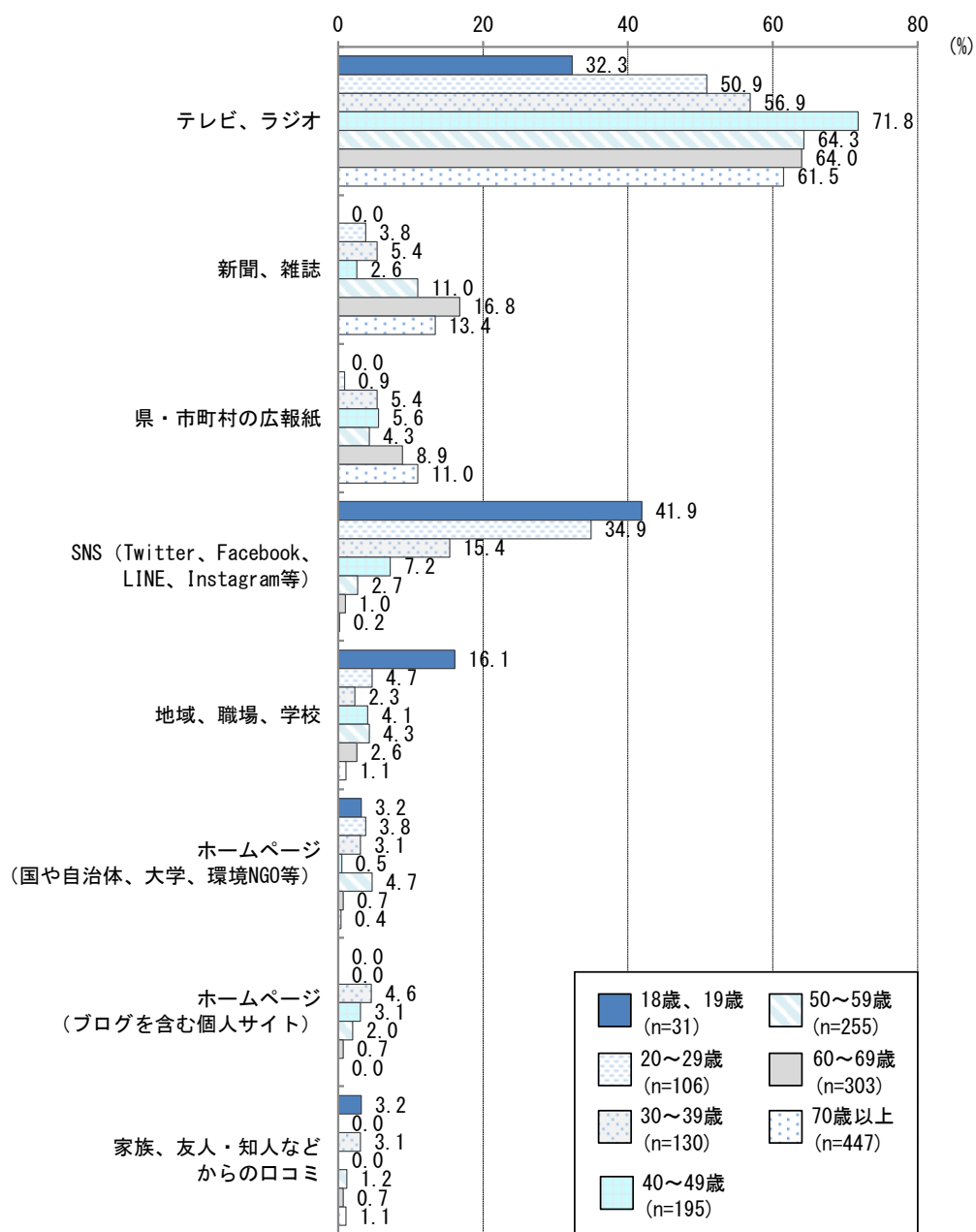
(1) 環境に関する情報入手媒体について

問5 あなたは、環境に関する情報(環境問題に関する知識や環境配慮のための方法など)について、どのように入手していますか。

【情報の入手順ごとに、あてはまる番号を3つ(1位~3位)まで記入】

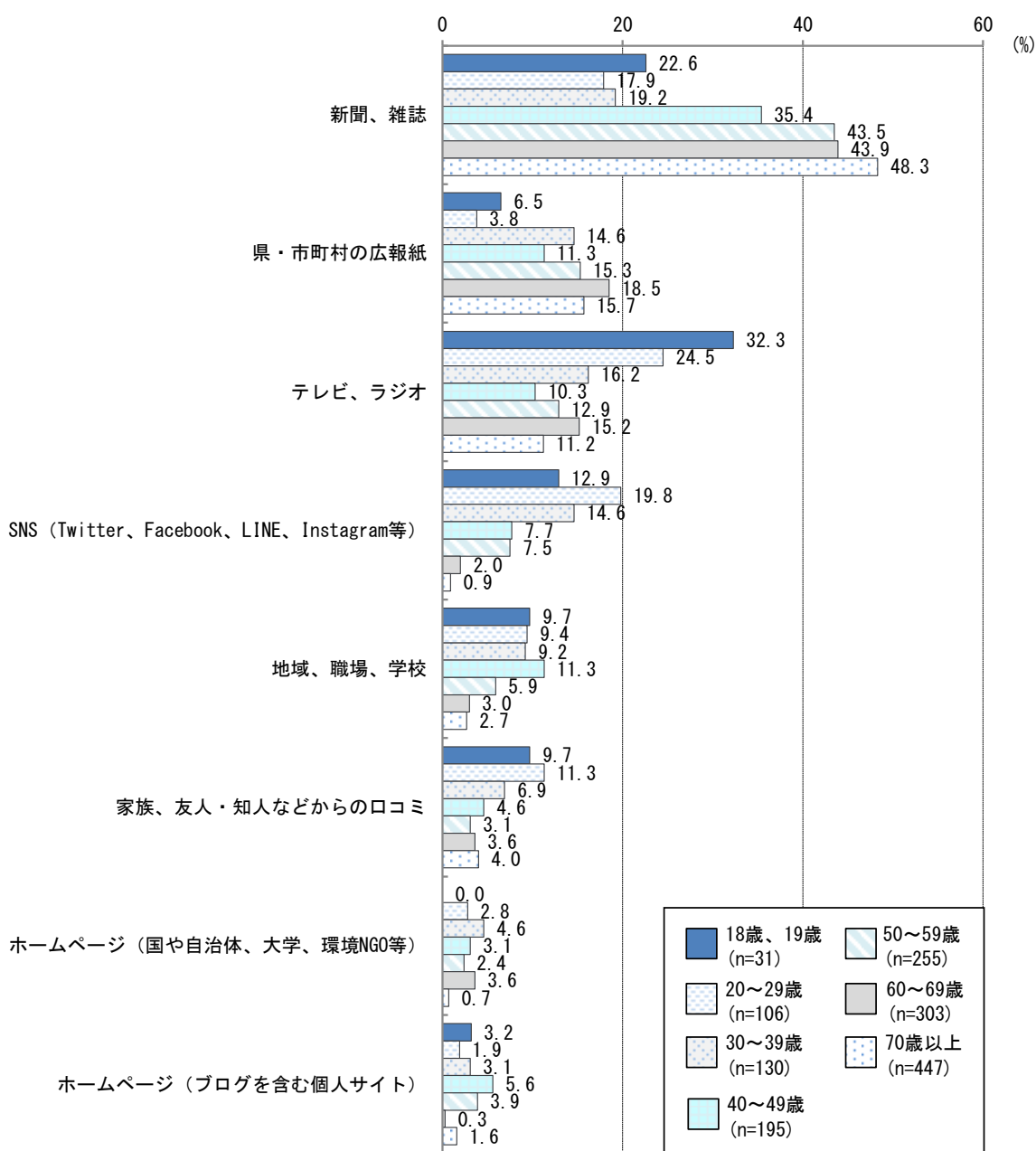


【環境に関する情報入手媒体（入手順1位）（年齢別）】



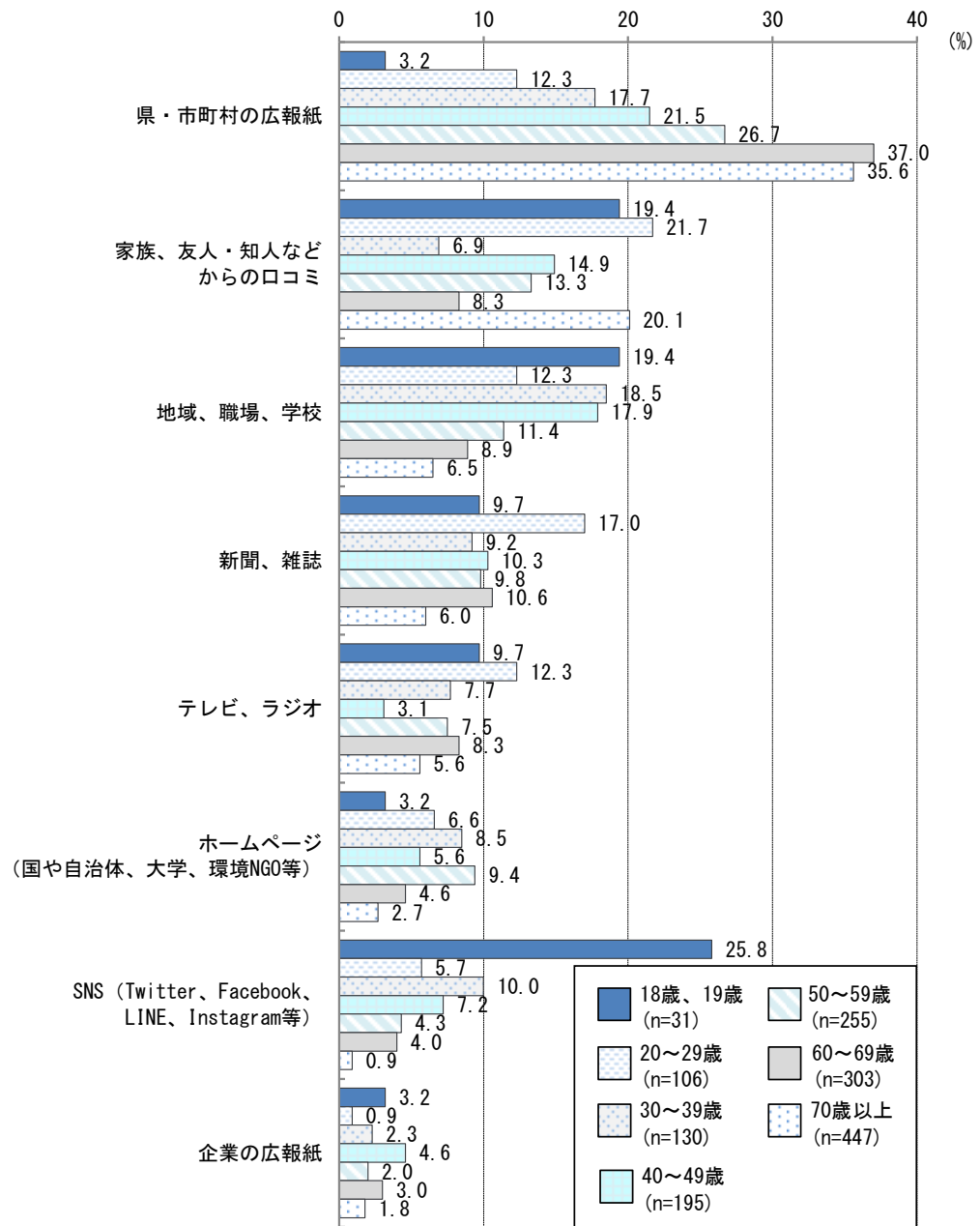
※選択肢（12項目）のうち、回答の多いもの8項目を掲載

【環境に関する情報入手媒体（入手順2位）（年齢別）】



※選択肢（12項目）のうち、回答の多いもの8項目を掲載

【環境に関する情報入手媒体（入手順3位）（年齢別）】



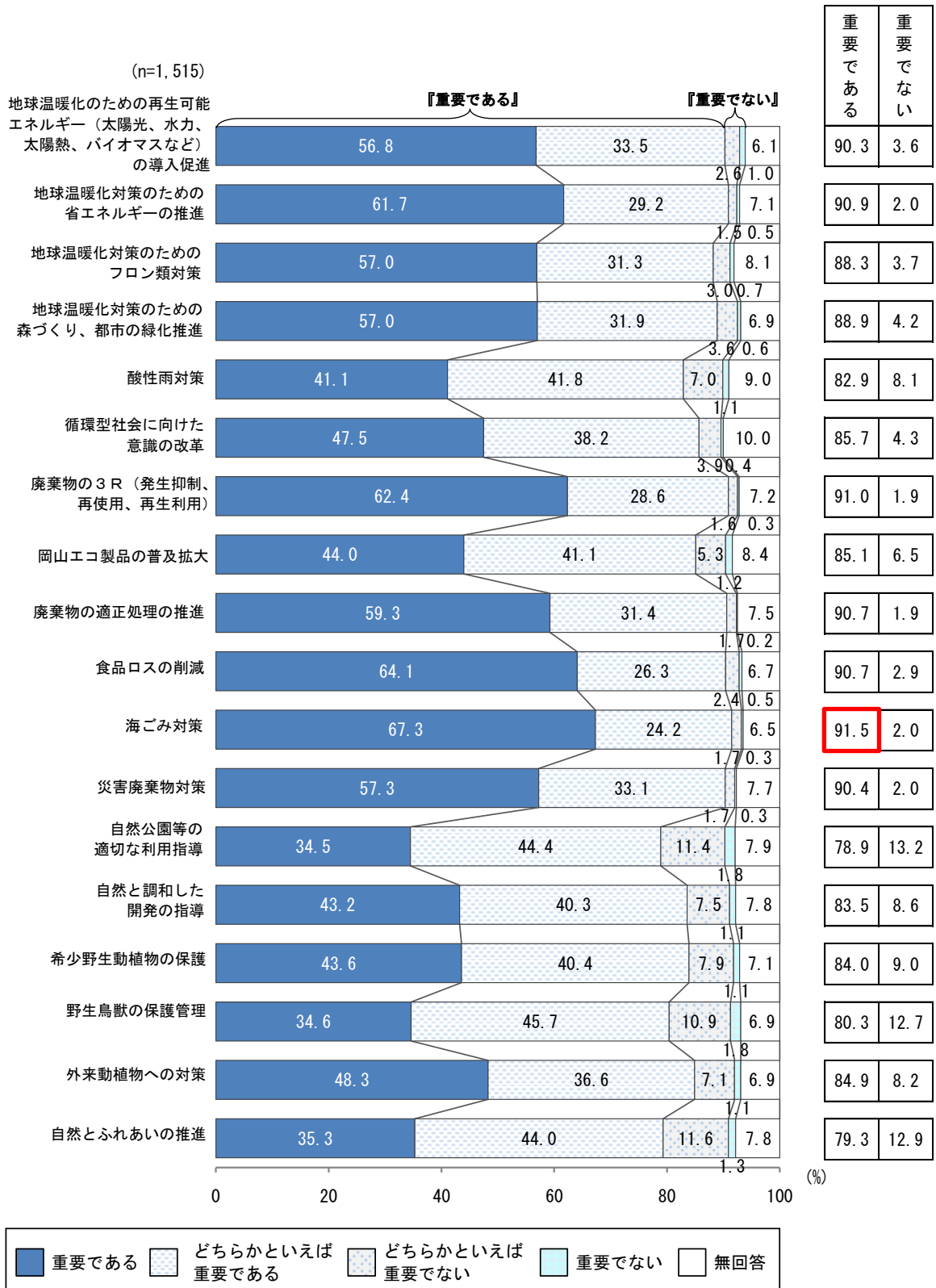
※選択肢（12項目）のうち、回答の多いもの8項目を掲載

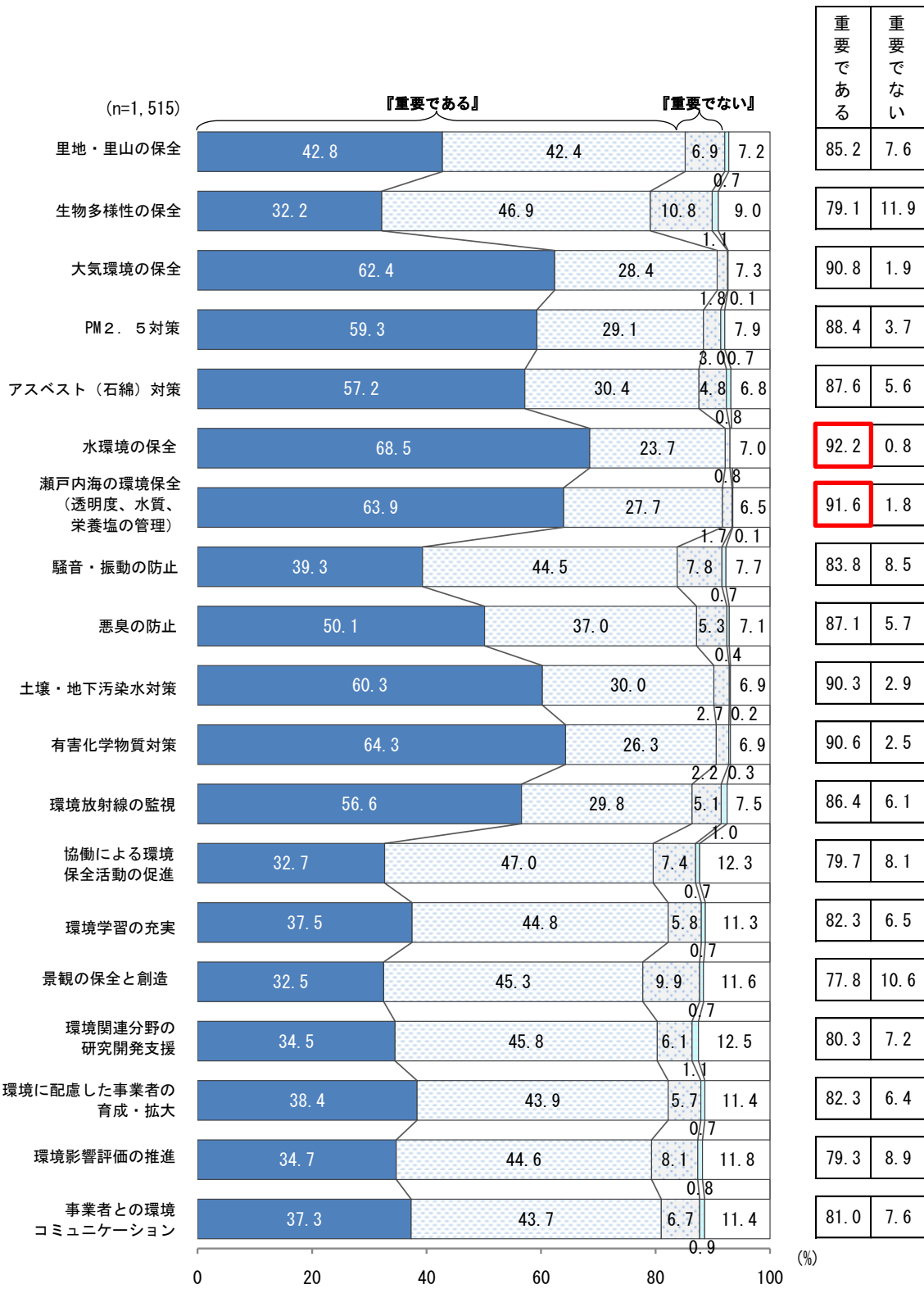
	結果の要点
全体	<p>【1位】 「テレビ、ラジオ」との回答が62.4%と最も高く、次いで「新聞、雑誌」(10.6%)、「県・市町村の広報紙」(7.3%)などの順となっている。</p> <p>【2位】 「新聞・雑誌」との回答が39.8%と最も高く、次いで「県・市町村の広報紙」(14.5%)、「テレビ・ラジオ」(14.0%)などの順となっている。</p> <p>【3位】 「県・市町村の広報紙」との回答が28.5%と最も高く、次いで「家族、友人・知人などからの口コミ」(14.7%)、「地域、職場、学校」(11.2%)などの順となっている。</p>
入手順1位 年齢別	「テレビ、ラジオ」で「40～49歳」(71.8%)、「SNS (Twitter、Facebook、LINE、Instagram等)」で「18歳、19歳」(41.9%)、「20～29歳」(34.9%)が高くなっている。
入手順2位 年齢別	「新聞、雑誌」で「50～59歳」(43.5%)、「60～69歳」(43.9%)、「70歳以上」(48.3%)、「テレビ、ラジオ」で「18歳、19歳」(32.3%)、「SNS (Twitter、Facebook、LINE、Instagram等)」で「20～29歳」(19.8%)が高くなっている。
入手順3位 年齢別	「県・市町村の広報紙」で「60～69歳」(37.0%)、「70歳以上」(35.6%)、「家族、友人・知人などからの口コミ」で「18、19歳」(19.4%)、「20～29歳」(21.7%)、「70歳以上」(20.1%)、「SNS (Twitter、Facebook、LINE、Instagram等)」で「18歳、19歳」(25.8%)が高くなっている。

4 岡山県の取組状況について

(1) 重要度について

問6 岡山県が現在行っている環境に関する以下の施策についてお尋ねします。
 それぞれの施策の重要度と県の取組状況への満足度について、あなたの考えや意見に最も近いものはどれですか。【○はそれぞれ1つ】



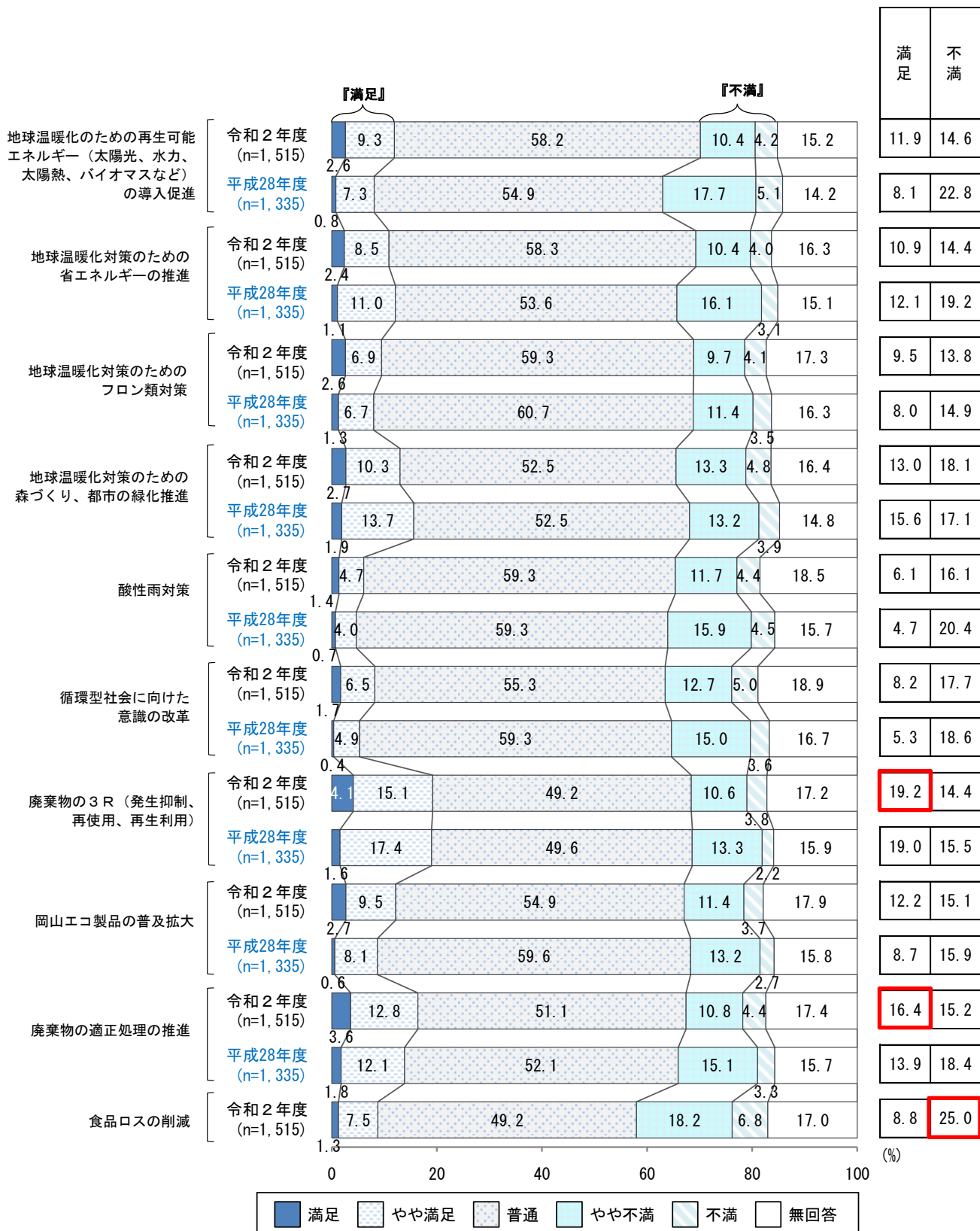


重要である
 どちらかといえば重要である
 どちらかといえば重要でない
 重要でない
 無回答

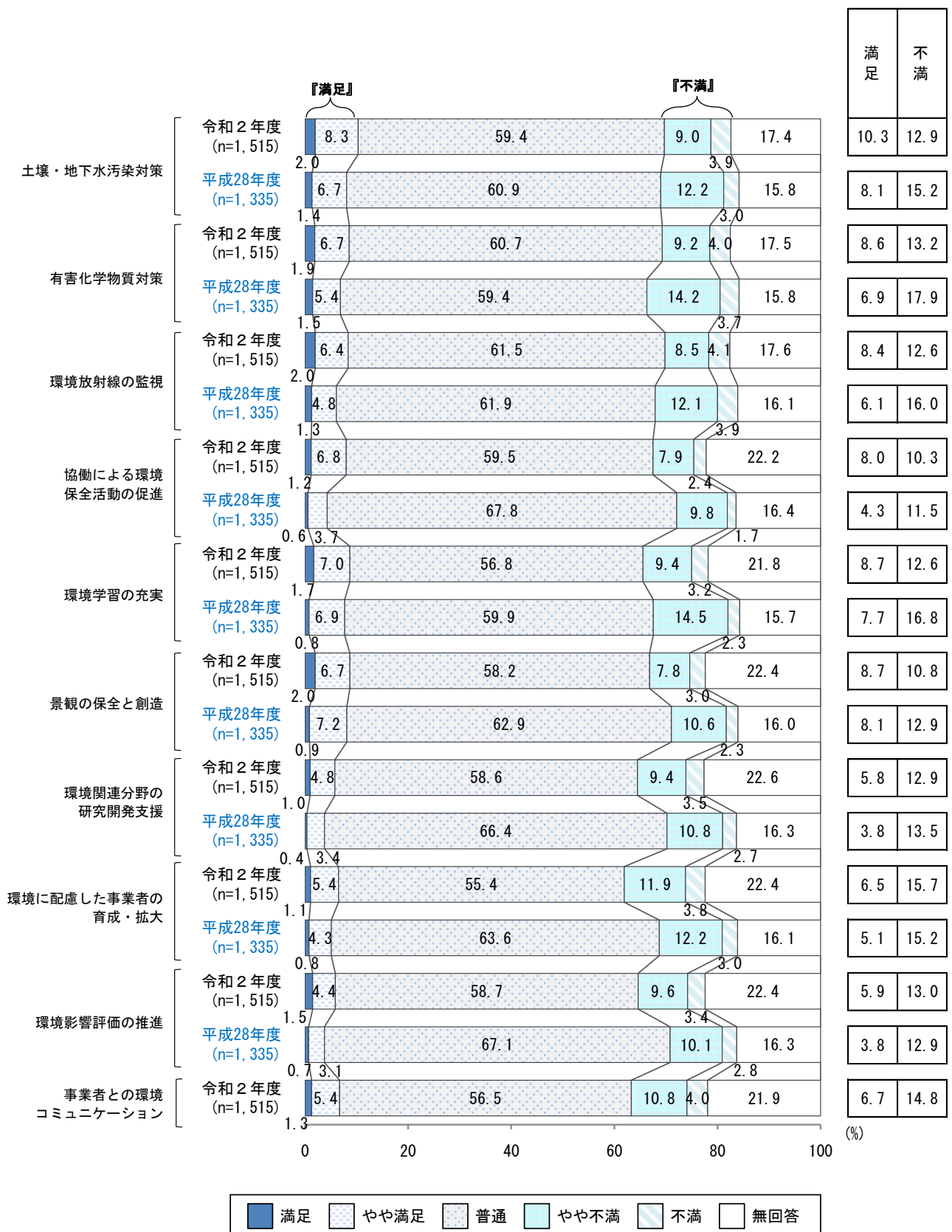
結果の要点	
全体	『重要である』との回答は「水環境の保全」が92.2%と最も高く、次いで「瀬戸内海の水環境保全(透明度、水質、栄養塩の管理)」(91.6%)、「海ごみ対策」(91.5%)などの順となっている。

(2) 県の取組状況への満足度について

問6 岡山県が現在行っている環境に関する以下の施策についてお尋ねします。
 それぞれの施策の重要度と県の取組状況への満足度について、あなたの考えや意見に
 最も近いものはどれですか。【○はそれぞれ1つ】







	結果の要点
全体	<p>『満足』との回答は「廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再生利用）」が19.2%と最も高く、次いで「廃棄物の適正処理の推進」（16.4%）、「水環境の保全」（16.0%）、「災害廃棄物対策」（15.6%）、「瀬戸内海的环境保全（透明度、水質、栄養塩の管理）」（14.9%）、「アスベスト（石綿）対策」（14.0%）、「地球温暖化対策のための森づくり、都市の緑化推進」（13.0%）、「岡山県エコ製品の普及拡大」（12.2%）、「自然とのふれあいの推進」（12.0%）、「地球温暖化対策のための再生可能エネルギーの導入促進」（11.9%）などの順となっている。</p> <p>『不満』との回答は「海ごみ対策」が25.9%と最も高く、次いで「食品ロスの削減」（25.0%）、「外来動植物への対策」（24.1%）、「PM2.5対策」（20.7%）、「地球温暖化対策のための森づくり、都市の緑化推進」（18.1%）、「循環型社会に向けた意識の改革」（17.7%）、「自然と調和した開発の指導」（16.8%）、「里地・里山の保全」（16.4%）、「瀬戸内海的环境保全（透明度、水質、栄養塩の管理）」（16.3%）、「酸性雨対策」（16.1%）などの順となっている。</p>
経年比較	<p>『不満』との回答は「地球温暖化対策のための再生可能エネルギーの導入促進」で今回調査（14.6%）が平成28年度調査（22.8%）を8.2ポイント下回っている。</p>

※『満足』（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）

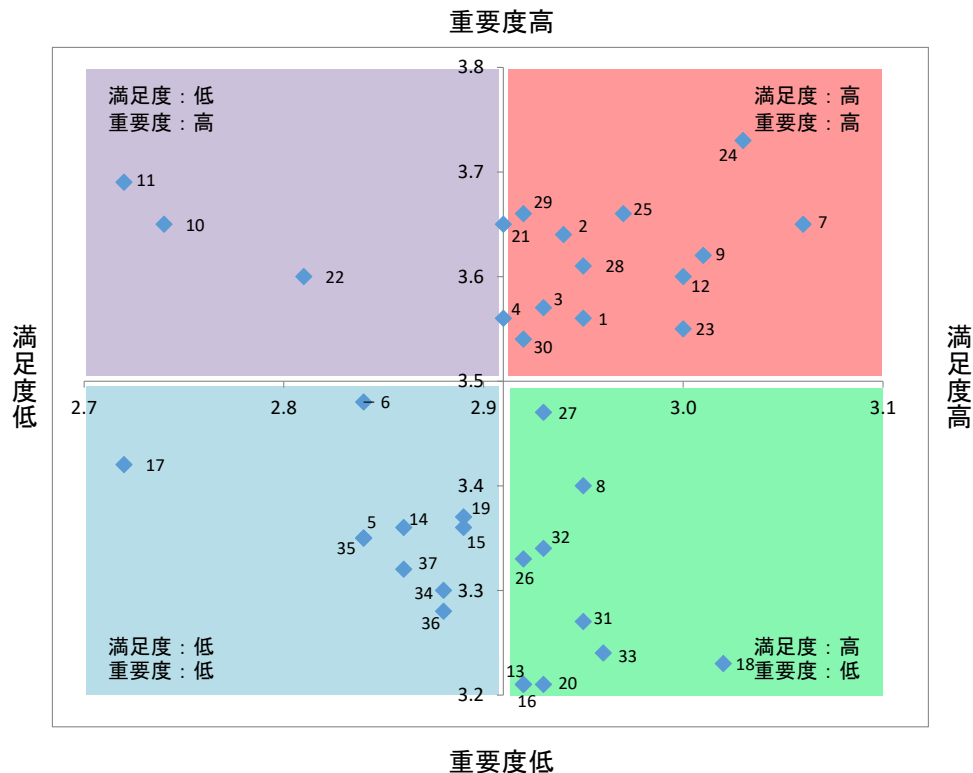
※『不満』（「不満」と「やや不満」を合わせた割合）

【満足度・重要度の相関図】

37の調査項目について、満足度・重要度の平均点を算出し、相関図を作成した。各相関図に記載されている番号は、次のとおりである。

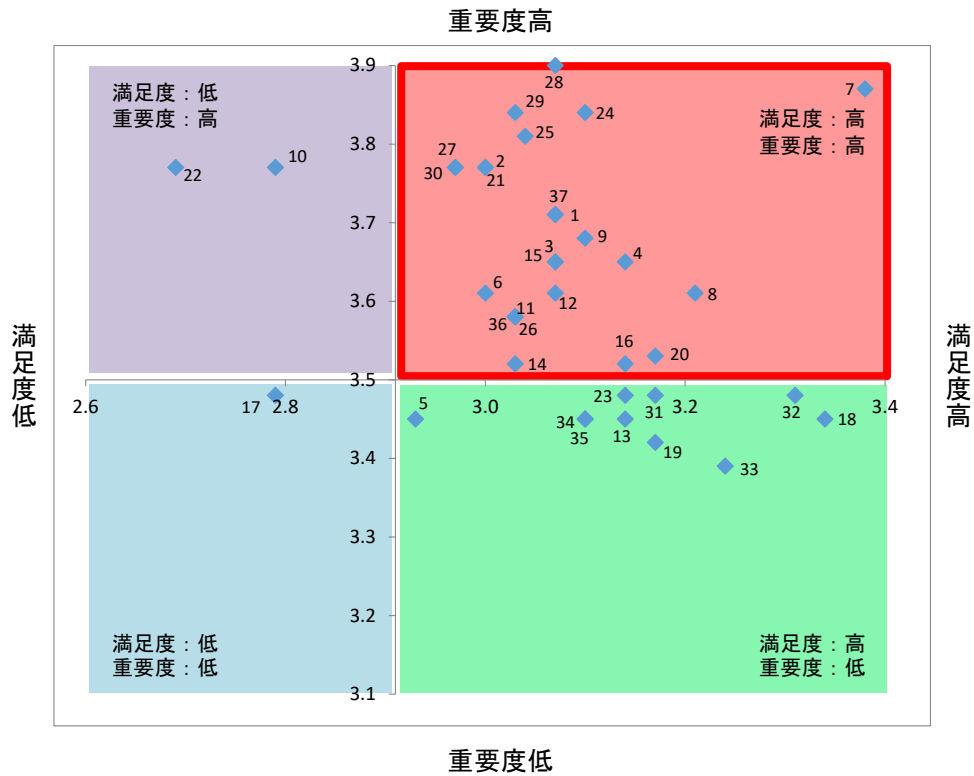
1. 地球温暖化対策のための再生可能エネルギー（太陽光、水力、太陽熱、バイオマスなど）の導入促進	20. 生物多様性の保全
2. 地球温暖化対策のための省エネルギーの推進	21. 大気環境の保全
3. 地球温暖化対策のためのフロン類対策	22. PM2.5対策
4. 地球温暖化対策のための森づくり、都市の緑化推進	23. アスベスト（石綿）対策
5. 酸性雨対策	24. 水環境の保全
6. 循環型社会に向けた意識の改革	25. 瀬戸内海的环境保全（透明度、水質、栄養塩の管理）
7. 廃棄物の3R（発生抑制、再利用、再生利用）	26. 騒音・振動の防止
8. 岡山県エコ製品の普及拡大	27. 悪臭の防止
9. 廃棄物の適正処理の推進	28. 土壌・地下水汚染対策
10. 食品ロスの削減	29. 有害化学物質対策
11. 海ごみ対策	30. 環境放射線の監視
12. 災害廃棄物対策	31. 協働による環境保全活動の促進
13. 自然公園等の適切な利用指導	32. 環境学習の充実
14. 自然と調和した開発の指導	33. 景観の保全と創造
15. 希少野生動植物の保護	34. 環境関連分野の研究開発支援
16. 野生鳥獣の保護管理	35. 環境に配慮した事業者の育成・拡大
17. 外来動植物への対策	36. 環境影響評価の推進
18. 自然とのふれあいの推進	37. 事業者との環境コミュニケーション
19. 里地・里山の保全	

《全体》 満足度平均点 2.91 重要度平均点 3.46

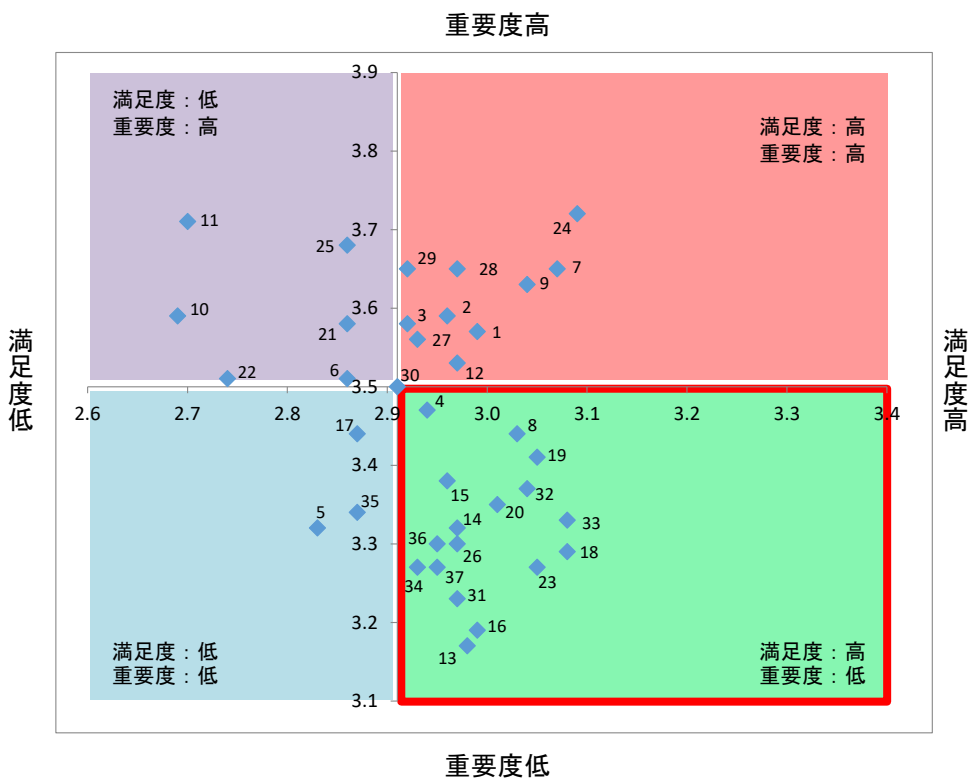


【満足度・重要度の相関図（年齢別）】

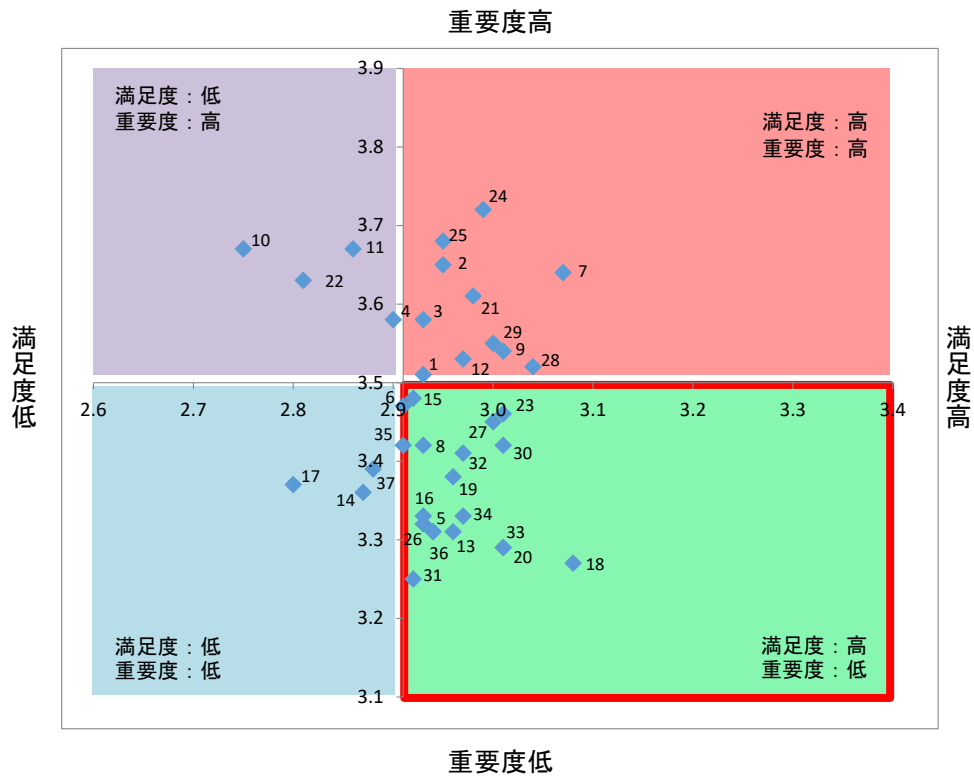
《18歳、19歳》満足度、重要度ともに高い項目が25項目と最も多い。



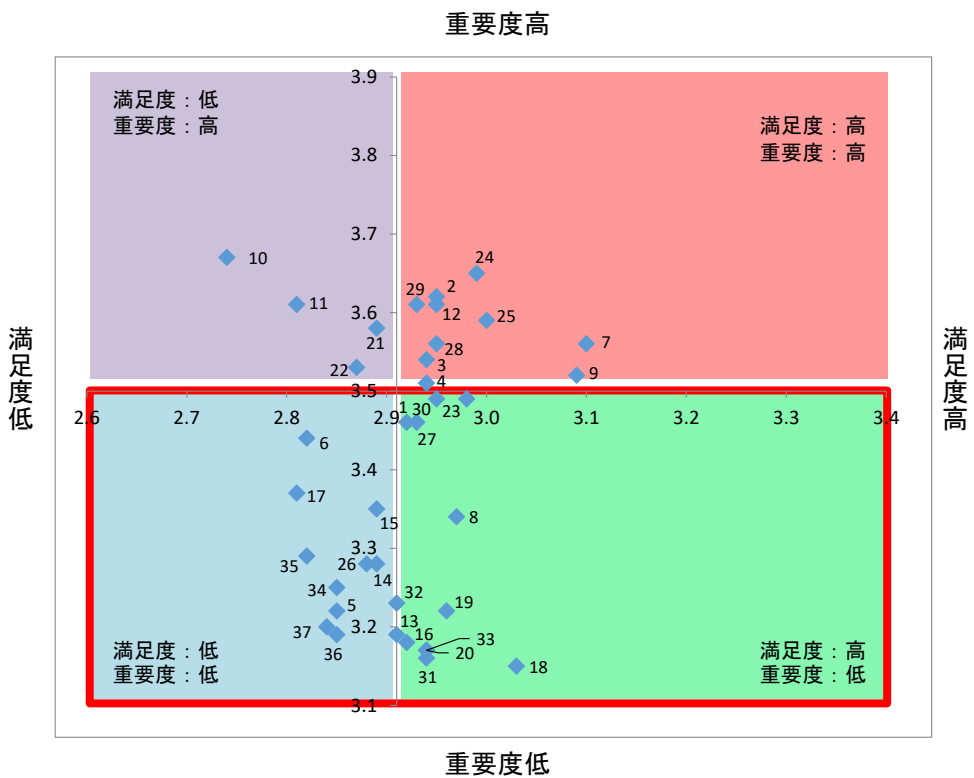
《20～29歳》満足度が高く重要度が低い項目が17項目と最も多い。



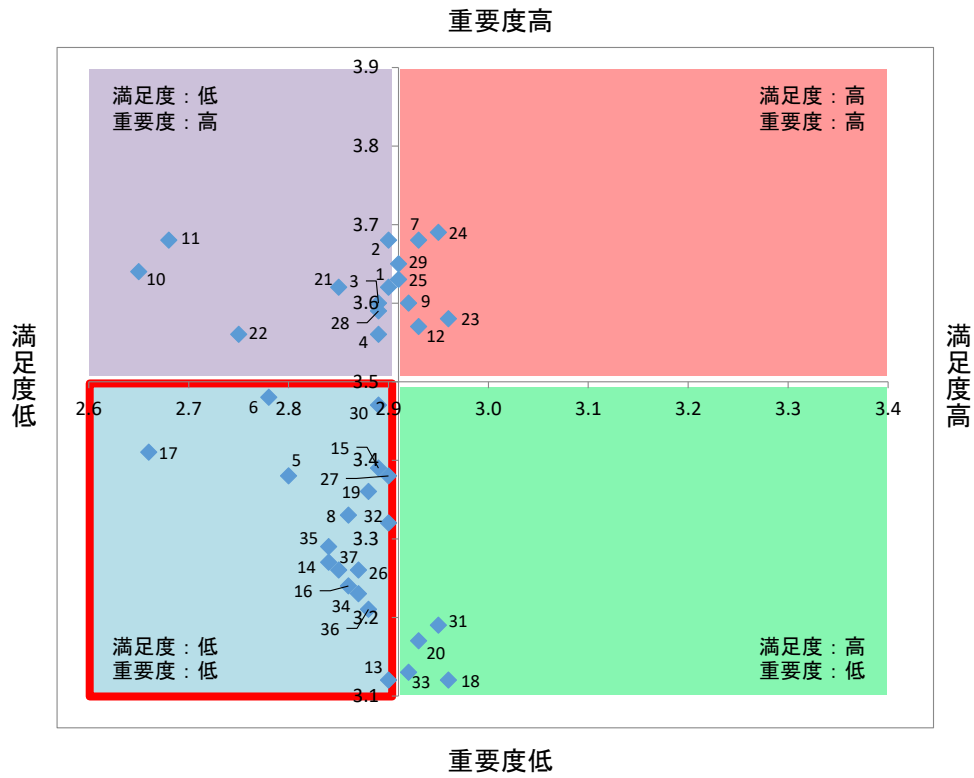
《30～39 歳》満足度が高く重要度が低い項目が 16 項目と多い。



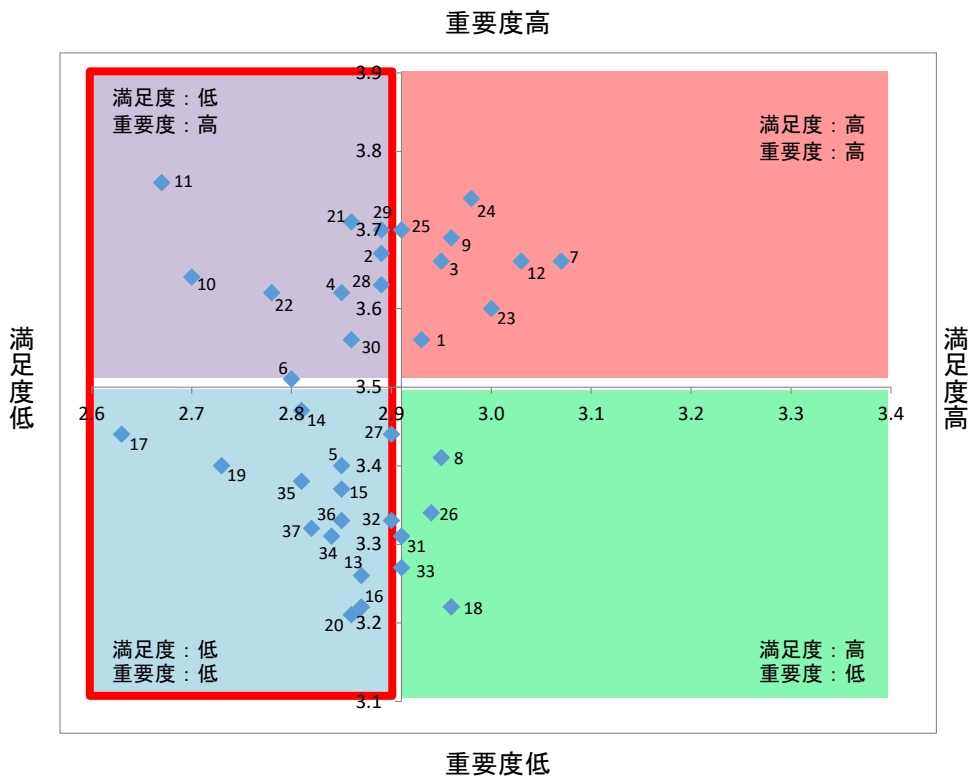
《40～49 歳》半数以上の項目で重要度が低い。



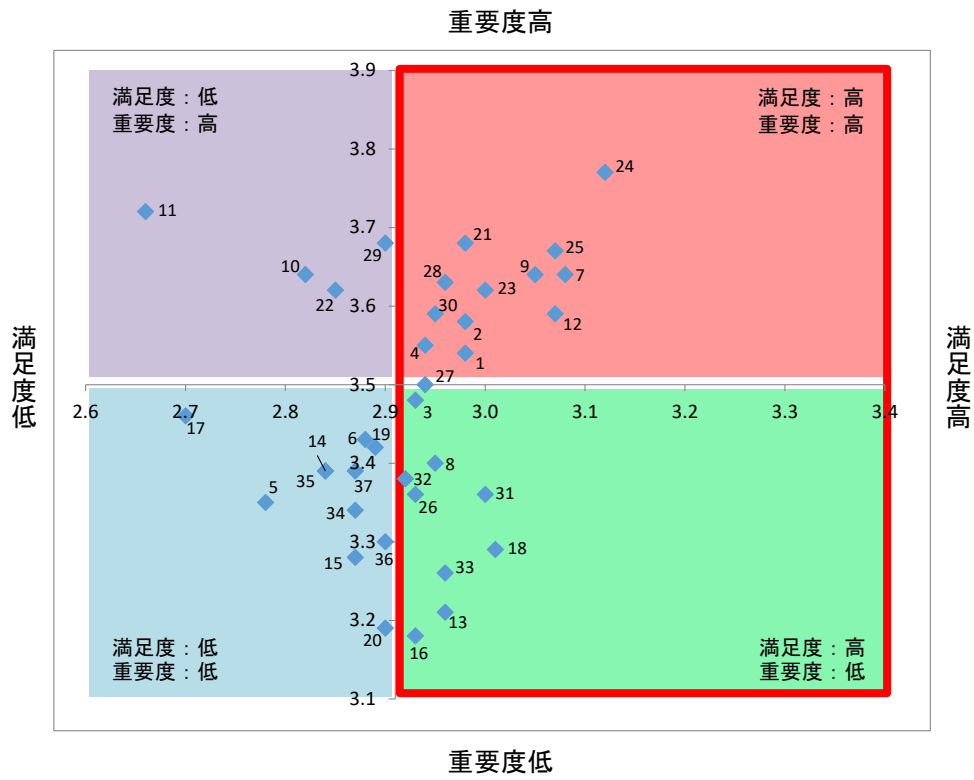
《50～59 歳》満足度、重要度ともに低い項目が 16 項目と最も多い。



《60～69 歳》半数以上の項目で満足度が低い。



《70 歳以上》半数以上の項目で満足度が高い。



問6-1 問6で挙げられている施策について、日頃感じられている思い（改善点など）がありましたら、自由にお書きください。

1. 地球温暖化対策のための再生可能エネルギー（太陽光、水力、太陽熱、バイオマスなど）の導入促進（32件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	年齢不詳	備前地域	太陽光発電のさらなる普及と、従来から協力している人の買い取り額をアップするよう助成してほしい。10年以上経った人は買い取り価格が7分の1になった。良い方法はないだろうか。
男性	50～59歳	備前地域	川や池を利用して太陽光発電をしているのは良いことだと思う。土地活用がすばらしいと思う。
女性	60～69歳	備前地域	再生可能エネルギーの重要性は感じるが、原子力や火力発電に代わるだけの導入は難しいと思うため、実際どこまで普及するのだろうかと思う。
男性	20～29歳	備中地域	太陽光発電は増やすべきだと思うが、山や森の木を伐採して太陽光パネルを設置するのはどうなのだろうか。よく分からないので情報がほしい。
女性	60～69歳	備前地域	バイオマスに対しては早期に取り組み、成果も上げられていると思いますが、県民の意識については遅れているのではと思います。晴れの国岡山の地域特性を生かした太陽光発電などの推進も、施策としてどんどんやってほしいと思います。
女性	60～69歳	備中地域	再生可能エネルギーをもっと導入促進してほしい。

4. 地球温暖化対策のための森づくり、都市の緑化推進（4件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	40～49歳	備中地域	緑化の促進がもっと拡大すれば良い。

7. 廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再生利用）（12件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	70歳以上	備中地域	資源の少ない日本は特に3Rが必要である。
男性	70歳以上	備前地域	廃棄物の3Rの呼びかけ促進を、より一層強化してほしい。路上などへの不法投棄物を減らすための活動や、ごみ拾い活動などを積極的に行ってほしい。
女性	50～59歳	美作地域	県内で実施しているリサイクル状況を県民に定期的に教えていただくと、リサイクル意欲も高まると思います。

8. 岡山県エコ製品の普及拡大（1件）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	20～29歳	備前地域	岡山県エコ製品に力を入れて普及させてください。

9. 廃棄物の適正処理の推進（9件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	50～59歳	備中地域	産業廃棄物の不法投棄などがよく全国で報じられるが、受け入れ場所をもっと増やしていけば良いと思う。また、そのような違法行為については、罰則を今以上に厳しくしてほしい。
女性	70歳以上	備中地域	企業努力により成立していることが多いと感じる。岡山県としての協力がもう少し必要である。ごみ処理に出せないものが多い。
女性	20～29歳	備前地域	廃棄物対策は充実していると感じられます。

10. 食品ロスの削減（9件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	70歳以上	備前地域	賞味期限と消費期限をもっと徹底する必要がある。意味を取り違っている人が多い。
男性	40～49歳	備前地域	コンビニ・スーパーなどの食品ロスを減らしていけると良いと思います。
男性	50～59歳	備中地域	食品ロスについてですが、スーパー等だけでなく、家庭でも買いためをすることがあったり、飲食店でも残りの持ち帰りを推進していけるといいのですが、難しい所もあると思います。子どものときからの意識も大切で、当たり前にならないようにできると良いです。

11. 海ごみ対策（11件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	40～49歳	備前地域	海岸に打ち上げられているごみの多さを残念に思う。
女性	30～39歳	備前地域	瀬戸内海のごみについて、テレビでの放送や高校生の活動に毎回感激します。ただ、高校生や中学生、小学生の頑張りをそのままにするのではなく私たち大人が実現しなければならないと感じます。県として実施していることがあるかと思いますが、県民には届いていないと感じます。
男性	70歳以上	備中地域	海岸を散歩していると、ペットボトル、缶類、釣り道具がよく捨てられています。マナーをしっかりと守るよう伝えてください。また、釣り上げた小さな魚も捨てられています。持ち帰らない場合は、すぐ海に放してやると良いと思います。高齢者の私としては、ごみ袋を持ち歩きごみ拾い等で協力していますが、海、海水、魚たちがとても気になります。

16. 野生鳥獣の保護管理（8件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	70歳以上	備前地域	有害鳥獣対策をしてください。里山対策どころではなく、農地の保全に四苦八苦しています。害が出たときにのみ住民に対策等を考えさせるのではなく、日常から住民によくPRをしてください。
女性	30～39歳	備前地域	野生鳥獣に詳しくないが、近所にネズミではないモグラかヌートリアのような動物がいるので、どのようにしたらいいのか分かるようにしてほしい。

17. 外来動植物への対策（4件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	50～59歳	備前地域	行政の指導とバックアップはとても重要で企業にも市民にも必要なことだと思うが、マニュアルにとらわれて本末転倒になったり、柔軟さをなくして別な犠牲を生むことのないようにしてほしいと思う。例えば、環境保全のためには外来生物は本来の生態系を損なう問題があると思うが、だからと言って生き物を安易に殺して良いわけではない。決して保全や管理が単なる駆除や殺処分、個々の生命軽視になってはならない。そのために様々な視点からの現実的かつ人道的な対策を議論できる場をもてる行政であってほしい。
女性	20～29歳	備前地域	ヌートリアやアカミミガメなど外来生物に対する施策について、もう少し強化してほしいです。

18. 自然とのふれあいの推進（1件）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	60～69歳	備前地域	限りある資源を大切に、自然と共生できる社会を目指してほしい。

19. 里地・里山の保全（3件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	60～69歳	備中地域	農村部の人口が減る中、農村で経済的に生活ができ、生活者により里山保全ができる社会を目指してほしい。

20. 生物多様性の保全（1件）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	30～39歳	美作地域	川の魚や山の生物などと共存共生できる暮らしを守ってほしい。

21. 大気環境の保全（4件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	70歳以上	備中地域	水島地区の粉じんの元は、どこから来ているのかを追求してもらいたい。
女性	20～29歳	備前地域	水島の大気汚染が深刻。野焼きの指導をしてほしい。

22. PM2.5対策（4件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	60～69歳	備中地域	畑などでごみを燃やす人がおられます。その方々への指導の徹底をしてほしいです。
女性	60～69歳	備前地域	あまり詳しいことはよくわからないが、PM2.5と黄砂はどうにかしてほしい。物干しの手すりに粉がよくついている。喘息をもっているため、どうしても神経質になってしまう。

24. 水環境の保全（6件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	50～59歳	備前地域	過疎地では、昔やっていた川清掃ができていないため、県の公費で数年に一度は清掃してほしい。
女性	70歳以上	備中地域	川が川としての機能が果たせるように、日頃から環境保全に取り組んでいただきたい。管轄が国ならば、しっかり要求していただきたい。

25. 瀬戸内海の環境保全（透明度、水質、栄養塩の管理）（1件）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	60～69歳	備前地域	瀬戸内市においては牡蠣、魚などの不漁が年々多くなっているように思います。成育する環境が悪くなってきているのではないのでしょうか。

26. 騒音・振動の防止（1件）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	30～39歳	備前地域	岡山ブルーラインで、深夜に騒音を出しているバイクの対策をしてほしい。

27. 悪臭の防止（2件）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	30～39歳	備前地域	野良猫が庭でフンをしていて、悪臭被害を受けている。
女性	40～49歳	備中地域	日曜になると草を燃やしていて、悪臭がひどい。

28. 土壌・地下水汚染対策（3件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
男性	70歳以上	備中地域	倉敷市で菜園をしている者ですが、畑の近くに流れている小川は2～3年前は透明な水の流れでしたが、川上に作業場ができた頃から、乳白色の水が流れてくるようになりました。その水で作物を洗ったり作物に水をやったりするのは大丈夫か心配です。

29. 有害化学物質対策（1件）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	40～49歳	備前地域	有害化学物質の削減の努力。公害に対する知識を得たい。

32. 環境学習の充実（4件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	40～49歳	備前地域	若い人に関心をもってもらうように、うまくSNSを活用してほしい。「カエル・プロジェクト」のように、楽しみながら環境について学べるイベントをコロナウイルスが落ち着いたら企画してほしい。
女性	70歳以上	備中地域	県の環境取組、施策がこんなにたくさんあったのは知りませんでした。環境のことを勉強しないといけないのではと思いました。たくさんの重要なことがあります。県の行う施策を積極的に行ってほしいです。

35. 環境に配慮した事業者の育成・拡大（1件）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	70歳以上	備前地域	企業も一般の人もまだまだ意識が不足していると思われるので、もっと指導していただきたく思います。

37. 事業者との環境コミュニケーション（2件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	50～59歳	備前地域	事業者との環境コミュニケーションの施策で、それぞれ進められているのですが、県民が「よくわかった」「やってみよう」「どうなってるの？」と思う場面が少なく届いてないものが多いような気がします。子ども会の活動で取り入れればお母さん世代にも届くと思います。婦人会や町内会などの活動に上手く取り入れて、学校教育や総合学習でやっているところも多いようなので、取り組めたら良い経験になると思います。

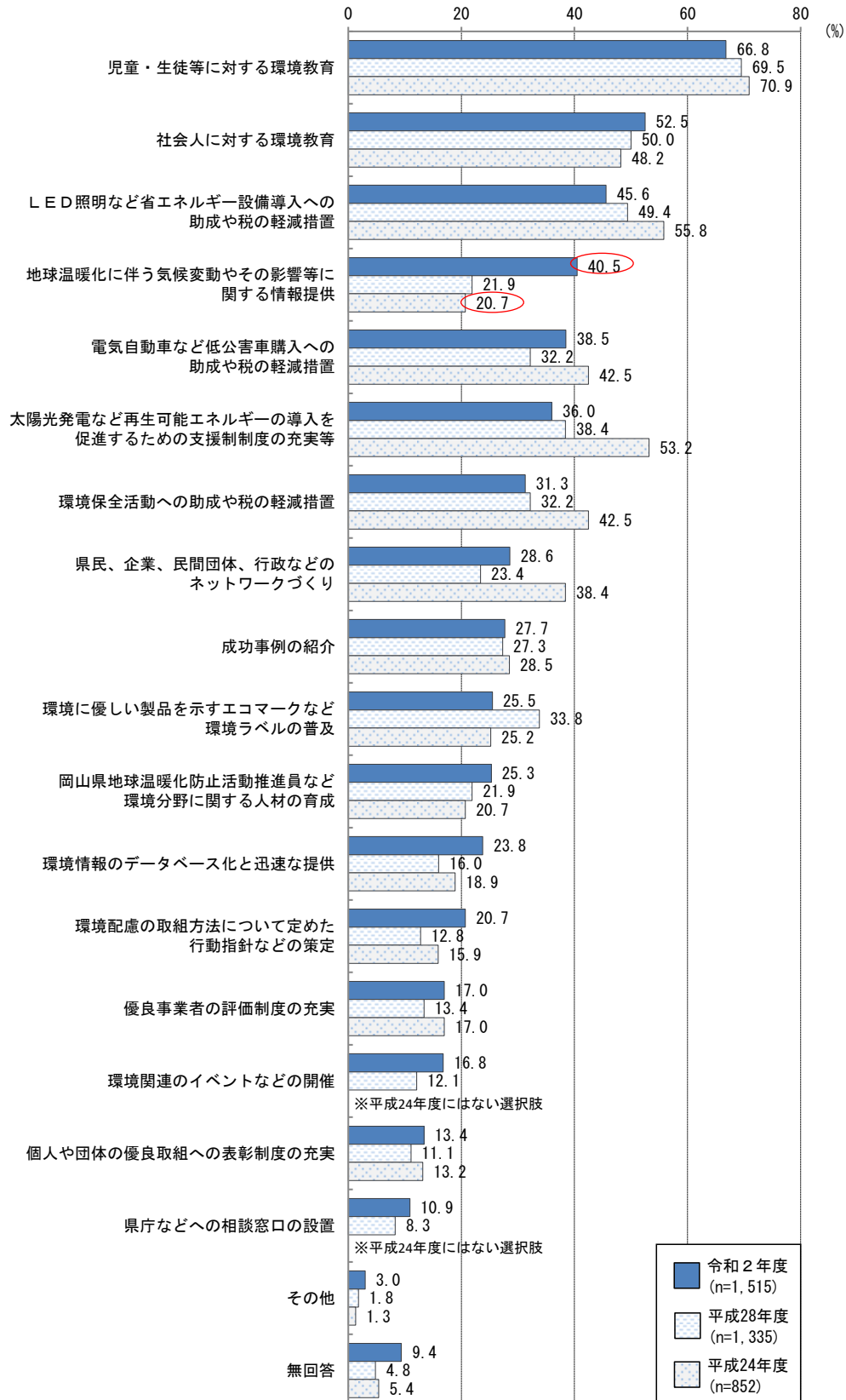
その他の意見（155件 うち、主なものは以下のとおり）

性別	年齢	エリア	自由意見
女性	40～49歳	備中地域	いろいろな問題に取り組んでくださっていることをこのアンケートで知ることができたので、関係者の方に感謝の気持ちをお伝えしたいと思いました。ありがとうございます。
男性	70歳以上	備中地域	どれも重要であることに間違いはありませんが、実生活で身近に感じること、情報は少ないです。質問内容の再考が必要なのではないのでしょうか。
女性	30～39歳	備前地域	取組状況がわからないので、もう少しわかりやすく開示してほしい。取組を見る機会がない。
女性	20～29歳	備中地域	上記37項目を見て、幅広く施策に取り組まれていることを知り、日頃の関心の薄さを反省した。
女性	70歳以上	備前地域	岡山県の取組状況について、新聞にたまに入っている広報誌を見るくらいで、活動の情報量が非常に不足しているため意見できません。パソコン、スマートフォン等の情報が得られない者にとって、県の取組を知るよしもありません。大変残念に思っております。
男性	50～59歳	備中地域	県の施策は、具体的な効果が見えにくいものが多いように思います。37項目のうち、県の取組状況を正確に判定して回答できる人はいないのではないのでしょうか。重点項目を絞って、大胆に取り組むべきではないのでしょうか。市民運動のような形で、市町村や企業団体を巻き込むようなキャンペーンを行えば、県民も当事者意識が持てると思います。
女性	30～39歳	備前地域	環境に対する対策は何かしら県事業で取り組んでおられると思うが、実際のところ何をしているのか見えてこない。
女性	40～49歳	備前地域	具体的にどんな事を行っているか知らないものが多い。また、それによる効果を感じるものも少ない。どんな活動を行って、どんな効果が出ているのか、どんな結果を得られたのかなど、もっと情報を発信してほしい。どんどん県民を巻き込んでほしい。
女性	50～59歳	備前地域	県の取組をほとんど知らない。使える物を捨てている。自分の家で欲しいと思っても捨ててあるから持って帰れない。以前県外で粗大ごみで出されている家具等をきれいに直して、欲しい人に譲っている県を見たことがある。このような取組をしてほしい。工場見学をしている企業の紹介をしてほしい。

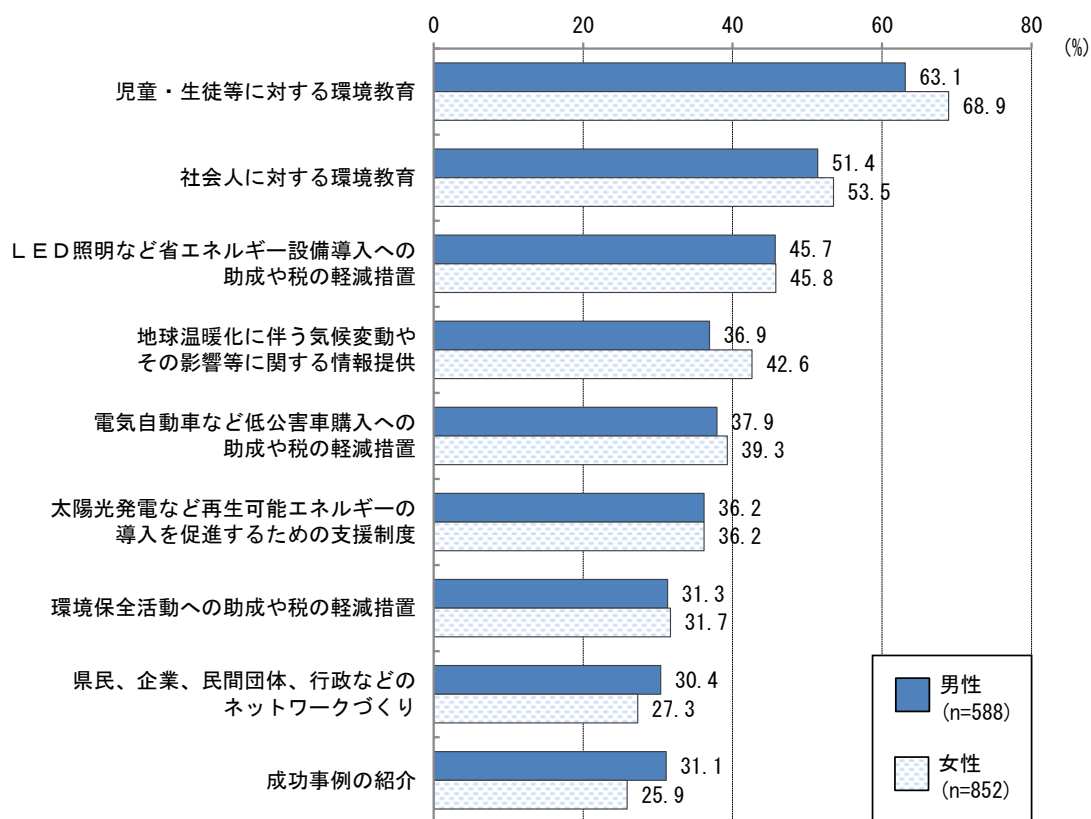
5 行政に期待することについて

(1) 自主的な環境配慮の取組を推進するために、行政に期待することについて

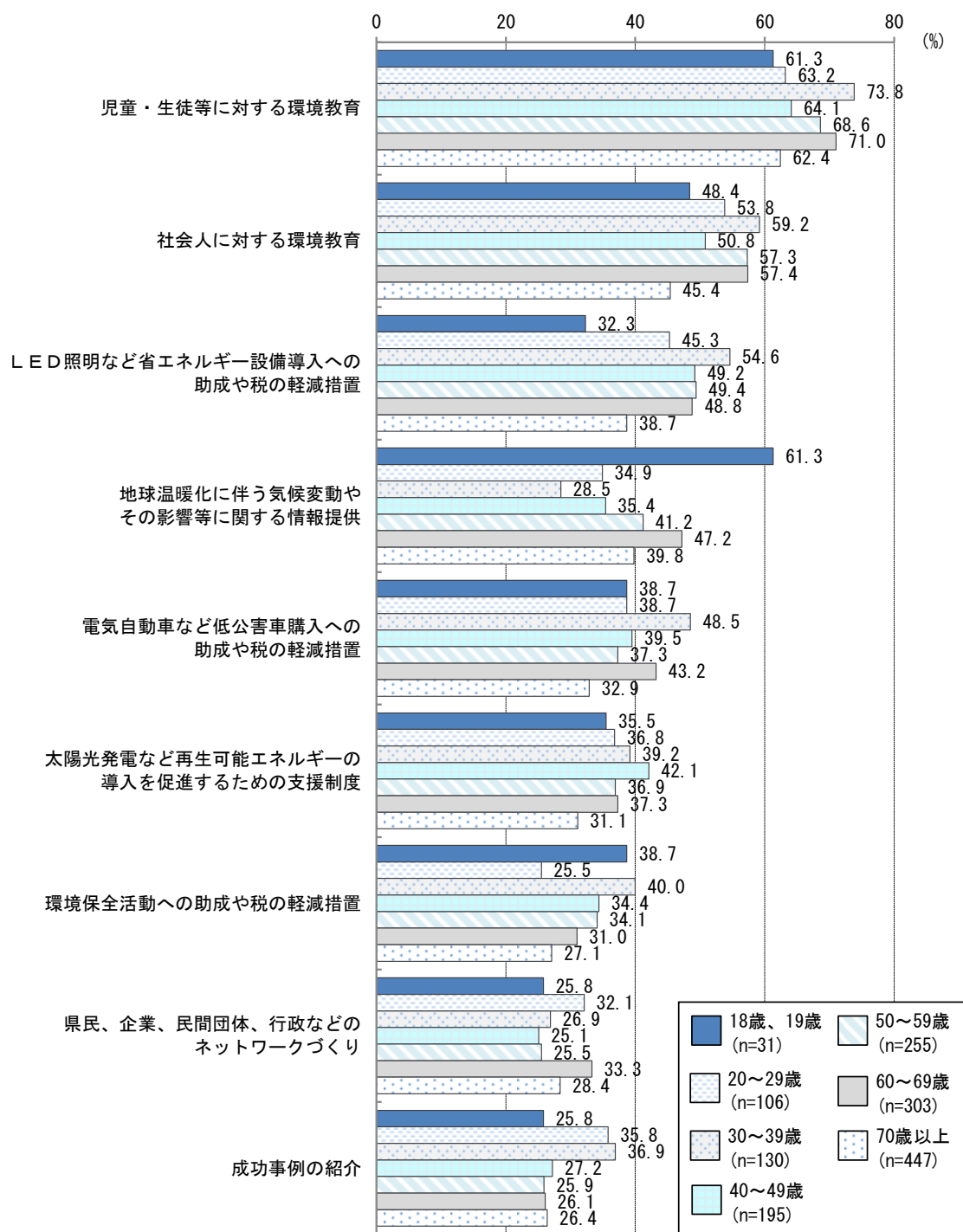
問7 一人ひとりの自主的な環境配慮への取組を推進していくためには、行政に対してどのようなことを期待しますか。【〇はあてはまるものすべて】



【自主的な環境配慮の取組を推進するために、行政に期待すること（性別・上位9項目）】



【自主的な環境配慮の取組を推進するために、行政に期待すること（年齢別・上位9項目）】

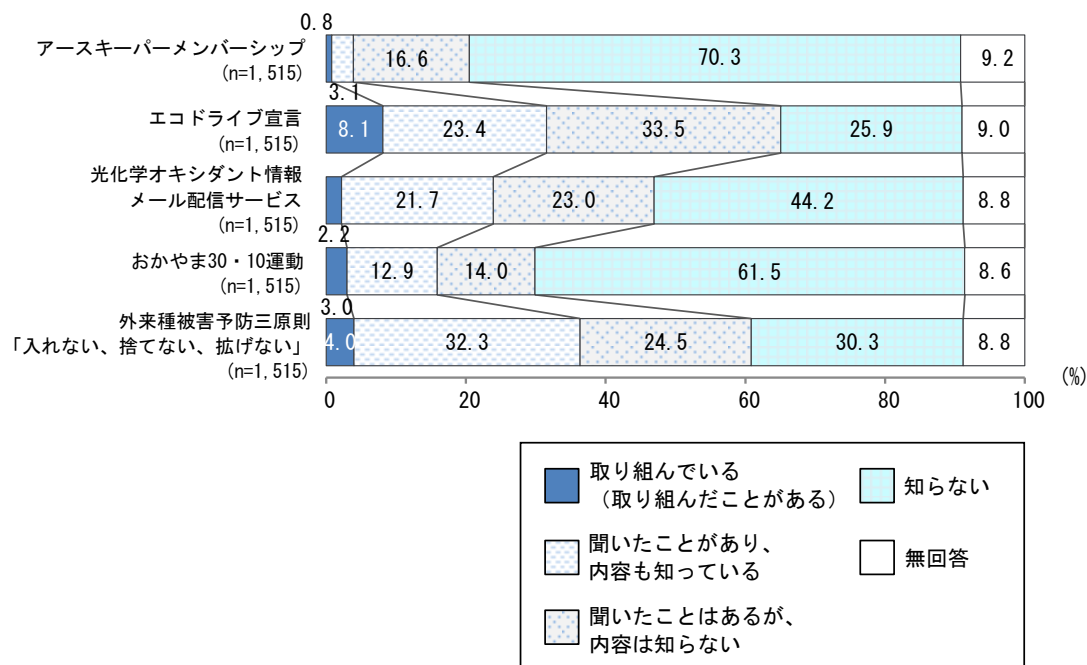


	結果の要点
全体	「児童・生徒等に対する環境教育」との回答が 66.8%と最も高く、次いで「社会人に対する環境教育」(52.5%)、「LED照明など省エネルギー設備導入への助成や税の軽減措置」(45.6%)などの順となっている。
経年比較	「地球温暖化に伴う起動変動やその影響等に関する情報提供」との回答は今回調査(40.5%)が平成24年度調査(20.7%)を19.8ポイント上回っている。
性別	「児童・生徒等に対する環境教育」で女性(68.9%)が男性(63.1%)を5.8ポイント、「地球温暖化に伴う気候変動やその影響等に関する情報提供」で女性(42.6%)が男性(36.9%)を5.7ポイント上回っている。一方、「成功事例の紹介」で男性(31.1%)が女性(25.9%)を5.2ポイント上回っている。
年齢別	「LED照明など省エネルギー設備導入への助成や税の軽減措置」で「30～39歳」(54.6%)、「電気自動車など低公害車購入への助成や税の軽減措置」で「30～39歳」(48.5%)、「地球温暖化に伴う気候変動やその影響等に関する情報提供」で「18歳、19歳」(61.3%)が高くなっている。

6 環境に関する言葉の認知度について

(1) 環境に関する言葉の認知度

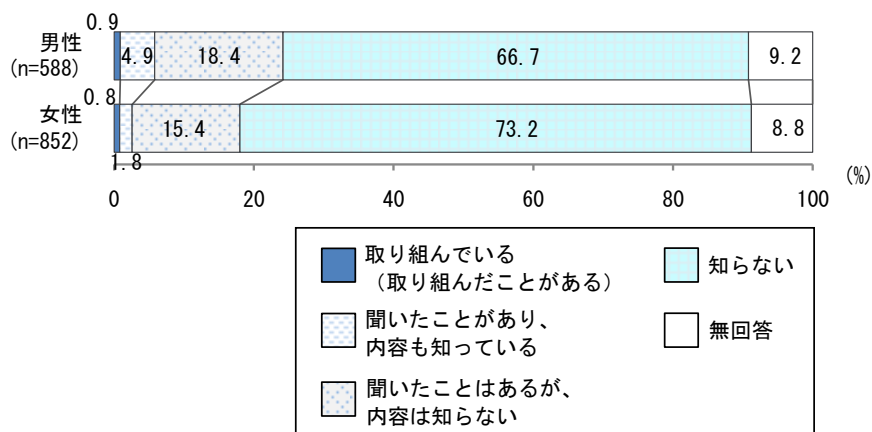
問8 あなたは、次の環境に関する言葉についてご存知ですか。【〇はそれぞれ1つ】



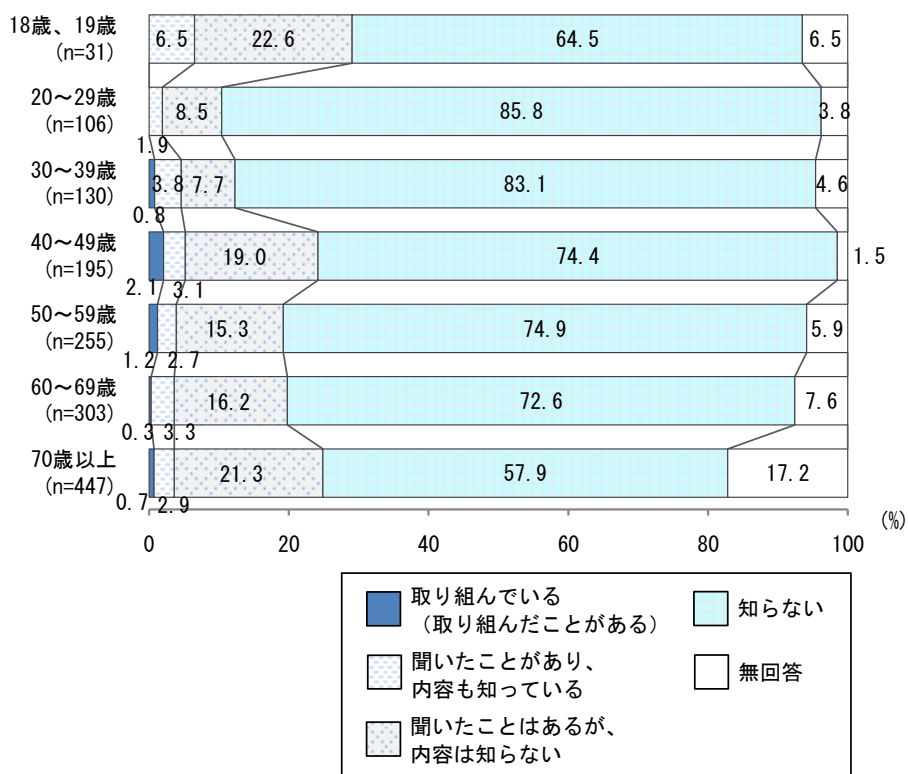
結果の要点	
全体	「知らない」との回答は「アースキーパーメンバーシップ」が70.3%と最も高く、次いで「おかやま 30・10 運動」(61.5%)、「光化学オキシダント情報メール配信サービス」(44.2%)などの順となっている。

1) アースキーパーメンバーシップ

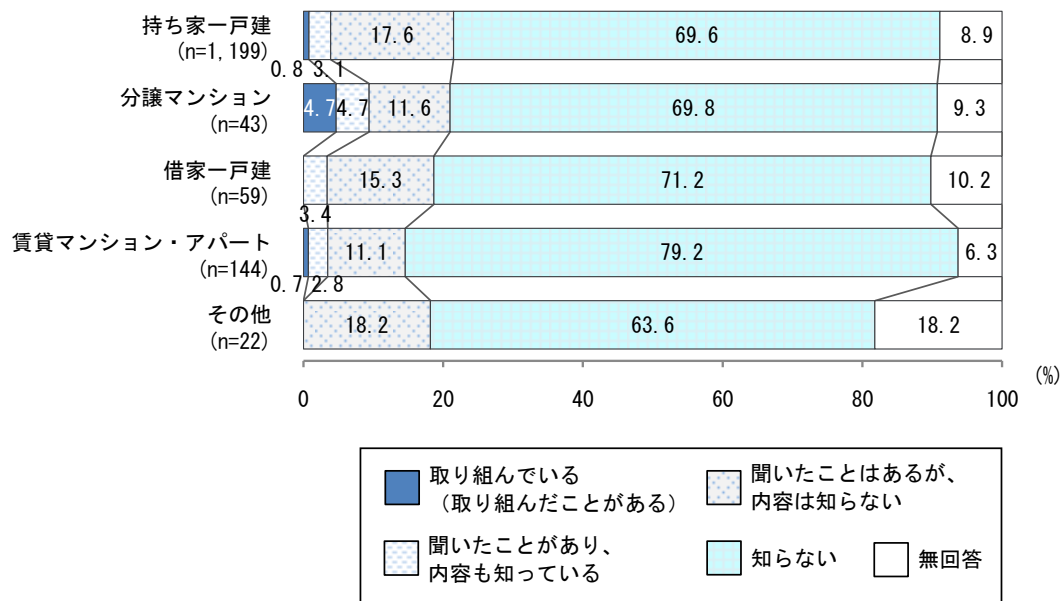
【アースキーパーメンバーシップという言葉の認知度（性別）】



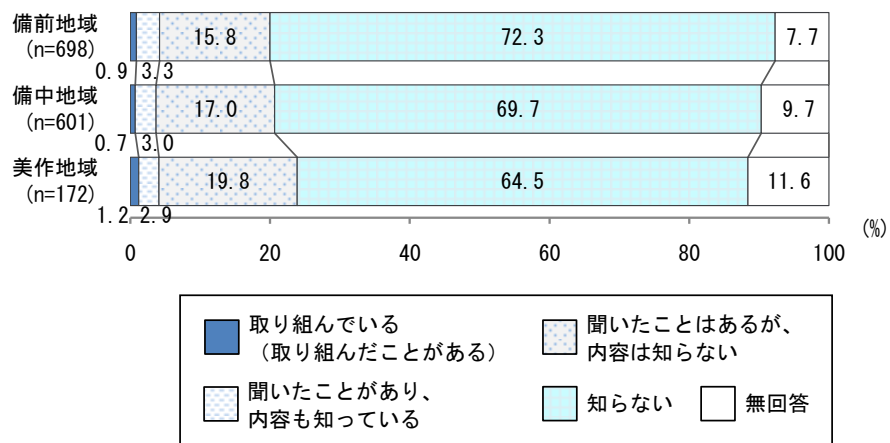
【アースキーパーメンバーシップという言葉の認知度（年齢別）】



【アースキーパーメンバーシップという言葉の認知度（住居形態別）】



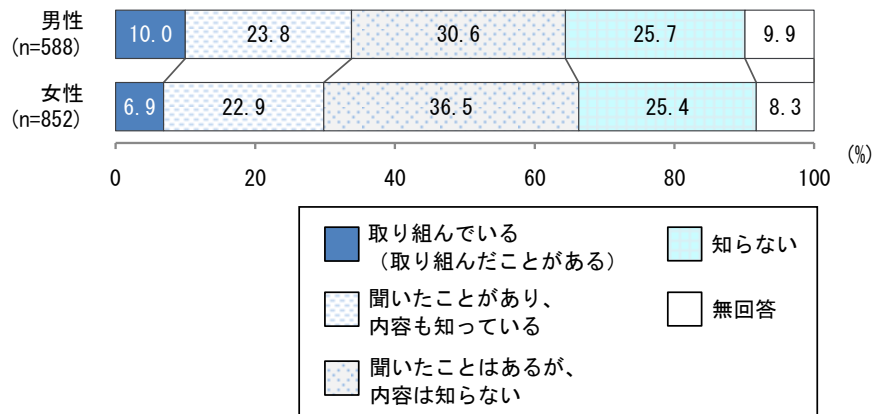
【アースキーパーメンバーシップという言葉の認知度（エリア別）】



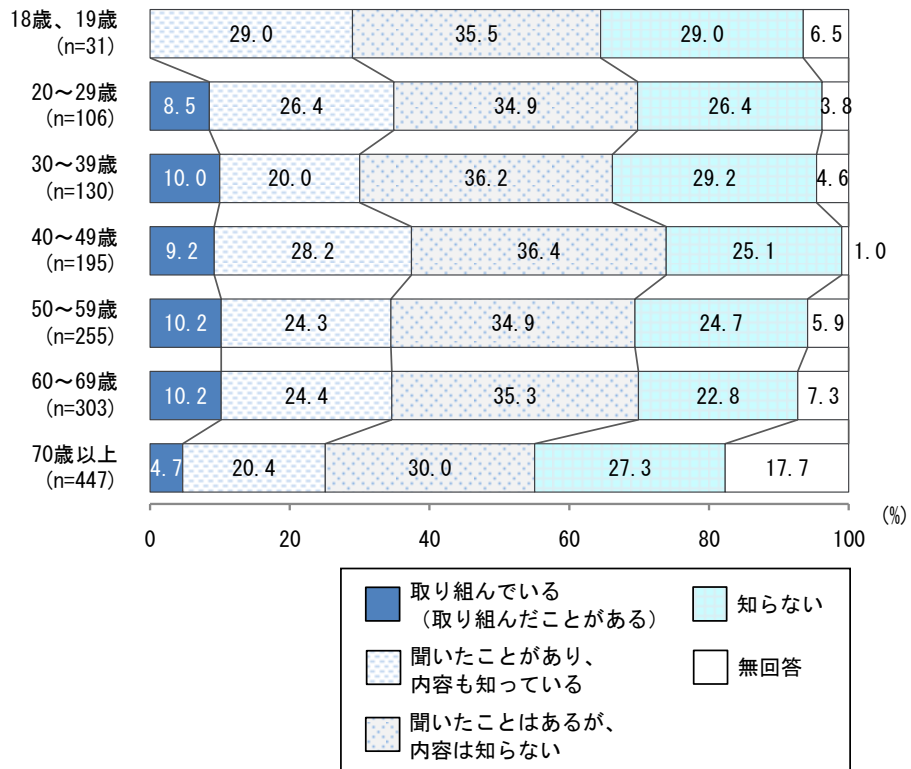
結果の要点	
性別	「知らない」で女性（73.2%）が男性（66.7%）を6.5ポイント上回っている
年齢別	「知らない」で「20～29歳」（85.8%）、「30～39歳」（83.1%）が高くなっている。
住居形態別	「知らない」で「賃貸マンション・アパート」が79.2%と高くなっている。
エリア別	大きな差はみられない。

2) エコドライブ宣言

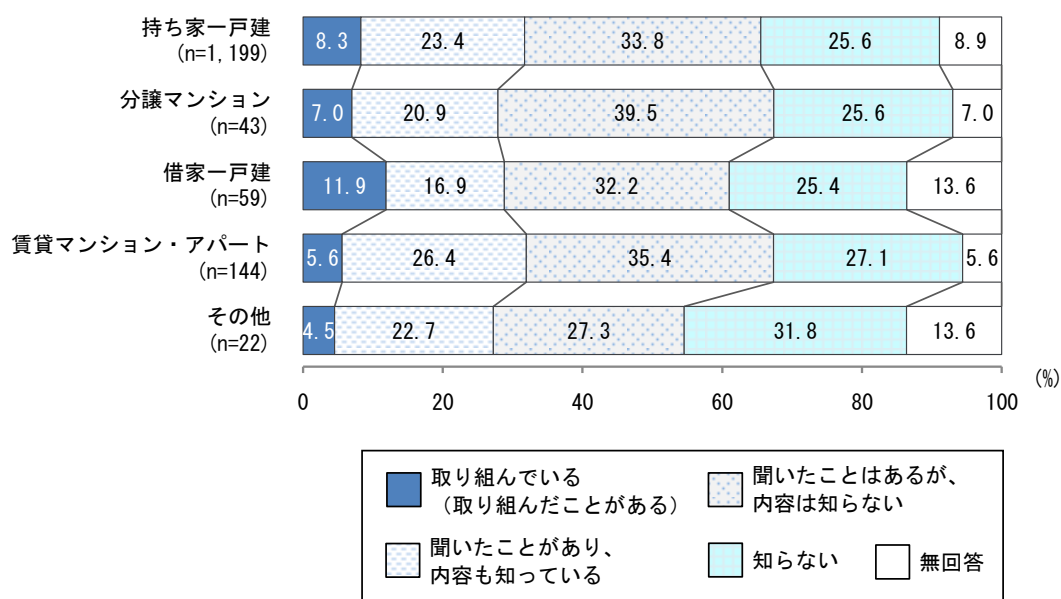
【エコドライブ宣言という言葉の認知度（性別）】



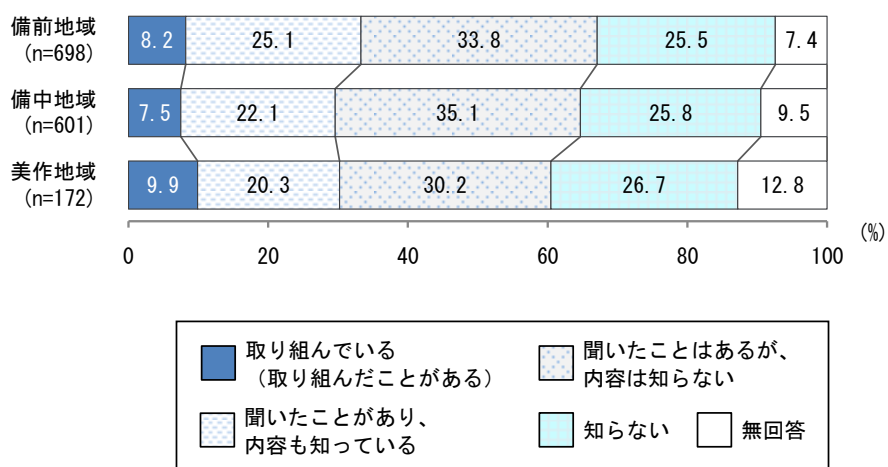
【エコドライブ宣言という言葉の認知度（年齢別）】



【エコドライブ宣言という言葉の認知度（住居形態別）】



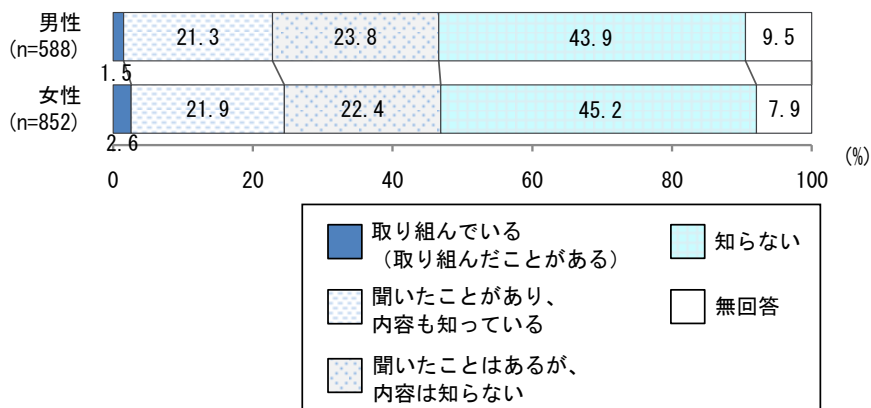
【エコドライブ宣言という言葉の認知度（エリア別）】



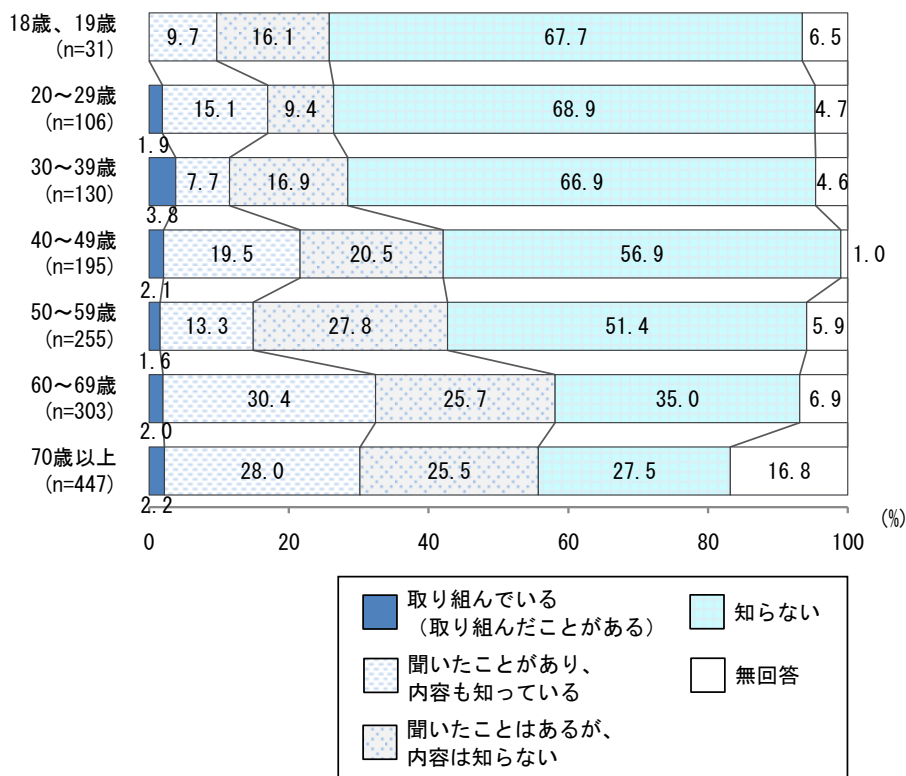
結果の要点	
性別	「聞いたことはあるが、内容は知らない」で女性 (36.5%) が男性 (30.6%) を 5.9 ポイント上回っている。
年齢別	大きな差はみられない。
住居形態別	大きな差はみられない。
エリア別	大きな差はみられない。

3) 光化学オキシダント情報メール配信サービス

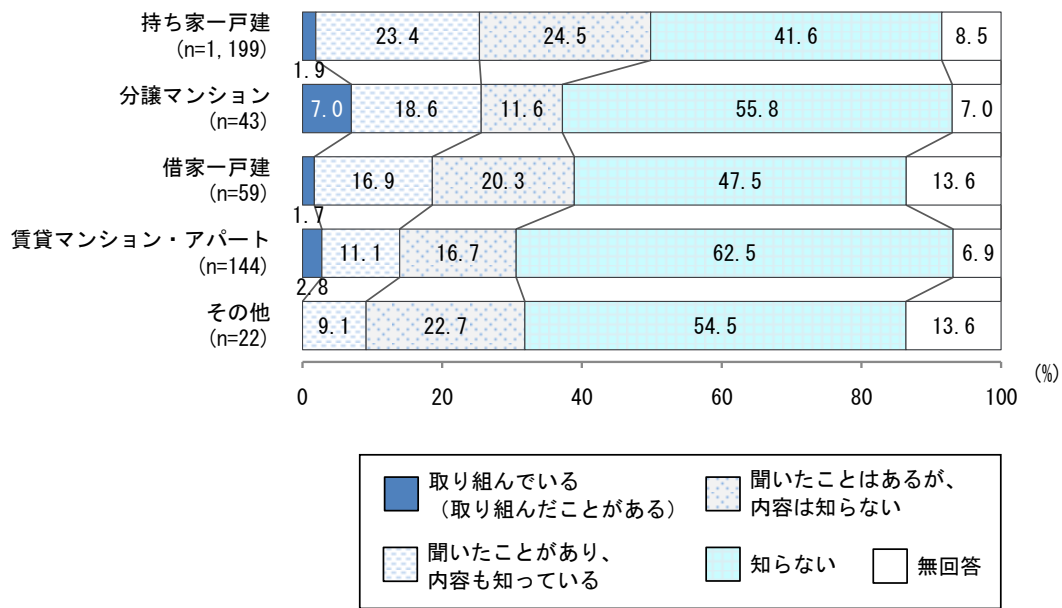
【光化学オキシダント情報メール配信サービスという言葉の認知度（性別）】



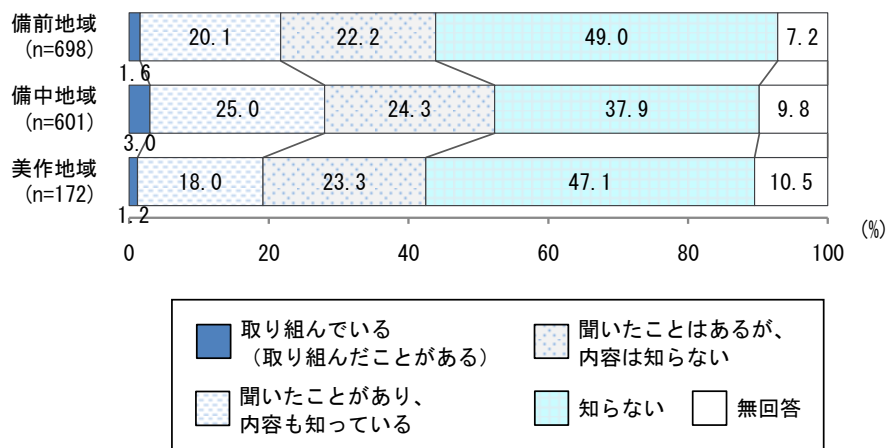
【光化学オキシダント情報メール配信サービスという言葉の認知度（年齢別）】



【光化学オキシダント情報メール配信サービスという言葉の認知度（住居形態別）】



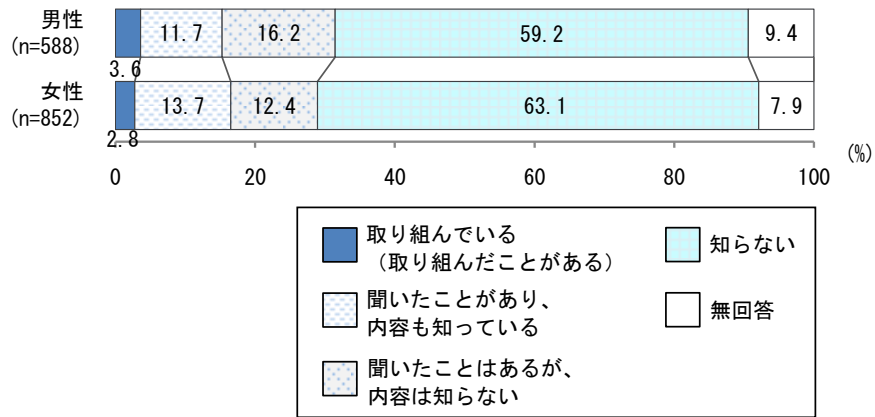
【光化学オキシダント情報メール配信サービスという言葉の認知度（エリア別）】



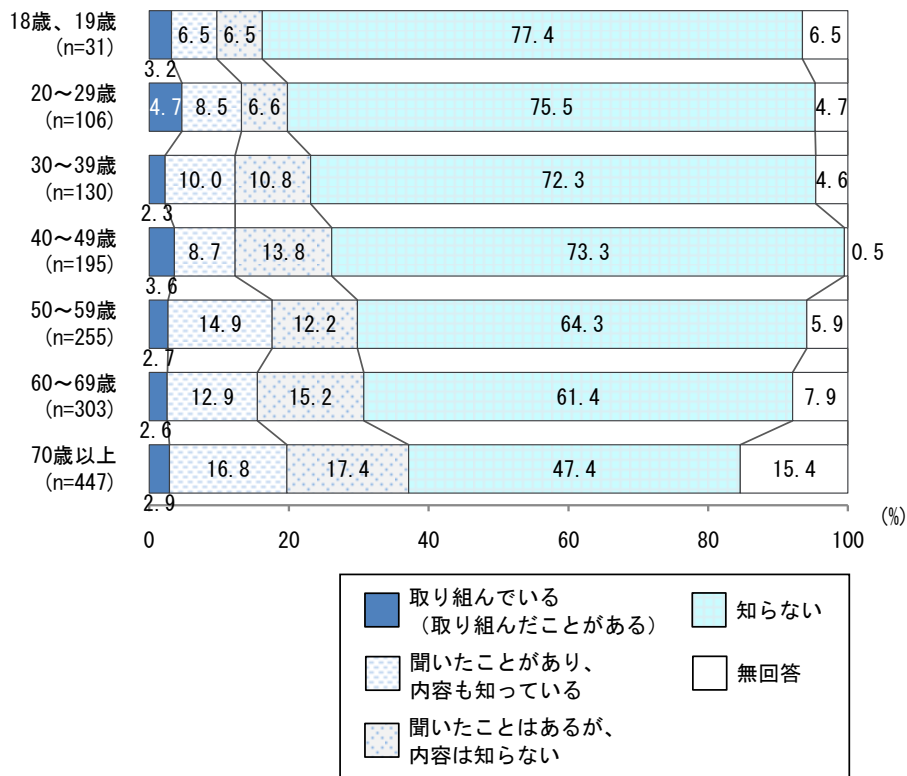
結果の要点	
性別	大きな差はみられない。
年齢別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「60～69歳」(30.4%)、「70歳以上」(28.0%)が高くなっている。また、「知らない」では年齢が上がるにつれ低くなる傾向がみられる。
住居形態別	「知らない」で「賃貸マンション・アパート」が62.5%と高くなっている。
エリア別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「備中地域」(25.0%)、「知らない」で「備前地域」(49.0%)、「美作地域」(47.1%)が高くなっている。

4) おかやま 30・10 運動

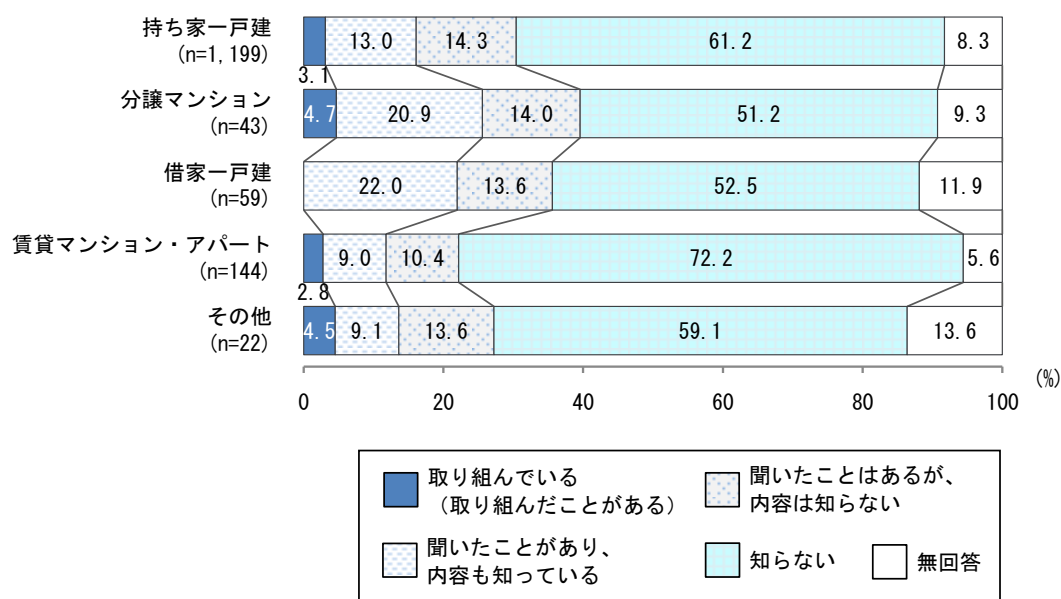
【おかやま 30・10 運動という言葉の認知度（性別）】



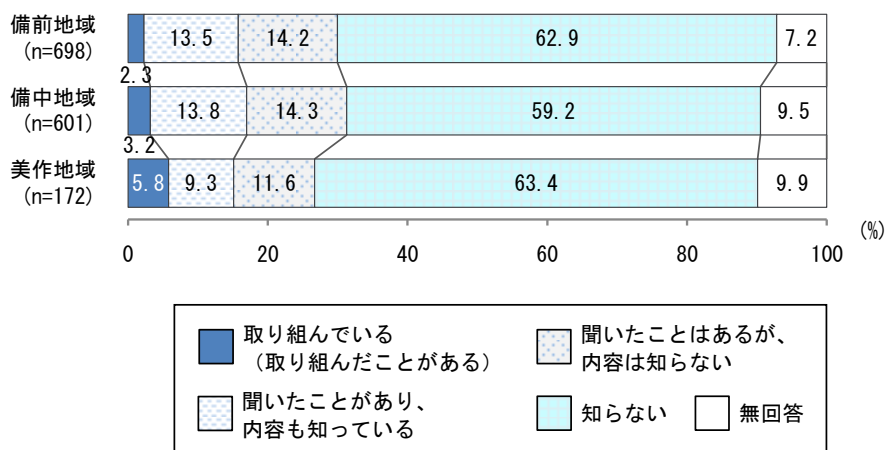
【おかやま 30・10 運動という言葉の認知度（年齢別）】



【おかやま 30・10 運動という言葉の認知度（住居形態別）】



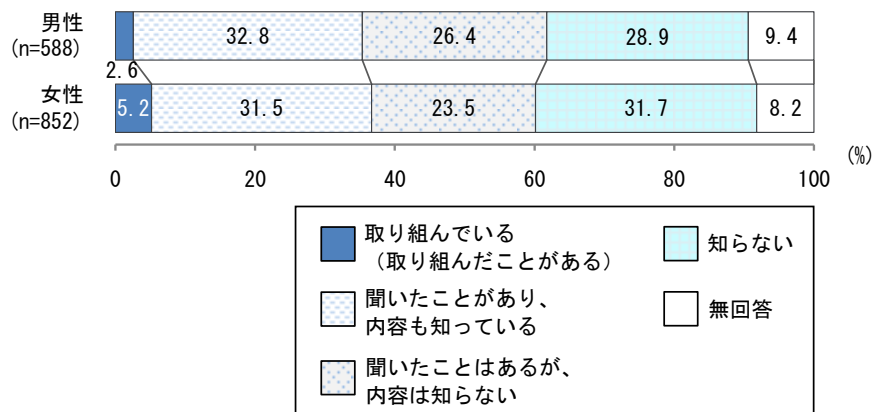
【おかやま 30・10 運動という言葉の認知度（エリア別）】



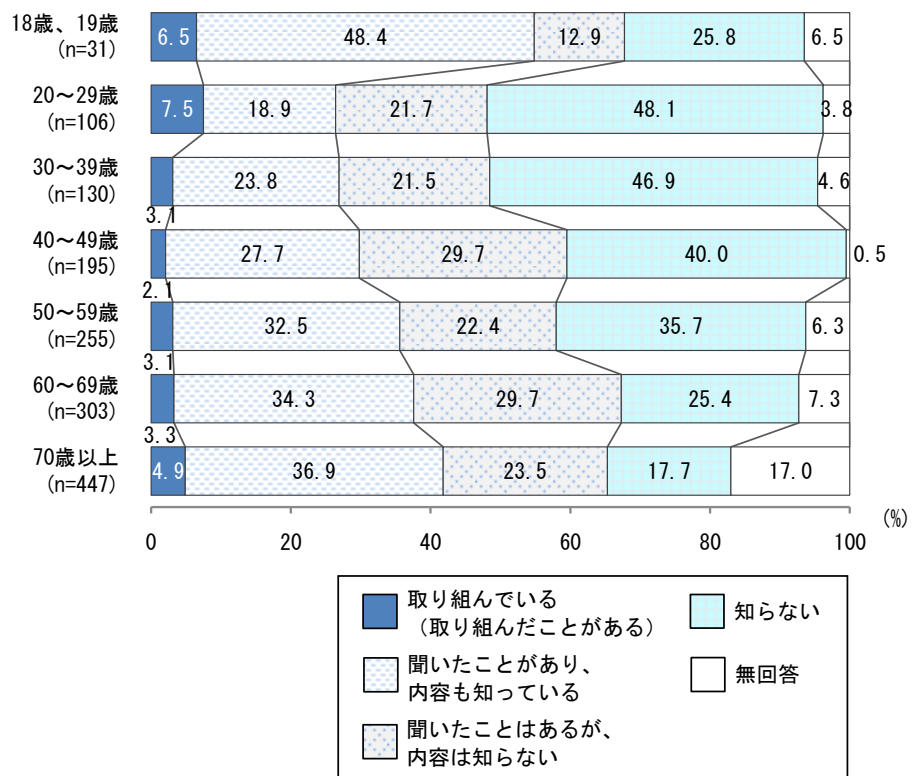
結果の要点	
性別	大きな差はみられない。
年齢別	「知らない」では年齢が上がるにつれ低くなる傾向がみられる。
住居形態別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「分譲マンション」(20.9%)、「借家一戸建」(22.0%)、「知らない」で「賃貸マンション・アパート」(72.2%)が高くなっている。
エリア別	大きな差はみられない。

5) 外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」

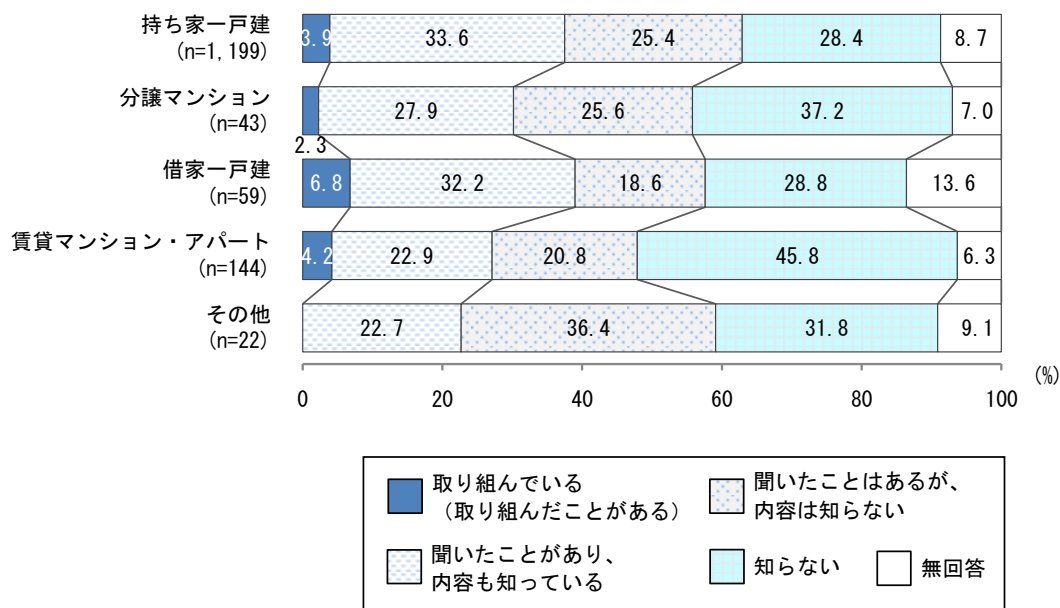
【外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」という言葉の認知度（性別）】



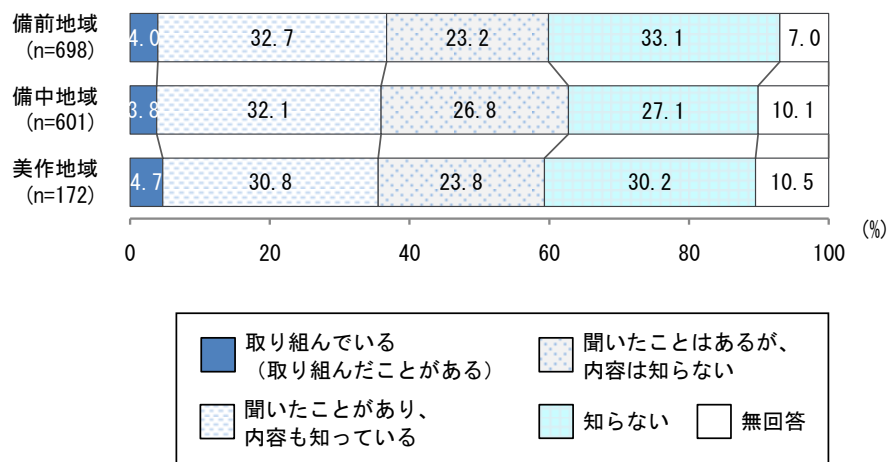
【外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」という言葉の認知度（年齢別）】



【外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」という言葉の認知度（住居形態別）】



【外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」という言葉の認知度（エリア別）】

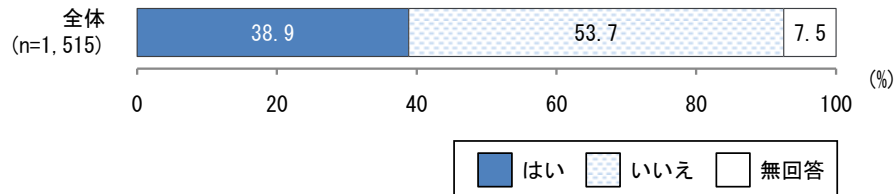


結果の要点	
性別	大きな差はみられない。
年齢別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「18歳、19歳」(48.4%)、「知らない」で「20～29歳」(48.1%)、「30～39歳」(46.9%)が高くなっている。
住居形態別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「持ち家一戸建」(33.6%)、「分譲マンション」(27.9%)、「借家一戸建」(32.2%)、「知らない」で「賃貸マンション・アパート」(45.8%)が高くなっている。
エリア別	大きな差はみられない。

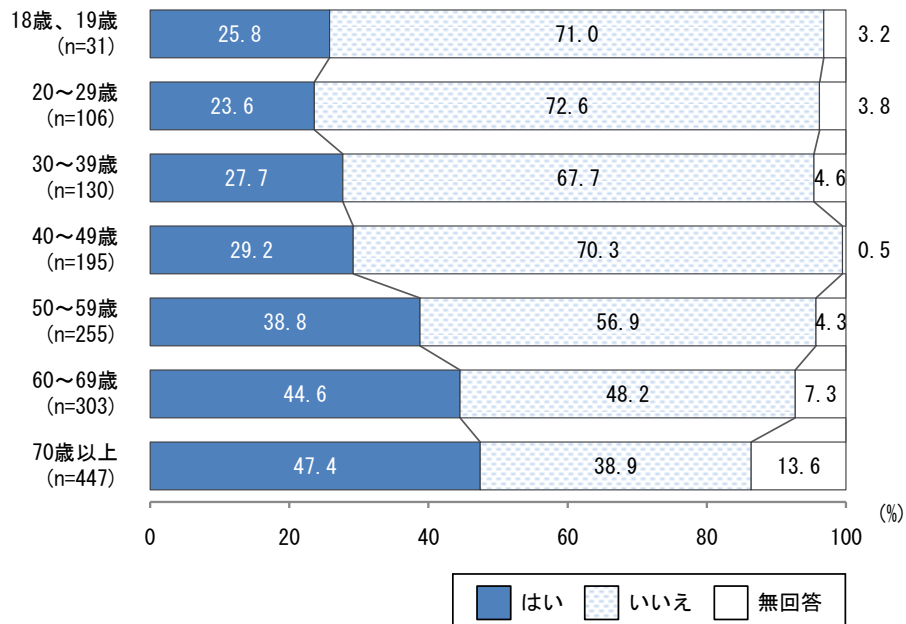
7 その他環境に関する調査について

(1) 野焼きがPM2.5の濃度上昇の一因となっていることを知っているか

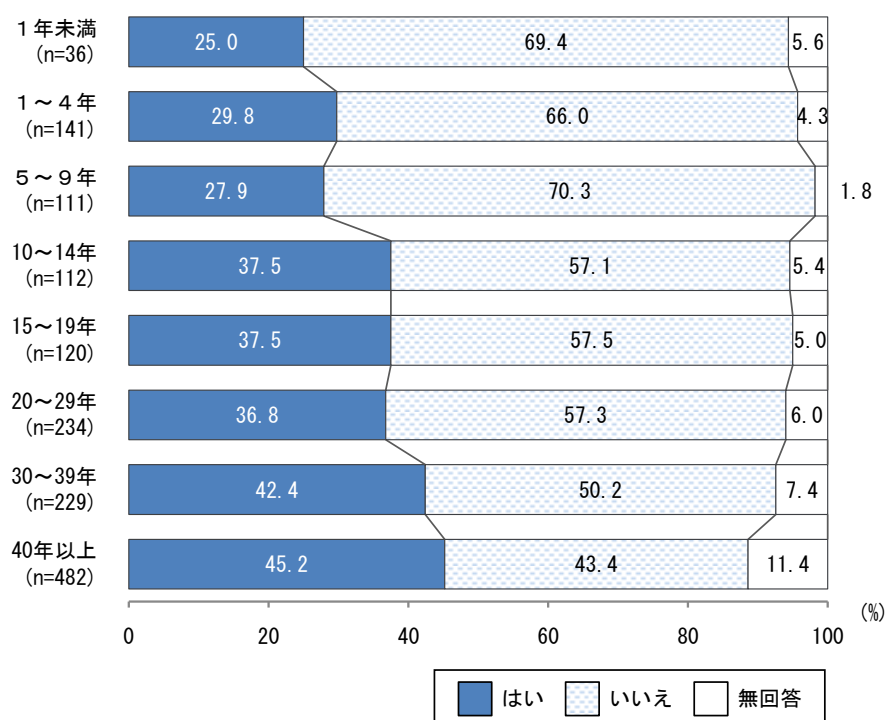
問9 稲わら等の野外焼却（野焼き）が、PM2.5の濃度上昇の一因となっていることを知っていましたか。【〇は1つ】



【野焼きがPM2.5の濃度上昇の一因となっていることを知っているか（年齢別）】



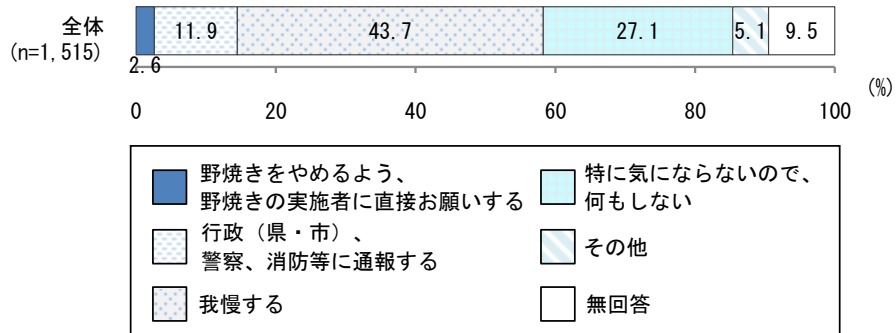
【野焼きがPM2.5の濃度上昇の一因となっていることを知っているか（居住年数別）】



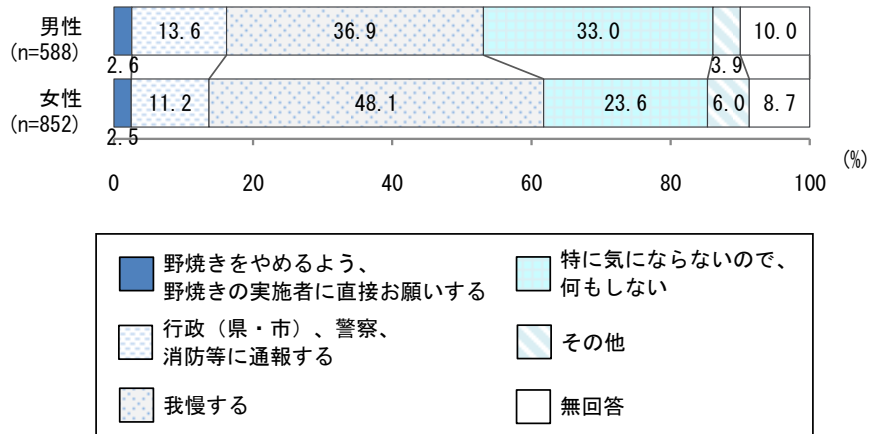
結果の要点	
全体	「はい」との回答が38.9%、「いいえ」との回答が53.7%となっている。
年齢別	「はい」では年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。
居住年数別	「はい」では居住年数が増えるにつれ高くなる傾向がみられる。

(2) 自宅周辺で野焼きが行われた際の対処

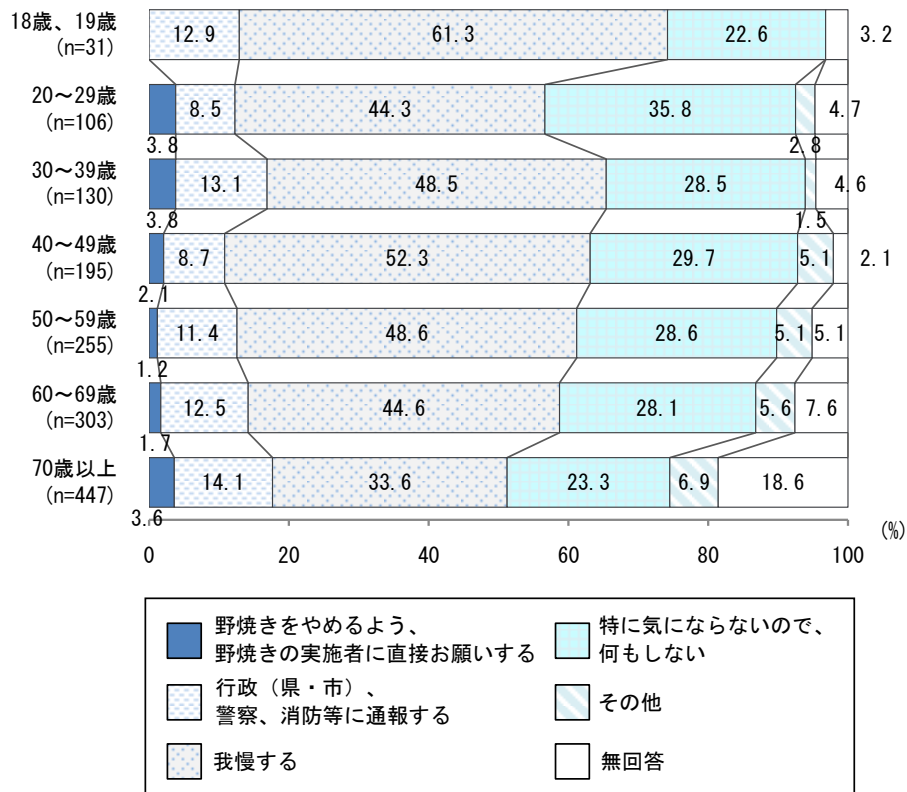
問 10 自宅周辺で稲わら等の野焼きが行われた場合、あなたはどのようにしますか。【○は1つ】



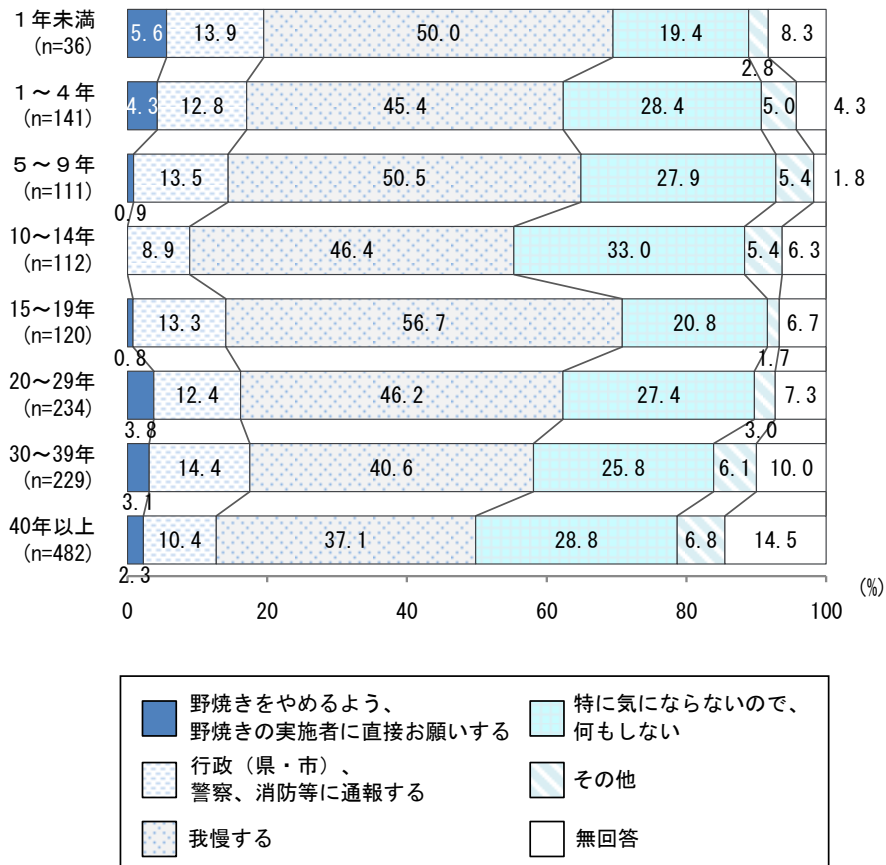
【自宅周辺で野焼きが行われた際の対処 (性別)】



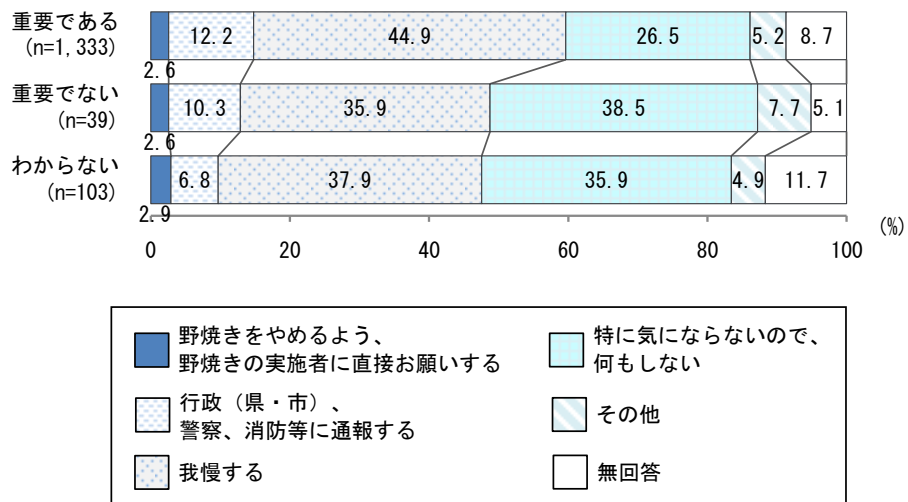
【自宅周辺で野焼きが行われた際の対処（年齢別）】



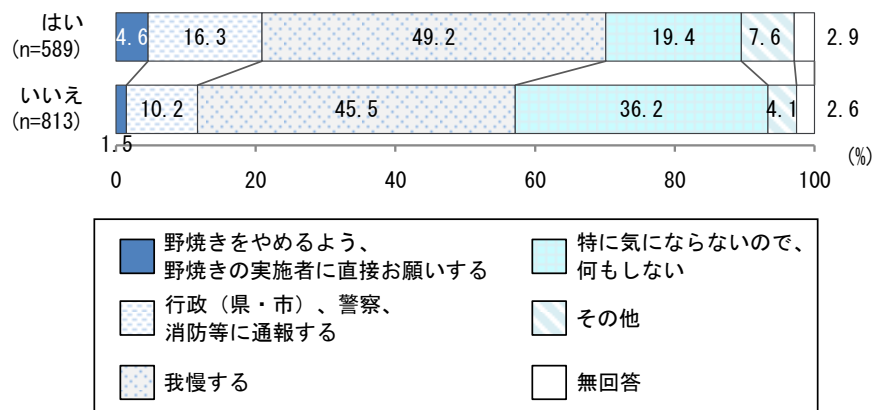
【自宅周辺で野焼きが行われた際の対処（居住年数別）】



【自宅周辺で野焼きが行われた際の対処（環境に配慮した行動の重要性別）】



【自宅周辺で野焼きが行われた際の対処（野焼きの害の認知度別）】

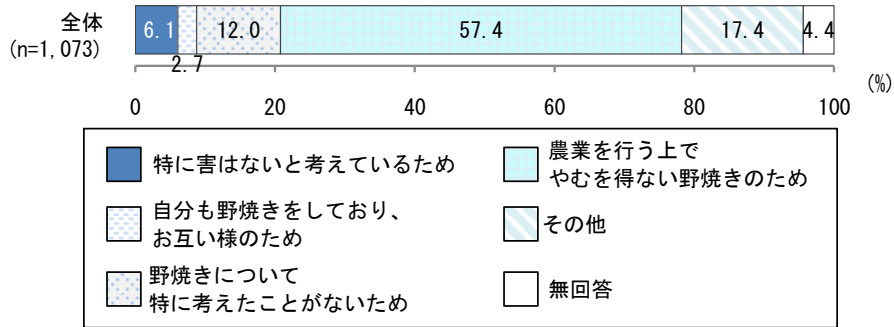


	結果の要点
全体	「我慢する」との回答が 43.7%と最も高く、次いで「特に気にならないので、何もしない」(27.1%)、「行政(県・市)、警察、消防等に通報する」(11.9%)などの順となっている。
性別	「我慢する」で女性(48.1%)が男性(36.9%)を11.2ポイント上回っている。一方、「特に気にならないので、何もしない」で男性(33.0%)が女性(23.6%)を9.4ポイント上回っている。
年齢別	「我慢する」で「18歳、19歳」(61.3%)、「特に気にならないので、何もしない」で「20～29歳」(35.8%)が高くなっている。
居住年数別	「我慢する」で「15～19年」(56.7%)、「特に気にならないので、何もしない」で「10～14年」(33.0%)が高くなっている。
環境に配慮した行動の重要性別	「我慢する」で環境に配慮した行動をとることが「重要である」と考える人(44.9%)が高くなっている。
野外野焼きの害の認知度別	「行政(県・市)、警察、消防等に通報する」で「はい」(16.3%)、「特に気にならないので、何もしない」で「いいえ」(36.2%)が高くなっている。

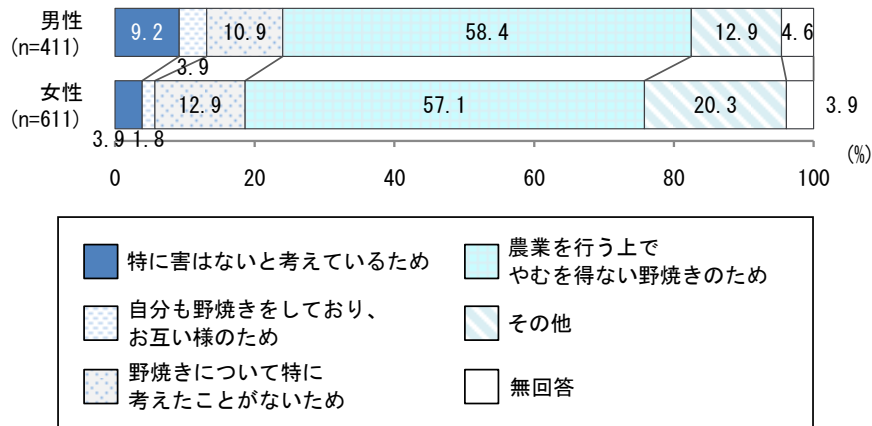
(3) 対処をしない理由

問10で「3. 我慢する」または「4. 特に気にならないので、何もしない」と回答した方におたずねします

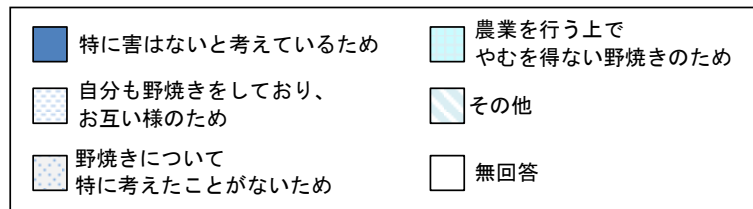
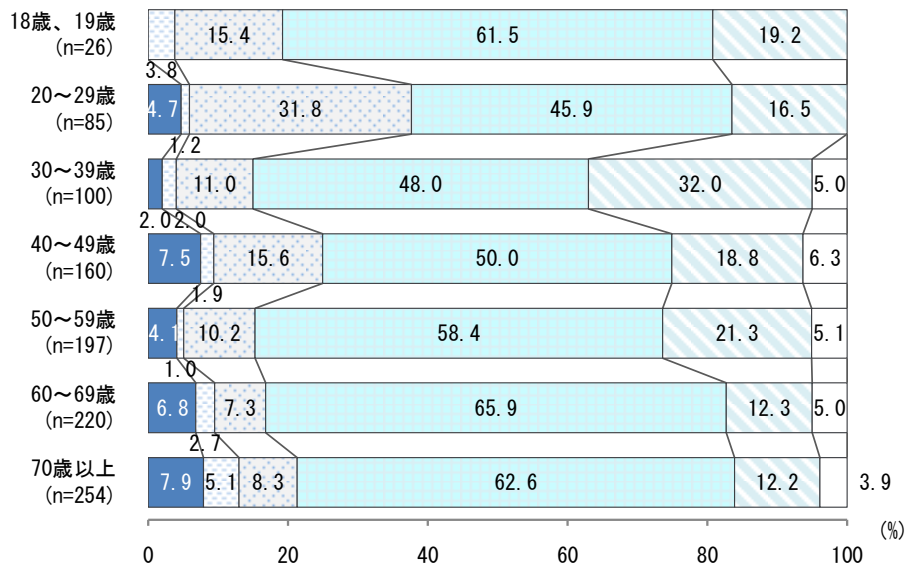
問11 その理由は何ですか。【〇は1つ】



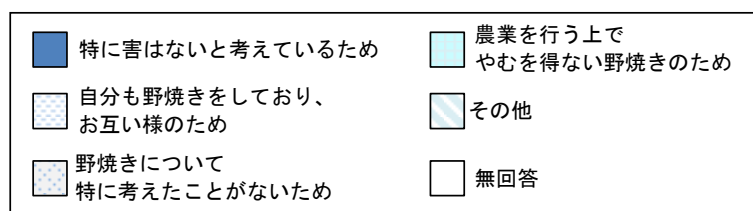
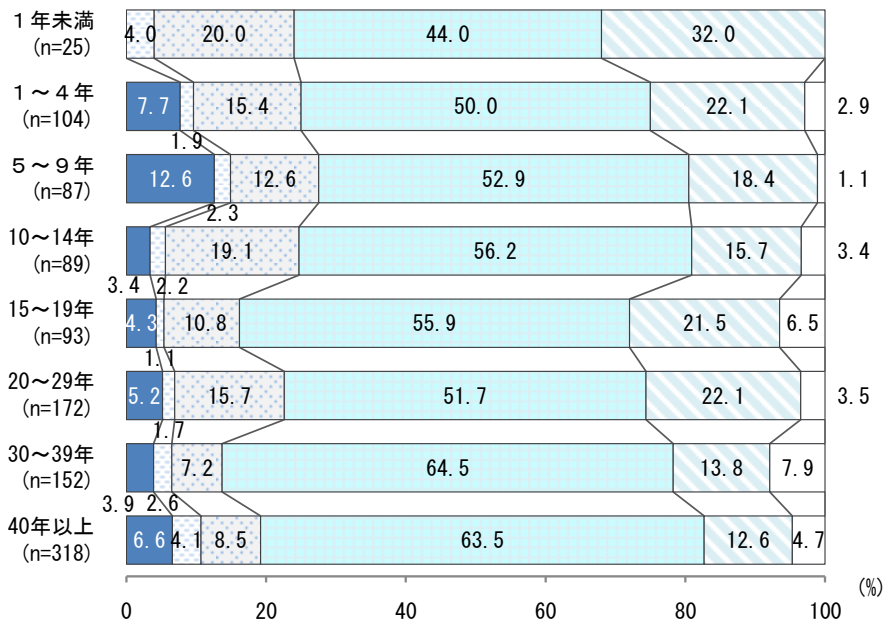
【対処をしない理由 (性別)】



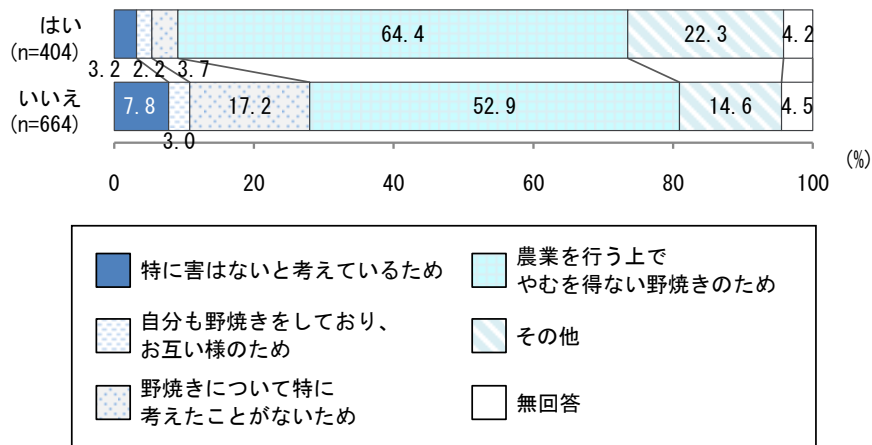
【対応をしない理由（年齢別）】



【対応をしない理由（居住年数別）】



【対処をしない理由（野焼きの害の認知度別）】



	結果の要点
全体	「農業を行う上でやむを得ない野焼きのため」との回答が 57.4% と最も高く、次いで「野焼きについて特に考えたことがないため」(12.0%) などの順となっている。
性別	「特に害はないと考えているため」で男性 (9.2%) が女性 (3.9%) を 5.3 ポイント上回っている
年齢別	「野焼きについて特に考えたことがないため」で「20～29 歳」(31.8%)、「農業を行う上でやむを得ない野焼きのため」で「18 歳、19 歳」(61.5%)、「60～69 歳」(65.9%)、「70 歳以上」(62.6%) が高くなっている。
居住年数別	「特に害はないと考えているため」で「5～9 年」(12.6%)、「野焼きについて特に考えたことがないため」で「1 年未満」(20.0%)、「10～14 年」(19.1%)、「農業を行う上でやむを得ない野焼きのため」で「30～39 年」(64.5%)、「40 年以上」(63.5%) が高くなっている。
野外野焼きの害の認知度別	「特に害はないと考えているため」で「はい」(7.8%) が「いいえ」(7.8%) を 11.5 ポイント上回っている。また、「野焼きについて特に考えたことがないため」で「いいえ」(17.2%) が「はい」(3.7%) を 13.5 ポイント上回っている。

8 自由意見（総意見数 339 件より抜粋）

問 12 環境問題や県の環境施策に関する、ご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

※複数の内容を含む意見があるため、総意見数と内容別意見数は一致しない。

（１）自由意見

I 生活環境整備等に関する意見・要望（112 件 うち、主なものは以下のとおり）

自由意見	件数
海に魚が戻ってくるように、山を豊かにし、海草が育つような環境にしてほしい。	9
身近な問題としては「野焼き」です。行政が介入してぜひやめさせてほしいです。昔からあたり前のようにやっている高齢者の方が多いように思います。現代ではダメなことだと通知、パトロールをしてほしいです。	8
田んぼの野焼きはできる限りやめさせてほしい。	7
野焼きがダメだと言うなら、他の方法を教えてほしい。	7
野焼きに関しては注意したいけどできません。	6
今の日本では野焼きより、中国からの流れが来ているので PM2.5 の濃度が上がっていることが気になる。野焼きは、日本国内の農家が少なくなって特に気にならない。日本の工業も気をつけてほしい。30年前は蒜山に雪が多く降っていたが、近年は温暖化が進んでいるようで雪が少なくあまり降らない。	6
野焼きは害虫を防止する有効な方法だと思っていましたが、それほど PM2.5 up になるのですか。工業地帯の煙突や、業務上や個人家庭での焼却などの方が気になっています。昔の田舎の風景としか思えなかった。どう比較してそうなるのか解らない。	5
水島地域の空気が悪い。きれいにしてほしい。鉄粉がとんでくる。網戸が真っ黒になる。車が汚れる。	5
道が狭いのに、車が多過ぎる。スピードも出していて危ない。歩行者、自転車の環境を整えていただきたいです。	5
猪、猿、鹿、狸など鳥獣問題もどうにかありませんか。	4
野焼きが PM2.5 上昇の一因となっているのは知りませんでした。今でも車を運転している時等ちらほら見かけます。岡山県では何か取組をしているのでしょうか。	4
野焼きしたら洗たく物ににおいが付き迷惑だ。	4
日中の野焼きは、窓も開けられないし洗濯物ににおいもつくので本当にやめてほしいです。やむを得ないこととは言え、時間帯を考えたり、パトロールを強化して注意をして頂くなどしてもらいたいです。	4
自宅が農業地帯にあり、稲わらの焼却はやむをえないという従事者の声もきいている。焼却で害虫を減らし農薬を減らすことができるという面もあり、どちらがどうとも言えないことでもある。	3
野焼きは昔からしていたことなので気にならなかった。	3
稲わら等の野焼きより、もっと環境をきれいにするために、守ってほしいことがあると思う。外来種の件、昔から咲いていた花がなくなった。	3

自由意見	件数
のら犬・猫・その他野生動物の保護。殺処分ではなく去勢、避妊処置を。	3
毎年のように自然災害があり、環境問題が深刻なことをよく感じる。	3
子どもたちが昔のように草花に多くふれ、遊べるような自然を増やしてほしいです。	2
野焼きは通報して良いのですか。	1
昔から野焼きのにおいで季節を感じ好きな光景でした。たぶんその頃その光景だけで環境うんぬんはなかったと思います。今は排気ガスやその他の大気汚染物質が多くなり過ぎたのでプラス野焼き等と言われる様になったのですよね。残念です。	1
豪雨による河川の氾濫を防ぐため中州の土砂を除去すべき。更にこの土砂を堤防側に寄せこの堤防の厚みや高さを増す。このことによって堤防上の道幅も広げることができ、一石二鳥となるのでは。散歩中、イヌの糞がよく目につく。イヤな気分になる。罰則規定を設けて欲しい。猪、猿、鹿、狸など鳥獣問題もどうにかならないか。	1
海の汚染を早急に対策しないと、瀬戸内海で獲れる魚も安心して食べられない。	1
冷、暖房の温度を控え目にする。便利すぎる時代だと思う。もう少し自分の力を使って電気の消費などを減らすといいかなと思う。ビニール袋なども無駄に使わないようにしたり、ラップを使わず蓋のある容器を使う。	1

II 行政の取組に関する意見・要望 (55件 うち、主なものは以下のとおり)

自由意見	件数
環境問題をもっと取り上げて、環境施策強力で推進していただきたい。	20
野焼きの問題についても農業を行う上で必要な野焼きであるのならば、野焼きできない稲わら等の処分方法をもっと簡単なものにする事ができないのか。処分費用の問題ならば、処分費用の負担をどうするかなど、考慮できる事は多いのではないかと思う。環境問題の施策については関心を持つ必要があるが、施行されている事を知らない場合があまりにも多いように感じる。今回のアンケートで知り得た情報も多いので、わかりやすく知りやすい施策を期待する。	9
遠い将来のことや、世界規模ではなかなか現実味がなく実感がわかないので、今迫っている危機を、県、市、町村レベルで発信していただけるとわかりやすい。良い活動も同時に教えていただけると、なおわかりやすいと思う。悪いことばかりでは、どう行動してよいかわからないので。	9
地域の有力者や昔から住んでいる人の意見が尊重され、若い人の意見が抑制されている。昔からこうだから年長者の言うことが正しいとはせずに、平等に指導や注意をしてほしい。	3
環境への配慮を感謝している。個人の意識を高めるのはとても難しいと思うが、よろしくお願ひしたい。	3
県のパトロール車が道路付近を走っているが、集落よりもっと山奥の方まで見てもらいたい。ただ県は委託しただけでは、税金の無駄遣いではないのか。	2
イヌ、ネコ、外来種などのペットに対して課税をしてほしい。処分に費用が必要と思う。野生化したイヌ、ネコに餌付をしている人がいる。	1
設備の維持管理、取り締まりをお願いしたい。	1

自由意見	件数
高齢者にできること、してほしいことがあれば示していただきたい。	1
働き方改革により残業を減らし、庁内の電力使用量を大幅に減少させる必要あり。県、市の職員が先頭となって、働き方改革を行いその結果（地域環境）の保全につなげる。	1
SDGsを啓蒙するために、シンボリックな事業に絞って取り組んでみてはどうか？民間の力を借りるべきではないか？	1
支出できる予算も限られる中、景観、環境を保全していくのは大変だとは思いますが、それぞれの環境に対する施策は、相乗効果により良い方向に向かっていくと思うので、今後ともお願いしたい。ただし、これだけはお願いしたい。無駄な予算を使わないために、倉敷市役所のような華美な建物を含む、無駄な建物を建てない。成功するかどうか不確かな第3セクター的事業はやらない。何よりも、行政側の方たち自身の取組みを優先する。こういう事も大事で、関連することだと思う。	1
環境問題への取り組みは大切だと思うが、限られた財源の中で子どもや妊産婦への社会サービスをさらに充実させてほしい。	1
私の地区では、里山作りの会が発足して山の木を切り、下草を刈り、ケヤキの苗を5000本ほど5町に植えてかれこれ20年。今は若い人に会を譲り、毎年12月～3月まで、間引きと下草刈をしている。今はかなりの大木になり小鳥も来て、昔よりは風景が新しくなった。できれば県の後押しをお願いしたい。	1

Ⅲ 広報・啓発活動と教育に関する意見・要望(53件 うち、主なものは以下のとおり)

自由意見	件数
県の行政がいろいろしていることを、もっとアピールしてもらった方が良いと思う。	11
テレビ、ラジオ等で環境に対する意識づけをしてほしい。	7
もっと問題について住民が理解できる機会を増やしてほしい。	4
環境問題に関して興味がない訳ではなく、知る機会や誰かと話す機会・取り組む機会が今まで身近になかったなど、このアンケートを通じて感じました。正直、大人になり、社会人になった今、自ら進んで取り組める時間は少ないと思うので、学校などの授業で学ぶ機会があれば良かったなと思いました。私のように受け身な人が多い中、参加型よりマストで取り組める小・中・高の学校での授業の一環として機会があれば良いなと思います。	4
環境に関する言葉や岡山県の取組状況について知らないことばかりでした。まだ自分は若いので、これからの自分の人生にも大切なことばかりだと思いました。そして岡山県が取り組んでいることも知りませんでした。もっとアピールをしてもらうことで聞いて覚え、なじみのある言葉になり、自分や周りの人も気にして、気を付けて生活できるのではないかなと思いました。これからの私たちの人生の為にも頑張ってもらいたいと思います。そして私も今回を機に頑張ります。	3
公開情報不足です。個人で実践出来る様な案内がほしいと思います。	3
公民館活動の中に取り入れ、普及活動をしていただけるとありがたいと思います。	2
岡山県としての取組等をもっと示すべきだと思う。環境に対して県民がもっと関心を持てる様にしてほしい。	2

自由意見	件数
県がどのようなことをしてくれているのか、もっと県民にアピールしないとほとんどのことを知らない。チラシ、パンフレット等は、あまり手に取ることがないので、SNSやテレビニュースなどによる情報発信をしてほしい。	2
どんな施策を行っているかわからないので、もっとわかるようにしてほしい。	2
大切な地球を地球的規模で守ることは一人一人の意識改革しかない。今の若い人達に環境学習をもっと徹底的に行うべきと思う。	1
なかなか難しい問題ばかりですが、各人の意識向上のため、指導や教育をよろしく願いします。	1
岡山駅前などでパンフレットを配ったりするより、事業所を訪問して周知すべき。児島の川は臭い。色も汚く、どぶのようだ。	1
普通の生活をしていると情報が入ってこず理解できておりません。	1

IV 自己意識・取組姿勢に関する意見・要望 (32件 うち、主なものは以下のとおり)

自由意見	件数
環境について知らない事が多かったので、関心を持ちたいと思います。地球温暖化をくいとめるために、出来ることをしていきたいと思います。	6
みんなが今より少しずつ環境改善に取り組めば確実に向上すると思います。	4
住み続けられるまちづくりのために行政任せにするのではなく、自分にできることを考え行動していきたいです。	4
正直こんなにたくさん県が行っている環境対策があるとは知りませんでした。なので満足度と問われてちゃんと答えられていないです。申し訳ありません。今回このような機会をいただき環境について改めて考えることが出来ました。これからも少しでも地球にやさしい人間になれるように努めていきたいと思います。	4
環境問題も、コロナ問題ほどの意識を持って取り組めば大きな成果になるだろう。環境も、地球と人類にとって死活的に大きなテーマになっているはず。どのように考えるかでその違いが大きい。	3
企業によってはこれからの時代を予想して電気自動車や太陽光発電を連携させるシステムなどを広めるそうです。これからは企業の行動が大切になると思います。	2
いろいろ活動されていると思うのですが、このアンケートに出ているものは知らないことばかりでした。もっと施策を目にする機会があれば意識も変わると思います。	2
環境問題で色々イベント等あることも知っていましたが、少々興味もありましたが、仕事があるため、なかなか参加することが出来ません。しかしこれからは参加すること、実行へと考えてみたいと思います。	2

自由意見	件数
知らないと行動できないので、まずは知ることが大事だと思います。今までも県は積極的に活動されていると思いますが、専門用語が多く年をとった者ほど読みたがらないと思います。私も無知なことが多いですが、自分のできる範囲で取り組みたいと思います。まず一人から、それが多くの人になれば市、県へと波及するはずです。一度壊れた自然は戻りません。そして自然と共に生きてこそその人間との思いに立ち戻れた今回のアンケートでした。自然豊かな環境を大切な子や孫へ残すために、自分のできることはしていきたいですし、社会も環境問題に取り組んでいただきたいと思います。	2
環境問題はこれからの未来の問題なので少しは勉強しなければいけない年だと思いました。知らない事が多かったです。	2
環境のアンケートを書いてみて知らないことが多かったので勉強不足だと感じました。範囲が広いことも分かったので、少しずつ理解していきたいですが、私のように講演、本などが好きな人向けに企画していただけたら参加したり、読んだりしたいと思います。	2
住み続けられるまちづくりの為に行政任せにするのではなく、自分にできることを考え行動していきたいです。	1
環境保護、大切だと思うが、日々の生活を送るのに忙しく、ゆっくり向き合えない。個人では、困難。	1
以前から地球が壊れていくのが辛くて、何とかしたいと思いながら何をどう動けばよいのか思いつかず日々過ごしてしまっていました。台風、水害、地震、次はコロナ・・・地球がこんなに色々な形で訴えているので人間が変わらないといけないと思います。できる事があれば何かをしていきたいです。今私のできる事は何？どうやってみつけなければいけません。できることは協力したいです。	1
環境はすごく大切な事だと思います。まず体に関係するので長い間苦しんでいる人も多いと思います。自分で出来ることを少しずつでもみんながすることが大事です。住みやすい町になればいいと思います。	1
このアンケートを頂いて、改めて環境に関することにもっと関心をもたなければと思います。	1

V ごみ問題に関する意見・要望(18件のうち、主なものは以下のとおり)

自由意見	件数
いまだにほぼ毎日近所で家庭ごみを外で大きなドラム缶で焼いています。ご近所同志で言うのとあとで気まずくなるので何も言えず我慢しています。地区の交番が年に一度くらい来るのですが言えずにいます。	6
資源ごみ、燃えないごみの回収を、もう少し回数を増やせないかと感じています。	2
アンケートに回答しながら、自身の日頃の取り組みを考え、改めるきっかけとなりました。まずごみを減らすために、牛乳パックやお肉のパック、紙ごみなどの回収を利用してみたいと思います。また、もっと無料回収の場を増やして頂けるとありがたいです。ビンの回収・パック類・紙類など24時間回収できる場所などがあればなお嬉しいと思います。その分ごみ袋の値段を上げて頂いても良いです。県として広報活動の工夫が必要だと思います。	2

自由意見	件数
家庭の油、ごみなどが海に流れ、海の生物たちが死滅してしまうと、私の生活、食べ物にも関わって来ます。自然は大切にしないといけないと思います。	2
主婦の立場ではごみの分別が大変です。手引きの冊子がありますが、それほど詳しくは書いてありません。何ごみ?と困ってしまいます。衣類も燃えるごみになり、資源回収に出したいが、していない地区では出せません。持ち込みごみも、持って行ける人ばかりではないのではないのでしょうか。手数料は必要でも近くに行けないし、誰でもは出来ません。環境のため、将来のためではあります。あまり難しいと、不法投棄にもつながると思いません。高齢化社会では分かりやすく、簡単で、身近なことが良いです。	2
ごみの不法処理に対する罰則をもっと強化して、不法投棄をする業者などをなくしてほしい。	1

VI 個人のマナー、モラルに関する意見・要望(7件 うち、主なものは以下のとおり)

自由意見	件数
回りを見回しても関心のない人が多いと思う。	3
河川、用水路、道路、植込にごみのポイ捨てが多い。監視等を強める必要あり。	2
犬の散歩をさせるため、毎日朝と夕方歩いている人がいる。糞便の後始末をしないで行ってしまうが、同じ町内の人で声を掛けにくい。	1
自転車で出勤していると、車が横をギリギリで通り過ぎる。運転する人に、もう少し優しい気持ちを持ってもらえるよう期待する。	1

VII エネルギー・森林保全等に関する意見・要望(7件 うち、主なものは以下のとおり)

自由意見	件数
太陽光発電のパネルを山の斜面に設置されているのをよく見かける。知識がないのでわからないが、生態系に影響はないのか。また、緑を削ることは治水面で影響しないか。自然と技術の調和を考えてほしい。同封のアースキーパーメンバーシップのパンフレットを見つけた。未来の地球のためにすることなので”ポイントをためてプレゼント”の必要はないと思った。そのお金をもっと有意義に使っていただきたい。	3
近年山林の荒廃が進み、雑木が増えている。竹林も同様、対策が必要。	2
原発は自然の反対事業。100年も残って。地球をダメにする物質は絶対反対。ポリエステル禁止運動を早くしてほしい。山の自然を荒らしては、日本はだめになる。どの項目も早くしてほしい。	1
再生可能エネルギーの導入をもっと促進すべき。実施するために県民、企業、民間団体、行政などのネットワーク作りを確立する。	1

Ⅷ 生産・消費・リサイクル活動に関する意見・要望（4件 うち、主なものは以下のとおり）

自由意見	件数
食品の食べ残し、本当にもったいない事。	1
以前他県に住んでいたが、スーパー等のレジ袋は有料だった。ごみ袋の指定もなかったの で、色々な所で買い物をしたら入れてくれる紙袋やビニール袋でごみを出していた。岡山 ではごみ袋は有料なのにレジ袋はもらえるため、皆レジ袋や紙袋はどんどんたまっていく ばかりでは？どうしているの？と思う。うちの賃貸アパートは民間なので、レジ袋をごみ 袋として使っているが、紙袋では出せないの紙袋がたまる一方。	1
ペットボトル、ナイロンなどごみの分別をしているが、本当に再利用されているか、どん な会社に依頼して、実際にどのような原料になっているか情報がわかりづらい。生ごみな どは、なるべく自宅で再利用できる回転式の入れ物で畑に戻すようにしている。	1
個人情報保護と生産活動助長のバランスを考える。	1

Ⅸ 農山村地域の環境に関する意見・要望（4件 うち、主なものは以下のとおり）

自由意見	件数
いきなり稲わらが出て来たのには驚いた。東備地方の田舎で暮らしている。限界集落や少 子化により、集落での行事・活動はできなくなっている。山、田、畑、農道は人の手が入 らなくなり自然に帰りつつある。加えて、鳥獣被害はひどくなる一方。山の谷は、産業廃 棄物がたくさん捨てられて下にある池の水は濁り放題。減反政策でつぶれた田んぼを再耕 し、米を自作している。今の環境を良くしようと頑張っている。	2
高齢化で人口が減り、奥ではどんどん共同作業の草刈りもできなくなっている。大きな公 道では、土木関係の方が市の仕事として草刈りをやっている。シルバーでも賃金は発生す る。草刈りボランティア隊が必要になってくる。	1
市街にいる人が山間地域の作業をさせるようにしたらいいのではないかと？市街の人は休日 を楽しんでいる人がよく見受けられるが、山間地域の人は休みなんてない人だっている。 理想は提示されていても、全てそのように動くとするとは何も進まない感じを受ける。	1

Ⅹ 税金・公的支援等に関する意見・要望（3件 うち、主なものは以下のとおり）

自由意見	件数
エコドライブもいいが、根本的に車の数を減らす政策を検討してほしい。車がなくても不 自由なく生活できる公共輸送の整備、車関連の税金の増大、自転車・散歩道の拡大・充実 をもっと進めていくべき。	1
電動自転車に対する補助金制度などがあると良いと思う。	1
太陽光等の再生エネルギーに対して、補助金、及び買電などの支援をもっと多くしてほし い。	1

XI アンケートに関する意見・要望（22件 うち、主なものは以下のとおり）

自由意見	件数
このアンケートは難しすぎて理解に困った。もう少しわかりやすいアンケートにしてほしいかった。	6
同封のボールペンは必要ない。しかも壊れていた。	4
このアンケートをきっかけに環境について考える時間が持てた。	4
もっとまともな質問のために紙を使ってほしい。環境問題を問うなら、まずそこからだと思う。一生懸命取り組んでくれるのはありがたいが、このアンケートでは何も解決しないし、何を解決・参考にしたいか分からない。知ってもらい、巻き込む方法を市民と考えるアンケートでもあってほしいし、そのような施策に力を入れないといけないと思う。行政が「やっているだけ」になってしまっていたら形だけになってしまう。環境問題は全員が取り組む問題。	2
アンケート「用紙」が無駄なので、ネットでアンケートを行えばよいと思う。	2
回答時間の目安 10 分間とありましたが、30 分間かかった。10 分間というのほどこから出たのか？担当者以外で実際にやってみて算出したのか？10分間程度でできた人はいないと思う。一方的に依頼するものには責任をもってほしい。	1
4 年間に 3 回目のアンケート。ほんとうに無作為に選んであるのか？	1
5 月中は田ごしらえ、田植等で忙しいため、なるべくならアンケートはやめてほしい。昨年もしたような気がするが、非農家の人へ送ってほしい。	1
アンケート調査の結果を公表してほしい。	1

XII その他（12件 うち、主なものは以下のとおり）

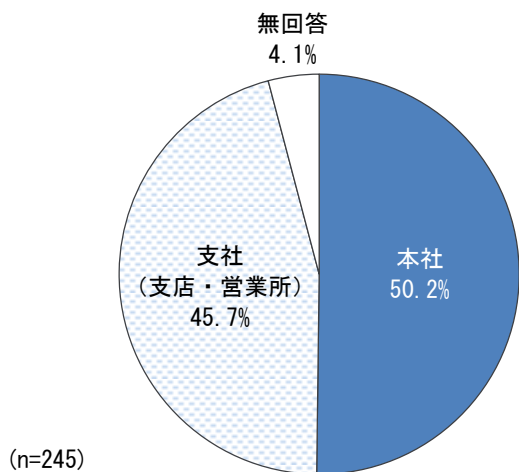
自由意見	件数
市民のための活動に感謝している。これからも、これまで同様に活動をお願いしたい。機会があれば、お手伝いしたい。	4
環境問題について、知らない人が多いのでは。	1
コロナウィルス問題が早く終息してほしい。ワクチンが早くできてほしい。すべての人に普通の日々が戻るように願っている。	1
問題には関係ないが、送られてきた郵便番号がまったく合っていない。よく届いたなと思うレベル。	1
野焼きを消防所に通報することは、消防署員にとって迷惑なことではないか？	1
環境問題は変化がわかりにくく、モチベーションが上がりづらい。	1
真備の水害を経験して言えること、感じたことだが、そもそも3人に1人は避難場所知らない。私もわからなかった。地域ごとに教えてほしい。 また、倉敷市役所の中の駐車場が暗くて危ない。お年寄りが転倒されていた。	1
交通（自動車、自転車等、歩行者）通行の障害がある。	1

第 3 章 事業所調査結果

第3章 事業所調査結果

1 回答者の属性

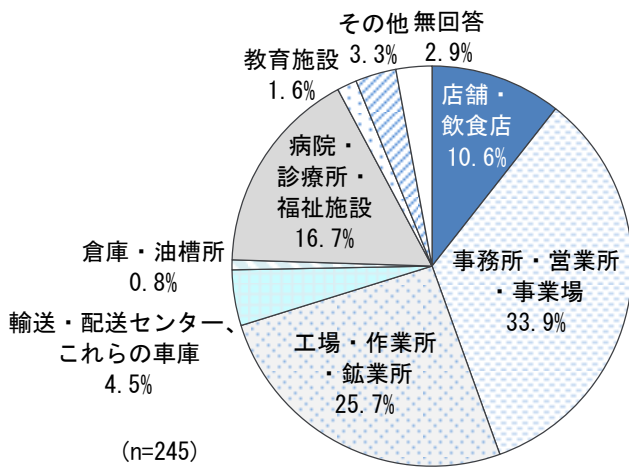
(1) 本社／支社（支店・営業所）区分



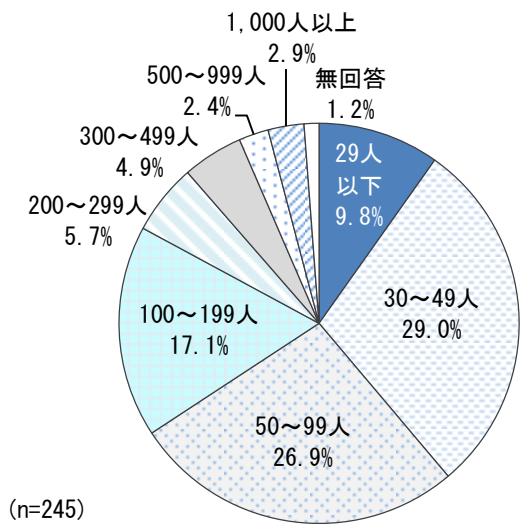
(2) 業種

区分	回答数	構成割合 (%)
農林水産業	1	0.4
鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0
建設業	16	6.5
製造業	64	26.1
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1.2
情報通信業	3	1.2
運輸業、郵便業	23	9.4
卸売業、小売業	27	11.0
金融業、保険業	12	4.9
不動産業、物品賃貸業	1	0.4
学術研究、専門・技術サービス業	3	1.2
宿泊業、飲食サービス業	6	2.4
生活関連サービス業、娯楽業	2	0.8
教育・学習支援業	5	2.0
医療、福祉	43	17.6
サービス業	22	9.0
その他	9	3.7
無回答	5	2.0
計	245	100.0

(3) 事業所の主な形態



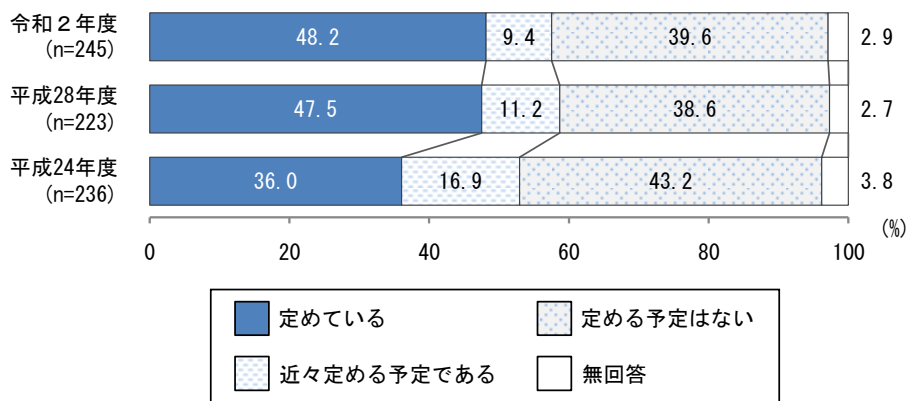
(4) 従業員数（パートの人数を含む）



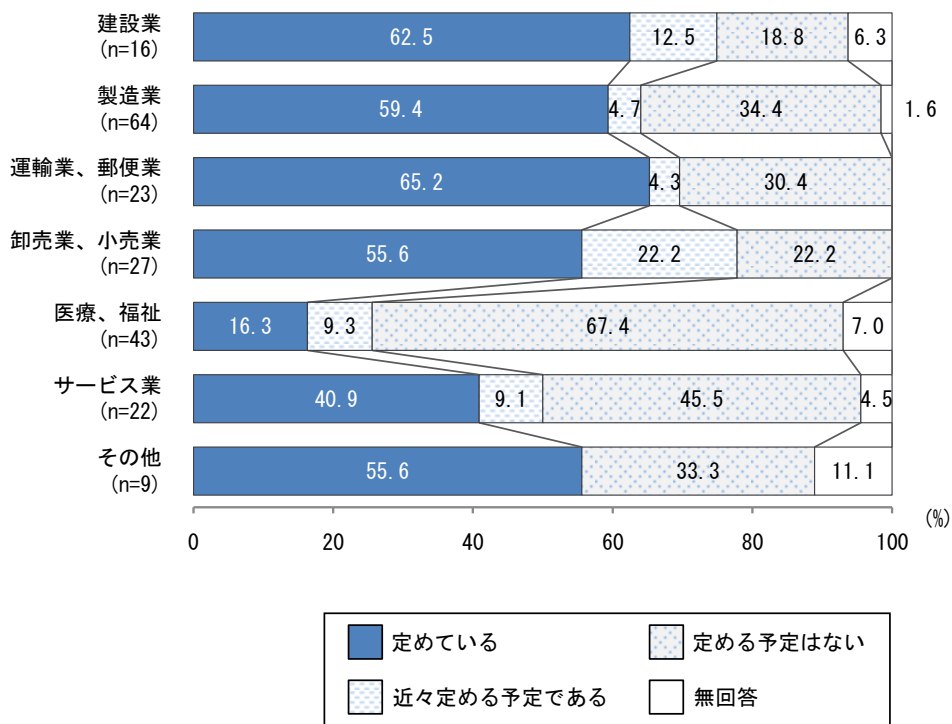
2 環境保全への取組について

(1) 経営方針における環境保全に関する項目の設定の有無

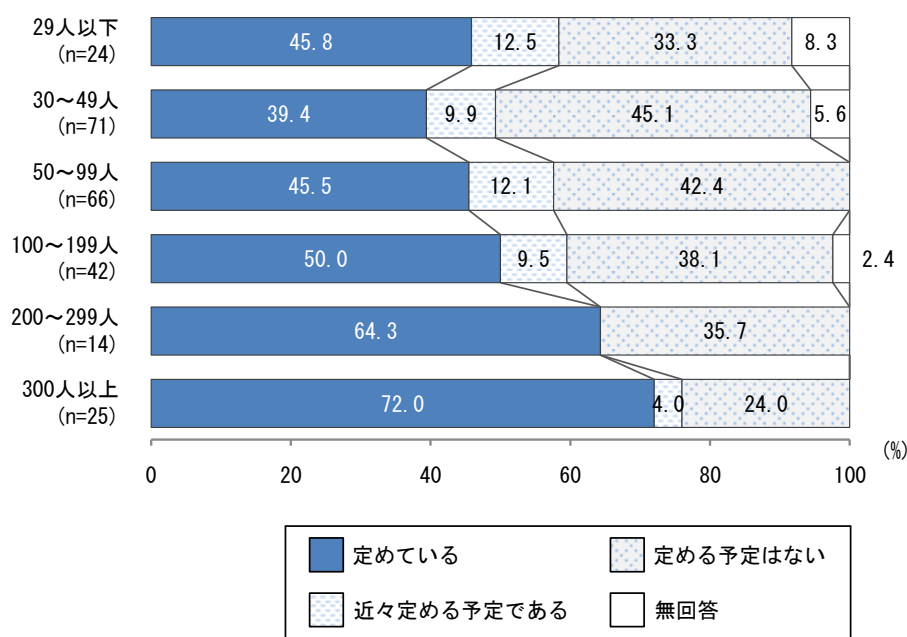
問1 貴事業所では、経営方針の中に環境保全に関する項目を定めていますか。【○は1つ】



【図表 経営方針における環境保全に関する項目の設定の有無 (業種別)】



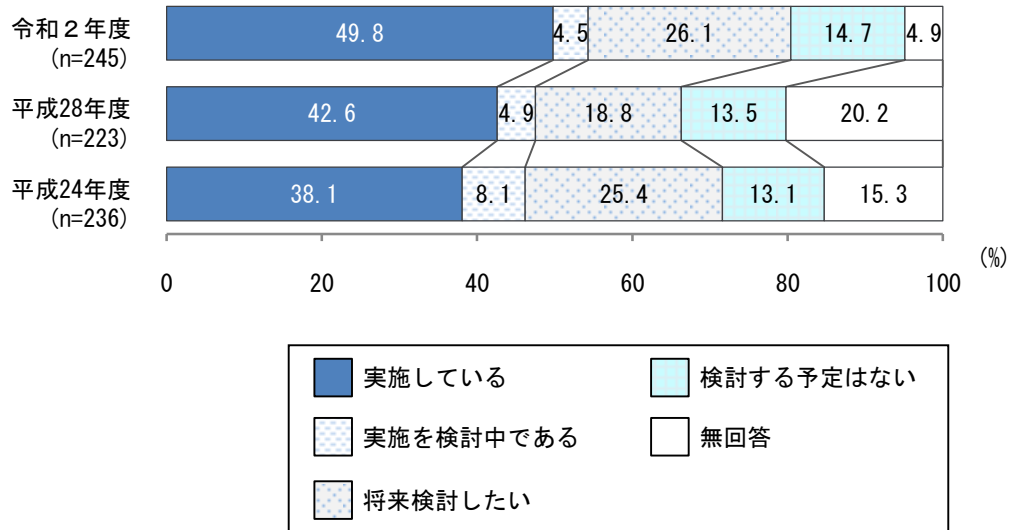
【図表 経営方針における環境保全に関する項目の設定の有無（従業員数別）】



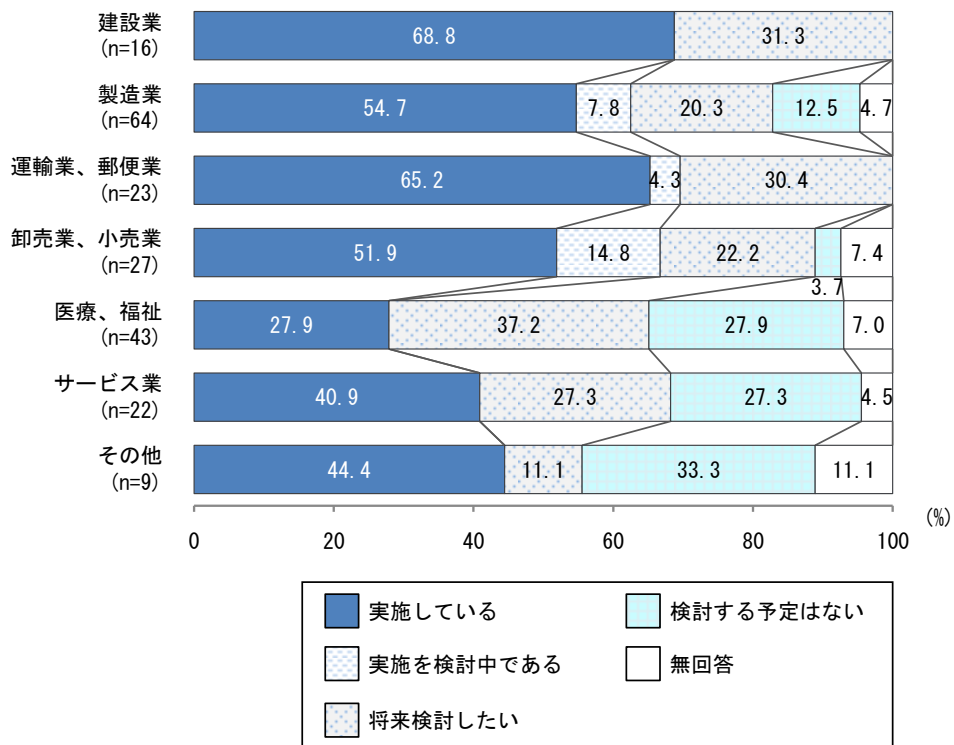
結果の要点	
令和2年度回答	「定めている」が48.2%、「近々定める予定である」が9.4%、「定める予定はない」が39.6%となっている。
経年比較	「定めている」との回答は今回調査(48.2%)が平成24年度調査(36.0%)を12.2ポイント上回っている。
業種別	「定めている」で「建設業」(62.5%)、「運輸業、郵便業」(65.2%)、「定める予定はない」で「医療、福祉」(67.4%)が高くなっている。
従業員数別	「定めている」で「300人以上」(72.0%)、「定める予定はない」で「30~49人」(45.1%)が高くなっている。

(2) 環境保全に関する具体的な行動方針の設定と対策の実施

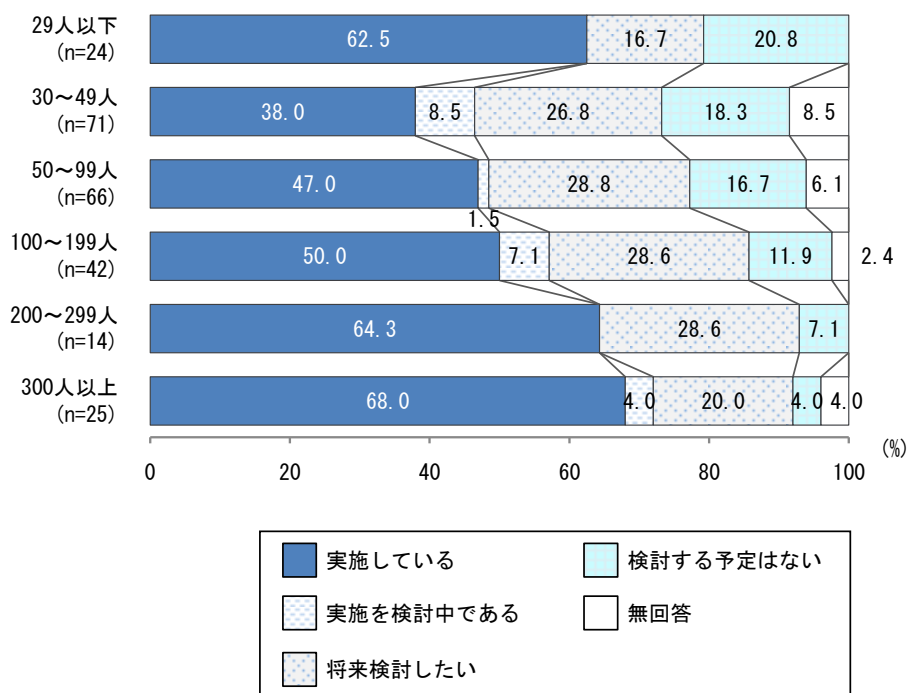
問2 貴事業所では、環境保全に関する具体的な行動方針を定め、何らかの対策を実施していますか。【〇は1つ】



【図表 環境保全に関する具体的な行動方針の設定と対策の実施（業種別）】



【図表 環境保全に関する具体的な行動方針の設定と対策の実施（従業員数別）】



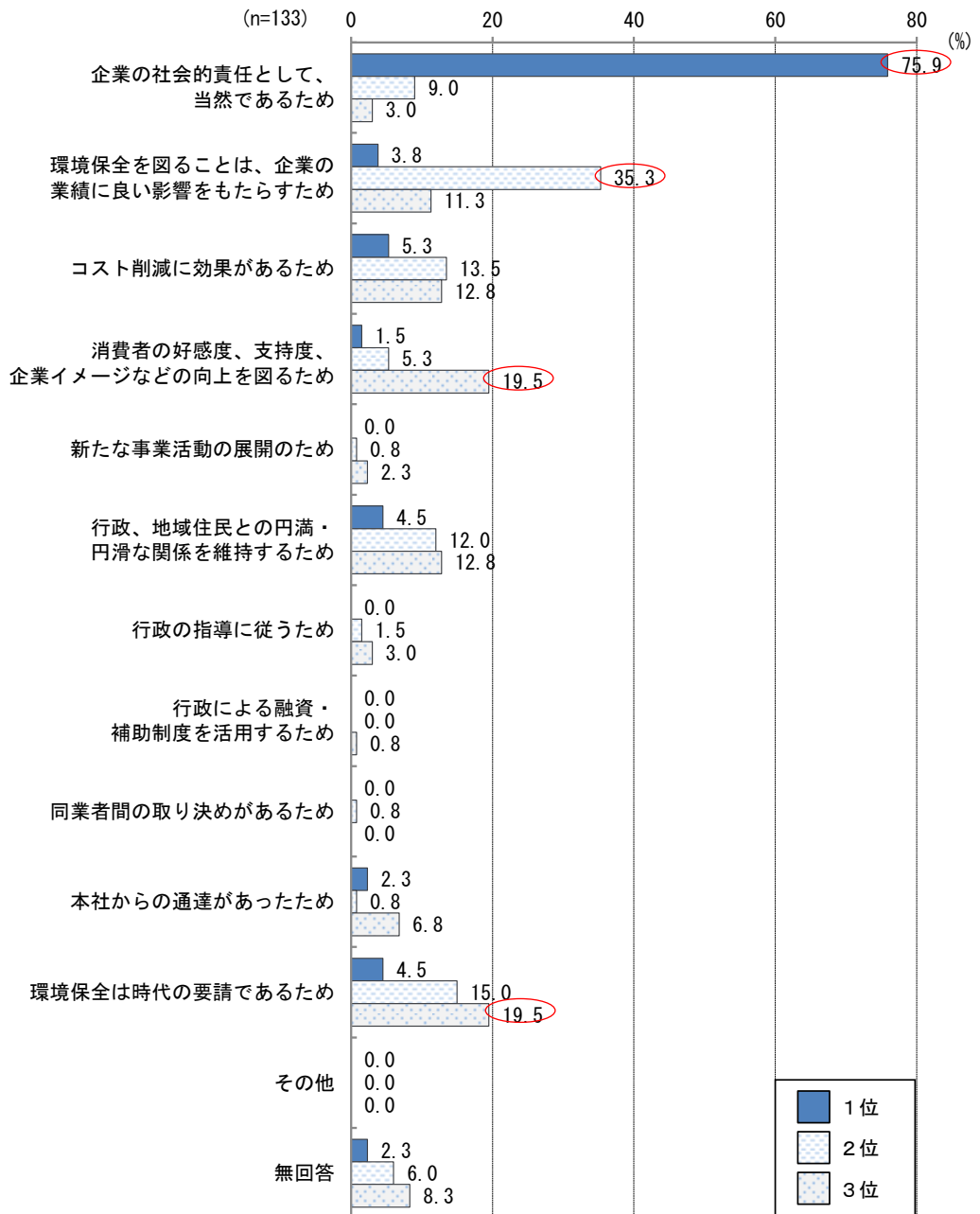
結果の要点	
令和2年度回答	「実施している」との回答が 49.8%と最も高く、次いで「将来検討したい」(26.1%)、「検討する予定はない」(14.7%)、「実施を検討中である」(4.5%)の順となっている。
経年比較	「実施している」との回答は今回調査(49.8%)が平成24年度調査(38.1%)を11.7ポイント上回っている。
業種別	「実施している」で「建設業」(68.8%)、「運輸業、郵便業」(65.2%)、「将来検討したい」で「建設業」(31.3%)、「運輸業、郵便業」(30.4%)、「医療、福祉」(37.2%)が高くなっている。
従業員数別	「実施している」で「29人以下」(62.5%)、「200~299人」(64.3%)、「300人以上」(68.0%)、「検討する予定はない」で「29人以下」(20.8%)、「30~49人」(18.3%)、「50~99人」(16.7%)が高くなっている。

(3) 環境保全対策の目的や動機

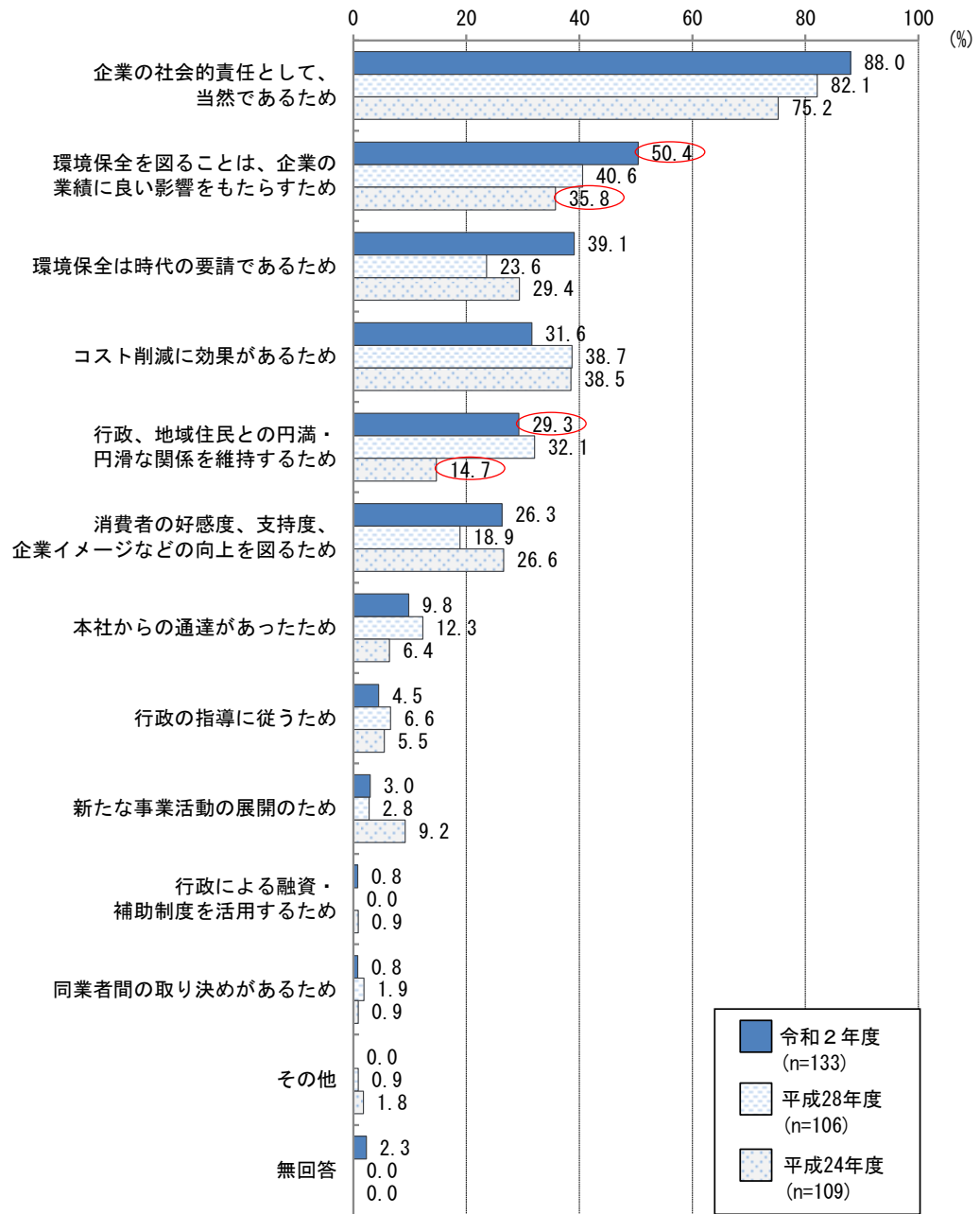
問2で「1. 実施している」または「2. 実施を検討中である」を回答した方におたずねします

問3 環境保全対策などの目的や動機について、貴事業所のお考えに近いものはどれですか。

【お考えに近い順に、あてはまる番号を3つまで記入】



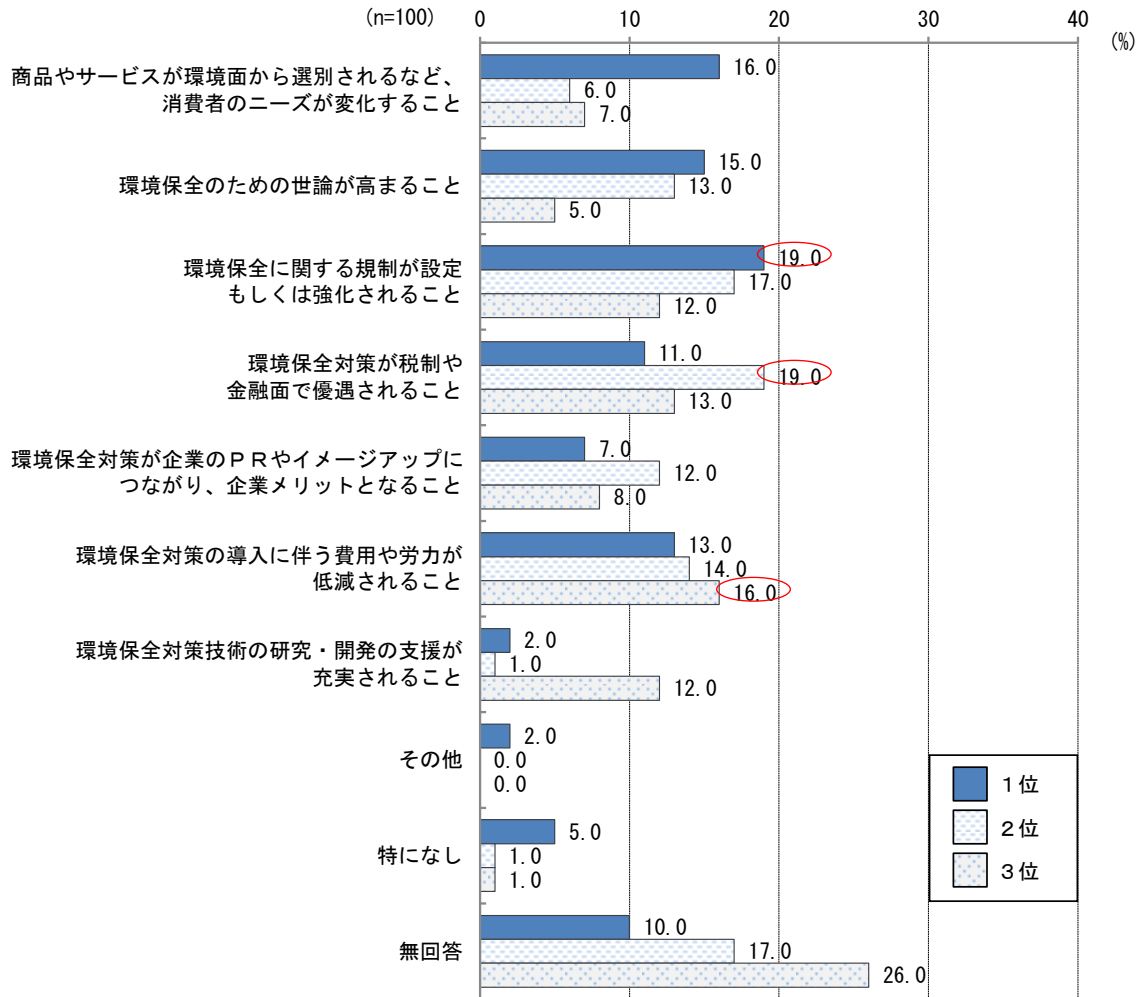
【図表 環境保全対策の目的や動機（経年比較）】



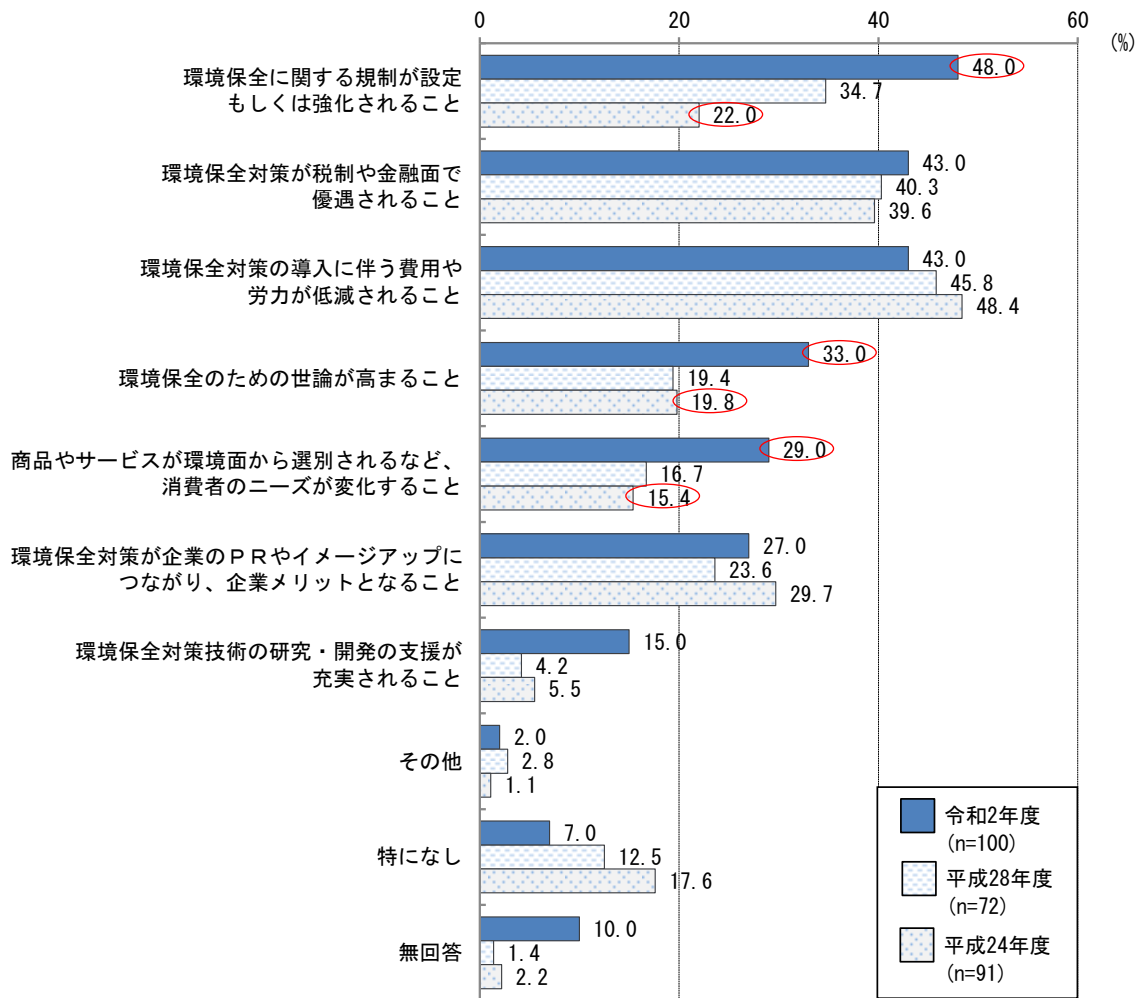
	結果の要点
令和2年度 回答	<p>【1位】 「企業の社会的責任として、当然であるため」との回答が75.9%と最も高く、次いで「コスト削減に効果があるため」(5.3%)などの順となっている。</p> <p>【2位】 「環境保全を図ることは、企業の業績に良い影響をもたらすため」との回答が35.3%と最も高く、次いで「環境保全は時代の要請であるため」(15.0%)などの順となっている。</p> <p>【3位】 「消費者の好感度、支持度、企業イメージなどの向上を図るため」、「環境保全は時代の要請であるため」との回答がともに19.5%と最も高くなっている。</p>
経年比較	<p>「環境保全を図ることは、企業の業績に良い影響をもたらすため」との回答は今回調査(50.4%)が平成24年度調査(35.8%)を14.6ポイント、「行政、地域住民との円満・円滑な関係を維持するため」との回答は今回調査(29.3%)が平成24年度調査(14.7%)を14.6ポイント上回っている。</p>

(4) 積極的に環境保全対策を進めるための条件

問2で「3. 将来検討したい」または「4. 検討する予定はない」を回答した方におたずねします
 問4 貴事業所にとって、どのような条件が整えば、現在より積極的に環境保全対策を進めることができますか。【条件順に、あてはまる番号を3つまで記入】



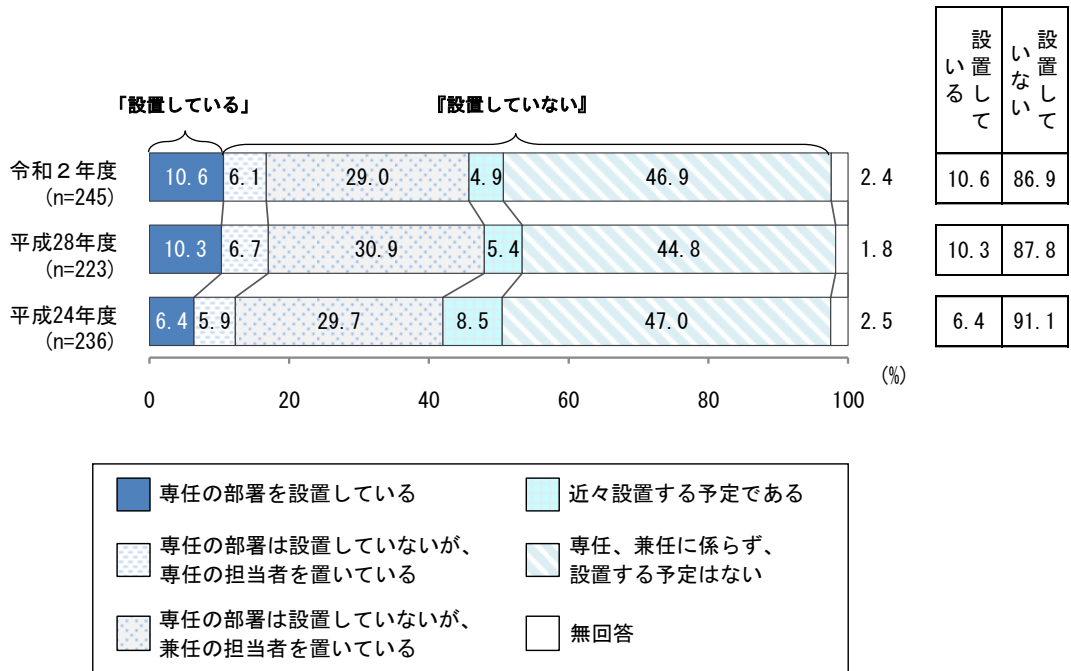
【図表 積極的に環境保全対策を進めるための条件（経年比較）】



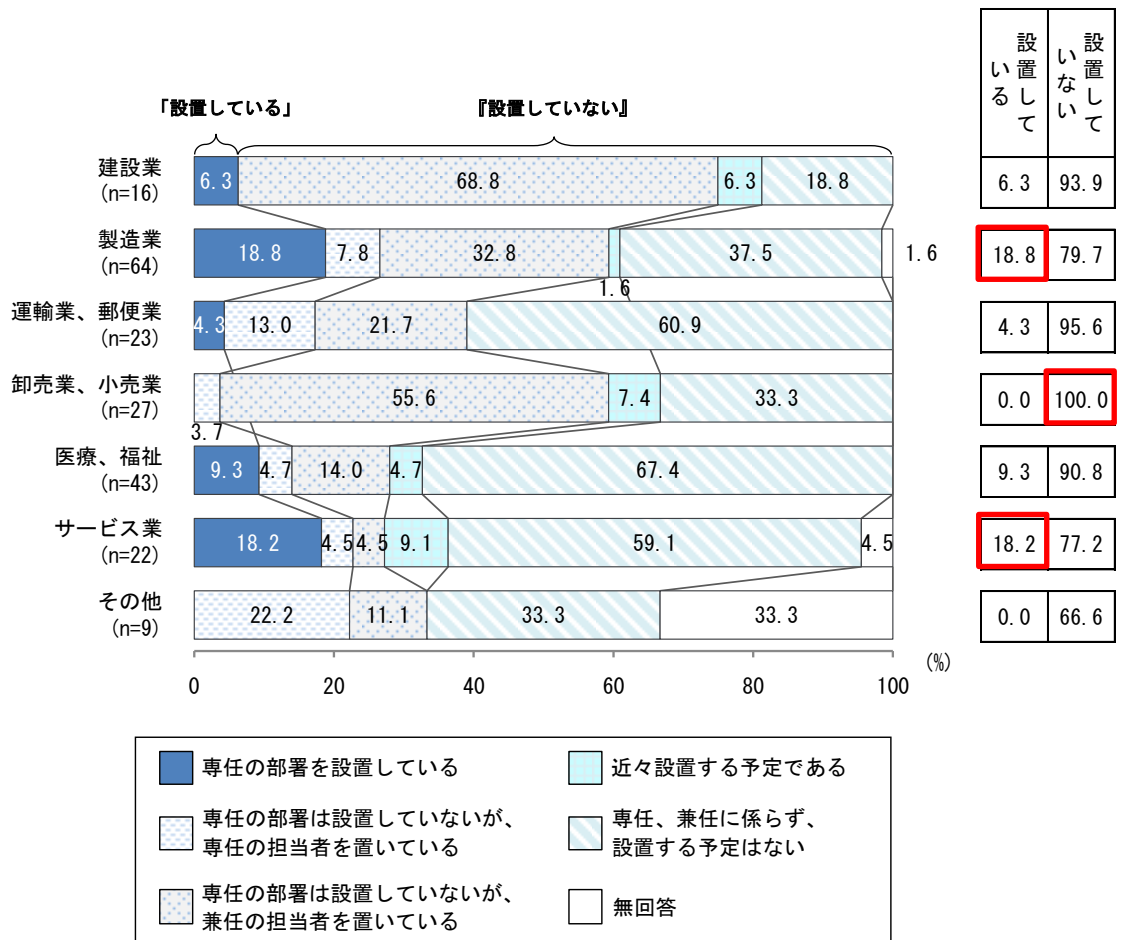
	結果の要点
令和2年度 回答	<p>【1位】 「環境保全に関する規制が設定もしくは強化されること」との回答が19.0%と最も高く、次いで「商品やサービスが環境面から選別されるなど、消費者のニーズが変化すること」(16.0%)などの順となっている。</p> <p>【2位】 「環境保全対策が税制や金融面で優遇されること」との回答が19.0%と最も高く、次いで「環境保全に関する規制が設定もしくは強化されること」(17.0%)などの順となっている。</p> <p>【3位】 「環境保全対策の導入に伴う費用や労力が低減されること」との回答が16.0%と最も高く、次いで「環境保全対策が税制や金融面で優遇されること」(13.0%)などの順となっている。</p>
経年比較	<p>「環境保全に関する規制が設定もしくは強化されること」との回答は今回調査(48.0%)が平成24年度調査(22.0%)を26.0ポイント、「環境保全のための世論が高まること」との回答は今回調査(33.0%)が平成24年度調査(19.8%)を13.2ポイント、「商品やサービスが環境面から選別されるなど、消費者のニーズが変化すること」との回答は今回調査(29.0%)が平成24年度調査(15.4%)を13.6ポイント上回っている。</p>

(5) 環境保全に配慮するための部署等の有無

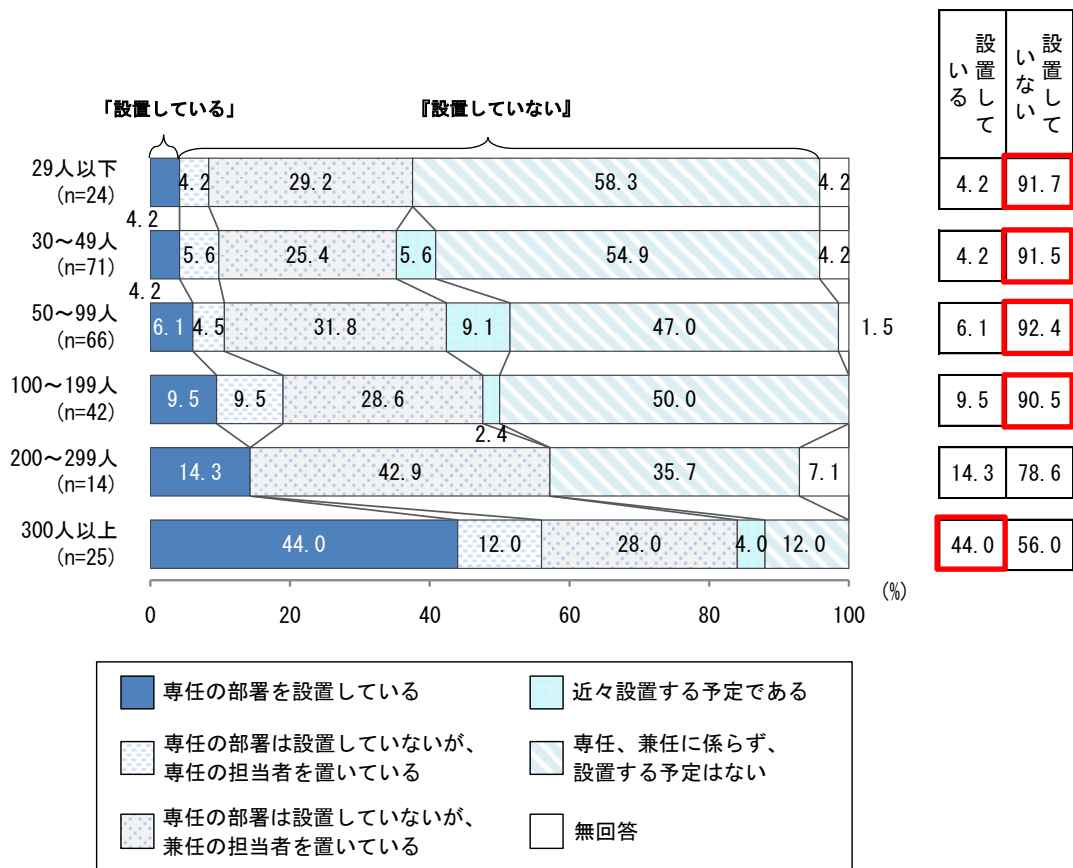
問5 貴事業所では、環境保全に配慮するための部署などがありますか。【〇は1つ】



【図表 環境保全に配慮するための部署等の有無 (業種別)】



【図表 環境保全に配慮するための部署等の有無（従業員数別）】



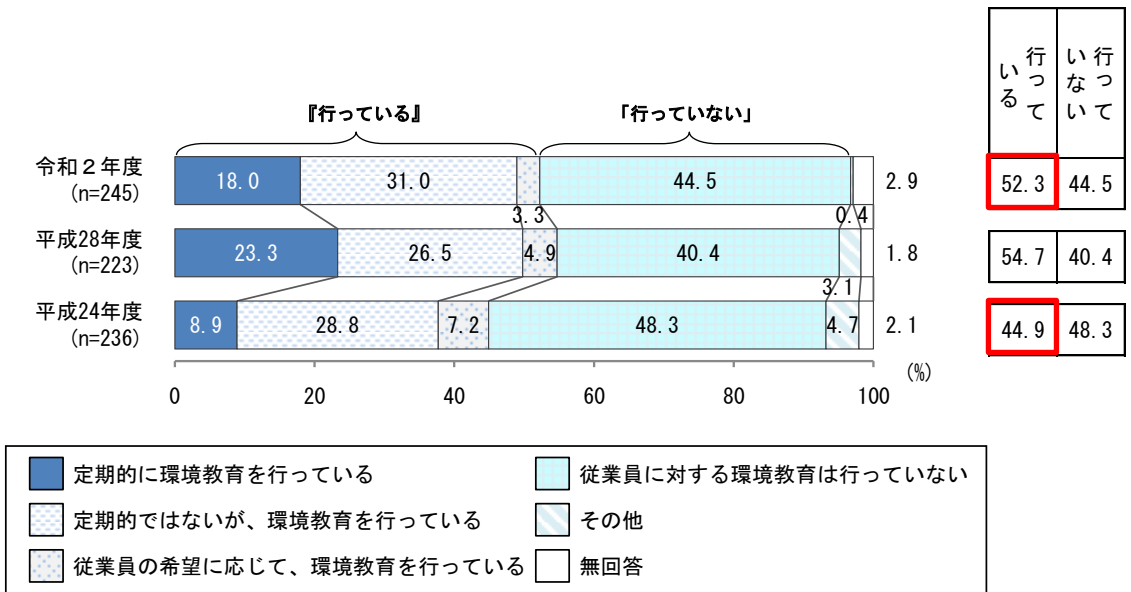
	結果の要点
令和2年度回答	「専任、兼任に係らず、設置する予定はない」との回答が46.9%と最も高く、次いで「専任の部署は設置していないが、兼任の担当者を置いている」(29.0%)、「専任の部署を設置している」(10.6%)などの順となっている。
経年比較	平成24年度調査から大きな差はみられない。
業種別	「設置している」で「製造業」(18.8%)、「サービス業」(18.2%)、『設置していない』で「卸売業、小売業」(100.0%)が高くなっている。
従業員数別	「設置している」で「300人以上」(44.0%)、『設置していない』で「29人以下」(91.7%)、「30~49人」(91.5%)、「50~99人」(92.4%)、「100~199人」(90.5%)が高くなっている。

※「設置している」(「専任の部署を設置している」)

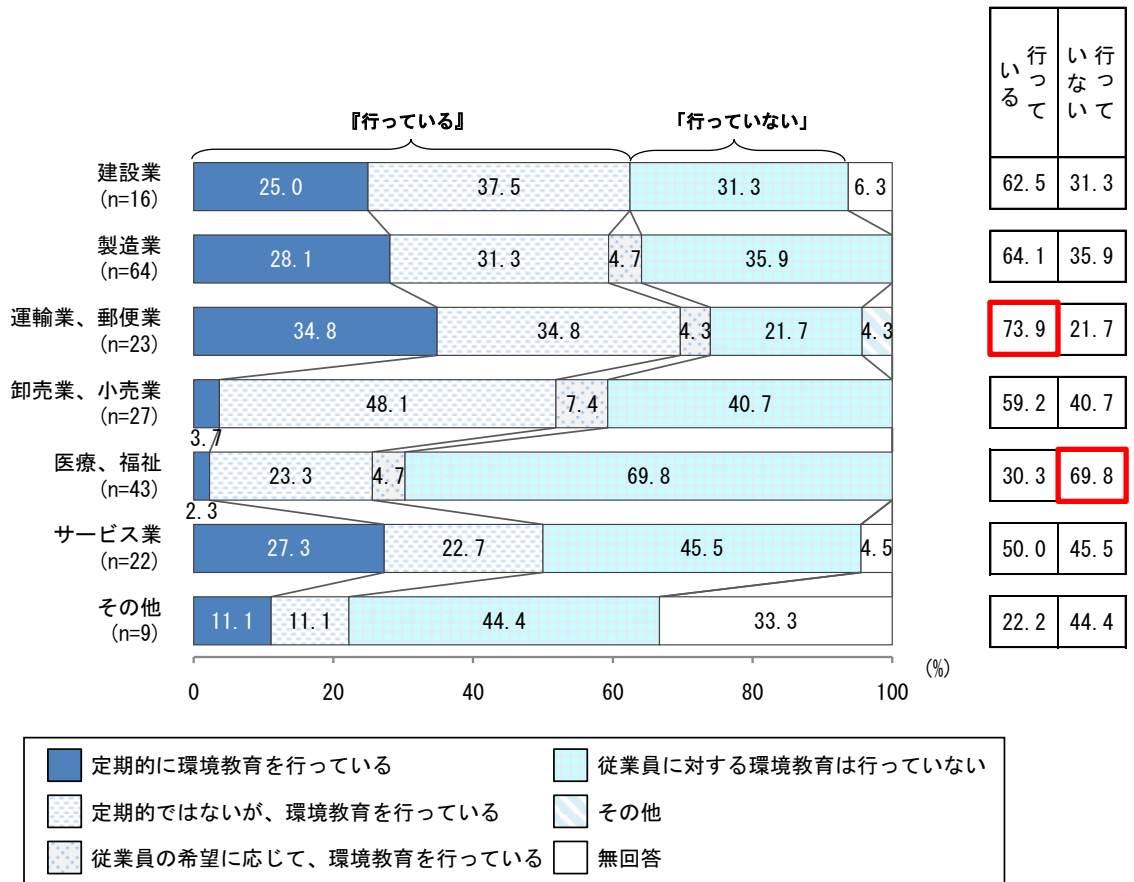
※『設置していない』(「専任の部署は設置していないが、専任の担当者を置いている」と「専任の部署は設置していないが、兼任の担当者を置いている」と「近々設置する予定である」と「専任、兼任に係らず、設置する予定はない」を合わせた割合)

(6) 従業員に対する環境教育の形態

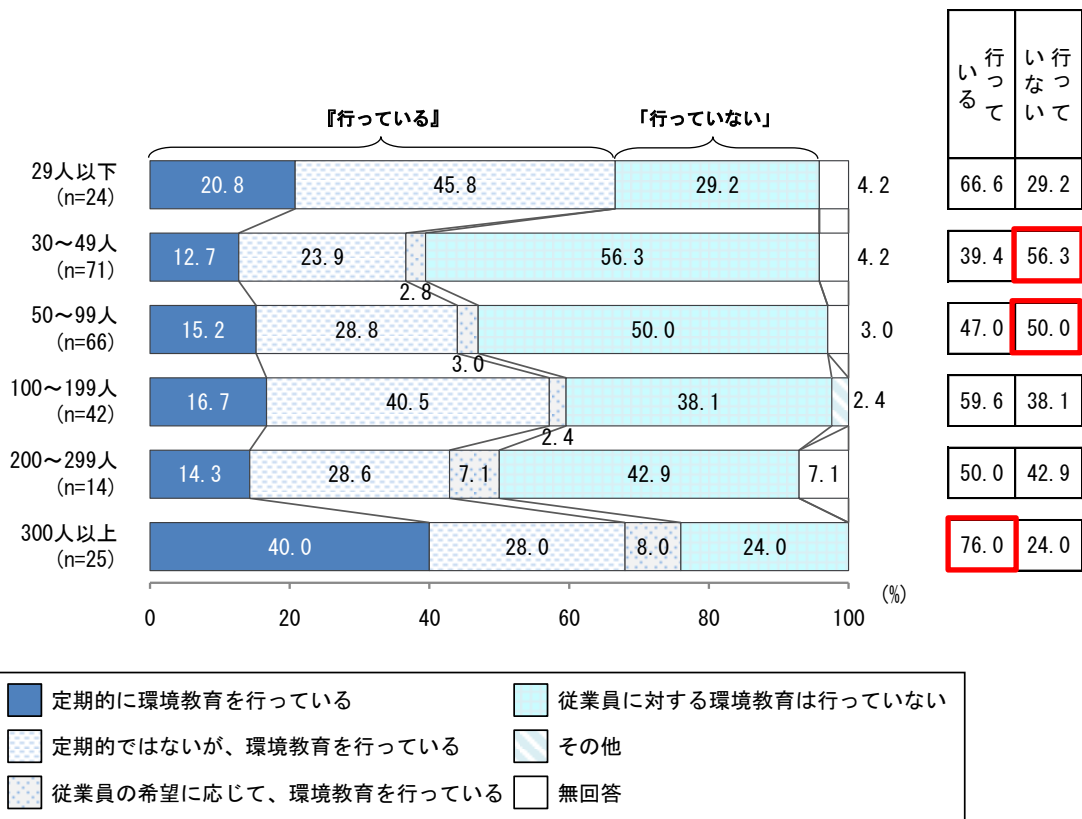
問6 貴事業所では、従業員に対してどのような形で環境教育を行っていますか。【〇は1つ】



【図表 従業員に対する環境教育の形態（業種別）】



【図表 従業員に対する環境教育の形態（従業員数別）】



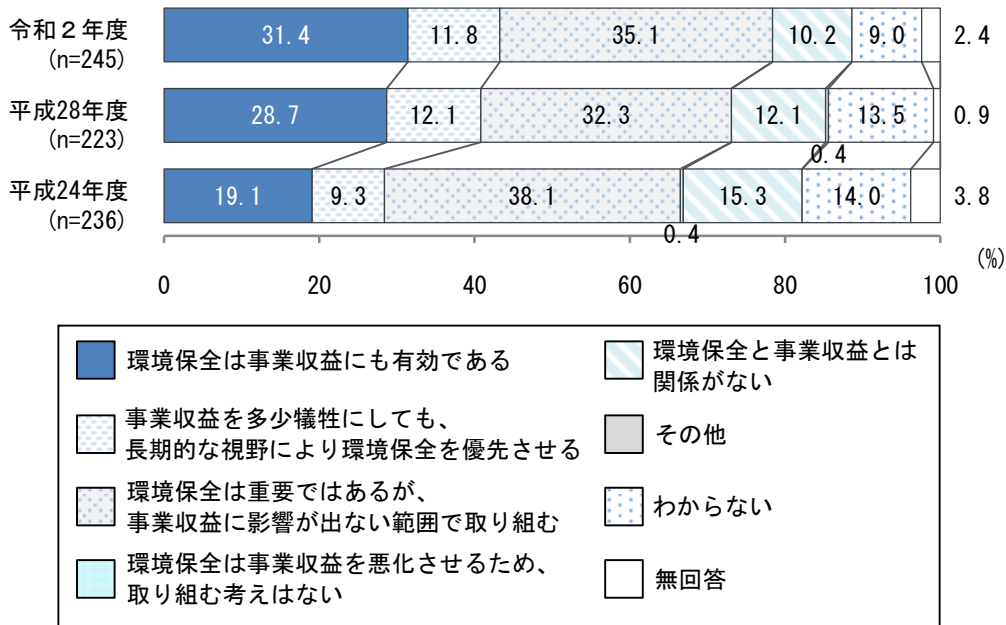
結果の要点	
令和2年度回答	「従業員に対する環境教育は行っていない」との回答が44.5%と最も高く、次いで「定期的ではないが、環境教育を行っている」(31.0%)、「定期的に環境教育を行っている」(18.0%)、「従業員の希望に応じて、環境教育を行っている」(3.3%)の順となっている。
経年比較	『行っている』との回答は今回調査(52.3%)が平成24年度調査(44.9%)を7.4ポイント上回っている。
業種別	『行っている』で「運輸業、郵便業」(73.9%)、「行っていない」で「医療、福祉」(69.8%)が高くなっている。
従業員数別	『行っている』で「300人以上」(76.0%)、「行っていない」で「30~49人」(56.3%)、「50~99人」(50.0%)が高くなっている。

※ 『行っている』（「定期的に環境教育を行っている」と「定期的ではないが、環境教育を行っている」と「従業員の希望に応じて、環境教育を行っている」を合わせた割合）

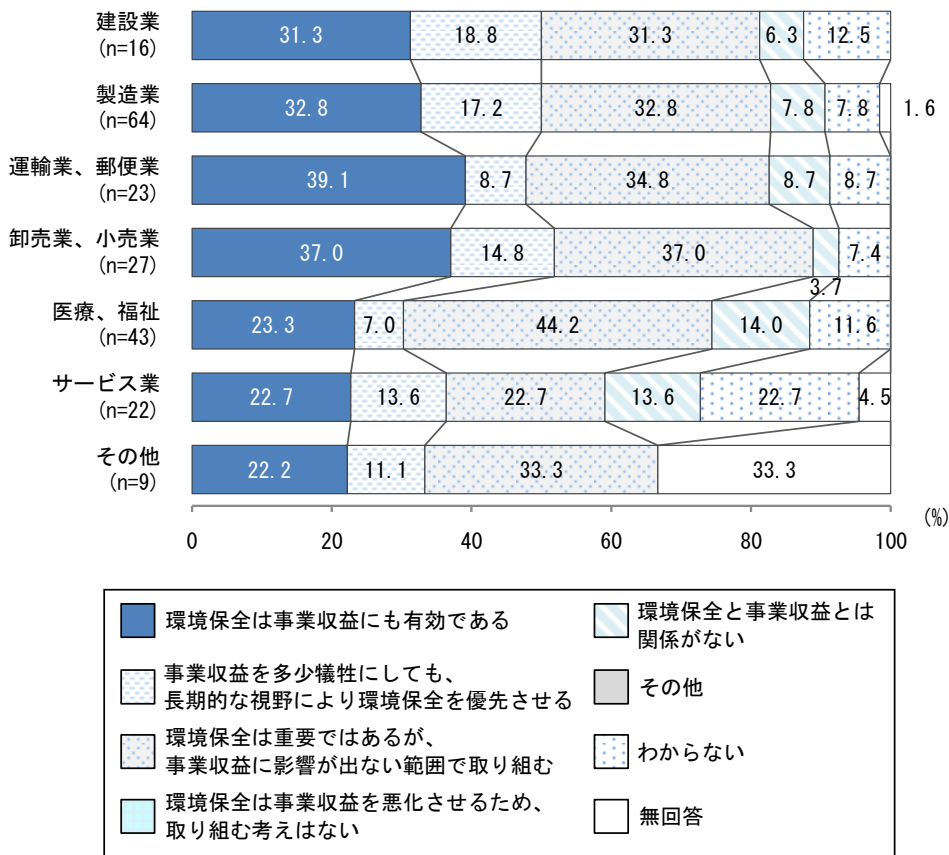
※ 「行っていない」（「従業員に対する環境教育は行っていない」）

(7) 環境保全への取組と事業収益との関係

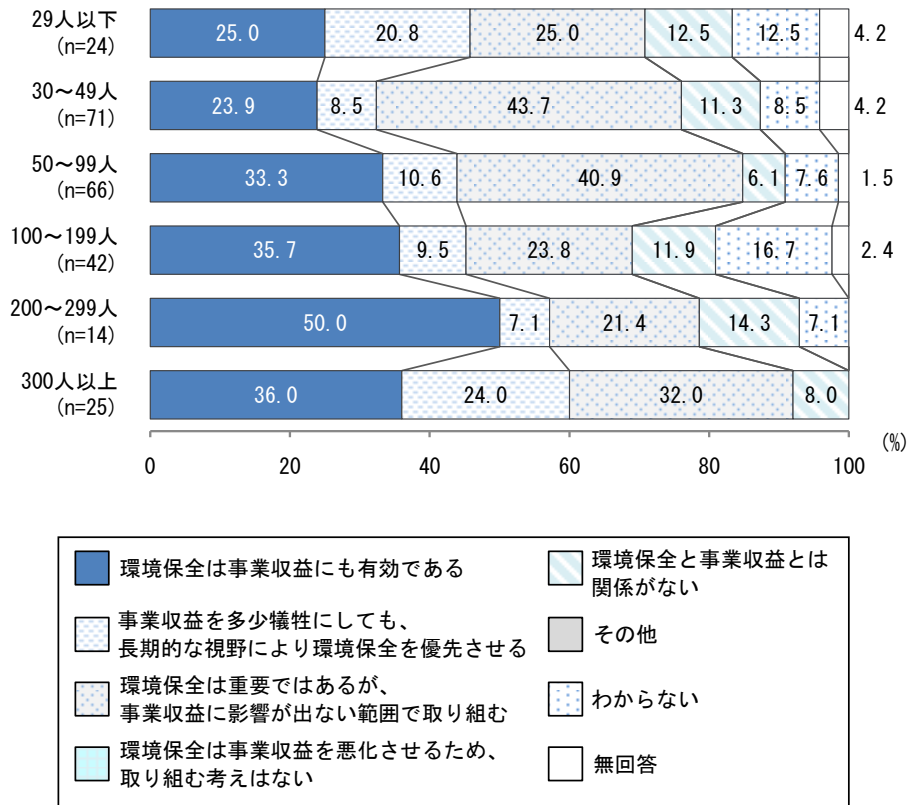
問7 環境保全への取組と事業収益との関係について、どのようにお考えですか。【○は1つ】



【図表 環境保全への取組と事業収益との関係（業種別）】



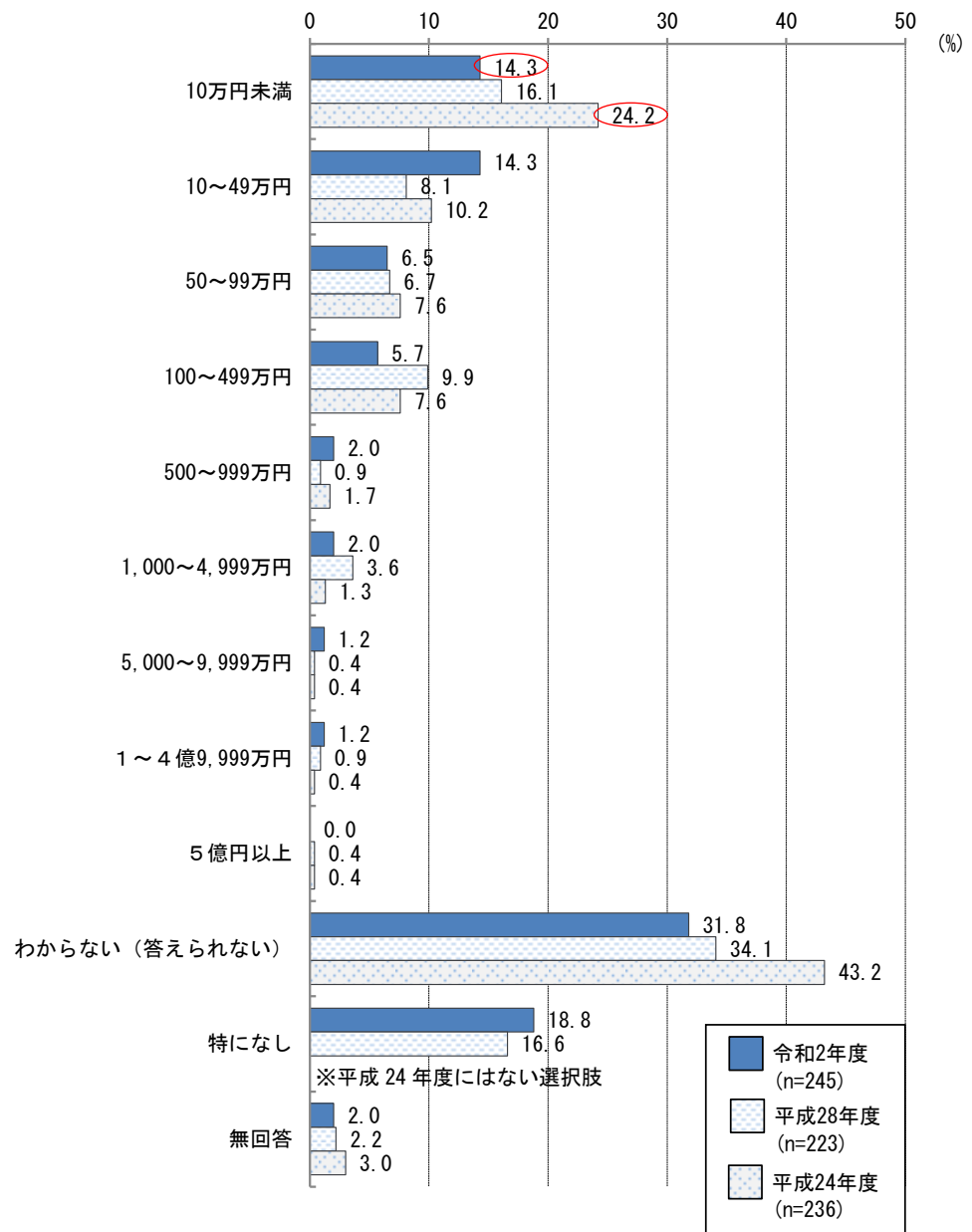
【図表 環境保全への取組と事業収益との関係（従業員数別）】



結果の要点	
令和2年度回答	「環境保全は重要ではあるが、事業収益に影響が出ない範囲で取り組む」との回答が35.1%と最も高く、次いで「環境保全は事業収益にも有効である」(31.4%)、「事業収益を多少犠牲にしても、長期的な視野により環境保全を優先させる」(11.8%)などの順となっている。
経年比較	「環境保全は事業収益にも有効である」との回答は今回調査(31.4%)が平成24年度調査(19.1%)を12.3ポイント上回っている。また、「環境保全と事業収益とは関係がない」との回答は今回調査(10.2%)が平成24年度調査(15.3%)を5.1ポイント下回っている。
業種別	「環境保全は事業収益にも有効である」で「運輸業、郵便業」(39.1%)、「卸売業、小売業」(37.0%)、「環境保全は重要ではあるが、事業収益に影響が出ない範囲で取り組む」で「医療、福祉」(44.2%)が高くなっている。
従業員数	「環境保全は事業収益にも有効である」で「200~299人」(50.0%)、「環境保全は重要ではあるが、事業収益に影響が出ない範囲で取り組む」で「30~49人」(43.7%)、「50~99人」(40.9%)が高くなっている。

(8) 年間の環境保全対策費

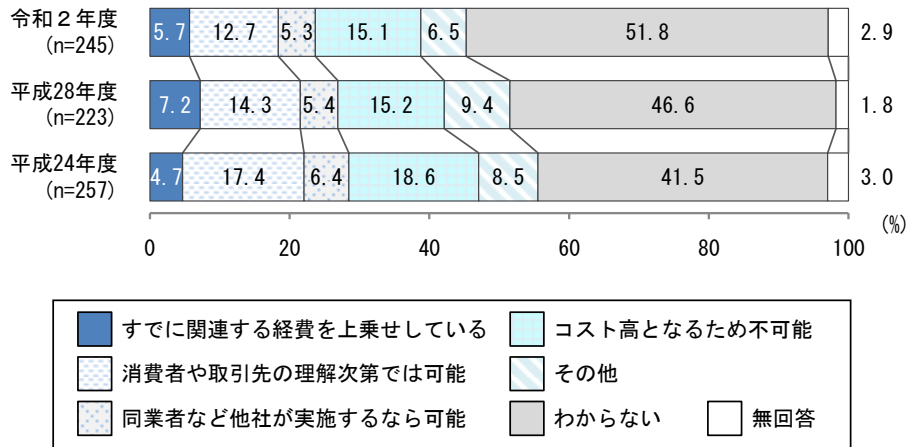
問8 貴事業所の現在の環境保全対策費（廃棄物の処理費用を除く。）は年間でおよそどの程度ですか。【〇は1つ】



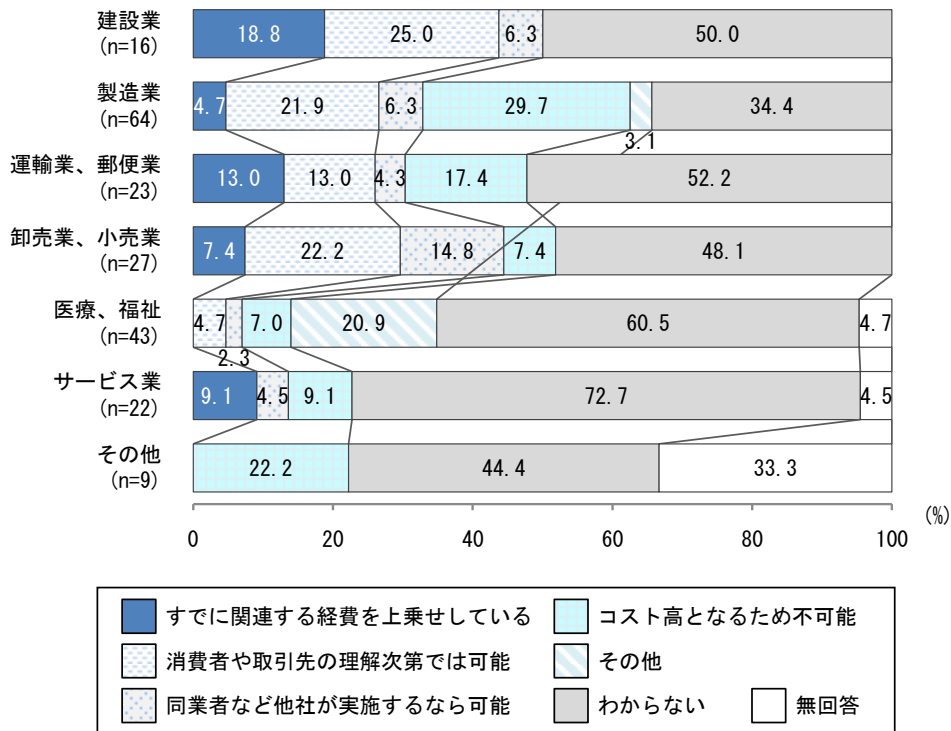
結果の要点	
令和2年度回答	「10万円未満」、「10～49万円」との回答がともに14.3%と最も高く、次いで「50～99万円」(6.5%)などの順となっている。
経年比較	「10万円未満」との回答は今回調査(14.3%)が平成24年度調査(24.2%)を9.9ポイント下回っている。

(9) 製品やサービスの価格に、環境保全対策上の経費等を含めた販売の可否

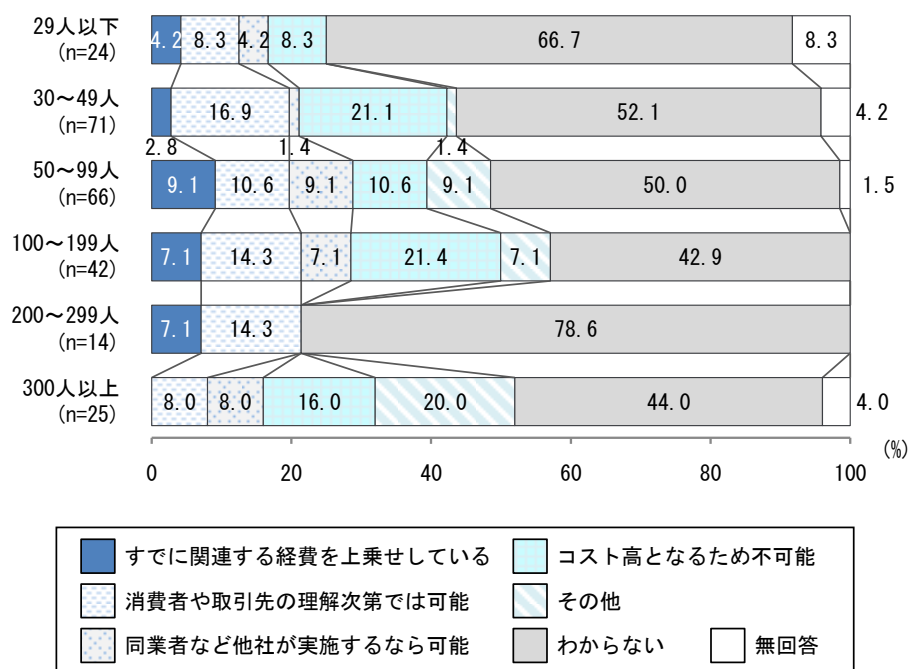
問9 貴事業所の製品やサービスの価格に、環境保全対策上の経費やリサイクルに要する経費などを含めて販売することは可能ですか。【○は1つ】



【図表 製品やサービスの価格に、環境保全対策上の経費等を含めた販売の可否（業種別）】



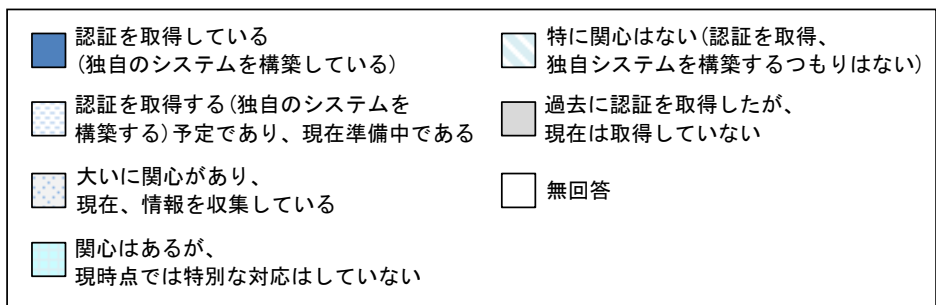
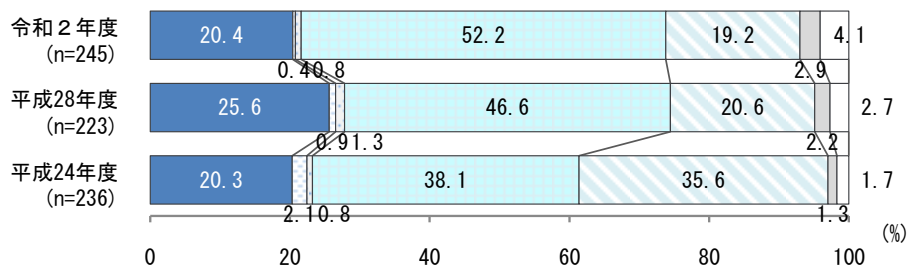
【図表 製品やサービスの価格に、環境保全対策上の経費等を含めた販売の可否（従業員数別）】



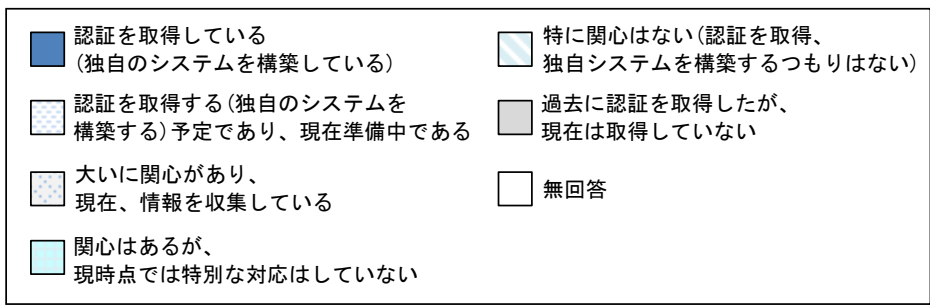
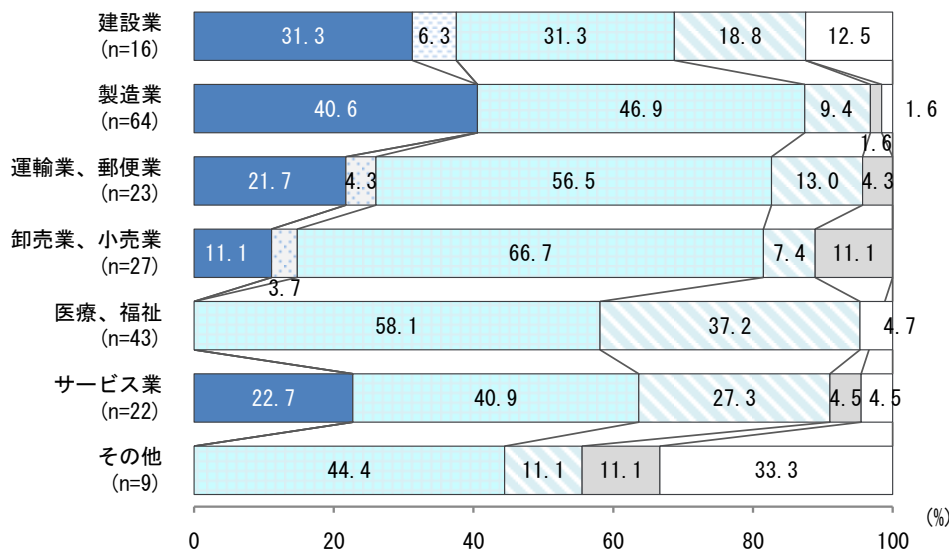
	結果の要点
令和2年度回答	「わからない」との回答が51.8%と最も高く、次いで「コスト高となるため不可能」(15.1%)、「消費者や取引先の理解次第では可能」(12.7%)などの順となっている。
経年比較	平成24年度調査から大きな差はほぼみられない。
業種別	「すでに関連する経費を上乗せしている」で「建設業」(18.8%)、「消費者や取引先の理解次第では可能」で「建設業」(25.0%)、「コスト高となるため不可能」で「製造業」(29.7%)が高くなっている。
従業員数別	「すでに関連する経費を上乗せしている」で「50~99人」(9.1%)、「消費者や取引先の理解次第では可能」で「30~49人」(16.9%)、「100~199人」、「200~299人」(ともに14.3%)、「コスト高となるため不可能」で「30~49人」(21.1%)、「100~199人」(21.4%)が高くなっている。

(10) 環境マネジメントシステムの取組状況

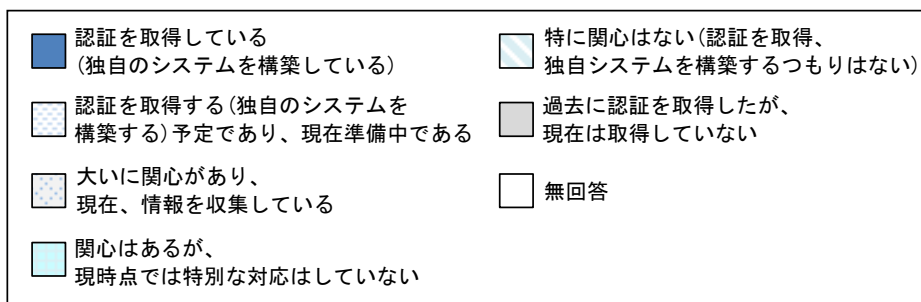
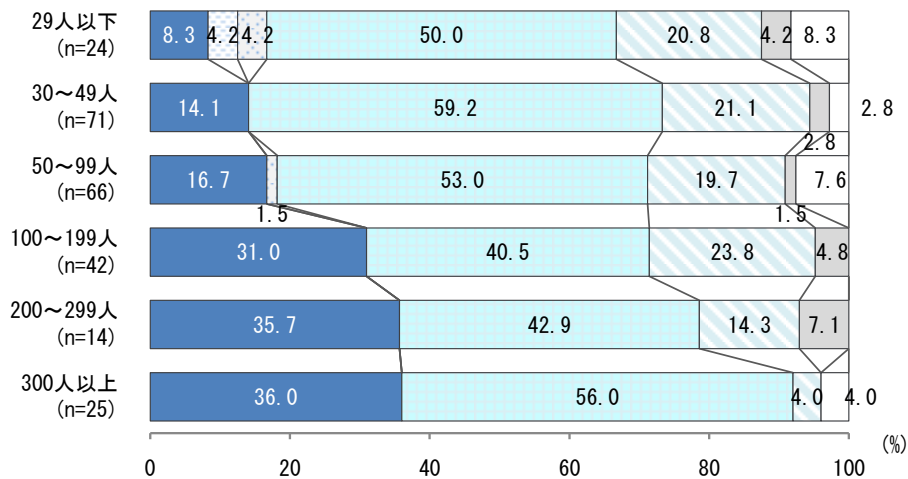
問 10 環境マネジメントシステム(ISO14001やエコアクション21、岡山エコ事業所など)について、貴事業所はどのように取り組まれていますか。【〇は1つ】



【図表 環境マネジメントシステムの取組状況 (業種別)】



【図表 環境マネジメントシステムの取組状況（従業員数別）】

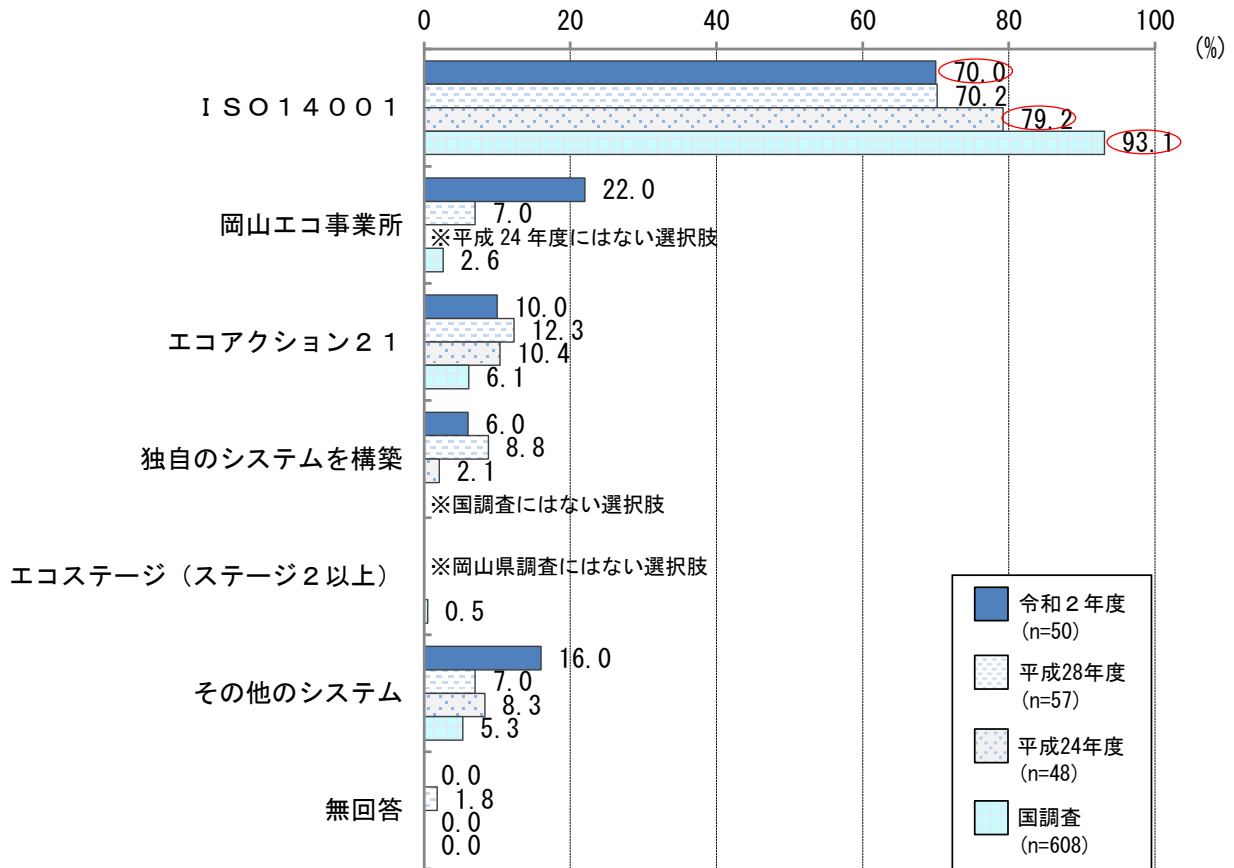


	結果の要点
令和2年度 回答	「関心はあるが、現時点では特別な対応はしていない」との回答が52.2%と最も高く、次いで「認証を取得している(独自のシステムを構築している)」(20.4%)、「特に関心はない(認証を取得、独自システムを構築するつもりはない)」(19.2%)などの順となっている。
経年比較	「関心はあるが、現時点では特別な対応はしていない」との回答は今回調査(52.2%)が平成24年度調査(38.1%)を14.1ポイントが上回っている。また、「特に関心はない(認証を取得、独自システムを構築するつもりはない)」との回答は今回調査(19.2%)が平成24年度調査(35.6%)を16.4ポイント下回っている。
業種別	「認証を取得している(独自のシステムを構築している)」で「製造業」(40.6%)、「関心はあるが、現時点では特別な対応はしていない」で「運輸業、郵便業」(56.5%)、「卸売業、小売業」(66.7%)、「医療、福祉」(58.1%)、特に関心はない(認証を取得、独自システムを構築するつもりはない)」で「医療、福祉」(37.2%)が高くなっている。
従業員数別	「認証を取得している(独自のシステムを構築している)」で「100~199人」(31.0%)、「200~299人」(35.7%)、「300人以上」(36.0%)、「関心はあるが、現時点では特別な対応はしていない」で「30~49人」(59.2%)が高くなっている。

(11) 環境マネジメントシステムの形態

問10で「1. 認証を取得している（独自のシステムを構築している）」を回答した方におたずねします
 問11 貴事業所での、環境マネジメントシステムはどのような形態ですか。

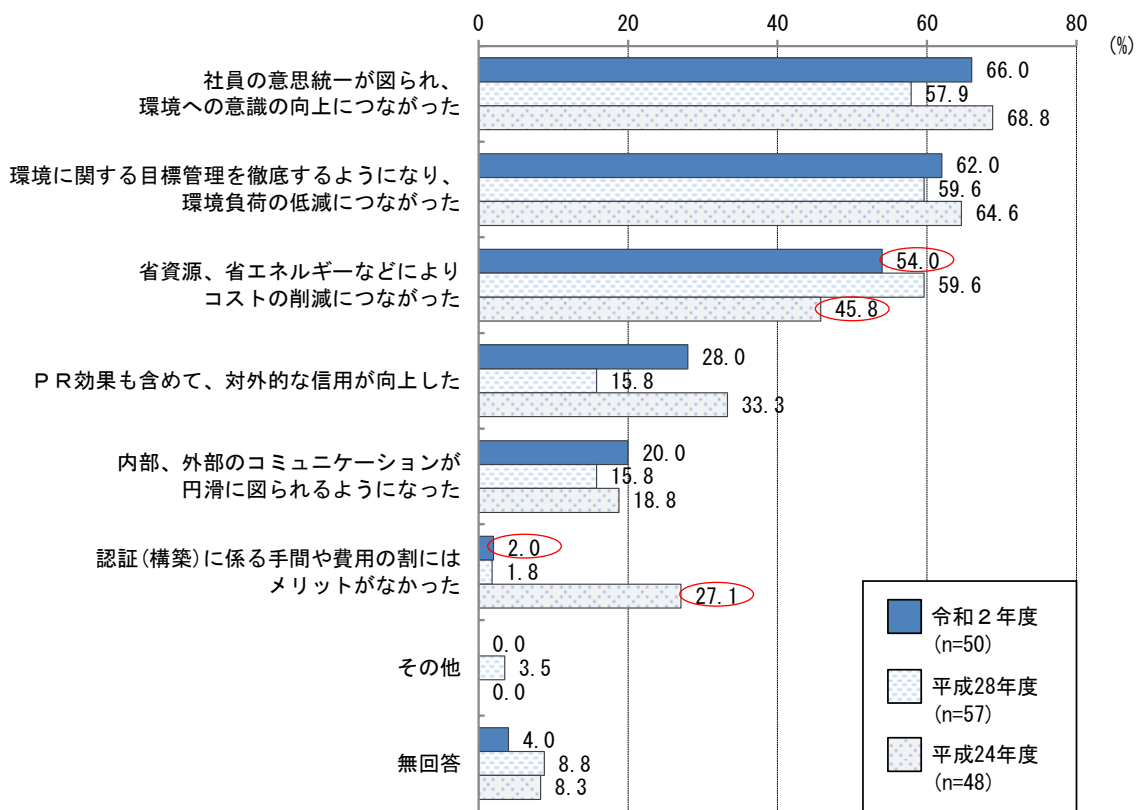
【〇はあてはまるものすべて】



結果の要点	
令和2年度回答	「ISO14001」との回答が70.0%と最も高く、次いで「岡山エコ事業所」(22.0%)、「その他のシステム」(16.0%)などの順となっている。
経年比較	「ISO14001」との回答は今回調査(70.0%)が平成24年度調査(79.2%)を9.2ポイント下回っている。
国比較	「ISO14001」との回答は今回調査(70.0%)が国調査(93.1%)を23.1ポイント下回っている。

(12) 環境マネジメントシステム認証取得による効果

問10で「1. 認証を取得している（独自のシステムを構築している）」を回答した方におたずねします
 問12 貴事業所では、認証の取得(独自システムの構築)によりどのような効果がありましたか。
 【〇はあてはまるものすべて】



結果の要点	
令和2年度回答	「社員の意思統一が図られ、環境への意識の向上につながった」との回答が66.0%と最も高く、次いで「環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷の低減につながった」(62.0%)、「省資源、省エネルギーなどによりコストの削減につながった」(54.0%)などの順となっている。
経年比較	「省資源、省エネルギーなどによりコストの削減につながった」との回答は今回調査(54.0%)が平成24年度調査(45.8%)を8.2ポイント上回っている。また、「認証(構築)に係る手間や費用の割にはメリットがなかった」との回答は今回調査(2.0%)が平成24年度調査(27.1%)を25.1ポイント下回っている。

(13) 環境マネジメントシステムを取得していない理由

問10で「5. 特に関心はない」または「6. 過去に認証を取得したが、現在は取得していない」を回答した方におたずねします

問13 その理由を教えてください。

① 必要性を感じない、メリットがない（9件）

本社支社	業種	自由意見
支社	その他	大きなメリットがない。維持にコストがかかる。
本社	建設業	今は必要と感じないから。
支社	建設業	以前実施していたが、メリットが無いため。
本社	サービス業	必要性がわからない。

② 本社・親会社の方針（7件）

本社支社	業種	自由意見
本社	情報通信業	弊社は子会社であるため、親会社の方針によることになる。
支社	医療、福祉	代表取締役より特に現在は指示がないため。
支社	サービス業	会社としてISOは取り組んでいない。

③ 知識不足、情報不足（6件）

本社支社	業種	自由意見
本社	医療、福祉	よく知らないし、わからないため。
本社	医療、福祉	取り組み方がわからない。
支社	医療、福祉	今ひとつわかっていない。無関心であることが良くない。

④ 一般企業ではない（4件）

本社支社	業種	自由意見
本社	教育・学習支援業	学校なので、地域や生徒への配慮は当然だと考えているが、一般企業とは考え方は異なると思う。
支社	医療、福祉	私共の業種が、福祉施設であり、業務的に環境マネジメントに取り組んでいない。協力出来る内容であれば、協力していきたい。

⑤ 時間や手間がかかる（3件）

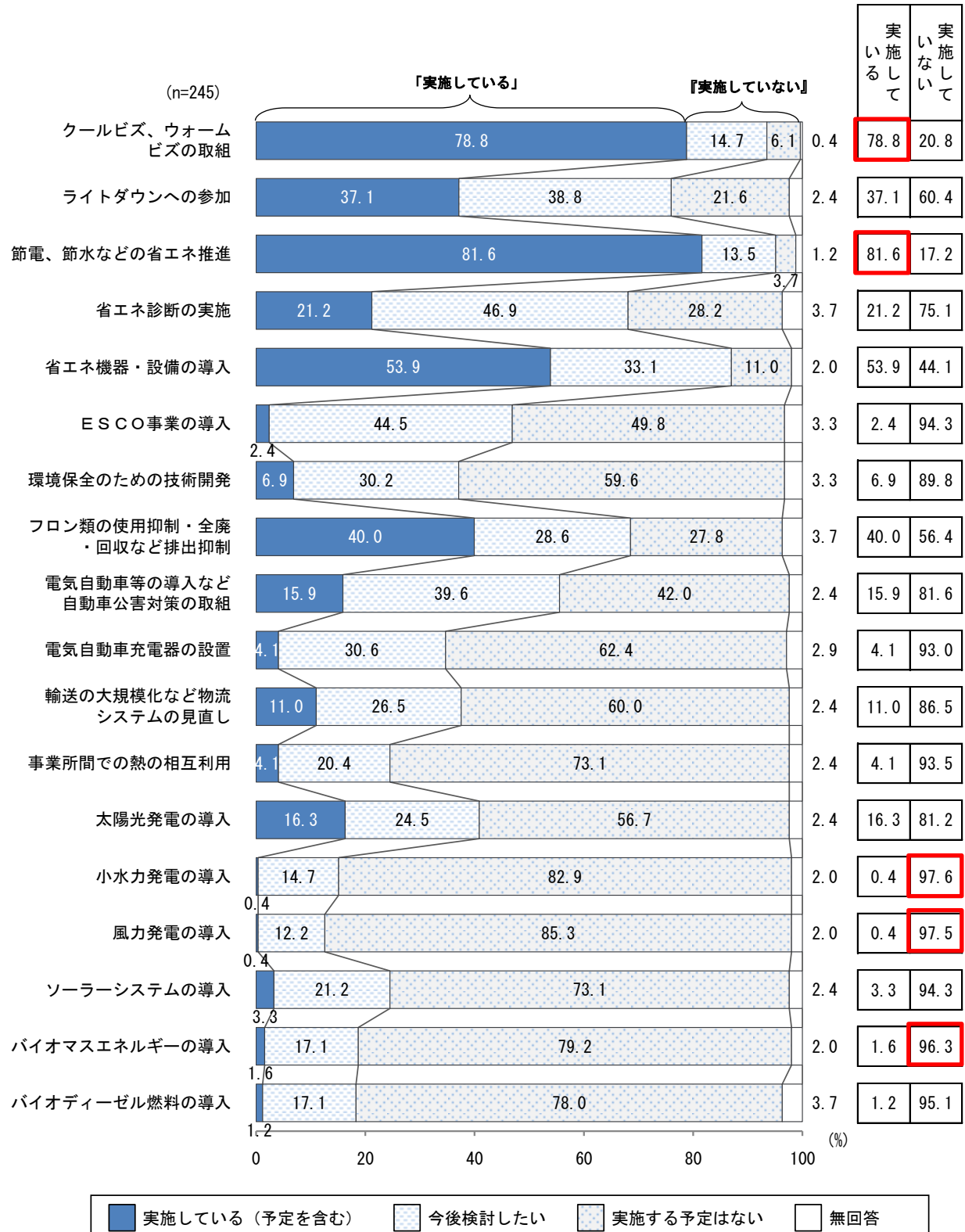
本社支社	業種	自由意見
支社	サービス業	手間がかかる。時間が必要。
本社	医療、福祉	コロナ対策で院内がバタバタしている中、環境保全の業務にまで取り組む余裕がない。
本社	医療、福祉	業務の中で、そこまでの余力がない。

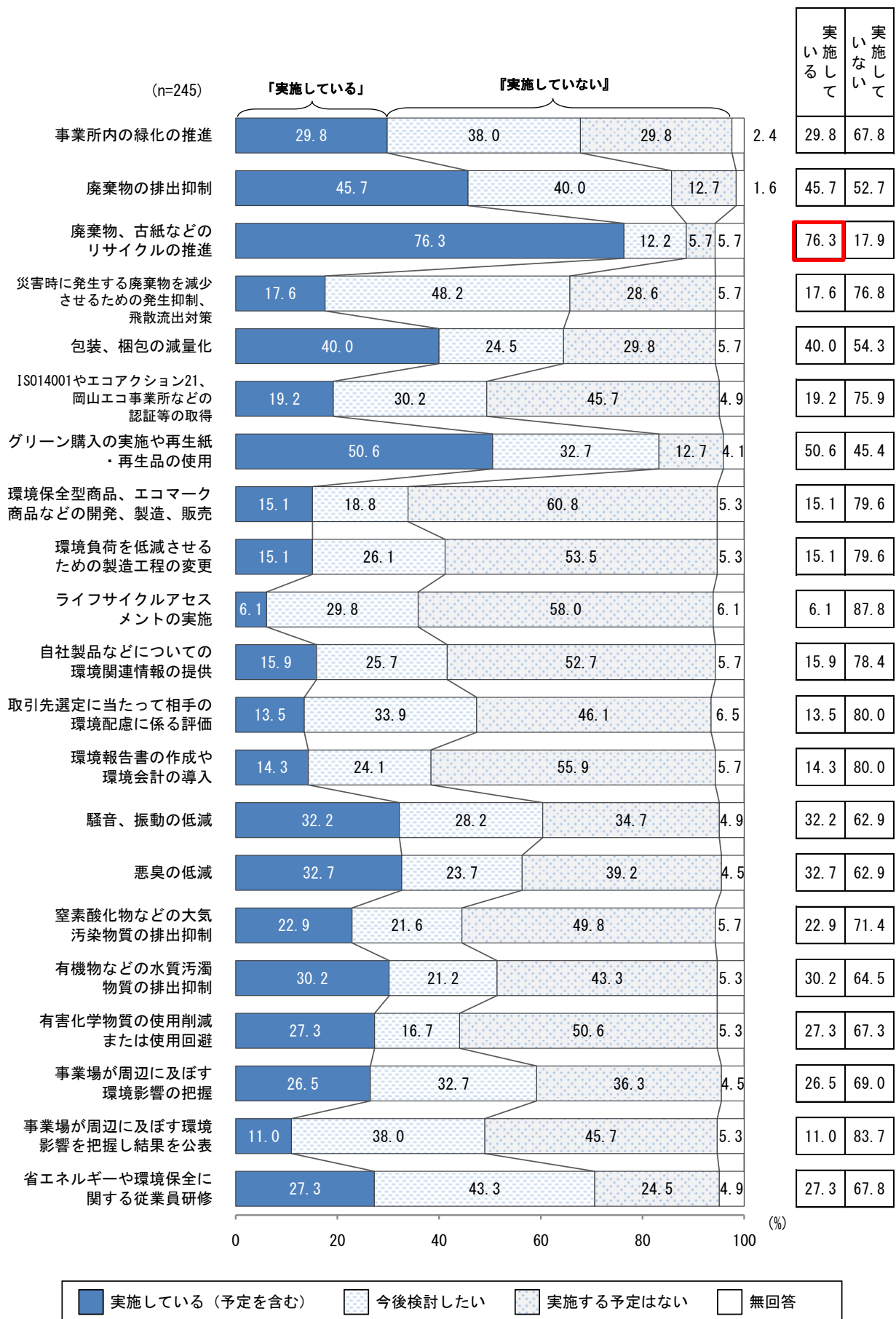
⑥ 費用がかかる（1件）

本社支社	業種	自由意見
支社	その他	大きなメリットがない。維持にコストがかかる。

(14) 環境に配慮した取組の実施状況と実施しない理由

問14 貴事業所では、次にあげる環境への配慮に関する項目について、実施状況は1～3のどれにあてはまりますか。
 また、「実施する予定はない」とした項目について、その理由は1～6のどれにあてはまりますか。【〇はそれぞれ1つ】



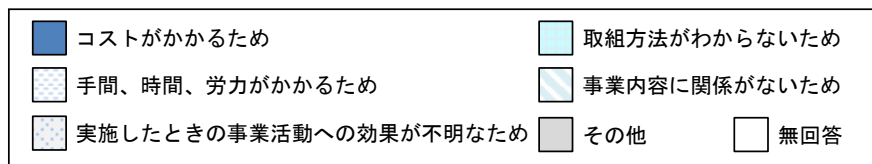
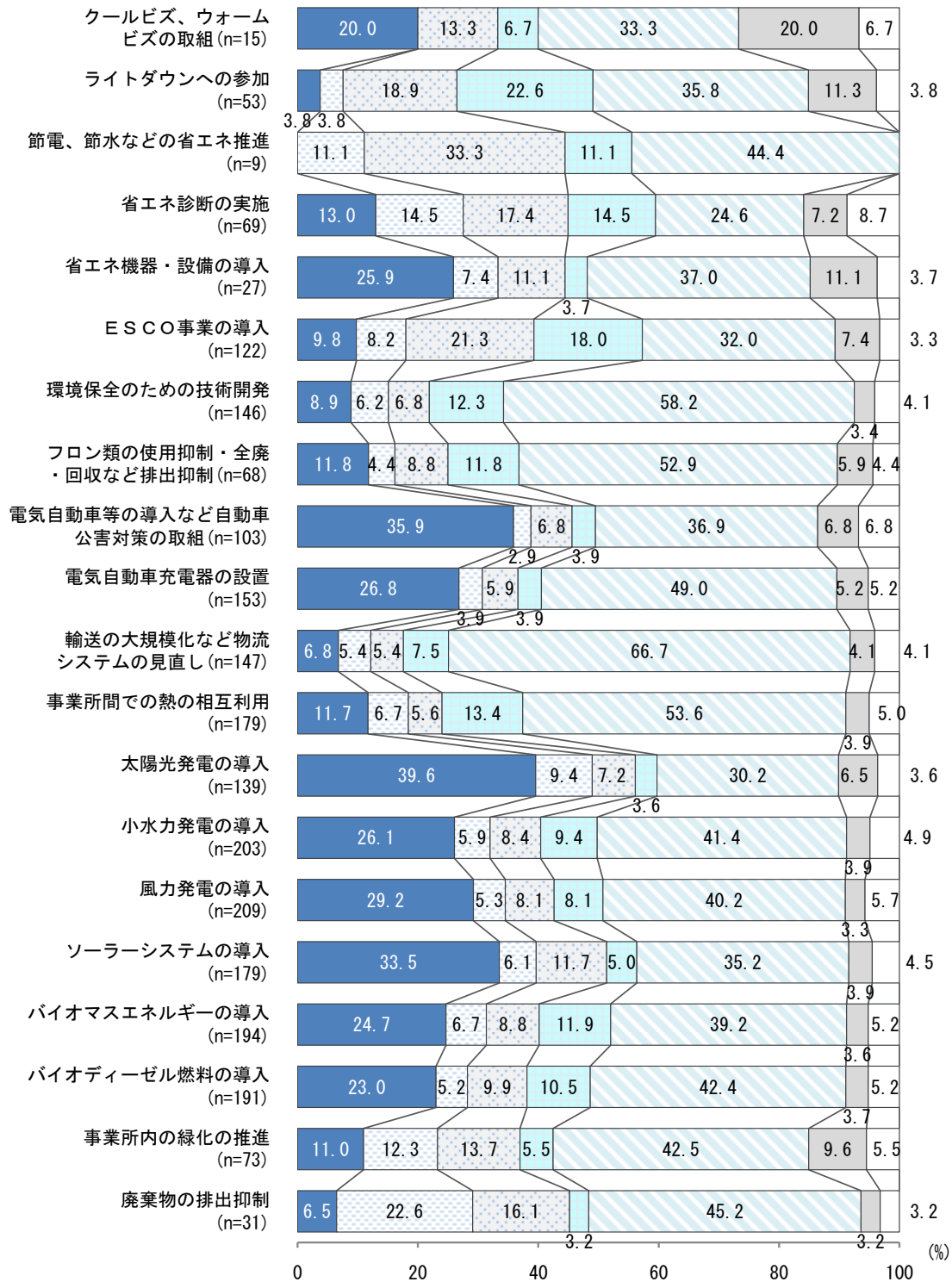


	結果の要点
令和2年度 回答	<p>「実施している」では「節電、節水などの省エネ推進」との回答が81.6%と最も高く、次いで「クールビズ、ウォームビズの取組」(78.8%)、「廃棄物、古紙などのリサイクルの推進」(76.3%)、「省エネ機器・設備の導入」(53.9%)、「グリーン購入の実施や再生紙・再生品の使用」(50.6%)、「廃棄物の排出抑制」(45.7%)、「フロン類の使用抑制・全廃・回収など排出抑制」(40.0%)、「包装、梱包の減量化」(40.0%)、「ライトダウンへの参加」(37.1%)、「悪臭の低減」(32.7%)などの順となっている。</p> <p>『実施していない』では「小水力発電の導入」との回答が97.6%と最も高く、次いで「風力発電の導入」(97.5%)、「バイオマスエネルギーの導入」(96.3%)、「バイオディーゼル燃料の導入」(95.1%)、「ソーラーシステムの導入」(94.3%)、「E S C O事業の導入」(94.3%)、「事業所間での熱の相互利用」(93.5%)、「電気自動車充電器の設置」(93.0%)、「環境保全のための技術開発」(89.8%)、「ライフサイクルアセスメントの実施」(87.8%)などの順となっている。</p>

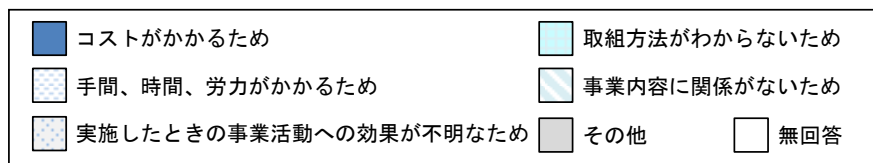
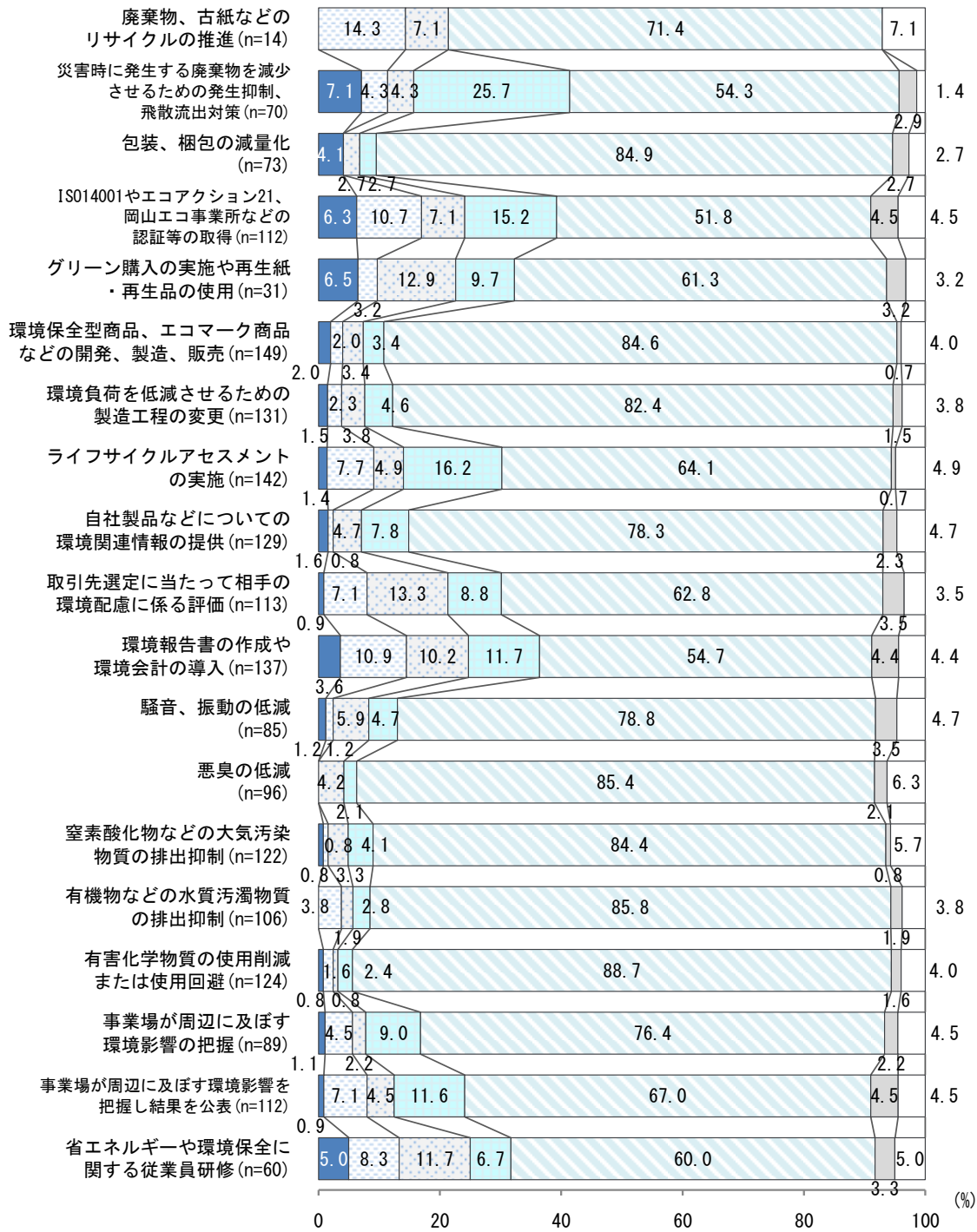
※「実施している」(「実施している(予定を含む)」)

※『実施していない』(「今後検討したい」と「実施する予定はない」を合わせた割合)

【図表 実施する予定がない理由】



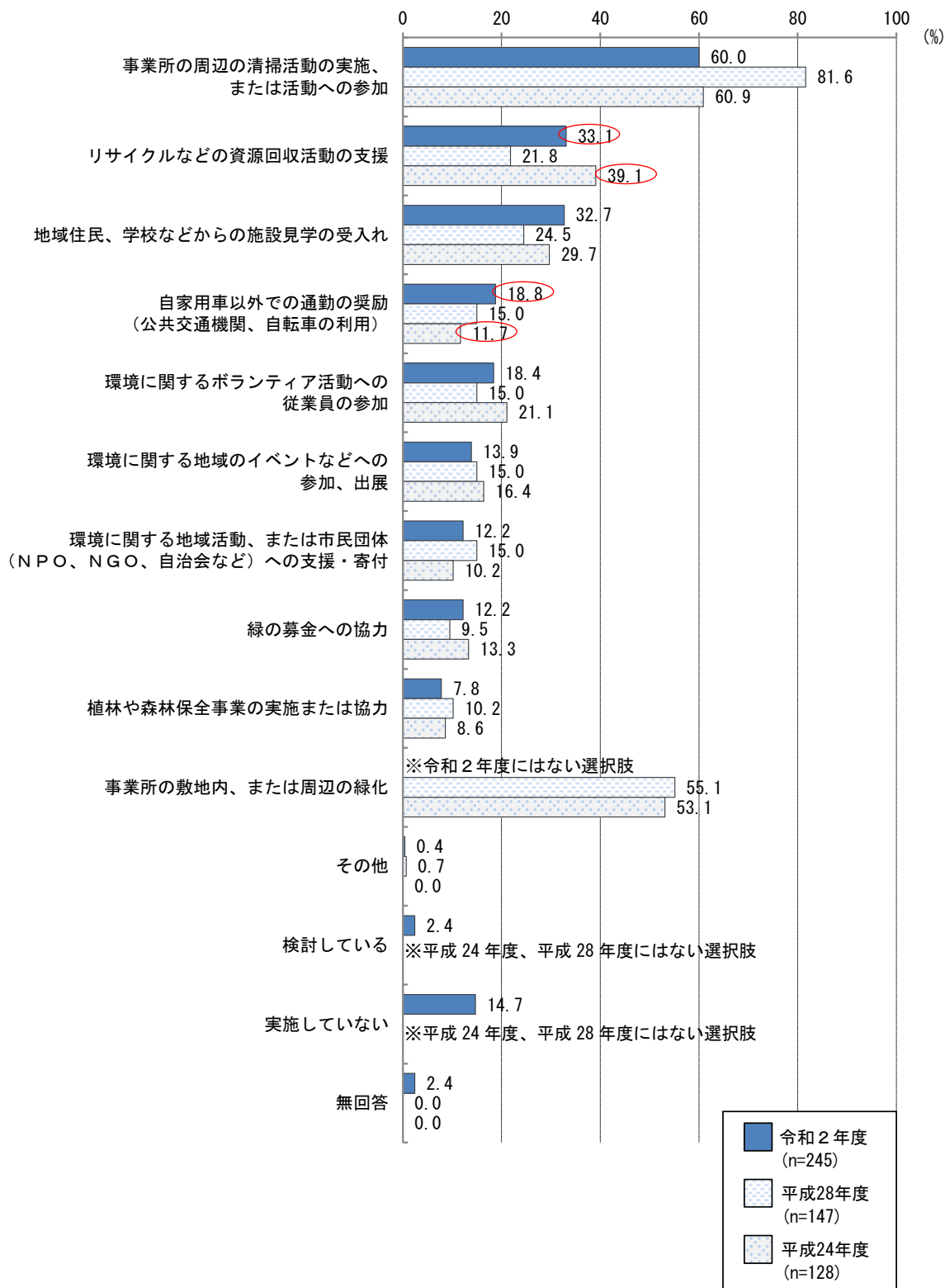
【図表 実施する予定がない理由】



	結果の要点
令和2年度 回答	<p>「コストがかかるため」では「太陽光発電の導入」との回答が39.6%と最も高く、次いで「電気自動車等の導入など自動車公害対策の取組」(35.9%)、「ソーラーシステムの導入」(33.5%)、「風力発電の導入」(29.2%)、「電気自動車充電器の設置」(26.8%)、「小水力発電の導入」(26.1%)、「省エネ機器・設備の導入」(25.9%)、「バイオマスエネルギーの導入」(24.7%)、「バイオディーゼル燃料の導入」(23.0%)、「クールビズ、ウォームビズの取組」(20.0%)などの順となっている。</p> <p>「手間、時間、労力がかかるため」では「廃棄物の排出抑制」との回答が22.6%と最も高く、次いで「省エネ診断の実施」(14.5%)、「廃棄物、古紙などのリサイクルの推進」(14.3%)、「事業所内の緑化の推進」(12.3%)、「節電、節水などの省エネ推進」(11.1%)、「環境報告書の作成や環境会計の導入」(10.9%)、「IS014001 やエコアクション 21、岡山エコ事業所などの認証等の取得」(10.7%)、「太陽光発電の導入」(9.4%)、「省エネルギーや環境保全に関する従業員研修」(8.3%)、「E S C O事業の導入」(8.2%)などの順となっている。</p> <p>「実施したときの事業活動への効果が不明なため」では「節電、節水などの省エネ推進」との回答が33.3%と最も高く、次いで「E S C O事業の導入」(21.3%)、「ライトダウンへの参加」(18.9%)、「省エネ診断の実施」(17.4%)、「廃棄物の排出抑制」(16.1%)、「事業所内の緑化の推進」(13.7%)、「クールビズ、ウォームビズの取組」(13.3%)、「取引先選定に当たって相手の環境配慮に係る評価」(13.3%)、「グリーン購入の実施や再生紙・再生品の使用」(12.9%)、「ソーラーシステムの導入」(11.7%)などの順となっている。</p> <p>「取組方法がわからないため」では、「災害時に発生する廃棄物を減少させるための発生抑制、飛散流出対策」との回答が25.7%と最も高く、次いで「ライトダウンへの参加」(22.6%)、「E S C O事業の導入」(18.0%)、「ライフサイクルアセスメントの実施」(16.2%)、「IS014001 やエコアクション 21、岡山エコ事業所などの認証等の取得」(15.2%)、「省エネ診断の実施」(14.5%)、「事業所間での熱の相互利用」(13.4%)、「環境保全のための技術開発」(12.3%)、「バイオマスエネルギーの導入」(11.9%)、「フロン類の使用抑制・全廃・回収など排出抑制」(11.8%)などの順となっている。</p>

(15) 環境に関する社会貢献活動の実施の有無

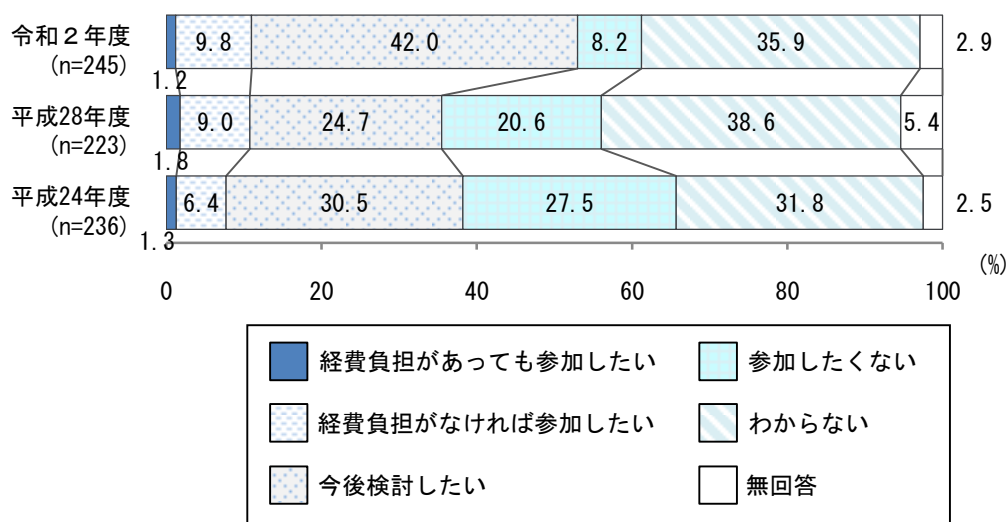
問15 貴事業所では、事業所の立地地域周辺で、次にあげる環境に関する社会貢献活動を実施していますか。【〇はあてはまるものすべて】



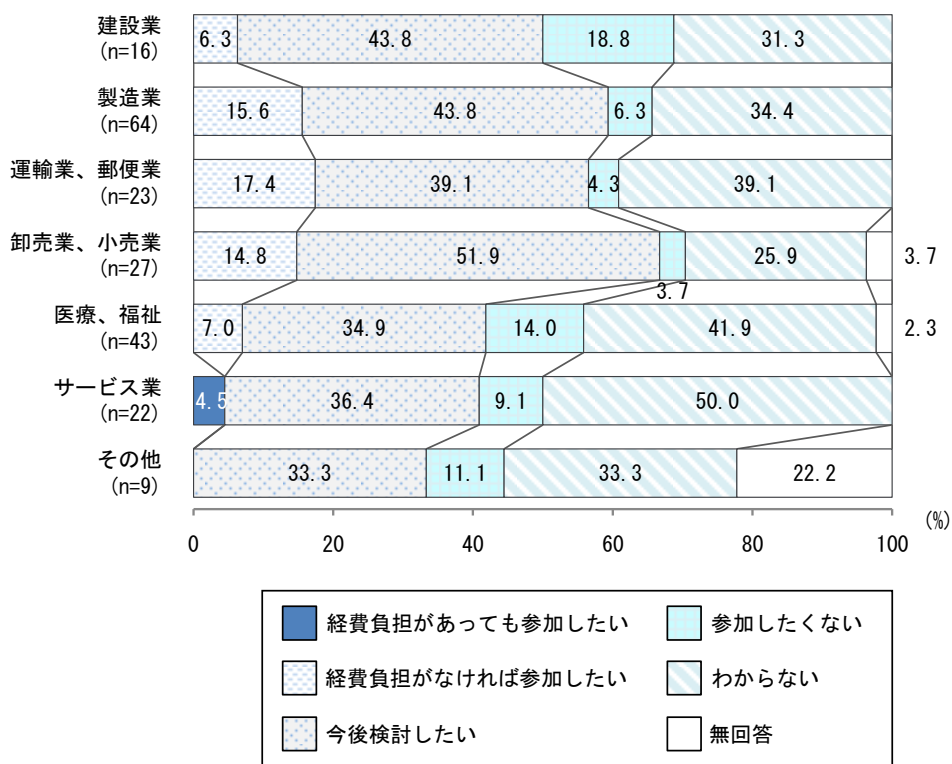
	結果の要点
令和2年度 回答	「事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加」との回答が60.0%と最も高く、次いで「リサイクルなどの資源回収活動の支援」(33.1%)、「地域住民、学校などからの施設見学の受入れ」(32.7%)などの順となっている。
経年比較	「リサイクルなどの資源回収の支援」との回答は今回調査(33.1%)が平成24年度調査(39.1%)を6.0ポイント下回っている。また、「自家用車以外での通勤の奨励(公共交通機関、自転車の利用)」との回答は、今回調査(18.8%)が平成24年度調査(11.7%)を7.1ポイント上回っている。

(16) 環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場への参加意向

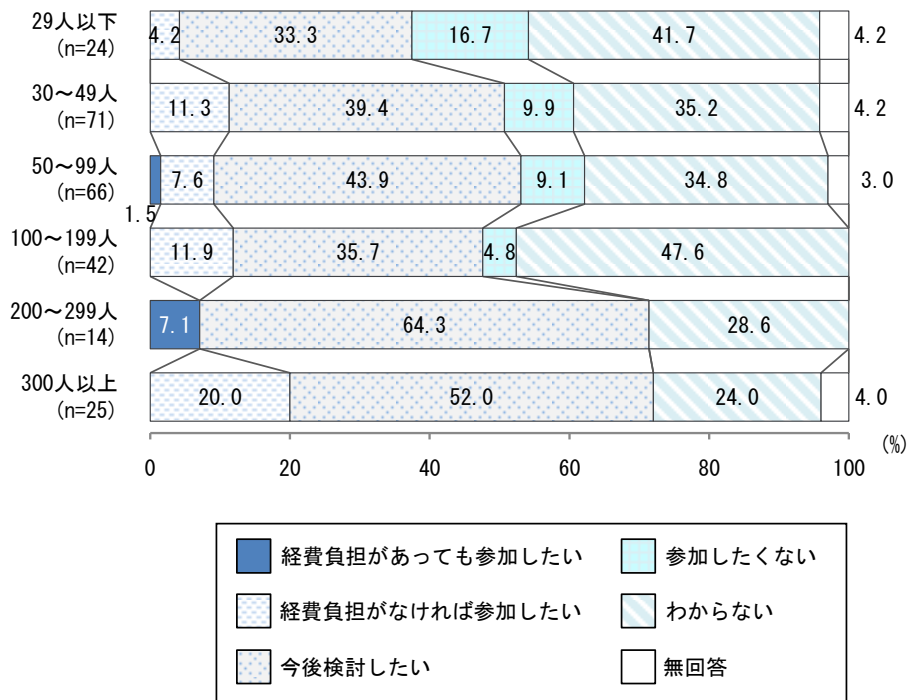
問16 環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場があれば参加したいですか。【〇は1つ】



【図表 環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場への参加意向（業種別）】



【図表 環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場への参加意向（従業員数別）】

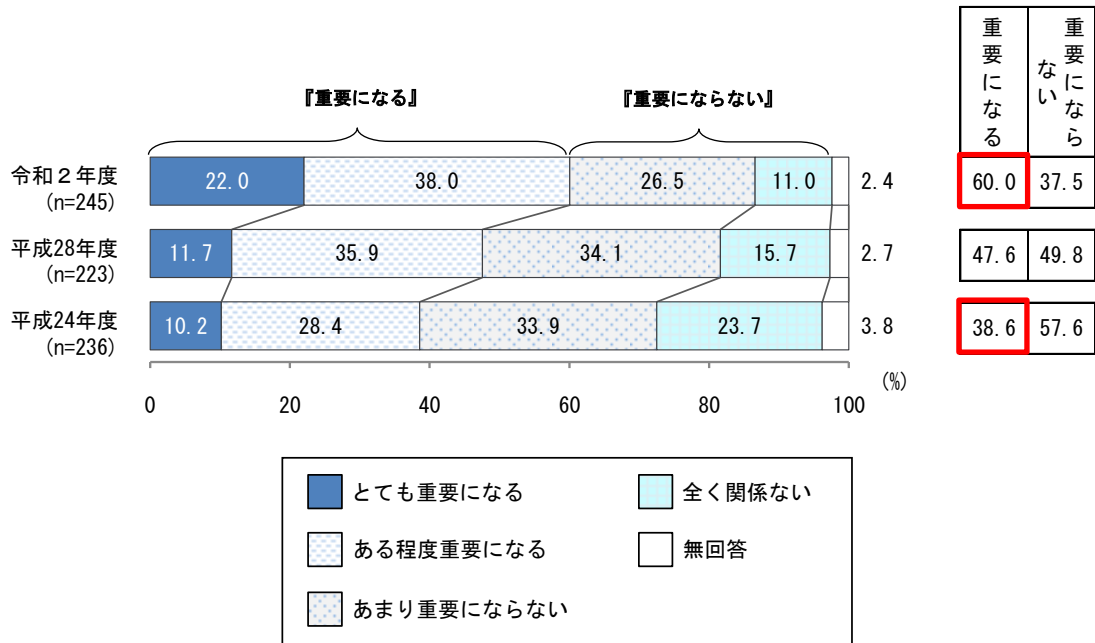


	結果の要点
令和2年度回答	「今後検討したい」との回答が42.0%と最も高く、次いで「経費負担がなければ参加したい」(9.8%)、「参加したくない」(8.2%)などの順となっている。
経年比較	「今後検討したい」との回答は今回調査(42.0%)が平成24年度調査(30.5%)を11.5ポイント上回っている。また「参加したくない」との回答は今回調査(8.2%)が平成24年度調査(27.5%)を19.3ポイント下回っている。
業種別	「経費負担があっても参加したい」で「サービス業」(4.5%)、「経費負担がなければ参加したい」が「運輸業、郵便業」(17.4%)、「今後検討したい」が「建設業」(43.8%)、「製造業」(43.8%)、「卸売業、小売業」(51.9%)、「参加したくない」が「建設業」(18.8%)「医療、福祉」(14.0%)が高くなっている。
従業員数別	「経費負担があっても参加したい」で「200人~299人」(7.1%)、「今後検討したい」が「200人~299人」(64.3%)、「参加したくない」で「29人以下」(16.7%)が高くなっている。

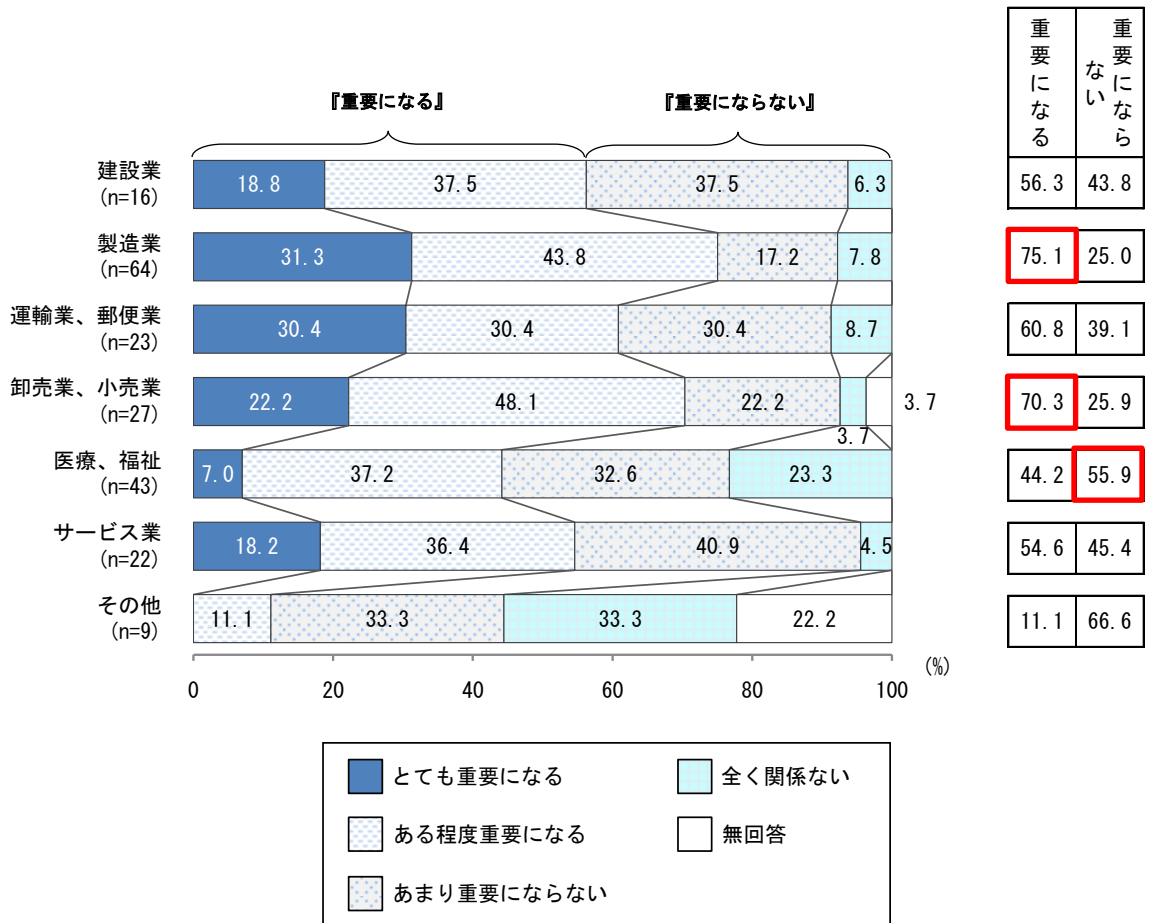
(17) 環境ビジネスの重要性

問17 環境ビジネスは、貴事業所の今後の経営にとって重要なものになるとお考えですか。

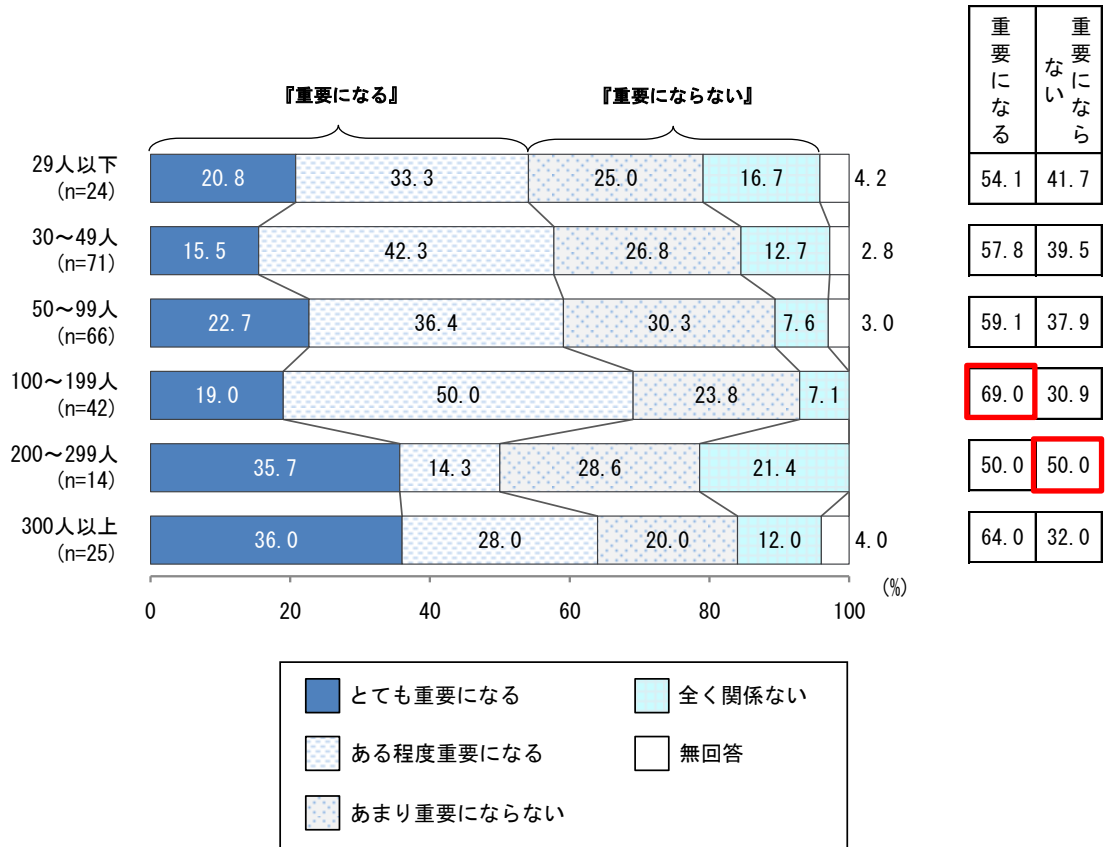
【〇は1つ】



【図表 環境ビジネスの重要性（業種別）】



【図表 環境ビジネスの重要性（従業員数別）】



	結果の要点
令和2年度回答	『重要になる』が60.0%、『重要にならない』が37.5%となっている。
経年比較	『重要になる』との回答は今回調査(60.0%)が平成24年度調査(38.6%)を12.4ポイント上回っている。
業種別	『重要になる』で「製造業」(75.1%)、「卸売業、小売業」(70.3%)、『重要にならない』で「医療、福祉」(55.9%)が高くなっている。
従業員数別	『重要になる』で「100人～199人」(69.0%)、『重要にならない』で「200人～299人」(50.0%)が高くなっている。

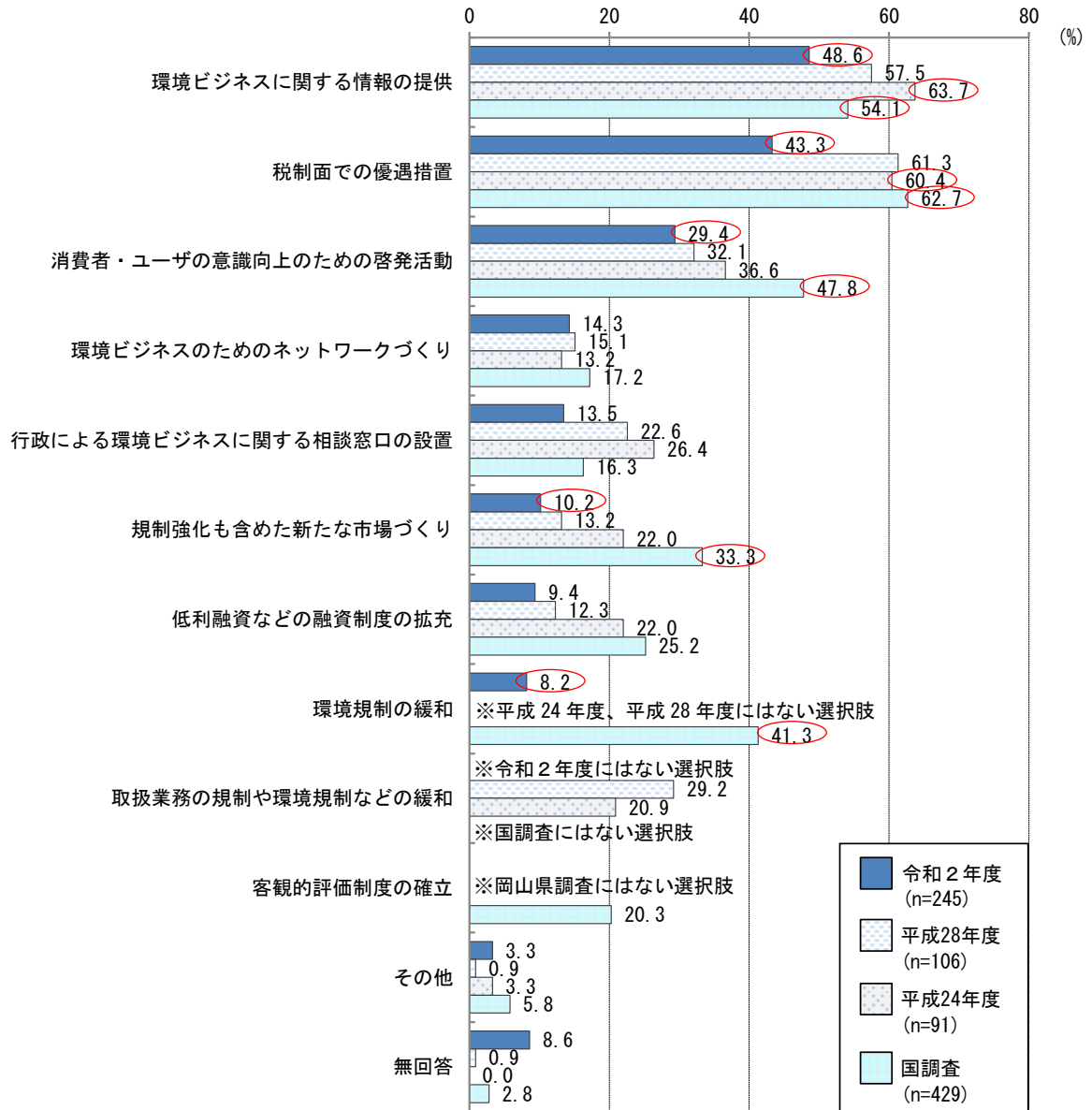
※『重要になる』（「とても重要になる」と「ある程度重要になる」を合わせた割合）

※『重要にならない』（「全く関係ない」と「あまり重要にならない」を合わせた割合）

(18) 環境ビジネスの進展のために行政に望むこと

問18 今後、貴事業所での環境ビジネスの進展のために行政にどのようなことを望みますか。

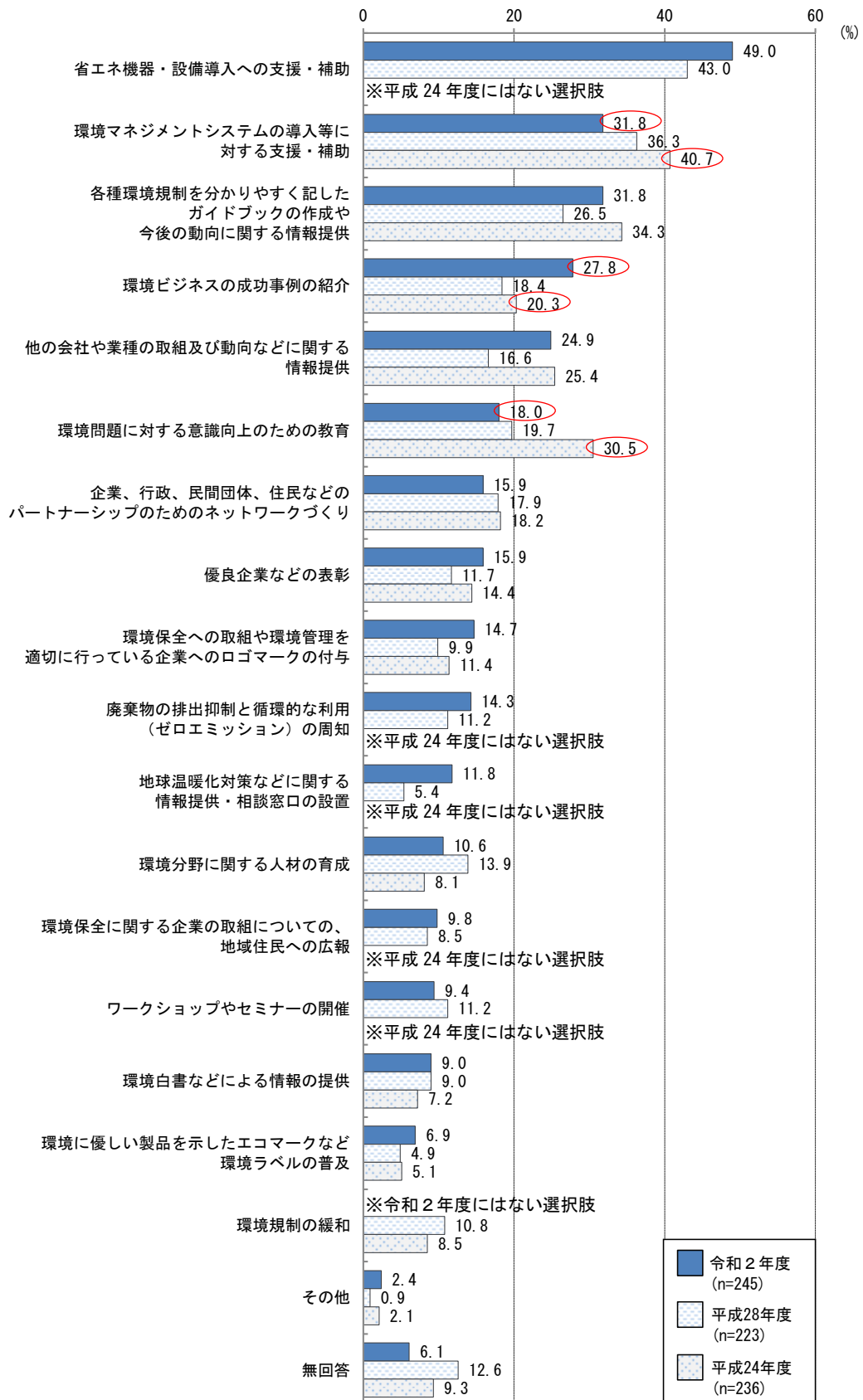
【〇はあてはまるものすべて】



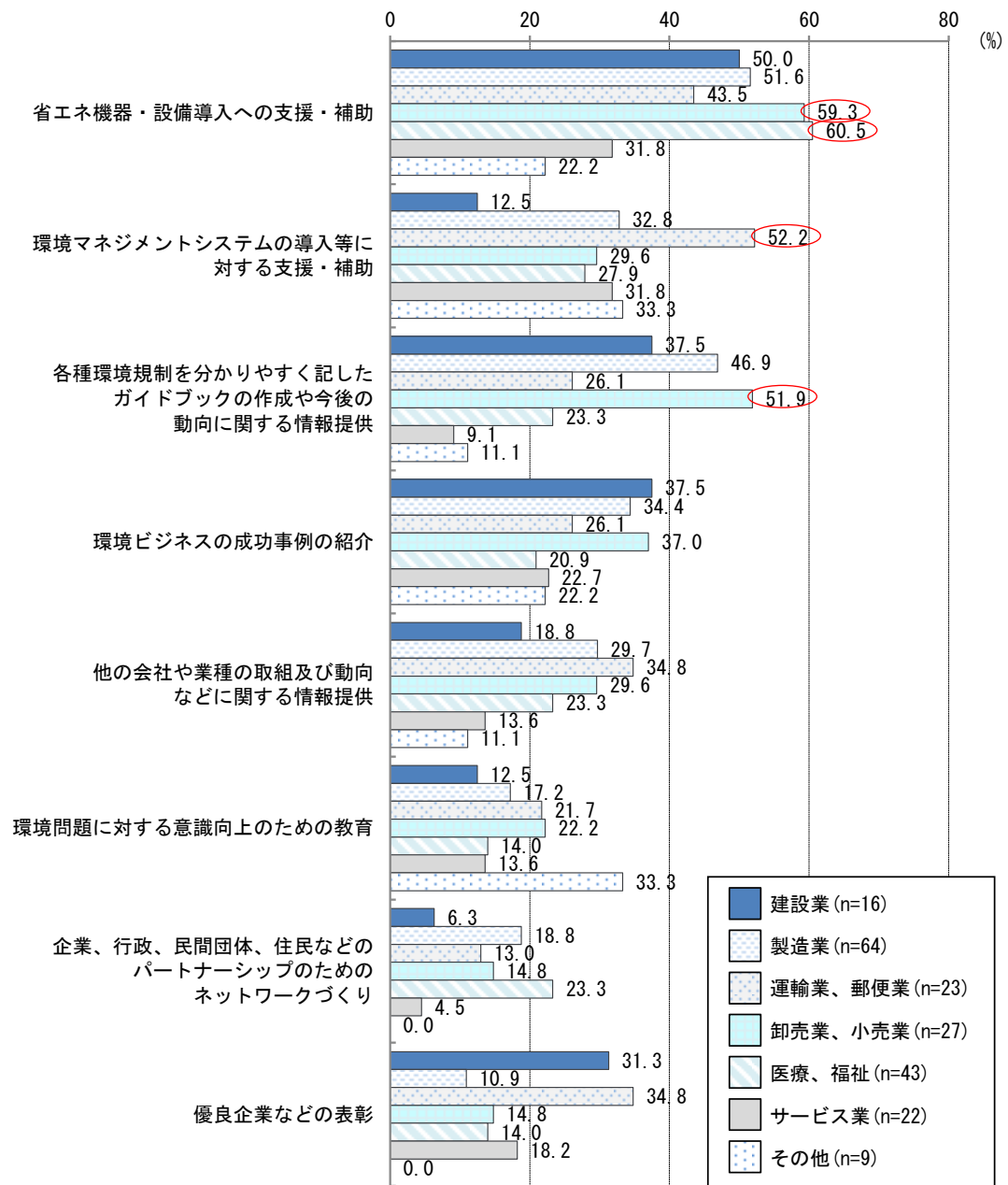
	結果の要点
令和2年度 回答	「環境ビジネスに関する情報の提供」との回答が48.6%と最も高く、次いで「税制面での優遇措置」(43.3%)、「消費者・ユーザの意識向上のための啓発活動」(29.4%)などの順となっている。
経年比較	「環境ビジネスに関する情報の提供」との回答は今回調査(48.6%)が平成24年度調査(63.7%)を15.1ポイント、「税制面での優遇措置」との回答は今回調査(43.3%)が平成24年度調査(60.4%)を17.1ポイント下回っている。
国比較	「税制面での優遇措置」との回答は今回調査(43.3%)が国調査(62.7%)を19.4ポイント、「消費者・ユーザの意識向上のための啓発活動」との回答は今回調査(29.4%)が国調査(47.8%)を18.4ポイント、「規制強化も含めた新たな市場づくり」との回答は今回調査(10.2%)が国調査(33.3%)を23.1ポイント、「環境規制の緩和」との回答は今回調査(8.2%)が国調査(41.3%)を33.1ポイント下回っている。

(19) 環境保全への取組を推進していくために行政に期待すること

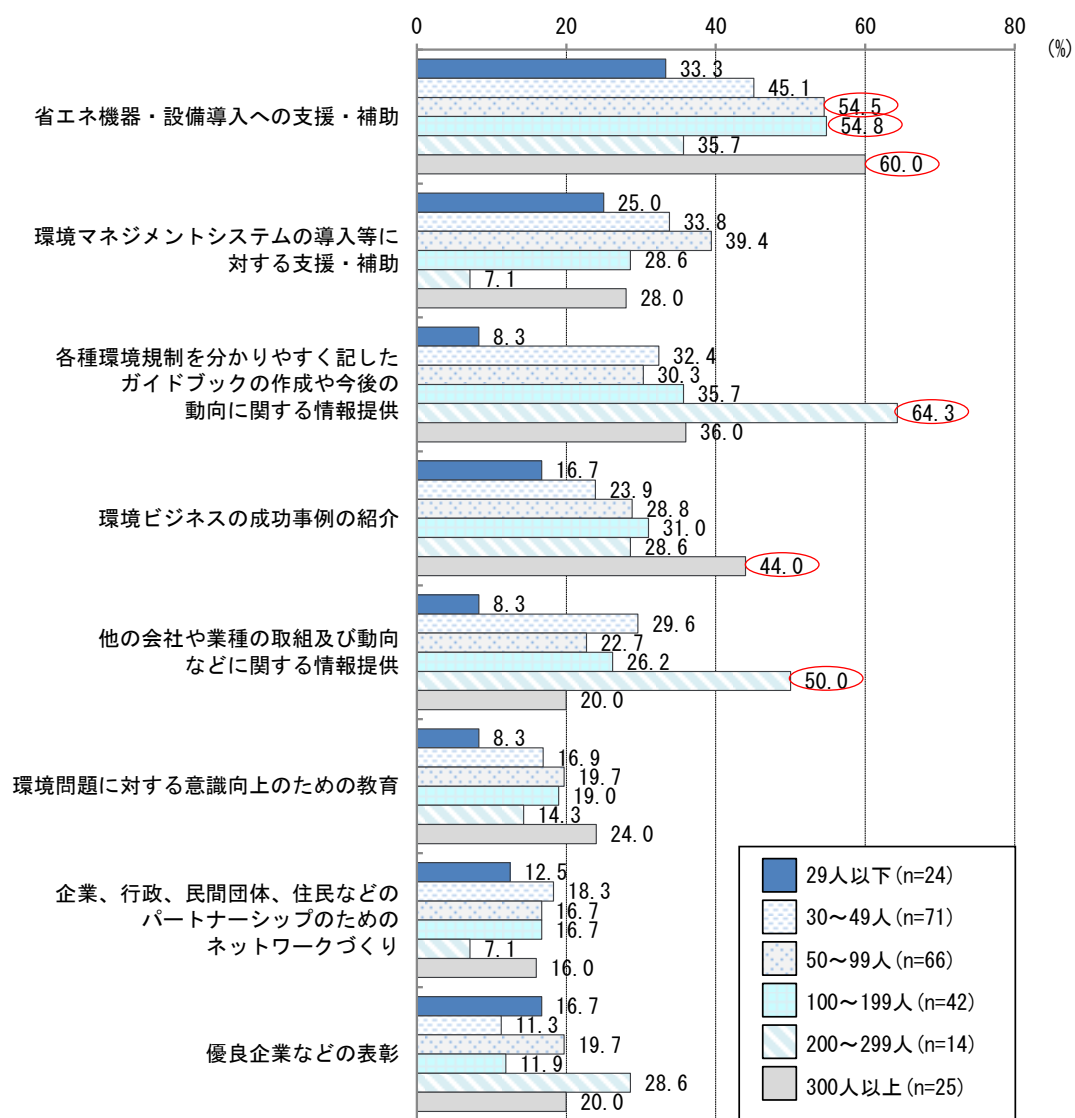
問19 貴事業所の自主的な環境保全への取組を推進していくために、行政にどのようなことを期待しますか。【〇はあてはまるものすべて】



【図表 環境保全への取組を推進していくために行政に期待すること（業種別）】



【図表 環境保全への取組を推進していくために行政に期待すること（従業員数別）】

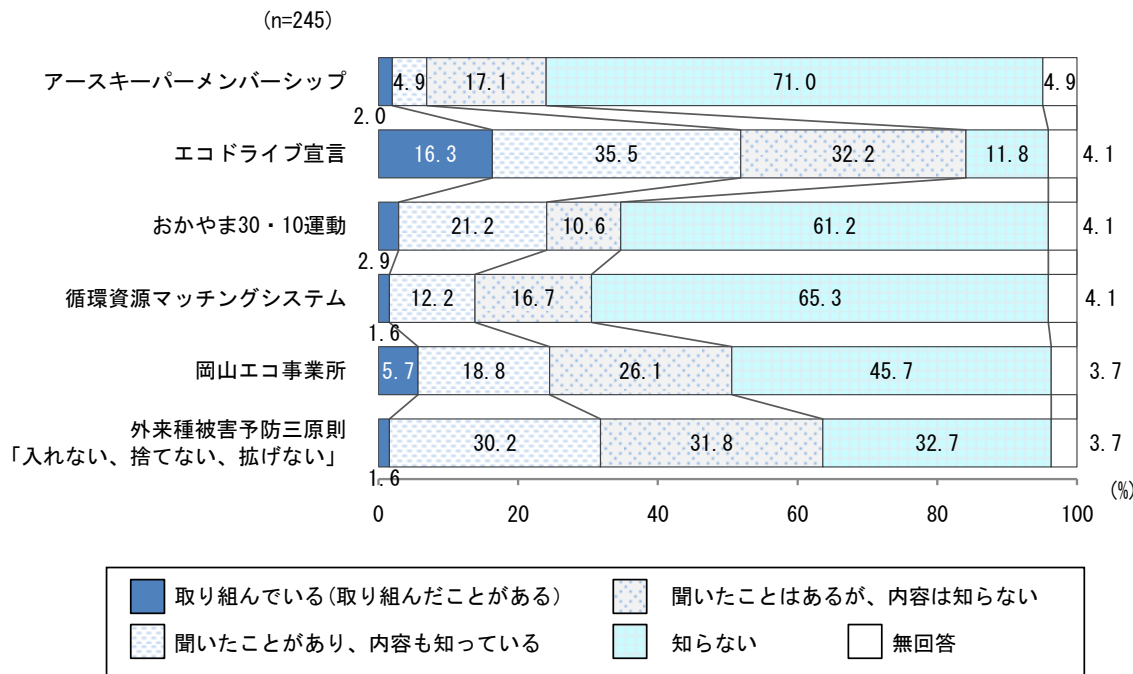


	結果の要点
令和2年度 回答	「省エネ機器・設備導入への支援・補助」との回答が49.0%と最も高く、次いで「環境マネジメントシステムの導入等に対する支援・補助」、「各種環境規制を分かりやすく記したガイドブックの作成や今後の動向に関する情報提供」（ともに31.8%）などの順となっている。
経年比較	「環境マネジメントシステムの導入等に対する支援・補助」との回答は今回調査（31.8%）が平成24年度調査（40.7%）を8.9ポイント、「環境問題に対する意識向上のための教育」との回答は今回調査（18.0%）が平成24年度調査（30.5%）を12.5ポイント下回っている。また、「環境ビジネスの成功事例の紹介」との回答は今回調査（27.8%）が平成24年度調査（20.3%）をから7.5ポイント上回っている。
業種別	「省エネ機器・設備導入への支援・補助」で「卸売業、小売業」（59.3%）、「医療、福祉」（60.5%）、「環境マネジメントシステムの導入等に対する支援・補助」で「運輸業、郵便業」（52.2%）、「各種環境規制を分かりやすく記したガイドブックの作成や今後の動向に関する情報提供」で「卸売業、小売業」（51.9%）が高くなっている。
従業員数別	「省エネ機器・設備導入への支援・補助」が「50～99人」（54.5%）「100～199人」（54.8%）「300人以上」（60.0%）、「各種環境規制を分かりやすく記したガイドブックの作成や今後の動向に関する情報提供」で「200～299人」（64.3%）「環境ビジネスの成功事例の紹介」で「300人以上」（44.0%）、「他の会社や業種の取組及び動向などに関する情報提供」で「200～299人」（50.0%）が高くなっている。

3 環境に関する言葉の認知度について

(1) 環境に関する言葉の認知度

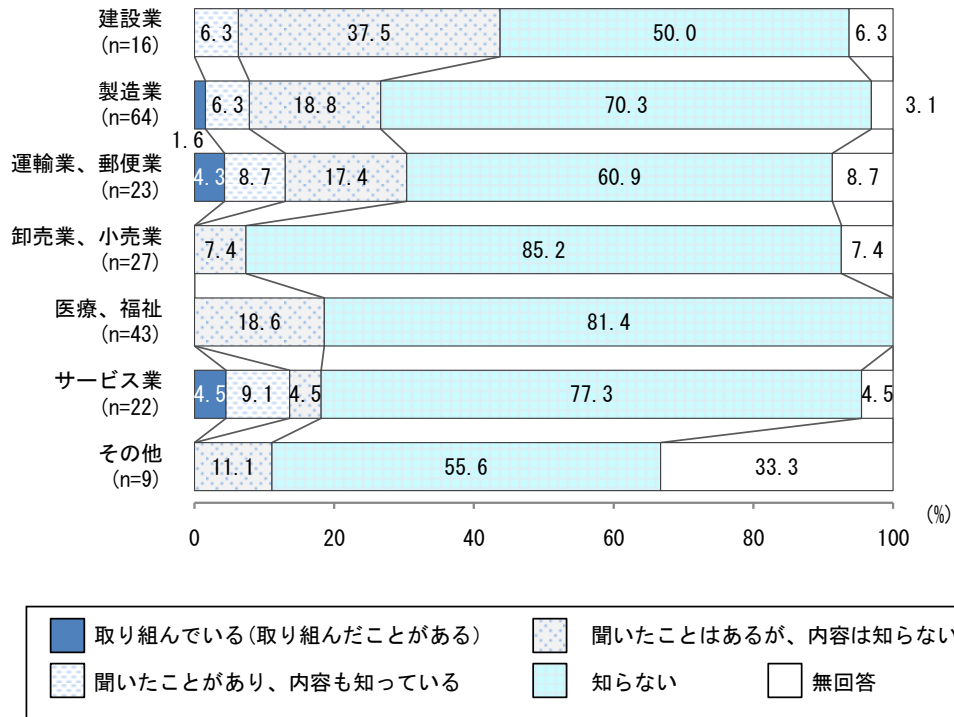
問 20 あなたは、次の環境に関する言葉についてご存知ですか。【〇はそれぞれ1つ】



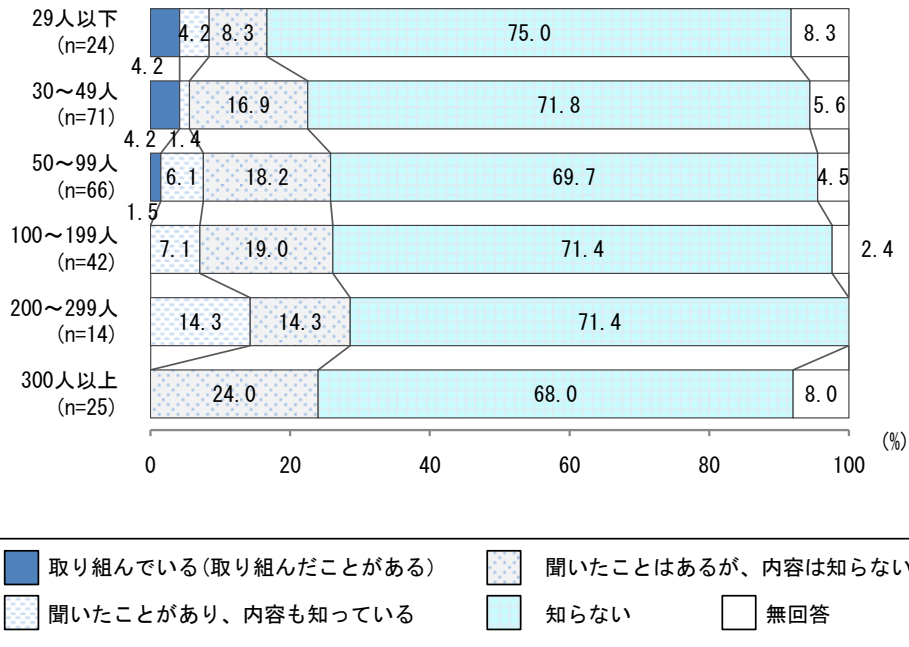
結果の要点	
令和2年度 回答	<p>「取り組んでいる (取り組んだことがある)」との回答は「エコドライブ宣言」が16.3%と最も高く、次いで「岡山エコ事業所」(5.7%)、「おかやま30・10運動」(2.9%)などの順となっている。</p> <p>「聞いたことがあり、内容も知っている」との回答は「エコドライブ宣言」が35.5%と最も高く、次いで「外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」(30.2%)、「おかやま30・10運動」(21.2%)などの順となっている。</p> <p>「知らない」との回答は「アースキーパーメンバーシップ」が71.0%と最も高く、次いで「循環資源マッチングシステム」(65.3%)、「おかやま30・10運動」(61.2%)などの順となっている。</p>

(1) アースキーパーメンバーシップ

【図表 アースキーパーメンバーシップの認知度（業種別）】



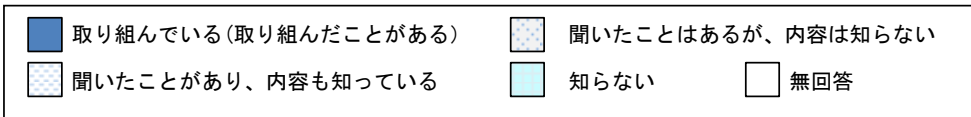
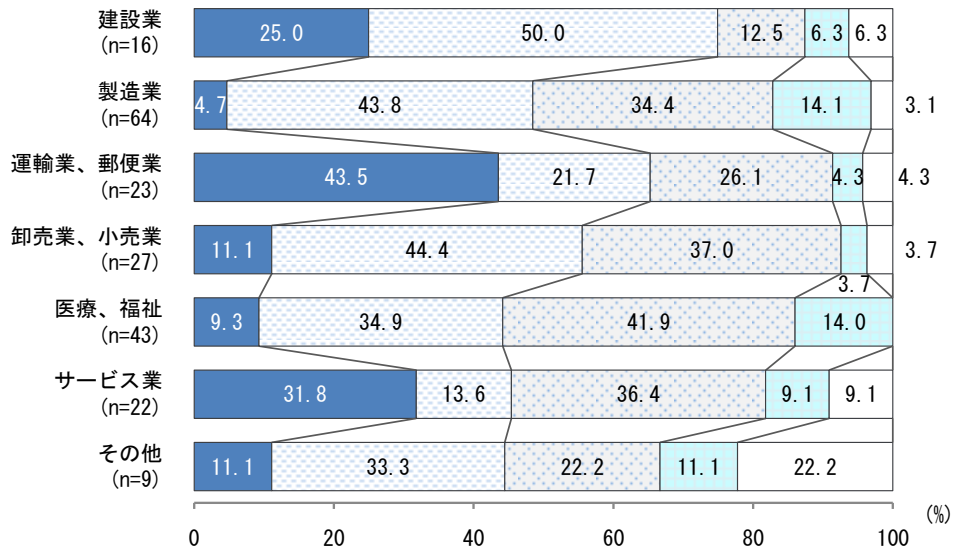
【図表 アースキーパーメンバーシップの認知度（従業員数別）】



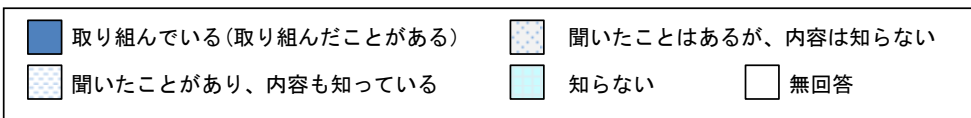
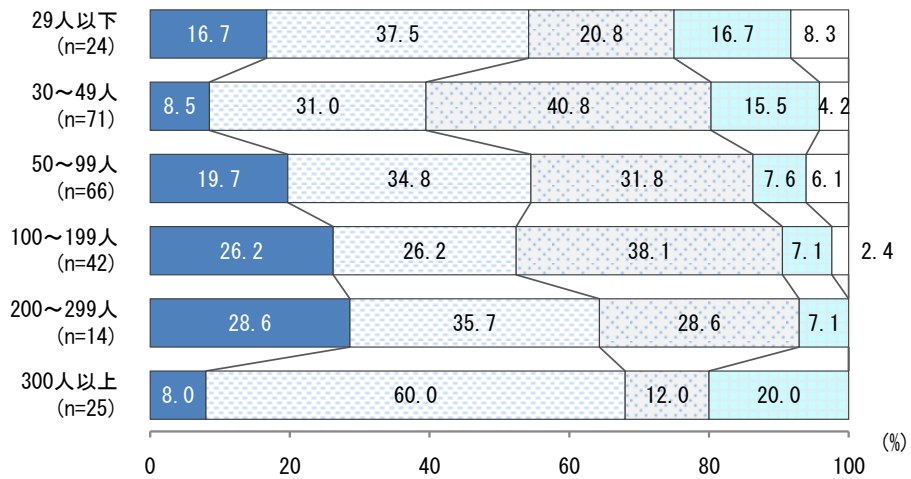
	結果の要点
業種別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「サービス業」(9.1%)、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「建設業」(37.5%)、「知らない」で「卸売業、小売業」(85.2%)「医療、福祉」(81.4%)が高くなっている。
従業員数別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「200～299人」(14.3%)、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「300人以上」(24.0%)、「知らない」で「29人以下」(75.0%)が高くなっている。

(2) エコドライブ

【図表 エコドライブの認知度（業種別）】



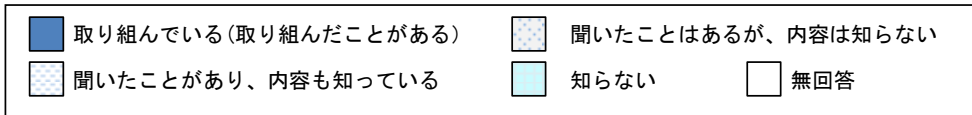
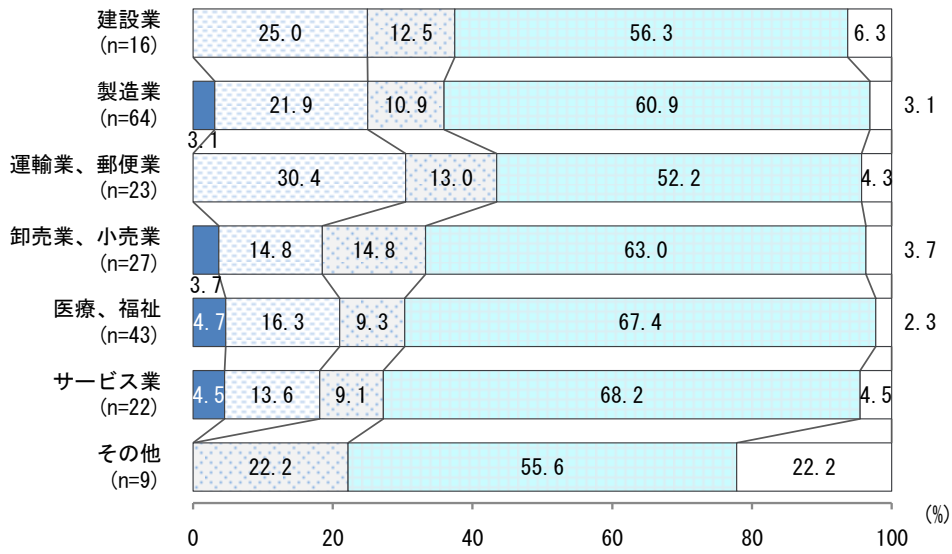
【図表 エコドライブの認知度（従業員数別）】



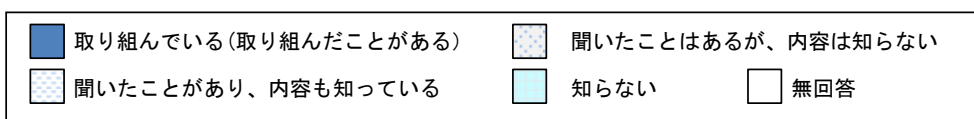
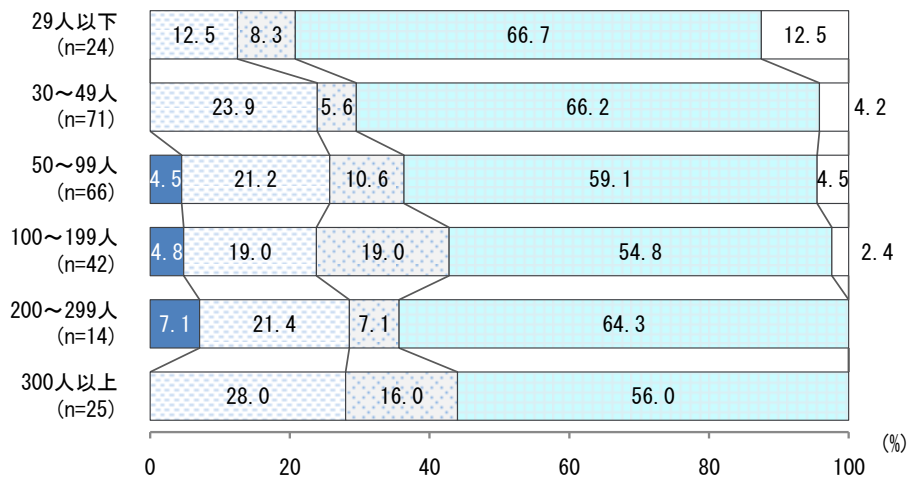
	結果の要点
業種別	「取り組んでいる（取り組んだことがある）」で「建設業」（25.0%）「運輸業、郵便業」（43.5%）「サービス業」（31.8%）、「聞いたことがあり、内容も知っている」で「建設業」（50.0%）、「製造業」（43.8%）、「卸売業、小売業」（44.4%）、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「卸売業、小売業」（37.0%）、「医療、福祉」（41.9%）、「知らない」で「製造業」（14.1%）、「医療、福祉」（14.0%）が高くなっている。
従業員数別	「取り組んでいる（取り組んだことがある）」で「100～199人」（26.2%）、「200～299人」（28.6%）、「聞いたことがあり、内容も知っている」で「300人以上」（60.0%）、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「30～49人」（40.8%）、「100～199人」（38.1%）、「知らない」で「300人以上」（20.0%）が高くなっている。

(3) おかやま30・10運動の認知度

【図表 おかやま30・10運動の認知度（業種別）】



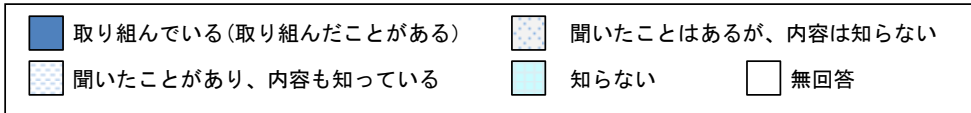
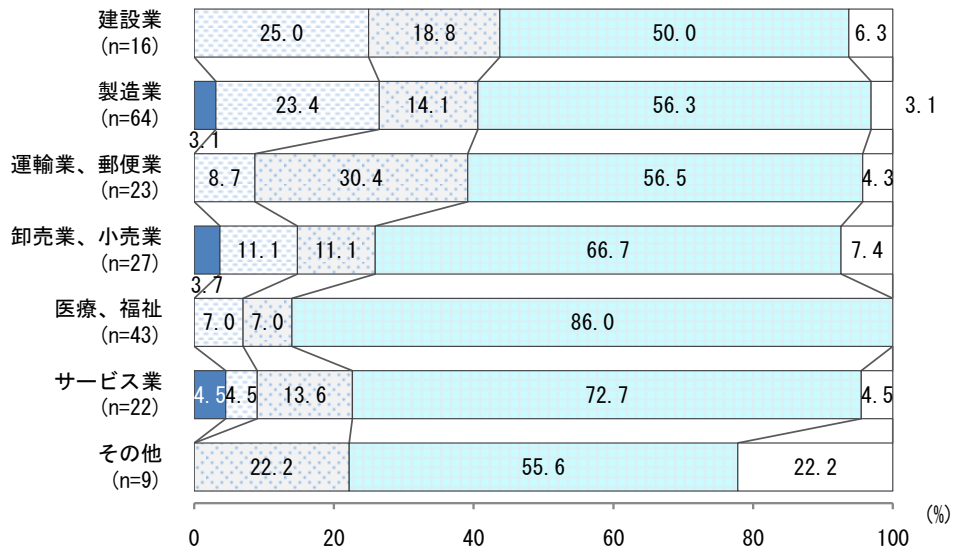
【図表 おかやま30・10運動の認知度（従業員数別）】



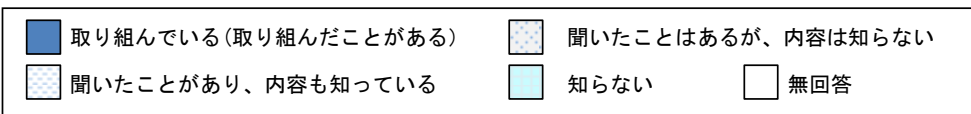
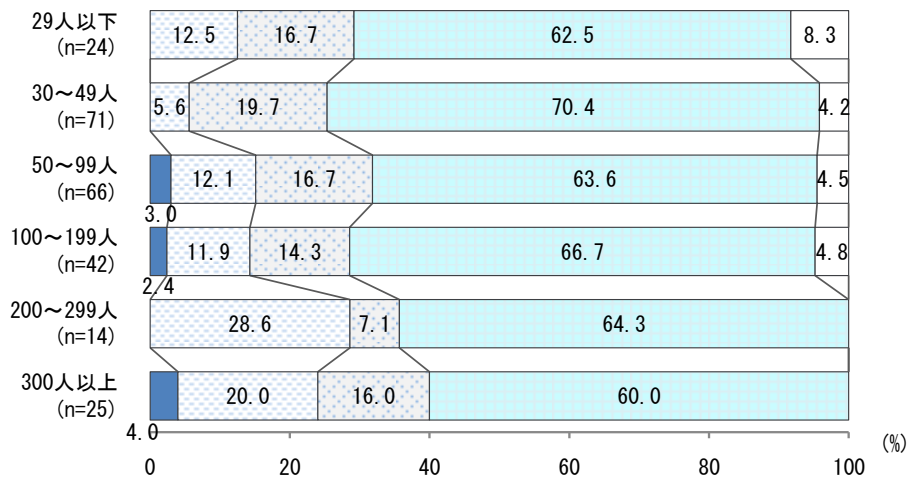
	結果の要点
業種別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「運輸業、郵便業」(30.4%)、「知らない」で「医療、福祉」(67.4%)、「サービス業」(68.2%)が高くなっている。
従業員数別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「300人以上」(28.0%)、「聞いたことはあるが、内容は知らない」「100～199人」(19.0%)、「知らない」で「29人以下」(66.7%)、「30～49人」(66.2%)、「200～299人」(64.3%)が高くなっている。

(4) 循環資源マッチングシステム

【図表 循環資源マッチングシステムの認知度（業種別）】



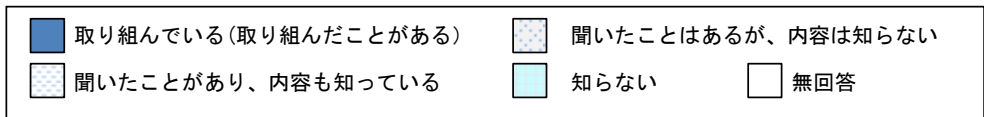
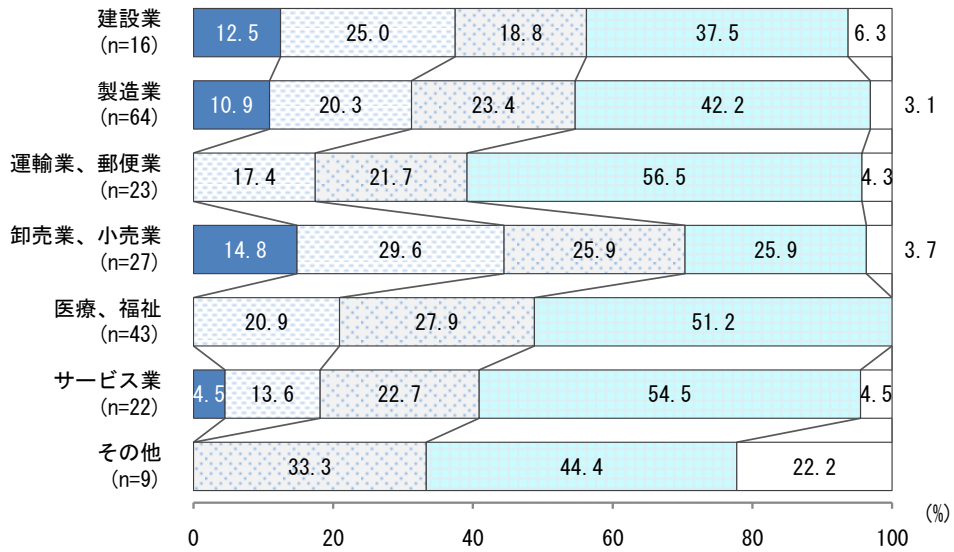
【図表 循環資源マッチングシステムの認知度（従業員数別）】



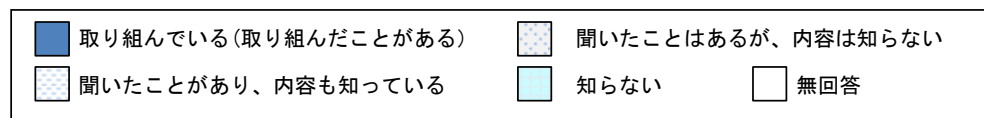
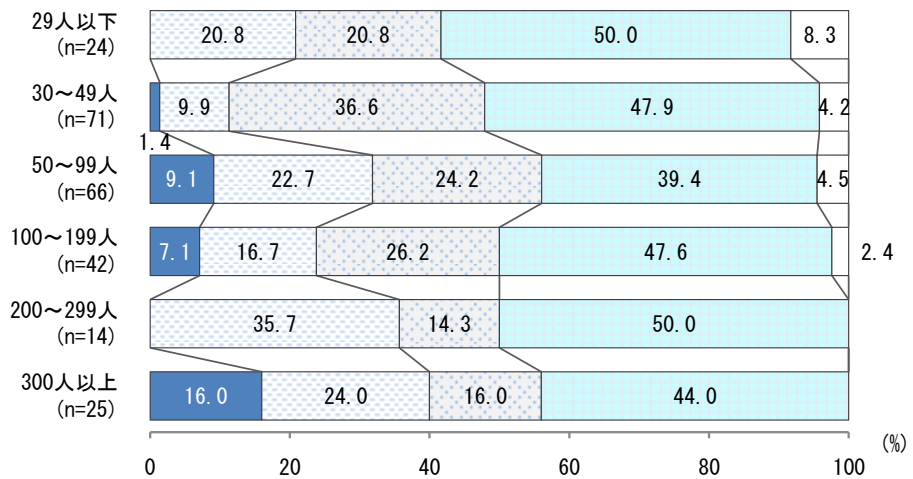
	結果の要点
業種別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「建設業」(25.0%)、「製造業」(23.4%)、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「運輸業、郵便業」(30.4%)、「知らない」で「医療、福祉」(86.0%)が高くなっている。
従業員数別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「200～299人」(28.6%)、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「30～49人」(19.7%)、「知らない」で「30～49人」(70.4%)が高くなっている。

(5) 岡山エコ事業所

【図表 岡山エコ事業所の認知度（業種別）】



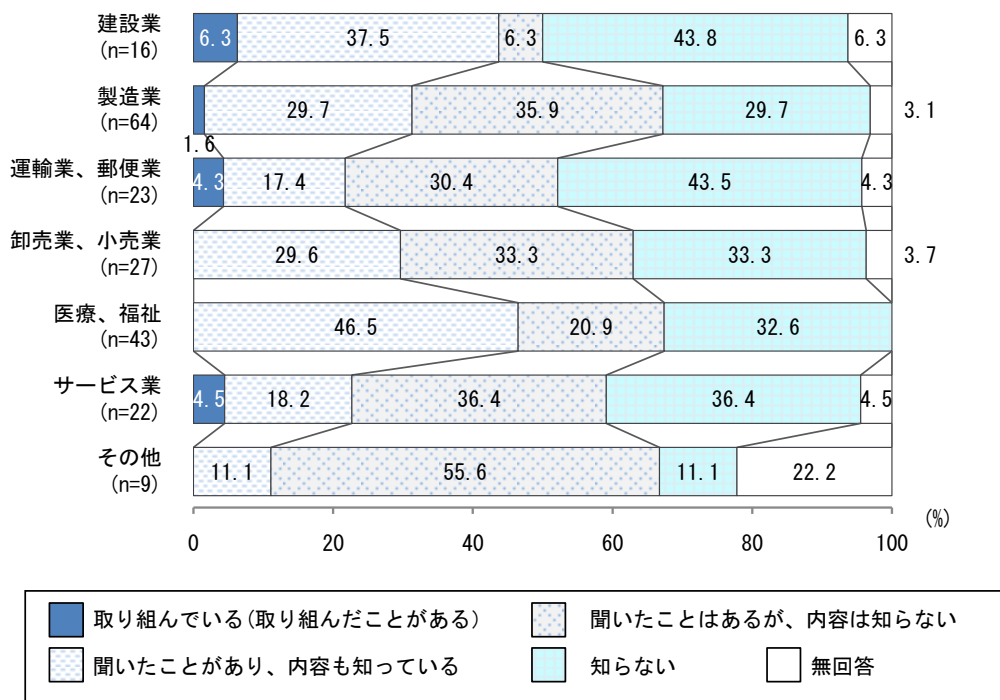
【図表 岡山エコ事業所の認知度（従業員数別）】



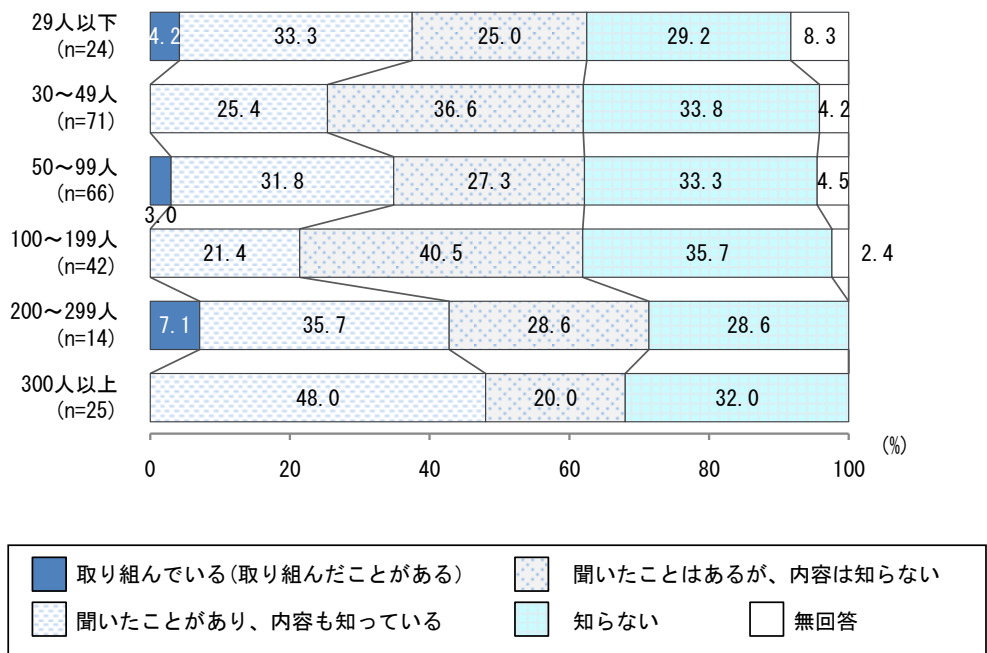
	結果の要点
業種別	「取り組んでいる（取り組んだことがある）」「卸売業、小売業」（14.8%）、「聞いたことがあります、内容も知っている」で「卸売業、小売業」（29.6%）、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「医療、福祉」（27.9%）、「知らない」で「運輸業、郵便業」（56.5%）、「サービス業」（54.5%）が高くなっている。
従業員数別	「取り組んでいる（取り組んだことがある）」で「300人以上」（16.0%）、「聞いたことがあります、内容も知っている」で「200～299人」（35.7%）、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「30～49人」（36.6%）、「知らない」で「29人以下」（50.0%）、「30～49人」（47.9%）、「100～199人」（47.6%）、「200～299人」（50.0%）が高くなっている。

(6) 外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」

【図表 外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」の認知度（業種別）】



【図表 外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」の認知度（従業員数別）】



	結果の要点
業種別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「医療、福祉」(46.5%)、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「製造業」(35.9%)、「サービス業」(36.4%)、「知らない」で「建設業」(43.8%)、「運輸業、郵便業」(43.5%)が高くなっている。
従業員数別	「聞いたことがあり、内容も知っている」で「300人以上」(48.0%)、「聞いたことはあるが、内容は知らない」で「100～199人」(40.5%)が高くなっている。

4 自由意見

問 21 環境問題や県の環境施策に関する、ご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

(1) 自由意見

① 行政の取組に関する意見・要望 (4件)

自由意見
我々県民一人ひとりの意識を自覚していない以上、PR活動をして意味がない。税金を捻出して取り組むのであれば、PR活動について一考する必要がある。法案のような強制が難しいのであれば県民一人ひとり、特に今後を担う若年層が参画できるよう、小学生から、ホームルームや課外活動、中学生時の職場体験等と同じくらいの扱いをするカリキュラムを設定すべきだと感じる。
林業をもう少し頑張ってもらいたい。山や森に小動物がいないのは、荒れている証拠だと思う。特に山は竹が生えたままとなり、腐り、根をはり荒れていく一方。竹を切り、他の穀物などが生えるよう環境を整え、子どもたちも森などに入り遊べる環境を作ってほしい。
ごみの処理に対しての税を今後は考えるべきであり、海ゴミ専用の処理施設の早期運用が必要である。
ごみのポイ捨てをする人が目立つため、県民の意識改革などにもっとPRしてほしい。

② 意識の向上等に関する意見・要望 (4件)

自由意見
地域との共存は弊事業所の一貫した考え方であるため、県の指導を仰ぎながら足元の取り組みをしっかりと継続していきたい。
環境は生きていく上で大切だと思っている。アースキーパーメンバーシップなど、知らないことがいっぱい恥ずかしい。個人としても、会社としても取り組んでいきたいと思った。
分野としては、「サステナブル」などととても重要なワードになっていることは知っている。大手企業の取り組みや、同地域においても設備を含め見られる。グローバル社会において非常に重要なことは理解できるが、雇用の創出、モノづくりなど、日本国内における持続可能性が不透明に感じている。メインが海外になり、あたかもそれが正義に映りすぎている。特に製造業は、日本国内での持続可能性ビジョンがはっきり打ち出せると、意識改革に繋がりやすいのかなと思う。
企業に対してはエネルギー使用量の削減努力は必要だと思う。個人に対してはどうか。生活においてどうか。問20にあるような「環境に関する言葉の認知度について」、こういったことに気付いていないことが多いと思う。町内の回覧板に情報を付けるなど、生活の中にこのような情報を置くことが必要ではないかと思う。

③ アンケート調査に関する意見・要望（2件）

自由意見
本アンケートの設問について理解ができず、回答に苦慮した。もう少しわかりやすくお願いしたい。
企業向けのアンケートであり、当事業所にはあてはまらない質問事項が多数あると共に、最近アンケート調査なるものが増えたりうんざりしている。

④ 実際に行っている取組と課題点（2件）

自由意見
ボランティアロードに参加している。ソーラー発電 347k している。商品にエコ製品があり、販売している。
エコに取り組むために電灯やいろいろな設備を変えていきたいが、資金がかかるので取り組めない。

参 考 资 料

岡山県 環境に関するアンケート調査(県民版)

ご協力をお願い

日ごろから、県政に対してご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、岡山県では、より良い環境に恵まれた持続可能な社会の実現を目指して「新岡山県環境基本計画～エコビジョン2020～」に基づき、県民、事業者、行政それぞれが主体となった取組を進めていますが、社会情勢や環境問題の変化に対応するため、現在その見直しを行っています。

このアンケート調査は、同計画の見直しに当たっての基礎的な資料とするため、県民の皆様に環境に関するお考えやご意見をお伺いするものであり、県内にお住まいの18歳以上の方の中から2,500人を無作為に選ばせていただきました。

この調査には、あなたのお名前を書いていただく必要はありません。また、お答えの内容は、調査目的以外に使用することは絶対にありません。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、調査の目的をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年5月

岡山県環境文化部環境企画課

ご記入について

- 回答は、宛名の方でなくても、ご家族の方が書かれてもかまいません。
- 全12問で、回答時間の目安は約10分です。

調査票の返送について

- 調査票や返信用封筒には、お名前等を記載していただく必要はありません。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒で令和2年5月29日(金)までにポストへ投函してください。(切手は不要です。)

お問い合わせ先

岡山県 環境文化部 環境企画課 施策推進班 担当：大崎
〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4番6号
電話：086-226-7285
FAX：086-233-7677



岡山県マスコット「ももっち」「うらっち」

岡山県 環境に関するアンケート調査票

ご自身のことについて

おたずねした回答を統計的に分析するため、あなたご自身のことについて、令和2年5月1日現在で、あてはまる番号 に○をつけてください。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性	
(2) 年齢	1. 18歳、19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳	5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上	
(3) 一緒にお住まいのご家族の人数 (ご自身も含めて)	1. 1人 2. 2人 3. 3人	4. 4人 5. 5人 6. 6人以上	
(4) 現在の住所への居住年数	1. 1年未満 2. 1～4年 3. 5～9年 4. 10～14年	5. 15～19年 6. 20～29年 7. 30～39年 8. 40年以上	
(5) お住まいの形態	1. 持ち家一戸建 2. 分譲マンション 3. 借家一戸建	4. 賃貸マンション・アパート 5. その他 (具体的に：)	
(6) お住まいの市町村	1. 岡山市北区 2. 岡山市中区 3. 岡山市東区 4. 岡山市南区 5. 倉敷市 6. 津山市 7. 玉野市 8. 笠岡市 9. 井原市 10. 総社市	11. 高梁市 12. 新見市 13. 備前市 14. 瀬戸内市 15. 赤磐市 16. 真庭市 17. 美作市 18. 浅口市 19. 和気町 20. 早島町	21. 里庄町 22. 矢掛町 23. 新庄村 24. 鏡野町 25. 勝央町 26. 奈義町 27. 西粟倉村 28. 久米南町 29. 美咲町 30. 吉備中央町
(7) ご職業	1. 自営業(農林漁業、商工サービスなどで、家族従業者を含む。) 2. 会社・団体などの正社員(正職員) 3. 会社・団体などの役員 4. パートタイマー、アルバイト、契約社員など 5. 専業主婦(主夫) 6. 学生 7. 無職		

環境学習や環境保全活動について

問1 あなたは、過去3年の間に環境保全に関する学習の場や活動（以下「活動等」）に参加したことがありますか。【○は1つ】

1. 参加したことがある ……………▶ 問1-1へ
2. 参加したことがない ……………▶ 問1-2へ

問1で「1. 参加したことがある」と回答した方におたずねします

問1-1 どのような活動等に参加しましたか。【○はあてはまるものすべて】

1. 環境保全に関するセミナー、講習会
2. 自然観察会や自然体験教室
3. 環境保全やエコロジー(生態学)をテーマとするツアー
4. 生きもの、ごみなどの環境調査活動
5. 町内会や子ども会など定期的に地域で行う清掃や資源回収などの活動
6. 児島湖流域などでの大規模な清掃活動、クリーンキャンペーン
7. 地域の美化や落書き消去などのボランティア活動
8. その他(具体的に：)

問1で「2. 参加したことがない」と回答した方におたずねします

問1-2 活動等に参加したことがない主な理由は何ですか。【○は1つ】

1. 活動の時間を確保することが難しい
2. 団体に関する情報が不足している
3. 身近に参加可能な団体がない
4. 趣旨に賛同できる団体がない
5. 人間関係が難しい(難しそうだ)
6. 費用をかけてまで参加したくない
7. 関心がない
8. その他(具体的に：)

問2 環境に配慮した行動をとることについてあなたの考えに近いものはどれですか。【○は1つ】

1. 非常に重要である
2. どちらかといえば重要である
3. どちらかといえば重要でない
4. 重要でない
5. わからない

問3 あなたはSDGsを知っていますか。【〇は1つ】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. よく知っている（人に説明できる） | 3. あまり知らない（言葉だけ知っている） |
| 2. 少し知っている（内容を理解している） | 4. 知らない（言葉も聞いたことがない） |

問4 あなたは持続可能な社会（地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会）の発展のために、どんなことが必要だと思いますか。①あなたご自身ができそうなこと、②岡山県や企業に期待することをそれぞれお答えください。

①あなたご自身ができそうなこと

②岡山県や企業に期待すること

環境情報について

問5 あなたは、環境に関する情報（環境問題に関する知識や環境配慮のための方法など）について、どのように入手していますか。【情報の入手順ごとに、あてはまる番号を3つまで記入】

1. テレビ、ラジオ
2. 新聞、雑誌
3. ホームページ（国や自治体、大学、環境NGO等）
4. ホームページ（ブログを含む個人サイト）
5. SNS（Twitter、Facebook、LINE、Instagram等）
6. 環境イベント、講演会・講座
7. 県・市町村の広報紙
8. 企業の広報紙
9. 環境保全活動の団体など
10. 地域、職場、学校
11. 家族、友人・知人などからの口コミ
12. その他（具体的に：

情報入手順	番号↓
1位	
2位	
3位	

)

岡山県の取組状況について

問6 岡山県が現在行っている環境に関する以下の施策についてお尋ねします。

それぞれの施策の重要度と県の取組状況への満足度について、あなたの考えや意見に最も近いものはどれですか。【〇はそれぞれ1つ】

県の行う施策	重要度 (〇は1つ)				県の取組状況への満足度 (〇は1つ)				
	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
1. 地球温暖化対策のための再生可能エネルギー（太陽光、水力、太陽熱、バイオマスなど）の導入促進	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2. 地球温暖化対策のための省エネルギーの推進	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3. 地球温暖化対策のためのフロン類*対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4. 地球温暖化対策のための森づくり、都市の緑化推進	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5. 酸性雨対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6. 循環型社会に向けた意識の改革	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7. 廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再生利用）	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8. 岡山県エコ製品*の普及拡大	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9. 廃棄物の適正処理の推進	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10. 食品ロスの削減	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11. 海ごみ対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
12. 災害廃棄物対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
13. 自然公園等の適切な利用指導	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14. 自然と調和した開発の指導	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15. 希少野生動植物の保護	4	3	2	1	5	4	3	2	1

※**フロン類**：特定フロンと代替フロンの総称のこと。特定フロンはその安定性・人体への無毒性などから冷蔵庫などの冷媒として利用されてきたが、オゾン層を破壊することから、オゾン層を破壊しない代替フロンへの転換が進められた。しかし、代替フロンは地球温暖化への影響が大きいため、排出抑制が求められている。

※**岡山県エコ製品**：県内で生産されているリサイクル製品等として、県が認定し、その利用促進を行っているもの。



県の行う施策	重要度 (○は1つ)				県の取組状況への満足度 (○は1つ)				
	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
16. 野生鳥獣の保護管理	4	3	2	1	5	4	3	2	1
17. 外来動植物への対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
18. 自然とのふれあいの推進	4	3	2	1	5	4	3	2	1
19. 里地・里山の保全	4	3	2	1	5	4	3	2	1
20. 生物多様性の保全	4	3	2	1	5	4	3	2	1
21. 大気環境の保全	4	3	2	1	5	4	3	2	1
22. PM _{2.5} *対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
23. アスベスト（石綿）対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
24. 水環境の保全	4	3	2	1	5	4	3	2	1
25. 瀬戸内海の環境保全（透明度、水質、栄養塩*の管理）	4	3	2	1	5	4	3	2	1
26. 騒音・振動の防止	4	3	2	1	5	4	3	2	1
27. 悪臭の防止	4	3	2	1	5	4	3	2	1
28. 土壌・地下水汚染対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
29. 有害化学物質対策	4	3	2	1	5	4	3	2	1
30. 環境放射線*の監視	4	3	2	1	5	4	3	2	1

※PM_{2.5}：大気中に浮遊している2.5μm（1μmは1mmの千分の1）以下の小さな粒子のことで、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が懸念されている。自動車や工場などの人為由来のものと、土壌や火山などの自然由来のものがある。

※栄養塩：窒素やリンなどのことで、植物プランクトンや水草が利用し、それらを動物プランクトンや魚などが食べている。海に流れ込む栄養塩が多いと赤潮や貧酸素化といった水質汚濁を引き起こし、逆に少なすぎると漁獲量の減少やノリの色落ちなどの原因になるとされている。

※環境放射線：人間の生活空間にある様々な放射線。宇宙線、大地及び植物からの自然放射線と、X線利用、核実験及び原子力発電所などによる人工放射線がある。

県の行う施策	重要度 (○は1つ)				県の取組状況への満足度 (○は1つ)				
	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
31. 協働による環境保全活動の促進	4	3	2	1	5	4	3	2	1
32. 環境学習の充実	4	3	2	1	5	4	3	2	1
33. 景観の保全と創造	4	3	2	1	5	4	3	2	1
34. 環境関連分野の研究開発支援	4	3	2	1	5	4	3	2	1
35. 環境に配慮した事業者の育成・拡大	4	3	2	1	5	4	3	2	1
36. 環境影響評価※の推進	4	3	2	1	5	4	3	2	1
37. 事業者との環境コミュニケーション※	4	3	2	1	5	4	3	2	1

※**環境影響評価**：環境アセスメントとも呼ばれており、環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業について、事前に環境への影響を調査、予測、評価するとともに、その結果を公表して地域住民等の意見を聞くことにより、環境配慮を行う手続きのこと。

※**環境コミュニケーション**：事業者と地域住民が、環境負荷やその低減に関する情報を共有し対話を行うことにより、お互いの理解を深め、環境問題の未然防止や解決などに結び付けていくこと。（例：事業者の施設見学会、住民説明会、学校の社会科見学の受入）

問6-1 問6で挙げられている施策について、日頃感じられている思い（改善点など）がありましたら、自由にお書きください。

行政に期待することについて

問7 一人ひとりの自主的な環境配慮への取組を推進していくためには、行政に対してどのようなことを期待しますか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 児童・生徒等に対する環境教育
2. 社会人に対する環境教育
3. 岡山県地球温暖化防止活動推進員*など環境分野に関する人材の育成
4. 環境情報のデータベース化と迅速な提供
5. 環境配慮の取組方法について定めた行動指針などの策定
6. 成功事例の紹介
7. 個人や団体の優良取組への表彰制度の充実
8. 優良事業者の評価制度の充実
9. 県民、企業、民間団体、行政などのネットワークづくり
10. 環境に優しい製品を示すエコマーク*など環境ラベル*の普及
11. 環境保全活動への助成や税の軽減措置
12. 太陽光発電など再生可能エネルギーの導入を促進するための支援制度の充実等
13. LED照明など省エネルギー設備導入への助成や税の軽減措置
14. 電気自動車など低公害車購入への助成や税の軽減措置
15. 環境関連のイベントなどの開催
16. 県庁などへの相談窓口の設置
17. 地球温暖化に伴う気候変動やその影響等に関する情報提供
18. その他（具体的に：)

※**岡山県地球温暖化防止活動推進員**：県からの委嘱を受けて、地球温暖化防止に関する情報の提供や助言等を通じて、県内各地域における地球温暖化防止の実践活動を普及啓発する人のこと。

※**エコマーク**：消費者が環境に配慮した商品を選択するときの基準とするため、環境への負荷が少なく、あるいは環境の改善に役立つ環境に優しい製品を示すマークのこと。



エコマーク

※**環境ラベル**：消費者がより環境負荷の低い製品やサービスを選択するための指標として制定されているマークなどのこと。代表例としては、エコマークなどがある。

環境に関する言葉の認知度について

問8 あなたは、次の環境に関する言葉についてご存知ですか。【〇はそれぞれ1つ】

項 目	組 り 組 ん だ こ と が あ る (取 り 組 ん で い る (取 り 組 ん で い る (聞 い た こ と は あ る が 、 内 容 は 知 ら な い	聞 い た こ と は あ る が 、 内 容 は 知 ら な い	知 ら な い
1. アースキーパーメンバーシップ 地球温暖化防止のため、自ら環境への影響を減らす取組を継続的に 行う県民・事業者を募集し、会員登録する制度	4	3	2	1		
2. エコドライブ宣言 エコドライブを実践しようという個人の方を募集 している制度	4	3	2	1		
3. 光化学オキシダント情報メール配信サービス 気温が高く風が弱い日中に発生しやすい光化学オ キシダントの注意報等発令情報を配信するサービス	4	3	2	1	 登録はこちら	
4. おかやま30・10運動 宴会時に最初の30分、最後の10分は席に座り、食 べ残しを減らす運動	4	3	2	1		
5. 外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」 外来種による被害を未然に防ぐための三原則 ・悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ 「入れない」 ・飼養・栽培している外来種を適切に管理し「捨てない」 ・既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」 【外来種の例】    アメリカザリガニ アカミミガメ ホイアオイ	4	3	2	1		

アメリカザリガニ 出典：環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>)
 アカミミガメ 出典：環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/akamimi.html>)
 ホイアオイ 出典：環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>)

その他環境に関する調査について

問9 稲わら等の野外焼却（野焼き）が、PM2.5の濃度上昇の一因となっていることを知っていましたか。【〇は1つ】

1. はい
2. いいえ

問10 自宅周辺で稲わら等の野焼きが行われた場合、あなたはどうしますか。【〇は1つ】

1. 野焼きをやめるよう、野焼きの実施者に直接お願いする
2. 行政（県・市）、警察、消防等に通報する
3. 我慢する
4. 特に気にならないので、何もしない
5. その他（具体的に： _____）

問8へ

問10で「3. 我慢する」または「4. 特に気にならないので、何もしない」と回答した方におたずねします

問11 その理由は何ですか。【〇は1つ】

1. 特に害はないと考えているため
2. 自分も野焼きをしており、お互い様のため
3. 野焼きについて特に考えたことがないため
4. 農業を行う上でやむを得ない野焼きのため
5. その他（具体的に： _____）

問12 環境問題や県の環境施策に関する、ご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

岡山県 環境に関するアンケート調査(事業所版)

ご協力をお願い

日ごろから、県政に対してご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、岡山県では、より良い環境に恵まれた持続可能な社会の実現を目指して「新岡山県環境基本計画～エコビジョン2020～」に基づき、県民、事業者、行政それぞれが主体となった取組を進めていますが、社会情勢や環境問題の変化に対応するため、現在その見直しを行っています。

このアンケート調査は、同計画の見直しに当たっての基礎的な資料とするため、事業者の皆様に関係に関するお考えやご意見をお伺いするものであり、県内の事業所から500事業所を無作為に選ばせていただきました。

この調査には、事業所名や担当者の方のお名前を書いていただく必要はありません。また、お答えの内容は、調査目的以外に使用することは絶対にありません。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、調査の目的をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年5月

岡山県環境文化部環境企画課

ご記入について

- 貴事業所の単位でお答えください。
- 令和2年5月1日現在の状況についてご記入ください。
- 全21問で、回答時間の目安は約20分です。

調査票の返送について

- 調査票や返信用封筒には、事業所名等を記載していただく必要はありません。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒で令和2年5月29日(金)までにポストへ投函してください。(切手は不要です。)

お問い合わせ先

岡山県 環境文化部 環境企画課 施策推進班 担当：大崎
〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4番6号
電話：086-226-7285
FAX：086-233-7677



岡山県マスコット「ももっち」「うらっち」

岡山県 環境に関するアンケート調査票

貴事業所について（※事業所の単位でお答えください）

各項目について、あてはまる番号 1つ に○をつけてください。

(1) 本社、支社の別	1. 本社	2. 支社(支店・営業所)
(2) 主たる業種	1. 農林水産業 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 3. 建設業 4. 製造業 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 6. 情報通信業 7. 運輸業、郵便業 8. 卸売業、小売業 9. 金融業、保険業	10. 不動産業、物品賃貸業 11. 学術研究、専門・技術サービス業 12. 宿泊業、飲食サービス業 13. 生活関連サービス業、娯楽業 14. 教育・学習支援業 15. 医療、福祉 16. サービス業 17. その他()
注) 兼業の場合は、売上の割合が最も大きいものをお答えください。		
(3) 主な形態	1. 店舗・飲食店 2. 事務所・営業所・事業場 3. 工場・作業所・鉱業所 4. 輸送・配送センター、 これらの車庫	5. 倉庫・油槽所 6. 病院・診療所・福祉施設 7. 教育施設 8. その他()
注) 複数あてはまる場合は、売上の割合が最も大きいものをお答えください。		
(4) 従業員数	1. 29人以下 2. 30～49人 3. 50～99人 4. 100～199人	5. 200～299人 6. 300～499人 7. 500～999人 8. 1,000人以上
注) 従業員数は、パートやアルバイトなどの臨時職員の人数を含めた人数でお答えください。		

貴事業所の環境保全への取組について

問1 貴事業所では、経営方針の中に環境保全に関する項目を定めていますか。【〇は1つ】

1. 定めている 2. 近々定める予定である 3. 定める予定はない

問2 貴事業所では、環境保全に関する具体的な行動方針を定め、何らかの対策を実施していますか。【〇は1つ】

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 実施している | } 問3へ |
| 2. 実施を検討中である | |
| 3. 将来検討したい | } 問4へ |
| 4. 検討する予定はない | |

問2で「1. 実施している」または「2. 実施を検討中である」を回答した方におたずねします

問3 環境保全対策などの目的や動機について、貴事業所のお考えに近いものはどれですか。

【お考えに近い順に、あてはまる番号を3つまで記入】

1. 企業の社会的責任として、当然であるため
2. 環境保全を図ることは、企業の業績に良い影響をもたらすため
3. コスト削減に効果があるため
4. 消費者の好感度、支持度、企業イメージなどの向上を図るため(マーケティング対策、人材確保対策など)
5. 新たな事業活動(ビジネスチャンス)の展開のため
6. 行政、地域住民との円満・円滑な関係を維持するため
7. 行政の指導に従うため
8. 行政による融資・補助制度を活用するため
9. 同業者間の取り決めがあるため
10. 本社からの通達があったため
11. 環境保全は時代の要請であるため
12. その他(具体的に： _____)

考えの近い順	番号↓
1位	
2位	
3位	

問2で「3. 将来検討したい」または「4. 検討する予定はない」を回答した方におたずねします

問4 貴事業所にとって、どのような条件が整えば、現在より積極的に環境保全対策を進めることができますか。【条件順に、あてはまる番号を3つまで記入】

1. 商品やサービスが環境面から選別されるなど、消費者のニーズが変化すること	<table border="1"> <thead> <tr> <th>条件順</th> <th>番号↓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	条件順	番号↓	1位		2位		3位	
条件順		番号↓							
1位									
2位									
3位									
2. 環境保全のための世論が高まること									
3. 環境保全に関する規制が設定もしくは強化されること									
4. 環境保全対策が税制や金融面で優遇されること									
5. 環境保全対策が企業のPRやイメージアップにつながり、企業メリットとなること									
6. 環境保全対策の導入に伴う費用や労力が低減されること									
7. 環境保全対策技術の研究・開発の支援が充実されること									
8. その他(具体的に：)									
9. 特になし									

問5 貴事業所では、環境保全に配慮するための部署などがありますか。【〇は1つ】

1. 専任の部署を設置している
2. 専任の部署は設置していないが、専任の担当者を置いている
3. 専任の部署は設置していないが、兼任の担当者を置いている
4. 近々設置する予定である
5. 専任、兼任に係らず、設置する予定はない

問6 貴事業所では、従業員に対してどのような形で環境教育※を行っていますか。【〇は1つ】

1. 定期的に環境教育を行っている
2. 定期的ではないが、環境教育を行っている
3. 従業員の希望に応じて、環境教育を行っている
4. 従業員に対する環境教育は行っていない
5. その他(具体的に：)

※**環境教育**：持続可能な社会の構築を目指して、家庭、学校、職場、地域その他のあらゆる場において、環境と社会、経済及び文化とのつながりその他環境の保全についての理解を深めるために行われる環境の保全に関する教育及び学習のこと。例えば環境の保全に関する従業員への研修会の実施などがある。

問7 環境保全への取組と事業収益との関係について、どのようにお考えですか。【〇は1つ】

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. 環境保全は事業収益にも有効である | |
| 2. 事業収益を多少犠牲にしても、長期的な視野により環境保全を優先させる | |
| 3. 環境保全は重要ではあるが、事業収益に影響が出ない範囲で取り組む | |
| 4. 環境保全は事業収益を悪化させるため、取り組む考えはない | |
| 5. 環境保全と事業収益とは関係がない | |
| 6. その他(具体的に： |) |
| 7. わからない | |

問8 貴事業所の現在の環境保全対策費（廃棄物の処理費用を除く。）は年間でおよそどの程度ですか。【〇は1つ】

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 10万円未満 | 7. 5,000～9,999万円 |
| 2. 10～49万円 | 8. 1～4億9,999万円 |
| 3. 50～99万円 | 9. 5億円以上 |
| 4. 100～499万円 | 10. わからない(答えられない) |
| 5. 500～999万円 | 11. 特になし |
| 6. 1,000～4,999万円 | |

問9 貴事業所の製品やサービスの価格に、環境保全対策上の経費やリサイクルに要する経費などを含めて販売することは可能ですか。【〇は1つ】

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. すでに関連する経費を上乗せしている | 4. コスト高となるため不可能 |
| 2. 消費者や取引先の理解次第では可能 | 5. その他(具体的に： |
| 3. 同業者など他社が実施するなら可能 | 6. わからない |
| |) |

問10 環境マネジメントシステム※(ISO14001※やエコアクション21※、岡山エコ事業所※など)について、貴事業所はどのように取り組まれていますか。【〇は1つ】

- | | | |
|---|---|------|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 認証を取得している(独自のシステムを構築している) → 問11、問12へ 2. 認証を取得する(独自のシステムを構築する)予定であり、現在準備中である 3. 大いに関心があり、現在、情報を収集している 4. 関心はあるが、現時点では特別な対応はしていない 5. 特に関心はない(認証を取得、独自システムを構築するつもりはない) 6. 過去に認証を取得したが、現在は取得していない | } | 問13へ |
|---|---|------|

※**環境マネジメントシステム**: 企業などが自主的に環境保全に関する取組を推進するに当たり、環境に関する方針、目的、目標などを自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいく管理の仕組みのこと。

※**ISO14001**: 国際標準化機構(ISO)が定める環境管理の国際規格で、企業や自治体などが環境負荷を減らす仕組みを持っているかどうかを評価し認証する仕組みのこと。

※**エコアクション21**: 環境省が環境の国際規格「ISO14001」を基にガイドラインをつくり、2004年から始まった認証・登録制度で、二酸化炭素や廃棄物の削減、節水など環境負荷の軽減に積極的に取り組む企業や団体などが対象となる。

※**岡山エコ事業所**: 事業者が自らの環境保全に関する取組方針、取組内容、取組実績、将来の目標、環境への負荷の状況等を体系的に取りまとめ、これを定期的に公表、報告するなど、循環型社会の形成のための取組が先進的、かつ、優秀であると県が認定した事業所のこと。

問10で「1. 認証を取得している(独自のシステムを構築している)」を回答した方におたずねします
問11 貴事業所での、環境マネジメントシステムはどのような形態ですか。

【〇はあてはまるものすべて】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. ISO14001 | 4. 独自のシステムを構築 |
| 2. エコアクション21 | 5. その他のシステム |
| 3. 岡山エコ事業所 | (名称:) |

問10で「1. 認証を取得している（独自のシステムを構築している）」を回答した方におたずねします

問12 貴事業所では、認証の取得（独自システムの構築）によりどのような効果がありましたか。

【〇はあてはまるものすべて】

1. 省資源、省エネルギーなどによりコストの削減につながった
2. 環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷の低減につながった
3. 社員の意思統一が図られ、環境への意識の向上につながった
4. 内部、外部のコミュニケーションが円滑に図られるようになった
5. PR効果も含めて、対外的な信用が向上した
6. 認証（構築）に係る手間や費用の割にはメリットがなかった
7. その他

具体的に：

問10で「5. 特に関心はない」または「6. 過去に認証を取得したが、現在は取得していない」を回答した方におたずねします

問13 その理由を教えてください。

問14 貴事業所では、次にあげる環境への配慮に関する項目について、実施状況は1～3のどれにあてはまりますか。

また、「実施する予定はない」とした項目について、その理由は1～6のどれにあてはまりますか。【〇はそれぞれ1つ】

項 目	実施状況		
	実施している(予定を含む)	今後検討したい	実施する予定はない
1. クールビズ、ウォームビズの取組(暖房20℃以下、冷房28℃に設定など)	1	2	3
2. ライトダウンへの参加	1	2	3
3. 節電、節水などの省エネ推進	1	2	3
4. 省エネ診断の実施	1	2	3
5. 省エネ機器・設備 の導入	1	2	3
6. E S C O*事業の導入	1	2	3
7. 環境保全のための技術開発	1	2	3
8. フロン類の使用抑制・全廃・回収など排出抑制	1	2	3
9. 電気自動車等*の導入など自動車公害対策の取組	1	2	3
10. 電気自動車充電器（一般開放用）の設置	1	2	3
11. 輸送の大規模化など物流システムの見直し	1	2	3
12. 事業所間での熱の相互利用	1	2	3
13. 太陽光発電の導入	1	2	3
14. 小水力発電の導入	1	2	3
15. 風力発電の導入	1	2	3
16. ソーラーシステム（太陽熱温水器）の導入	1	2	3
17. バイオマスエネルギーの導入	1	2	3
18. バイオディーゼル燃料（BDF）の導入	1	2	3
19. 事業所内の緑化の推進	1	2	3
20. 廃棄物の排出抑制	1	2	3

※ESCO : Energy Service Company の略称で、ビルや工場の省エネ化に必要な、技術・設備・人材・資金などすべてを包括的に提供するサービス。省エネ効果をESCO事業者が保証するとともに、省エネルギー改修に要した投資・金利返済・ESCOの経費などは、すべて省エネルギーによる経費削減分でまかなわれるため、導入企業などの新たな経済的負担がなく、契約期間終了後の経費削減分はすべて顧客の利益となる。

※電気自動車等 : 電気自動車 (EV)、ハイブリッド車 (HV)、プラグインハイブリッド車 (PHV・PHEV)、水素自動車 (FCV)、圧縮天然ガス自動車 (CNG) などの低公害車のこと。

理 由					
コストがかかるため	手間、時間、労力がかかるため	実施したときの事業活動への効果が不明なため	取組方法がわからないため	事業内容に関係がないため	その他 (自由に記述してください)
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	

【続き】

項目	実施状況		
	実施している(予定を含む)	今後検討したい	実施する予定はない
21. 廃棄物、古紙などのリサイクルの推進	1	2	3
22. 災害時に発生する廃棄物を減少させるための発生抑制、飛散流出対策	1	2	3
23. 包装、梱包の減量化	1	2	3
24. ISO14001やエコアクション21、岡山エコ事業所などの認証等の取得	1	2	3
25. グリーン購入*の実施や再生紙・再生品の使用	1	2	3
26. 環境保全型商品、エコマーク商品などの開発、製造、販売	1	2	3
27. 環境負荷を低減させるための製造工程の変更	1	2	3
28. ライフサイクルアセスメント*の実施	1	2	3
29. 自社製品などについての環境関連情報の提供	1	2	3
30. 取引先選定に当たって相手の環境配慮に係る評価	1	2	3
31. 環境報告書*の作成や環境会計*の導入	1	2	3
32. 騒音、振動の低減	1	2	3
33. 悪臭の低減	1	2	3
34. 窒素酸化物などの大気汚染物質の排出抑制	1	2	3
35. 有機物などの水質汚濁物質の排出抑制	1	2	3
36. 有害化学物質(農薬などを含む。)の使用削減または使用回避	1	2	3
37. 事業場が周辺に及ぼす環境影響の把握	1	2	3
38. 37で把握した結果の公表	1	2	3
39. 省エネルギーや環境保全に関する従業員研修	1	2	3

問15 貴事業所では、事業所の立地地域周辺で、次にあげる環境に関する社会貢献活動を実施していますか。【〇はあてはまるものすべて】

- | |
|---|
| 1. 事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加 |
| 2. 環境に関する地域のイベントなどへの参加、出展 |
| 3. 環境に関するボランティア活動への従業員の参加 |
| 4. 環境に関する地域活動、または市民団体（NPO、NGO、自治会など）への支援・寄付 |
| 5. 地域住民、学校などからの施設見学の受入れ |
| 6. 自家用車以外での通勤の奨励（公共交通機関、自転車の利用） |
| 7. リサイクルなどの資源回収活動の支援 |
| 8. 植林や森林保全事業の実施または協力 |
| 9. 緑の募金への協力 |
| 10. その他(具体的に：) |
| 11. 検討している |
| 12. 実施していない |

問16 環境保全に関する企業の取組を対外的にPRする場があれば参加したいですか。【〇は1つ】

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 経費負担があっても参加したい | 4. 参加したくない |
| 2. 経費負担がなければ参加したい | 5. わからない |
| 3. 今後検討したい | |

問17 環境ビジネス※は、貴事業所の今後の経営にとって重要なものになるとお考えですか。

【〇は1つ】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. とても重要になる | 3. あまり重要にならない |
| 2. ある程度重要になる | 4. 全く関係ない |

※**環境ビジネス**：「環境汚染防止」、「地球温暖化対策」、「廃棄物処理・資源有効活用」、「自然環境保全」に分類されるような、環境への負荷が少ない、または低減させるような製品やサービスの提供を行うビジネスのこと。

問18 今後、貴事業所での環境ビジネスの進展のために行政にどのようなことを望みますか。

【〇はあてはまるものすべて】

1. 環境ビジネスに関する情報の提供
2. 行政による環境ビジネスに関する相談窓口の設置
3. 環境規制の緩和
4. 規制強化も含めた新たな市場づくり
5. 税制面での優遇措置
6. 低利融資などの融資制度の拡充
7. 消費者・ユーザの意識向上のための啓発活動
8. 環境ビジネスのためのネットワークづくり
9. その他(具体的に：)

問19 貴事業所の自主的な環境保全への取組を推進していくために、行政にどのようなことを期待しますか。【〇はあてはまるものすべて】

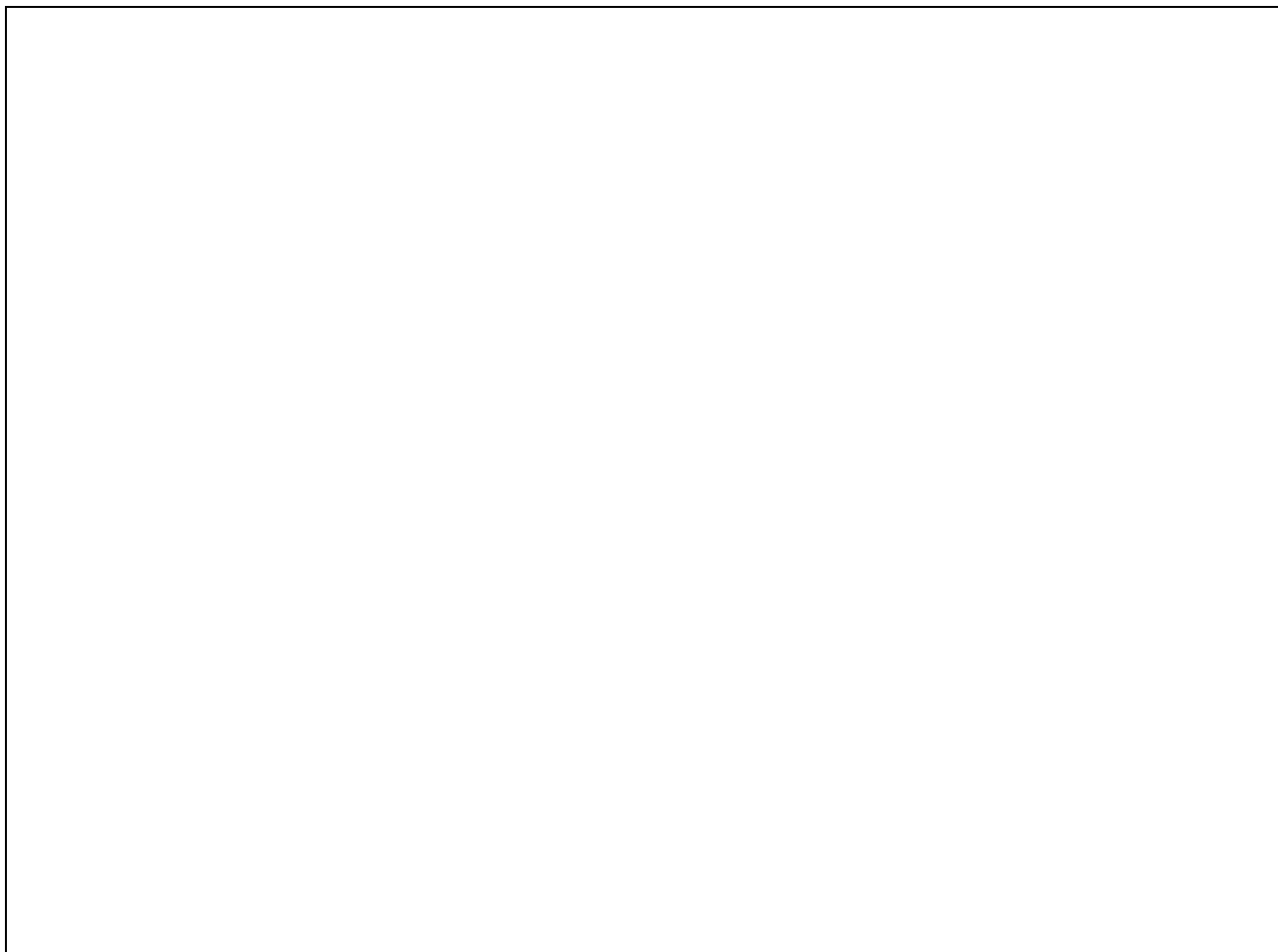
1. 環境マネジメントシステムの導入等に対する支援・補助(公的融資も含む)
2. 企業、行政、民間団体、住民などのパートナーシップのためのネットワークづくり
3. 環境白書などによる情報の提供
4. 優良企業などの表彰
5. 環境保全への取組や環境管理を適切に行っている企業へのロゴマークの付与
6. 各種環境規制を分かりやすく記したガイドブックの作成や今後の動向に関する情報提供
7. 他の会社や業種の取組及び動向などに関する情報提供
8. 環境ビジネスの成功事例の紹介
9. 環境に優しい製品を示したエコマークなど環境ラベルの普及
10. 廃棄物の排出抑制と循環的な利用(ゼロエミッション)の周知
11. 環境問題に対する意識向上のための教育
12. 環境分野に関する人材の育成
13. 地球温暖化対策などに関する情報提供・相談窓口の設置
14. ワークショップやセミナーの開催
15. 省エネ機器・設備導入への支援・補助
16. 環境保全に関する企業の取組についての、地域住民への広報
17. その他(具体的に：)

環境に関する言葉の認知度について

問20 あなたは、次の環境に関する言葉についてご存知ですか。【〇はそれぞれ1つ】

項 目	組んだことがある	取り組んでいる(取組)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 内容は知らない	知らない
1. アースキーパーメンバーシップ 地球温暖化防止のため、自ら環境への影響を減らす取組を継続的に 行う県民・事業者を募集し、会員登録する制度	4	3	2	1	
2. エコドライブ宣言 エコドライブを実践しようという個人の方を募集 している制度	4	3	2	1	
3. おかやま30・10運動 宴会時に最初の30分、最後の10分は席に座り、食 べ残しを減らす運動	4	3	2	1	
4. 循環資源マッチングシステム 循環資源を提供する事業者と循環資源を利用する事業者をマッチン グ(あっせん)することにより、循環資源を有効に活用し、循環型社 会の形成を推進していくための制度	4	3	2	1	
5. 岡山エコ事業所 事業者が自らの環境保全に関する取組方針、取組内容、取組実績、 将来の目標、環境への負荷の状況等を体系的に取りまとめ、これを定 期的に公表、報告するなど、循環型社会の形成のための取組が先進的、 かつ、優秀であると県が認定した事業所のこと	4	3	2	1	
6. 外来種被害予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」 外来種による被害を未然に防ぐための三原則 <ul style="list-style-type: none"> ・悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ 「入れない」 ・飼養・栽培している外来種を適切に管理し「捨てない」 ・既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」 【外来種の例】	4	3	2	1	
 アメリカザリガニ	 アカミミガメ	 ホテイアオイ			
<small>アメリカザリガニ 出典：環境省ホームページ (http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html) アカミミガメ 出典：環境省ホームページ (http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/akamimi.html) ホテイアオイ 出典：環境省ホームページ (http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html)</small>					

問21 環境問題や県の環境施策に関する、ご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

名 称 環境に関する県民等意識調査報告書
発 行 岡山県環境文化部 環境企画課 施策推進班
所 在 地 〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6
電 話 086-226-7285
FAX 086-233-7677
発行年月 令和2年8月